

# Collaboration - File Sharing   メッセージ

操作書

3020-3-H14-A0

## ■ 対象製品

P-2446-5U64 Groupmax Collaboration - File Server 07-90 (適用 OS : Windows Server 2012<sup>\*</sup>, Windows Server 2012 R2<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 R2<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 x64<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 x86)

P-2646-6364 Groupmax Collaboration Portal 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012<sup>\*</sup>, Windows Server 2012 R2<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 R2<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 x64<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 x86)

P-2746-E364 Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91 (適用 OS : Windows Server 2012<sup>\*</sup>, Windows Server 2012 R2<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 R2<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 x64<sup>\*</sup>, Windows Server 2008 x86)

注※ WOW64 環境だけで使用できます。

## ■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

## ■ 商標類

CORBA は、Object Management Group が提唱する分散処理環境アーキテクチャの名称です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Visual C++ は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

## ■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Visual C++	Microsoft <sup>(R)</sup> Visual C++ <sup>(R)</sup>
Windows 8.1	Windows <sup>(R)</sup> 8.1 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
	Windows <sup>(R)</sup> 8.1 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)
	Windows <sup>(R)</sup> 8.1 Pro 日本語版 (32 ビット版)
	Windows <sup>(R)</sup> 8.1 Pro 日本語版 (64 ビット版)
Windows 7	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 7 Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 7 Enterprise 日本語版 (64 ビット版)
	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 7 Professional 日本語版 (32 ビット版)
	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 7 Professional 日本語版 (64 ビット版)
	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 7 Ultimate 日本語版 (32 ビット版)
	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows <sup>(R)</sup> 7 Ultimate 日本語版 (64 ビット版)
Windows Server 2012	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2012 Datacenter 日本語版

表記		製品名
Windows Server 2012		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2012 Standard 日本語版
Windows Server 2012 R2		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2012 R2 Datacenter 日本語版
		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2012 R2 Standard 日本語版
Windows Server 2008 x86		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2008 Standard 32-bit 日本語版
Windows Server 2008 x64		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2008 Enterprise 日本語版
		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2008 Standard 日本語版
Windows Server 2008 R2		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2008 R2 Enterprise 日本語版
		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Server <sup>(R)</sup> 2008 R2 Standard 日本語版
Windows Vista	Windows Vista Business	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Vista <sup>(R)</sup> Business 日本語版 (32 ビット版)
		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Vista <sup>(R)</sup> Business 日本語版 (64 ビット版)
	Windows Vista Enterprise	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Vista <sup>(R)</sup> Enterprise 日本語版 (32 ビット版)
		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Vista <sup>(R)</sup> Enterprise 日本語版 (64 ビット版)
	Windows Vista Ultimate	Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Vista <sup>(R)</sup> Ultimate 日本語版 (32 ビット版)
		Microsoft <sup>(R)</sup> Windows Vista <sup>(R)</sup> Ultimate 日本語版 (64 ビット版)

このマニュアルでは、特に断りのない場合は、Windows 8.1, Windows 7, Windows Server 2012, Windows Server 2012 R2, Windows Server 2008 x86, Windows Server 2008 x64, Windows Server 2008 R2, および Windows Vista を総称して Windows と表記しています。

## ■ 発行

2015 年 4 月 3020-3-H14-A0

## ■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2004, 2015, Hitachi, Ltd.

## 変更内容

変更内容 (3020-3-H14-A0) Groupmax Collaboration - File Server 07-90, Groupmax Collaboration Portal 07-91, Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-91

追加・変更内容	変更箇所
次の OS を対象製品の適用 OS に追加しました。 Windows Server 2012 R2	—

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

# はじめに

このマニュアルは、Collaboration - File Sharing が出力するメッセージについて説明したものです。

## ■ 対象読者

Collaboration - File Sharing を使用したシステムの環境を管理および運用するシステム管理者またはシステムインテグレーターを対象としています。なお、次に示す項目を熟知していることを前提としています。

- 使用する OS (Operating System) および Web ブラウザの操作
- Collaboration - File Sharing の各機能および操作 (マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」および「Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド」をお読みください)

## ■ このマニュアルで使用している記号

このマニュアルでは、次に示す記号を使用して構文や操作方法を説明しています。

記号	意味
[ ]	メニュー、コマンド、ウィンドウ、ダイアログの名称、ボタンおよびキーボードのキーを示します。
	横に並べられた複数の項目に対する項目間の区切りを示し、「または」の意味を表します。 (例) A   B A または B を指定することを示します。
[ ]	この記号で囲まれている項目は省略してよいことを意味します。複数の項目が横に並べて記述されている場合は、すべてを省略するか、どれか一つを選択します。 (例 1) [A] 「何も指定しない」か「A を指定する」ことを示します。 (例 2) [B   C] 「何も指定しない」か「B または C を指定する」ことを示します。
:	: の左にあるものを右にあるもので定義することを示します。 (例) A : B 「A とは B である」と定義することを示します。



# 目次

1	メッセージの概要	1
1.1	メッセージの種類	2
1.2	メッセージの出力先	3
1.3	メッセージの出力形式	4
1.4	メッセージの記載形式	5
2	共通メッセージ	7
2.1	KMBR00000~KMBR01999	8
3	機能別メッセージ	11
3.1	KMBR02000~KMBR09999	12
4	File Sharing サーバのユティリティのメッセージ	71
4.1	KMBR10000~KMBR19999	72
4.2	文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処	208
5	詳細エラーメッセージ	211
5.1	KMBR20000~KMBR29999	212
6	オブジェクト操作ツールのメッセージ	351
6.1	KMBR30000~KMBR39999	352
7	File Sharing クライアント運用コマンドのメッセージ	383
7.1	KDCF20000~KDCF29999	384
8	監査ログのメッセージ	407
8.1	監査ログのメッセージの概要	408
8.2	File Sharing のポートレット操作時に出力されるメッセージ KDCF00500~KDCF00599	410
	KDCF00500-I <K>	410
	KDCF00501-E <K>	411
	KDCF00510-I <K>	413
	KDCF00511-E <K>	414
	KDCF00520-E <K>	415
	KDCF00521-E <K>	416
	KDCF00530-I <K>	417

KDCF00531-E <K>	421
KDCF00540-W <K>	426
8.3 コマンド実行時に出力されるメッセージ KDCF20500~KDCF20599	428
KDCF20500-I <K>	428
KDCF20501-E <K>	429
KDCF20502-I <K>	430
KDCF20510-I <K>	432
KDCF20511-E <K>	433
KDCF20520-I <K>	435
KDCF20521-E <K>	436
KDCF20530-E <K>	437
KDCF20531-E <K>	437
KDCF20540-I <K>	439
KDCF20541-E <K>	441
KDCF20550-W <K>	444
8.4 監査ログのメッセージに出力されるリソースの一覧	446

## 9

戻り値一覧	449
9.1 クラスライブラリの戻り値	450
9.2 DMA の戻り値	451
9.3 クラスライブラリ独自の戻り値 (ERR_DBR の場合)	458
9.4 データベースエラーが発生した場合の戻り値 (ERR_DB の場合)	464

## 付録

付録 A このマニュアルの参考情報	465
付録 A.1 関連マニュアル	466
付録 A.2 このマニュアルでの表記	468
付録 A.3 英略語	468
付録 A.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	469

## 索引

471



# 1

## メッセージの概要

この章では, File Sharing が出力するメッセージの出力先, 出力形式およびこのマニュアルでのメッセージの記載形式について説明します。

## 1.1 メッセージの種類

ここでは、File Sharing が出力するメッセージの種類について説明します。

File Sharing が出力するメッセージと参照先の一覧を次に示します。

表 1-1 File Sharing が出力するメッセージと参照先の一覧

メッセージの種類		ID	参照先
共通メッセージ		KMBR00000~KMBR01999	2 章
機能別メッセージ		KMBR02000~KMBR09999	3 章
File Sharing サーバのユーティリティのメッセージ		KMBR10000~KMBR19999	4 章
詳細エラーメッセージ		KMBR20000~KMBR29999	5 章
オブジェクト操作ツールのメッセージ		KMBR30000~KMBR39999	6 章
File Sharing クライアント運用コマンドのメッセージ		KDCF20000~KDCF29999	7 章
監査ログのメッセージ	File Sharing のポートレットの操作時に出力されるメッセージ	KDCF00500~KDCF00599	8.2
	コマンド実行時に出力されるメッセージ	KDCF20500~KDCF20599	8.3

## 1.2 メッセージの出力先

---

File Sharing が出力するメッセージの出力先を次に示します。なお、監査ログのメッセージの出力先については「8.1(2) 監査ログのメッセージの出力先」を参照してください。

### (1) イベントログ

イベントログには、File Sharing が運用中であることを示すメッセージが出力されます。

### (2) コマンドプロンプト

コマンドプロンプトには、次に示すメッセージが出力されます。

- コマンドが実行中であることを示すメッセージ
- クラスライブラリのメソッドに関する詳細メッセージ

ただし、ここに詳細メッセージが出力されるのは、クライアント環境変数「DBR\_DETAIL\_ERRORLOG」に「ON」が設定されている場合です。

### (3) 詳細エラーログファイル

詳細エラーログファイルには、クラスライブラリのメソッドに関する詳細メッセージが出力されます。ただし、このファイルに詳細メッセージが出力されるのは、クライアント環境変数「DBR\_DETAIL\_ERRORLOG」に「ON」が設定されている場合です。

### (4) トレースファイル

トレースファイルには、詳細エラーログファイルに出力されるメッセージ以外のすべてのメッセージが出力されます。したがって、イベントログまたはコマンドプロンプトにメッセージが出力された場合、同一内容のメッセージがトレースファイルにも出力されます。

## 1.3 メッセージの出力形式

---

File Sharing が出力するメッセージの出力形式を次に示します。なお、監査ログのメッセージの出力形式については「8.1(3) 監査ログのメッセージの出力形式および監査ログの出力項目の意味」を参照してください。

### (1) イベントログに出力されるメッセージの出力形式

イベントログに出力されるメッセージは、イベントログの出力形式で出力されます。

### (2) コマンドプロンプト、詳細エラーログファイルおよびトレースファイルに出力されるメッセージの出力形式

コマンドプロンプト、詳細エラーログファイルおよびトレースファイルに出力されるメッセージの出力形式を次に示します。

**"メッセージID メッセージテキスト"**

## 1.4 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を次に示します。なお、監査ログのメッセージの記載形式については「8.1(4) 監査ログのメッセージの記載形式」を参照してください。

XXXXnnnnn-i <Y>

日本語のメッセージテキスト

英語のメッセージテキスト

補足説明

(S)

メッセージが出力された要因および File Sharing の動作

(O)

ユーザが実施する対策

XXXXnnnnn

XXXX は、KMBR または KDCF のどちらかが表示されます。

メッセージの nnnnn はメッセージの番号です。それぞれのメッセージに 5 けたの固有の番号が付いています。

KMBR00000~KMBR01999 :

共通メッセージを示します。

KMBR02000~KMBR09999 :

機能別メッセージを示します。

KMBR10000~KMBR19999 :

File Sharing サーバの各ユティリティのメッセージを示します。

KMBR20000~KMBR29999 :

詳細エラーメッセージを示します。

KMBR30000~KMBR39999 :

オブジェクト操作ツールのメッセージを示します。

KDCF20000~KDCF29999 :

File Sharing クライアント運用コマンドのメッセージを示します。

i

メッセージの種類を表します。

E：障害が発生したため、処理を中止します。ただし、致命的なエラーでなければ、処理を再開できます。

W：障害が発生したため、警告します。メッセージの発行後も処理を続行します。

I：システムの動作を通知します。メッセージの発行後も処理を続行します。

<Y>

メッセージの出力先を表します。

C：イベントログ

P：コマンドプロンプト

F：トレースファイル\*

D：詳細エラーログファイル

**注意**

メッセージの出力先は、このマニュアル内で使用している付加情報です。したがって、メッセージの出力先は、File Sharing から出力されるメッセージには表示されません。

**注※**

File Sharing クライアント運用コマンドの場合はコマンドトレースファイルに出力されます。

**メッセージテキスト**

File Sharing から出力されるメッセージテキストを示します。メッセージテキスト中の%n (nは挿入句の順番)はテキストおよび数値型の可変値です。なお、メッセージによっては、英語のメッセージテキストが出力されないものもあります。

**補足説明**

メッセージテキストに対する補足説明を示します。メッセージによっては記述しないものもあります。

**(S)**

メッセージが出力された要因および File Sharing の動作または処理を示します。

**(O)**

ユーザが実施する対策を示します。

**注意**

• **保守員への連絡について**

ユーザが実施する対策での「保守員に連絡してください」とは、購入時の契約に基づいて、システム管理者が弊社問い合わせ窓口に連絡することを示します。

• **システム管理者への連絡について**

ユーザが実施する対策での「システム管理者に連絡してください」とは、システム管理者が対処するか、システム管理者が弊社問い合わせ窓口に連絡することを示します。

# 2

## 共通メッセージ

この章では、File Sharing の各機能に共通するメッセージについて説明します。

## 2.1 KMBR00000~KMBR01999

---

### KMBR00000-E <C,F>

---

領域長のメモリを確保できなかったため、処理を続行できませんでした。

領域名：%1

領域長：%2

Memory of the required area size cannot be allocated, so processing stops.

Area name：%1

Area size：%2

(S)

処理を中止します。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR00001-E <C,F>

---

クラスのインスタンスを作成するためのメモリを確保できなかったため、処理を続行できませんでした。

クラス名：%1

Memory to create a class instance cannot be allocated, so processing stops.

Class name：%1

(S)

処理を中止します。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR00002-E <C,F>

---

ファイルシステムに入出力エラーが発生しました。

対象：%1

操作：%2

要因コード：%3

付加情報：%4

An I/O error occurred in the file system.

Object：%1

Operation：%2

Reason code：%3

Additional information：%4

ファイルシステム内のオブジェクト (%1) に操作 (%2) を実行するときにエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。



%3：システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OSのマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

### KMBR00003-E <C,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名：%1

要因コード：%2

付加情報：%3

An error occurred during a system call.

Function name：%1

Reason code：%2

Additional information：%3

システムコール (%1) でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2：システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OSのマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。



# 3

## 機能別メッセージ

この章では、File Sharing の機能別のメッセージについて説明します。

## 3.1 KMBR02000～KMBR09999

---

### KMBR02000-E <C,F>

---

File Sharing の文書空間で、内部インターフェースエラーが発生しました。

要因コード：%1

クラス名：%2

関数名：%3 (ファイル名：%4, %5)

クラス名：%6

関数名：%7

引数：%8

An internal interface error occurred in the document space of File Sharing.

Reason code：%1

Class name：%2

Function name：%3 (File name：%4,%5)

Class name：%6

Function name：%7

Arguments：%8

(S)

処理を中止します。

(O)

次の手順で必要な情報を収集してから、保守員に連絡してください。

1. トランザクションをロールバックする。
2. 埋め込み文字の内容を記録する。
3. トレース情報を保存する。

### KMBR02001-E <C,F>

---

必要な動作環境メタ情報ファイルが見つかりません。

ファイル名：%1

The required operating-environment meta-information file was not found.

File name：%1

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- メタ情報が未登録の場合  
EDMInitMeta コマンドを実行してください。
- メタ情報が登録済みの場合  
-F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。

**KMBR02002-E <C,F>**

---

動作環境メタ情報ファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名：%1

You do not have access permission for the operating-environment meta-information file.

File name : %1

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

File Sharing サーバのインストールディレクトリ`%Server%etc%meta_files`の下位にあるファイル (%1) に対するアクセス権 (読み取り権または書き込み権) を設定してから、File Sharing サーバを起動してください。

**KMBR02003-E <C,F>**

---

メモリが不足しているため、処理を続行できませんでした。

Memory became insufficient, so processing could not continue.

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

DocumentSpace 構成定義ファイルの `XdkShmemSize` エントリの値を見直すか、環境変数「`XDK_SHMEM_SIZE`」の値を見直してください。また、不要なアプリケーションまたはメモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、処理を再実行してください。

なお、上記で対処できない場合は、次の対策を実施してください。

- スワップ (仮想メモリ) を増やす。

**KMBR02004-E <C,F>**

---

メモリが不足しているため、メタ情報管理用の共用メモリが確保できませんでした。

領域名：%1

領域サイズ：%2

Memory became insufficient, so shared memory for managing meta-information could not be allocated.

Area name : %1

Area size : %2

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

共用メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。

**KMBR02005-E <C,F>**

---

メタ情報管理用の共用メモリの初期化でエラーが発生しました。

付加情報：%1

An error occurred during initialization of the shared memory for managing meta-information.

Additional information : %1

DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemManage エントリに MEMHOLD が指定されている状態で、共有メモリを初期化しようとしたますが、ほかのプロセスが共有メモリを参照していたため、初期化できませんでした。

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemManage エントリの値に NORMAL を指定してから、File Sharing サーバを起動してください。

### KMBR02006-E <C,F>

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

付加情報 1 : %3

付加情報 2 : %4

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

Additional information 1 : %3

Additional information 2 : %4

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを起動してください。

表 3-1 KMBR02006-E 要因別の対策一覧

関数名	要因コード	エラーの要因	対策
shmget	22	共有メモリのサイズがシステムの最大値を超えました。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DocumentSpace 構成定義ファイルの XdkShmemSize エントリの値を見直す。</li> <li>環境変数「XDK_SHMEM_SIZE」の値を見直す。</li> </ul>
		File Sharing の使用する共有メモリが、File Sharing 以外のプロセスによって生成され、64 ビット空間にすでに存在しています。	次の対策を実施して、共有メモリを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共有メモリを使用しているプロセスを終了する。</li> </ul>

関数名	要因 コード	エラーの要因	対策
shmget	28	共有メモリの識別子の数が、システムの上限值を超えました。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共有メモリを使用している、ほかのプロセスを終了する。</li> </ul>
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
semget	22	セマフォの構造体数が、システムの上限值を超えました。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セマフォを使用している、ほかのプロセスを終了する。</li> </ul>
		File Sharing の使用するセマフォが、File Sharing 以外のプロセスによって生成されすでに存在しています。	次の対策を実施して、セマフォを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セマフォを使用しているプロセスを終了する。</li> </ul>
	28	セマフォ識別子の数が、システムの上限值を超えました。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セマフォを使用している、ほかのプロセスを終了する。</li> </ul>
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
shmat	12	メモリが不足しています。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>メモリを増設する。</li> <li>メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。</li> </ul>
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
shmctl	1	File Sharing の使用する共有メモリが、File Sharing の実行ユーザ以外によって作成され、すでに存在しています。	次の対策を実施して、共有メモリを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>共有メモリを使用しているプロセスを終了する。</li> </ul>
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
semctl	1	File Sharing の使用するセマフォが、File Sharing の実行ユーザ以外によって作成され、すでに存在しています。	次の対策を実施して、セマフォを削除してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セマフォを使用しているプロセスを終了する。</li> </ul>
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
semop	任意	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
ftok	0	共有資源のキーの生成に失敗しました。	File Sharing サーバのインストールディレクトリ*Server*etc*meta_files をアクセス可能にしてください。

### 3 機能別メッセージ

関数名	要因 コード	エラーの要因	対策
CreateFileMapping	※	付加情報 1 に示す理由によって、メモリマップトファイルの確保に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
CreateMutex	※	付加情報 1 に示す理由によって、ミューテックスの確保に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
CreateMutex	※	付加情報 1 に示す理由によって、ミューテックスの確保に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
MapViewOfFile	※	付加情報 1 に示す理由によって、メモリマップトファイルのビューの取得に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
UnmapViewOfFile	※	付加情報 1 に示す理由によって、メモリマップトファイルのビューの解放に失敗しました。	付加情報 1 に示すシステムのメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
その他	該当なし	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。

注※

付加情報 1 (%3) に対応する要因コードが出力されます。

#### KMBR02007-E <C,F>

環境変数の指定が不正です。

環境変数に指定した値に、数字以外の文字が含まれているか、指定した値が範囲外です。

環境変数名 : %1

値 : %2

An environment variable is invalid.

The specified value in the environment variable includes a non-numeric character or exceeds the permitted range.

Environment variable name : %1

Value : %2

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

環境変数「XDK\_SHMEM\_SIZE」には、3,000,000~1,073,741,824 の整数値を指定してください。

#### KMBR03000-I <C,P,F>

File Sharing サーバを起動しています。

The File Sharing server is starting.



(S)  
File Sharing サーバを起動しています。

(O)  
—

#### KMBR03001-I <C,P,F>

---

監視プロセスを起動しました。

The monitor process started.

(S)  
監視プロセスを起動しました。

(O)  
—

#### KMBR03002-I <C,P,F>

---

File Sharing サーバを停止しています。

The File Sharing server is terminating.

(S)  
File Sharing サーバを停止しています。

(O)  
—

#### KMBR03003-I <C,P,F>

---

File Sharing サーバを停止しました。

The File Sharing server terminated.

(S)  
File Sharing サーバを停止しました。

(O)  
—

#### KMBR03005-E <C,P,F>

---

DocumentSpace 構成定義ファイルの読み込み中に、エラーが発生したため、File Sharing サーバを起動できませんでした。

要因：%1

位置：[%2]%3

The File Sharing server could not start because an error occurred while the DocumentSpace configuration definition file was being read.

Reason：%1

Location：[%2] %3

DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) の読み込み中に、要因 (%1) に示すエラーが発生したため、File Sharing サーバを起動できませんでした。

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

表 3-2 KMBR03005-E 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
docspace.ini file was not found.	DocumentSpace 構成定義ファイルが、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位に格納されていません。	DocumentSpace 構成定義ファイルを File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位に格納してください。
docspace.def file was not found.	docspace.def が File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥adm の下位に格納されていません。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバを再インストールする。</li> </ul>
contents of docspace.def file are incorrect.	docspace.def の定義内容が不正です。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバを再インストールする。</li> </ul>
section is not omissible.	DocumentSpace 構成定義ファイルに、セクション (%2) の指定がありません。	セクション (%2) は、指定を省略できません。セクション (%2) を指定してください。
entry is not omissible.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) にエントリ (%3) の指定がありません。	エントリ (%3) は、指定を省略できません。エントリ (%3) を指定してください。
entry value is invalid.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) に指定したエントリ (%3) の値が不正です。	DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法に従って、エントリ (%3) を指定してください。DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

## KMBR03006-E &lt;C,P,F&gt;

続行できないエラーが発生したため、File Sharing サーバを起動できませんでした。

The File Sharing server could not start because an error that stops processing occurred.

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの直前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

なお、エラーの要因が、KMBR00003-E のシステムコール「StartServiceCtrlDispatcher」の場合は、しばらくしてから Collaboration - File Sharing Server サービスを再起動してください。

**KMBR03008-W <C,F>**

---

サービスプロセスが停止しているのを検知したため、サービスプロセスを再起動しています。

文書空間識別子：%1

プロセス通番：%2

プロセス識別子：%3

The system detected that the service process has stopped, so the service process is restarting.

Document space ID：%1

Process No：%2

Process ID：%3

(S)

サービスプロセスを再起動して、要求された処理を続行します。

(O)

必要に応じてサービスプロセスが停止した要因を取り除いてください。

**KMBR03009-E <C,F>**

---

サービス監視プロセスが停止しているのを検知したため、サービスプロセスを終了します。

文書空間識別子：%1

プロセス識別子：%2

The system detected that the service monitor process has stopped, so the service process will now end.

Document space ID：%1

Process ID：%2

(S)

サービス監視プロセスが停止しているのを検知したため、サービスプロセスの処理を終了します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

**KMBR03010-I <C,P,F>**

---

File Sharing サーバが起動しました。

The File Sharing server started.

(S)

File Sharing サーバが起動しました。

(O)

—

**KMBR03011-I <C,P,F>**

---

文書空間 (%1) のサービスを起動しました。

The service of the document space (%1) started.

サービスは実行可能な状態です。

### 3 機能別メッセージ

(S)

文書空間 (%1) のサービスを起動しました。

(O)

—

#### KMBR03012-E <C,F>

---

サーバ監視プロセス (%1) が停止しているのを検知したため、文書空間 (%2) のサービスを終了します。

The system detected that the server monitor process (%1) has stopped, so the service of the document space (%2) will now end.

(S)

サーバ監視プロセスが監視していたサービスをすべて終了します。

(O)

サーバ監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

#### KMBR03013-W <C,F>

---

サービス監視プロセス (%1) が停止しているのを検知したため、文書空間 (%2) のサービスを再起動します。

The system detected that the service monitor process (%1) has stopped, so the service of the document space (%2) will now restart.

(S)

サービス監視プロセスが監視していたサービスプロセスをすべて終了してから、サービス監視プロセスを再起動します。

(O)

サービス監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、必要であれば File Sharing サーバを再起動してください。

#### KMBR03014-E <C,P,F>

---

サービス監視プロセス又はサービスプロセスでエラーが発生したため、文書空間 (%1) のサービスを開始できませんでした。

The service of the document space (%1) could not start because an error occurred in the service monitor process or the service process.

(S)

起動済みのサービスプロセスをすべて終了してから、サービス監視プロセスを終了します。

(O)

サービス監視プロセスまたはサービスプロセスが停止した要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

#### KMBR03015-I <C,F>

---

監視プロセス (%1) により、サービス監視プロセスを起動します。

The monitor process (%1) will start the service monitor process.

(S)

監視プロセス (%1) によって、サービス監視プロセスを起動します。

(O)

—

#### KMBR03016-I <C,F>

---

サービス監視プロセス (%1) により、サービスプロセスを起動します。

The service monitor process (%1) will start the service process.

(S)

サービス監視プロセス (%1) によって、サービスプロセスを起動します。

(O)

—

#### KMBR03017-I <C,F>

---

サービスプロセスを起動します。

The service process will now start.

(S)

サービスプロセスを起動します。

(O)

—

#### KMBR03018-I <C,F>

---

File Sharing サーバを終了しています。

The File Sharing server is terminating.

(S)

File Sharing サーバを終了しています。

(O)

—

#### KMBR03019-I <C,F>

---

監視プロセス (%1) により、サービス監視プロセスを終了します。

The monitor process (%1) terminates the service monitor process.

(S)

監視プロセス (%1) によって、サービス監視プロセスを終了します。

(O)

—

#### KMBR03022-I <C,F>

---

文書空間 (%1) のサービスを終了しました。

The service of the document space (%1) ended.

(S)

文書空間 (%1) のサービスを終了しました。

(O)

—

**KMBR03023-I <C,F>**

---

File Sharing サーバを停止しました。

The File Sharing server terminated.

(S)

File Sharing サーバを停止しました。

(O)

—

**KMBR03024-I <C,F>**

---

File Sharing サーバを強制終了しています。

The File Sharing server is being forcibly terminated.

(S)

File Sharing サーバを強制終了しています。

(O)

—

**KMBR03025-I <C,F>**

---

監視プロセスにより、サービス監視プロセス (%1) を強制終了します。

The monitor process is forcibly terminating the service monitor process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービス監視プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

**KMBR03026-I <C,F>**

---

監視プロセスにより、サービス監視プロセス (%1) を強制終了しました。

The monitor process forcibly terminated the service monitor process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービス監視プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

**KMBR03027-I <C,F>**

---

監視プロセスにより、サービスプロセス (%1) を強制終了しています。

The monitor process is forcibly terminating the service process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービスプロセス (%1) を強制終了しています。

(O)

—

#### KMBR03028-I <C,F>

---

監視プロセスにより、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

The monitor process forcibly terminated the service process (%1).

(S)

監視プロセスによって、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR03029-I <C,F>

---

サービス監視プロセスにより、サービスプロセス (%1) を強制終了しています。

The service monitor process is forcibly terminating the service process (%1).

(S)

サービス監視プロセスによって、サービスプロセス (%1) を強制終了しています。

(O)

—

#### KMBR03030-I <C,F>

---

サービス監視プロセスにより、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

The service monitor process forcibly terminated the service process (%1).

(S)

サービス監視プロセスによって、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR03031-I <C,F>

---

File Sharing サーバを強制終了しました。

The File Sharing server was forcibly terminated.

(S)

File Sharing サーバを強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR03032-E <C,P,F>

---

環境定義ファイルが不正です。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

The environment definition file is incorrect.

Reason : %1

Location : [%2]%3

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

表 3-3 KMBR03032-E 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
parameter is incorrect.	DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) 内のエントリに指定した値が不正, またはエントリの指定形式が不正です。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) 内の, 位置 ([%2]%3) にあるエントリに指定した値, またはエントリの指定形式を修正する。</li> </ul>

### KMBR03034-E <C,F>

システムリソースが存在しないため、処理を続行することができません。

Processing cannot continue because the system resource does not exist.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスまたはファイル転送サービスの処理を中止します。

(O)

Collaboration - File Sharing Server サービスまたはファイル転送サービスを再起動してください。

### KMBR03042-E <C,F>

サービスプロセス定義ファイルの読み込み中に、エラーが発生しました。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

An error occurred while the service process definition file was being read.

Reason : %1

Location : [%2]%3

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。



表 3-4 KMBR03042-E 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
process.ini file cannot access.	File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるサービスプロセス定義ファイル (process.ini) にアクセスできません。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
entry value is invalid.	サービスプロセス定義ファイルのセクション (%2) に指定したエントリ (%3) の値が正しくありません。	サービスプロセス定義ファイルの定義方法に従ってエントリ (%3) を指定してください。

## KMBR03044-E &lt;C,F&gt;

サービスプロセスの VisiBroker プロパティの指定が不正です。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

The VisiBroker property of the service process is invalid.

Detail 1: %1

Detail 2: %2

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%1)、詳細 2 (%2) に示されている VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

表 3-5 KMBR03044-E 要因別の対策一覧

詳細 1 (%1) に出力されるメッセージ	詳細 2 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
The DocumentSpace configuration definition file. Location: [セクション名] エントリ名	The service process definition file. Location: [セクション名] エントリ名	詳細 1 または詳細 2 に示される VisiBroker プロパティの値のうち、どちらか、または両方が不正です。なお、詳細 1 と詳細 2 の[セクション名]エントリ名は、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にある DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) のセクション名とエントリ名、または File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるサービスプロセス定義ファイル (process.ini) のセクション名とエントリ名です。	詳細 1, 詳細 2 に示される VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

### KMBR03045-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了します。

The File Sharing server termination command is forcibly terminating the service start control process (%1).

サービス起動制御プロセスを強制終了中です。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

### KMBR03046-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了しました。

The File Sharing server termination command forcibly terminated the service start control process (%1).

サービス起動制御プロセスを強制終了しました。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、サービス起動制御プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

### KMBR03047-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、監視プロセス (%1) を強制終了します。

The File Sharing server termination command is forcibly terminating the monitor process (%1).

監視プロセスを強制終了中です。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、監視プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

### KMBR03048-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、監視プロセス (%1) を強制終了しました。

The File Sharing server termination command forcibly terminated the monitor process (%1).

監視プロセスを強制終了しました。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、監視プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

### KMBR03049-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、サービス監視プロセス (%1) を強制終了します。

The File Sharing server termination command is forcibly terminating the service monitor process (%1).

サービス監視プロセスを強制終了中です。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、サービス監視プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

#### KMBR03050-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、サービス監視プロセス (%1) を強制終了しました。

The File Sharing server termination command forcibly terminated the service monitor process (%1).

サービス監視プロセスを強制終了しました。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、サービス監視プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR03051-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、サービスプロセス (%1) を強制終了します。

The File Sharing server termination command is forcibly terminating the service process (%1).

サービスプロセスを強制終了中です。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、サービスプロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

#### KMBR03052-I <C,F>

---

File Sharing サーバ終了コマンドにより、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

The File Sharing server termination command forcibly terminated the service process (%1).

サービスプロセスを強制終了しました。

(S)

File Sharing サーバ終了コマンドによって、サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR03053-E <C,P,F>

---

ネットワークリソース情報ファイル (%1) の読み込み中にエラーを検知したため、File Sharing サーバを起動できません。

詳細: %2

位置: [%3]%4

### 3 機能別メッセージ

File Sharing server cannot start because an error occurred during a read of the network resource information file (%1).

Reason : %2

Location : [%3]%4

ネットワークリソース情報ファイル (%1) の読み込み中に、詳細 (%2) に示すエラーを検知したため、File Sharing サーバを起動できません。

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す要因別の対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

表 3-6 KMBR03053-E 要因別の対策一覧

詳細 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
parameter is not omissible.	ファイル (%1) の[%3]%4 で示されるエントリは省略できません。	[%3]%4 で示されるエントリを定義してください。
parameter is incorrect.	ファイル (%1) の[%3]%4 で示されるエントリの設定が不正です。	[%3]%4 で示されるエントリを見直してください。

### KMBR03054-W <C,F>

ネットワークリソース (%1) とのコネクションでエラーが発生しました。

要因 : %2

詳細 1 : %3

詳細 2 : %4

A connection error occurred for the network resource (%1) access.

Reason : %2

Detail 1 : %3

Detail 2 : %4

ネットワークリソースの接続でエラーが発生しました。

(S)

処理を続行します。

(O)

%1 で示すネットワークリソースを使用する場合には、次の表に示す要因別の対策一覧を基に、エラーを取り除いてから、ネットワークリソースを使用してください。

表 3-7 KMBR03054-W 要因別の対策一覧

要因 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
Already connected by other user.	接続しようとしたネットワークリソース (%1) は、すでにほかのユーザ (%3) を使用して接続されています。	このネットワークリソースをネットワークリソース情報ファイルに定義したユーザで接続して使用するためには、File Sharing

要因(%2)に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
Already connected by other user.	接続しようとしたネットワークリソース(%1)は、すでにほかのユーザ(%3)を使用して接続されています。	サーバを再起動してください。接続済みのユーザを使用する場合には、ネットワークリソース情報ファイルのユーザを変更してFile Sharingサーバを再起動してください。
Method error.	ネットワークリソース(%1)との接続に失敗しました。システムコール(%3)でエラーコード(%4)が発生しています。	エラーコード(%4)で示す情報を基に原因を取り除き、処理を実行してください。

### KMBR03115-W <C,F>

一定時間のアクセスがないため、セッションを強制終了します。

文書空間識別子：%1

プロセス識別子：%2

セッション識別子：%3

The session was forcibly terminated because there was no access during the set period.

Document space ID：%1

Process ID：%2

Session ID：%3

DocumentSpace 構成定義ファイルに定義されている SessionTimeOut の時間を超えてアクセスがないため、セッションを強制終了します。

(S)

セッションを強制終了します。

(O)

再度ログインして処理を実行してください。

### KMBR03117-E <C,F>

セッション用にメモリページを割り当てる処理で、エラーが発生しました。

文書空間識別子：%1

プロセス識別子：%2

セッション識別子：%3

要因：%4

An error occurred while memory was being allocated for a session.

Document space ID：%1

Process ID：%2

Session ID：%3

Reason：%4

セッション用にメモリページを割り当てる処理で、エラーが発生しました。

(S)

セッションを終了します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

KMBR03207-E <C,F>

通信受付準備中に、エラーが発生しました。

詳細：%1

要因コード：%2

An error occurred during preparations for communication reception.

Detail：%1

Reason code：%2

(S)

起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

表 3-8 KMBR03207-E 要因別の対策一覧

詳細 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
dmaConnect SystemManager_T()	-2147024882	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
GetMalloc()	—	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
EnumerateSystems()	-2147024882	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
GetNextObject()	-2147418113	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
		File Sharing の実行環境が不正です。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥adm¥etc_org から、smgrrreg.ini を File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc にコピーする。</li> </ul>
	-2147220873	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

詳細 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetNextObject()	-2147220873	File Sharing の実行環境が不正です。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥adm¥etc_org から、smgrrg.ini を File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc にコピーする。</li> </ul>
		ssysobj.ini が File Sharing で提供した ssysobj.ini と異なります。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥adm¥etc_org から、ssysobj.ini を File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc にコピーしてから、EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報ファイルを再登録する。</li> </ul>
	その他	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
dmaClass_System::QueryInterface (IID_IdmaProperties_T)	—	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
dmaClass_System::QueryInterface (IID_IdmaSystem_T)	—	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
dmaClass_System::GetPropertyValById(dmaProp_SystemId)	—	—	メッセージの内容を記録してから、保守員に連絡してください。
ConnectDocSpace()	-2147024882	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
		メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	File Sharing の実行環境が不正です。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥adm¥etc_org から、slocalreg.ini を File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc にコピーする。その後、slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリに、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc¥docspace.ini の [Entry0001] セクションの SerialId エントリと同じ値を設定する。</li> </ul>	
	文書空間の識別子が不正です。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>次に示す各エントリに指定する文書空間の識別子がすべて一致していることを確認する。</li> </ul>	

### 3 機能別メッセージ

詳細 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
ConnectDoc Space()	-2147220966	文書空間の識別子が不正です。	<ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ %Server%etc%docspace.ini の[Entry0001]セクションの SerialId エントリ</li> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ %Server%etc%localreg.ini の ServiceObjectID エントリ</li> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ %Server%etc%meta_files%edms.ini の [dmaClass_DocSpace]セクションの dmaProp_DocSpaceId エントリ</li> </ul>
	-2147024809	File Sharing の実行環境が不正です。	<p>次の対策を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server %adm%etc%org から, slocalreg.ini を File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server%etc にコピーする。その後, slocalreg.ini の ServiceObjectID エントリに, File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server %etc%docspace.ini の[Entry0001]セクションの SerialId エントリと同じ値を設定する。</li> </ul>
	その他	—	DMA の戻り値に応じて対策を実施してください。DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。
その他	1007	メモリが不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションまたはプロセスを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。
	その他	—	DMA の戻り値に応じて対策を実施してください。DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR03302-E <C,P,F>

ネットワーク環境でエラーが発生しました。

CORBA の初期化に失敗しました。

A network error occurred.

CORBA could not be initialized.

(S)

処理を中止します。

(O)

ネットワーク環境を確認してください。

クライアントアプリケーション動作定義ファイルに、VBProperty エントリを指定している場合、その値を見直してください。

#### KMBR03313-W <C,P,F>

ファイル (%1) は既にあるため、ファイルの作成処理をスキップしました。

File create processing was skipped because the file (%1) already exists.

(S)

ファイルの作成処理をスキップしました。



(O)

—

#### KMBR03314-E <C,P,F>

---

ディレクトリ (%1) と同じ名称のファイル又はシンボリックリンクがあるため、ディレクトリを作成できません。

The directory cannot be created because a file or the symbolic link with the same name as the directory (%1) already exists.

(S)

ディレクトリの作成処理を中止します。

(O)

ディレクトリ (%1) と同じ名称のファイルまたはシンボリックリンクを削除するか、別のディレクトリを指定してから、再度コマンドを実行してください。

#### KMBR03315-E <C,P,F>

---

ファイル (%1) がインストールディレクトリ下にあるため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because the file (%1) exists in the installation directory.

ファイル (%1) がインストールディレクトリの下位にあるため、open システムコールに失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

トレースファイルに出力された open システムコールのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR03316-E <C,P,F>

---

コマンドを実行した環境の文字コードセットの指定が不正です。

文字コードセット : %1

The character code set of the environment that executed the command is invalid.

Character code set : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

文字コードセットを正しく指定してください。

#### KMBR03317-E <C,P,F>

---

コマンドを実行した環境の環境変数の指定が不正です。

環境変数名 : %1

An environment variable for the environment that executed the command is invalid.

Environment variable : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

環境変数を正しく指定してください。

KMBR03318-E <C,P,F>

---

続行できないエラーが発生したため、File Sharing サーバを正常に終了できませんでした。

The File Sharing server could not end normally because an error that stops processing occurred.

(S)

File Sharing サーバの停止処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、終了コマンドを再度実行してください。

KMBR03319-I <C,P,F>

---

File Sharing サーバが起動していません。

The File Sharing server is not running.

コマンドを実行しましたが、File Sharing サーバは起動していません。

(S)

コマンドの実行を中止します。

(O)

—

KMBR03320-W <C,P,F>

---

File Sharing サーバは、既に起動しています。

The File Sharing server is already running.

コマンドを実行しましたが、File Sharing サーバはすでに起動しています。

(S)

コマンドの実行を中止します。

(O)

—

KMBR03328-I <C,P,F>

---

文書空間 (%1) のサービスプロセスを起動しました。

プロセス通番 : %2

The service process for the document space (%1) started.

Process No : %2

(S)

文書空間 (%1) のサービスプロセスを起動しました。

(O)

—

**KMBR03329-E <C,P,F>**

---

続行できないエラーが発生したため、文書空間 (%1) のサービスプロセスを終了しました。

プロセス通番 : %2

The service process for the document space (%1) ended because an error that stops processing occurred.

Process No : %2

続行できない障害が発生したため、文書空間 (%1) のサービスプロセスが開始できませんでした。

(S)

文書空間 (%1) のサービスプロセスを終了しました。

(O)

イベントログを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。必要であれば、File Sharing サーバを再起動してください。

**KMBR03330-E <C,F>**

---

続行できないエラーが発生したため、サービスプロセスを終了しました。

文書空間識別子 : %1

プロセス通番 : %2

プロセス識別子 : %3

The service process ended abnormally because an error that stops processing occurred.

Document space ID : %1

Process No : %2

Process ID : %3

続行できないエラーが発生したため、%1 の文書空間に対応するサービスプロセスを終了しました。

(S)

サービスプロセスを終了しました。

(O)

イベントログを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。必要であれば、File Sharing サーバを再起動してください。

**KMBR03331-E <C,F>**

---

LDAP ユーザ認証のための環境が不正です。

詳細 : %1

The environment for LDAP user authentication is invalid.

Detail : %1

DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) ファイル内の詳細 (%1) に示すエントリに設定されている値が不正なため、LDAP ユーザ認証処理を続行できません。

(S)

LDAP ユーザ認証の処理を中止します。

(O)

不正なエントリの値を正しく設定してから、File Sharing サーバを再起動してください。

### KMBR03332-E <C,F>

LDAP ユーザ認証の処理中に、エラーが発生しました。

要因コード：%1

詳細 1：%2

詳細 2：%3

An error occurred during LDAP user authentication.

Reason code：%1

Detail 1：%2

Detail 2：%3

(S)

LDAP ユーザ認証の処理を中止します。

(O)

イベントログおよびトレースファイルに出力されているエラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。イベントログおよびトレースファイルに出力される要因コードについては、次の表に示す対策一覧を参照してください。

表 3-9 KMBR03332-E 要因別の対策一覧

要因コード	詳細 1	詳細 2	エラーの要因	対策
0	invalid environment	—	環境不正	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server%adm%etc_orgの下位にある customize.ini ファイルを、File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server%etcの下位にコピーする。</li> </ul>
	not found ldap library	ライブラリ名	LDAP クライアントライブラリがありません。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LdapClientLib エントリで指定したライブラリの種別に対応した LDAP クライアントライブラリが、インストールされているかどうか確認する。</li> </ul>
	not support	LDAP クライアントライブラリの種別	LdapClientLib エントリに未サポートのライブラリ種別を指定しました。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LdapClientLib エントリの値を見直す。</li> <li>File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server%adm%etc_orgの下位にある customize.ini ファイルを、File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server%etcの下位にコピーする。</li> </ul>

要因 コード	詳細 1	詳細 2	エラーの要因	対策
0	上記以外	補助情報	LDAP クライアントライブラリのローディングに失敗しました。	保守員に連絡してください。
32	ldap_simple_bind	次のどちらかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LDAP サーバで認識できた DN</li> <li>ログイン名</li> </ul>	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LdapPrefixDn エントリの指定が不正</li> <li>LdapUserId エントリの指定が不正</li> <li>ログイン名の指定が不正</li> </ul>	次のどれかの対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>詳細 2 に出力された DN と LdapPrefixDn エントリの値が異なる場合* LdapPrefixDn エントリの指定が正しいかどうか確認してください。</li> <li>詳細 2 に出力された DN と LdapPrefixDn エントリの値が同じ場合 LdapUserId エントリまたはログイン名の指定が正しいかどうか確認してください。</li> <li>LdapPrefixDn エントリに値を指定していない場合 ログイン名が正しいかどうか確認してください。</li> </ul>
	ldap_search_ext	次のどれかが出力されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LDAP サーバで認識できた DN</li> <li>LdapUserRoot エントリの指定値</li> <li>LdapGroupRoot エントリの指定値</li> </ul>	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LdapUserRoot エントリの指定が不正</li> <li>LdapGroupRoot エントリの指定が不正</li> </ul>	LdapUserRoot エントリまたは LdapGroupRoot エントリの指定が正しいかどうか確認してください。
49	ldap_simple_bind	none	パスワードが不正です。	正しいパスワードを入力してください。
87	ldap_search_ext	検索フィルタの内容	検索フィルタのシンタクスエラーが発生しました。	DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に設定する次のエントリに、正しい検索フィルタの文字列が指定されているかどうか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>LdapUserFilterLeft</li> <li>LdapUserFilterRight</li> <li>LdapUserClass</li> <li>LdapUserID</li> <li>LdapGroupFilterLeft</li> <li>LdapGroupFilterRight</li> <li>LdapGroupClass</li> </ul>

要因コード	詳細 1	詳細 2	エラーの要因	対策
91	ldap_simple_bind	LdapHost エントリの指定値	LDAP サーバに接続できません。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• LdapHost エントリおよび LdapPort エントリの指定が正しいかどうか確認する。</li> <li>• LDAP サーバが起動していることを確認する。</li> <li>• LDAP サーバがビジーである可能性があるため、再接続する。</li> </ul>
その他	ldap_get_values	検索開始点の DN	LdapUserId エントリに指定した属性値の取得でエラーが発生しました。	ディレクトリのアクセス権を確認してください。
	—	—	エラーの要因が不明です。	保守員に連絡してください。

注※

大文字, 小文字の違いは該当しません。

### KMBR03333-E <C,F>

UOC ライブラリとの連携でエラーが発生しました。

要因コード : %1

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

An error occurred during connection to the UOC library.

Reason code : %1

Detail 1 : %2

Detail 2 : %3

UOC ライブラリのロードまたは呼び出しでエラーが発生しました。

(S)

UOC ライブラリのロードまたは呼び出し処理を中止します。

(O)

イベントログおよびトレースファイルに出力されているエラーメッセージを基に, エラーの要因を取り除いてから, 再度実行してください。

イベントログおよびトレースファイルに表示される要因コードについては, 次の表に示す対策一覧を参照してください。

表 3-10 KMBR03333-E 要因別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
-1	ライブラリハンドルが不正です。	詳細 1 (%2) および詳細 2 (%3) に出力されるメッセージを基に対処してください。
-2	セッションハンドルが不正です。	
-3	ユーザ名またはパスワードが設定されていません。	ユーザ名またはパスワードを確認してください。

要因コード	エラーの要因	対策
-4	指定したユーザは存在しません。	ユーザ名またはパスワードを確認してください。
-5	指定したパスワードは不正です。	
-6	認証できません。	詳細 1 (%2) および詳細 2 (%3) に出力されるメッセージを基に対処してください。
-7	UOC ライブラリまたは UOC セッションの終了処理に失敗しました。 メモリが不足しています。	
-8	UOC ライブラリのロードまたは初期化処理に失敗しました。 UOC ライブラリの初期化処理中に Collaboration - Online Community Management のデータベースアクセスに失敗しました。システムコールでエラーが発生しました。	
-10	Collaboration - Online Community Management のデータベースアクセスに失敗しました。	ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル (cfsauth.ini) の指定内容および Collaboration - Online Community Management のデータベースが起動されているか確認してください。
-11	内部エラーが発生しました。	
-12	ディレクトリサーバのアクセスに失敗しました。	次のどちらかの対策を実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル (cfsauth.ini) の指定内容を確認してください。</li> <li>組織情報取得ライブラリのトレースファイルを確認して、障害を取り除いてください。組織情報取得ライブラリのトレースファイルの内容については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。</li> </ul>
その他	UOC によって定義されています。	詳細 1 (%2) および詳細 2 (%3) に出力されるメッセージを基に対処してください。

#### KMBR03334-I <C,F>

サービス[%1]を開始しました。

The service [%1] has started.

(S)

サービス (%1) を開始しました。

(O)

—

#### KMBR03335-I <C,F>

サービス[%1]を停止しました。

The service [%1] has terminated.

(S)

サービス (%1) を停止しました。

(O)

—

### KMBR03336-E <C,F>

---

続行できない障害が発生したため、ファイル転送サービスを開始できません。

The file transfer service cannot start because an error that stops processing occurred.

(S)

処理を中止します。

(O)

イベントログおよびトレースファイルに出力されたエラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

なお、エラーの要因が KMBR00003-E のシステムコール [StartServiceCtrDispatcher] の場合は、しばらくしてからコマンド (%1) を再度実行してください。

### KMBR03337-E <C,F>

---

ファイル転送サービスのスタートアップパラメタ (%1) が不正です。

A startup parameter (%1) for the file transfer service is invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

スタートアップパラメタを修正してから、ファイル転送サービスを再起動してください。

### KMBR03350-E <C,P,F>

---

ほかのコマンドが実行されているため、File Sharing サーバを起動できません。

The File Sharing server cannot start because another command is being executed.

メタ情報の更新系コマンドなどを実行しているため、File Sharing サーバを起動できません。

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

メタ情報の更新系コマンドなどの終了を待って、File Sharing サーバを起動してください。

### KMBR03351-E <C,P,F>

---

File Sharing サーバ起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the File Sharing server was starting.

(S)

File Sharing サーバの起動処理を中止します。

(O)

File Sharing サーバを再起動してください。



**KMBR03352-I <C,P,F>**

---

File Sharing に接続しているユーザの一覧を出力します。

A list of users connected to File Sharing will be output.

(S)

出力処理を開始します。

(O)

—

**KMBR03353-I <C,P,F>**

---

File Sharing に接続しているユーザの一覧を出力しました。

A list of users connected to File Sharing was output.

(S)

出力処理を完了しました。

(O)

—

**KMBR03354-E <C,P,F>**

---

このコマンドは実行中のため、新たに実行できません。

This command is now executing, so you cannot execute another instance of the command now.

指定したコマンドは、同時に複数実行することはできません。

(S)

コマンドの実行を中止します。

(O)

実行中のコマンドの終了を確認してから、再度実行してください。

**KMBR03355-E <C,P,F>**

---

指定したパスが存在しないため、処理を続行できません。

パス名 : %1

Processing cannot continue because the specified path does not exist.

Path name : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

正しいパスを指定してから、再度実行してください。

**KMBR03356-E <C,P,F>**

---

指定したディレクトリに対するアクセス権がないため、処理を続行できません。

ディレクトリ名 : %1

Processing cannot continue because you do not have access permission for the specified directory.

### 3 機能別メッセージ

Directory name : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ディレクトリ (%1) に対して、コマンドの実行に必要なアクセス権を指定してください。

#### KMBR03357-I <C,P,F>

---

出力先ディレクトリ名のプリフィックスは%1 となります。

The prefix of the directory to which the file is output is %1.

(S)

処理を続行します。

(O)

—

#### KMBR03358-E <C,P,F>

---

ユーザ情報出力中に、File Sharing サーバでエラーが発生しました。

要因 : %1

An error occurred at the File Sharing server during output of user information.

Reason : %1

(S)

ユーザ情報の出力を中止します。

(O)

File Sharing サーバから返されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR03359-E <C,P,F>

---

サーバからの応答がないため、処理を中断します。

Processing is interrupted because there is no response from the File Sharing server.

サーバからの応答待ち時間を超過したため、タイムアウトによって処理を中断します。

(S)

サーバからの応答待ち状態を解除してから、後処理をします。EDMRefresher コマンドの場合、EDMRefresher コマンドは処理を中断しますが、サーバは、リフレッシュを続行しています。

(O)

タイムアウトが発生した要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR03360-E <C,P,F>

---

処理できない障害が発生したため、EDMUsrView を中止します。

EDMUsrView will now stop because an error that stops processing occurred.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

---

**KMBR03365-E <C,P,F>**

File Sharing サーバ停止中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the File Sharing server was terminating.

(S)

File Sharing サーバは、停止処理を続行して自動終了します。

(O)

File Sharing サーバで実行中の処理がある可能性があります。実行中の処理が終了すれば、File Sharing サーバは自動終了します。しばらく待っても File Sharing サーバが自動終了しないときは、File Sharing サーバを強制終了してください。ただし、File Sharing サーバを強制終了した場合、File Sharing サーバで実行中の処理は無効になります。

---

**KMBR03366-E <C,P,F>**

パス名がシステムの制限を超過したため、コマンド (%1) の処理を続行できません。

詳細 : %2

Command (%1) processing cannot continue because path name exceeds system limitations.

Detail : %2

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

パス名を短くして、コマンド(%1)を再度実行してください。

---

**KMBR03367-I <C,F>**

LDAP クライアントライブラリのローディング処理が、正常に終了しました。

詳細 : %1

Loading of LDAP client library ended normally.

Detail : %1

%1 : LdapClientLib エントリ値=ローディングした LDAP クライアントライブラリ名称

(S)

File Sharing サーバの起動処理を続行します。

(O)

—

---

**KMBR03368-E <C,F>**

実行環境が不正です。

要因コード : %1

The execution environment is invalid.

### 3 機能別メッセージ

Reason code : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

表 3-11 KMBR03368-E 要因別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
1003	システムコールでエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
1007	メモリ不足が発生しました。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• メモリを増設する。</li> <li>• メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。</li> </ul>
1009	実行環境ファイルが壊れています。	-p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。
1018	次の要因が考えられます。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実行環境を登録していない。</li> <li>2. 実行環境は登録済みだが、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位に実行環境ファイルが存在しない。</li> </ol>	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>要因 1 の場合</b> -r オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。</li> <li>• <b>要因 2 の場合</b> -p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。</li> </ul>
1021	環境変数「DOCBROKERDIR」に指定している File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server のパス名およびホスト名が、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc 下の実行環境ファイルの実行環境のパス名およびホスト名と一致しません。	-u オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。

#### KMBR03373-I <C,P,F>

File Sharing の実行環境を更新します。

The execution environment for File Sharing is being updated.

(S)

File Sharing の実行環境を更新します。

(O)

—

#### KMBR03377-I <C,P,F>

File Sharing サーバのリフレッシュを開始します。

Refreshment of the File Sharing server is starting.

(S)  
File Sharing サーバのリフレッシュを開始します。

(O)  
—

#### KMBR03378-I <C,P,F>

---

File Sharing サーバのリフレッシュを終了しました。  
Refreshment of the File Sharing server has terminated.

(S)  
File Sharing サーバのリフレッシュを終了しました。

(O)  
—

#### KMBR03379-I <C,F>

---

サービスプロセスのリフレッシュを開始します。

文書空間識別子：%1

プロセス通番：%2

プロセス識別子：%3

Refreshment of the service process is starting.

Document space ID：%1

Process No：%2

Process ID：%3

プロセス識別子は、リフレッシュ前のサービスプロセス識別子を出力します。

(S)  
サービスプロセスのリフレッシュを開始します。

(O)  
—

#### KMBR03380-I <C,F>

---

サービスプロセスのリフレッシュを終了しました。

文書空間識別子：%1

プロセス通番：%2

プロセス識別子：%3

Refreshment of the service process has terminated.

Document space ID：%1

Process No：%2

Process ID：%3

プロセス識別子は、リフレッシュ後のサービスプロセス識別子を出力します。

- (S)  
サービスプロセスのリフレッシュを終了しました。
- (O)  
-

**KMBR03381-E <C,P,F>**

DocumentSpace 構成定義ファイルの内容が不正です。

要因：%1

位置：[%2]%3

The content of the DocumentSpace configuration definition file is invalid.

Reason：%1

Location：[%2]%3

- (S)  
処理を中止します。
- (O)  
次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてください。

表 3-12 KMBR03381-E 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
entry is not omissible.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) に、エントリ (%3) の指定がありません。	エントリ (%3) は、指定を省略できません。エントリ (%3) を指定してください。
entry value is invalid.	DocumentSpace 構成定義ファイルのセクション (%2) に指定したエントリ (%3) の値が不正です。	DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法に従って、エントリ (%3) を指定してください。DocumentSpace 構成定義ファイルの定義方法については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

**KMBR03382-E <C,P,F>**

続行できないエラーが発生したため、File Sharing サーバのリフレッシュを中止します。

Refreshment of the File Sharing server will now stop because an error that stops processing occurred.

- (S)  
File Sharing サーバのリフレッシュを中止します。
- (O)  
このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

**KMBR03383-E <C,P,F>**

File Sharing サーバでエラーが発生しました。

要因：%1

An error occurred at the File Sharing server.

Reason : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。なお、要因が「time-out occurred while terminate of the service process.」または「time-out occurred while force refresh of the service process.」の場合は、File Sharing サーバを再起動してください。要因が「refreshment is now executing at the File Sharing server.」の場合は、しばらくしてから再度実行してください。

#### KMBR03384-W <C,P,F>

---

File Sharing サーバでエラーが発生したため、一部のサービスプロセスがリフレッシュできませんでした。

要因 : %1

The some service processes could not be refreshed because an error occurred at the File Sharing server.

Reason : %1

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

(O)

必要に応じてこのメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

なお、要因が「time-out occurred while terminate of the service process.」または「time-out occurred while force refresh of the service process.」の場合は、File Sharing サーバを再起動してください。

#### KMBR03385-E <C,P,F>

---

サービス監視プロセス (%1) が停止しているのを検知したため、処理を中断します。

The command detected that the service monitor process (%1) has stopped, so the processing is interrupted.

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に KMBR03022-I または KMBR03025-I が出力されている場合は、File Sharing サーバを再起動することでリフレッシュした状態になります。出力されていない場合は、サービス監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR03386-E <C,F>

---

サービスプロセスのリフレッシュ中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while refreshment of the service process.

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

### 3 機能別メッセージ

(O)

File Sharing サーバを再起動してください。

#### KMBR03387-I <C,F>

---

指定した猶予時間が経過したため、以降サービスプロセスを強制リフレッシュします。

文書空間識別子：%1

プロセス通番：%2

Since the specified grace time passed, forcibly refreshment of the service process is executed after this.

Document space ID：%1

Process No：%2

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを強制的に実行します。

(O)

—

#### KMBR03388-E <C,F>

---

エラーが発生したため、サービスプロセスをリフレッシュできませんでした。

文書空間識別子：%1

プロセス通番：%2

プロセス識別子：%3

The service process could not be refreshed because an error occurred.

Document space ID: %1

Process No：%2

Process ID：%3

(S)

サービスプロセスのリフレッシュを中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR03401-I <P,F>

---

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

The file transfer service is starting in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

(O)

—



**KMBR03402-I <C,F>**

---

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

The file transfer service is starting in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しています。

(O)

—

**KMBR03403-I <C,F>**

---

ファイル転送サービス監視プロセス (%1) によりファイル転送サービスプロセスを起動します。

The file transfer service monitor process (%1) starts the file transfer service process.

(S)

ファイル転送サービス監視プロセス (%1) によって、ファイル転送サービスプロセスを起動します。

(O)

—

**KMBR03404-I <C,F>**

---

ファイル転送サービスプロセスを起動しました。

The file transfer service process started.

(S)

ファイル転送サービスプロセスを起動しました。

(O)

—

**KMBR03405-I <C,F>**

---

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

The file transfer service started in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

(O)

—

**KMBR03406-I <P,F>**

---

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

The file transfer service started in the static mode.

(S)

ファイル転送サービスを静的モードで起動しました。

(O)

—

### KMBR03411-I <P,F>

---

ファイル転送サービスを停止しています。

The file transfer service is terminating.

(S)

ファイル転送サービスを停止しています。

(O)

—

### KMBR03412-I <C,F>

---

ファイル転送サービスを停止しています。

The file transfer service is terminating.

(S)

ファイル転送サービスを停止しています。

(O)

—

### KMBR03413-I <C,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセス (%1) により、ファイル転送サービスプロセスを停止します。

The file transfer service monitor process (%1) terminates the file transfer service process.

(S)

ファイル転送サービス監視プロセス (%1) によって、ファイル転送サービスプロセスを停止します。

(O)

—

### KMBR03414-I <C,F>

---

ファイル転送サービスプロセスを停止しました。

The file transfer service process has terminated.

(S)

ファイル転送サービスプロセスを停止しました。

(O)

—

### KMBR03415-I <C,F>

---

ファイル転送サービスを停止しました。

The file transfer service has terminated.

(S)

ファイル転送サービスを停止しました。

(O)

—

**KMBR03416-I <P,F>**

---

ファイル転送サービスを停止しました。

The file transfer service has terminated.

(S)

ファイル転送サービスを停止しました。

(O)

—

**KMBR03419-I <C,F>**

---

ファイル転送サービスを強制終了しています。

The file transfer service is being forcibly terminated.

(S)

ファイル転送サービスを強制終了しています。

(O)

—

**KMBR03420-I <C,F>**

---

ファイル転送サービス監視プロセスにより、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了します。

The file transfer service monitor process is forcibly terminating the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス監視プロセスによって、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

**KMBR03421-I <C,F>**

---

ファイル転送サービス監視プロセスにより、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

The file transfer service monitor process forcibly terminated the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス監視プロセスによって、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

**KMBR03422-I <C,F>**

---

ファイル転送サービスを強制終了しました。

The file transfer service has been forcibly terminated.

(S)

ファイル転送サービスを強制終了しました。

(O)

—

### KMBR03423-E <C,F>

---

ファイル転送サービス監視プロセス (%1) が停止しているのを検知したため、ファイル転送サービスプロセスを終了します。

The file transfer service process stops because the file transfer service monitor process (%1) has terminated.

(S)

ファイル転送サービス監視プロセス (%1) が停止しているのを検知したため、ファイル転送サービスプロセスを終了します。

(O)

イベントログを参照して、ファイル転送サービス監視プロセスが停止した要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

### KMBR03424-W <C,P,F>

---

ファイル転送サービスは、既に起動しています。

The file transfer service is already running.

ファイル転送サービス起動コマンドを実行しましたが、ファイル転送サービスはすでに起動しています。

(S)

コマンドの実行を中止します。

(O)

—

### KMBR03425-I <C,P,F>

---

ファイル転送サービスが起動していません。

The file transfer service is not running.

ファイル転送サービス終了コマンドを実行しましたが、ファイル転送サービスは起動していません。

(S)

ファイル転送サービス終了コマンドの実行を中止します。

(O)

—

### KMBR03426-E <C,P,F>

---

ファイル転送サービス起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service was starting.

(S)

ファイル転送サービスの起動処理を中止します。

(O)

しばらくしてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

**KMBR03427-E <C,P,F>**

---

ファイル転送サービス監視プロセス起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service monitor process was starting.

(S)

起動中にタイムアウトが発生したファイル転送サービス監視プロセス、およびこのファイル転送サービス監視プロセスが監視する、ファイル転送サービスプロセスを停止します。

(O)

ファイル転送サービス起動コマンドの処理が終了したあと、ファイル転送サービスを再起動してください。

**KMBR03428-E <C,P,F>**

---

ファイル転送サービスプロセス起動中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service process was starting.

(S)

ファイル転送サービスプロセスを停止します。

(O)

ファイル転送サービス起動コマンドの処理が終了したあと、ファイル転送サービスを再起動してください。

**KMBR03431-E <C,P,F>**

---

続行できないエラーが発生したため、ファイル転送サービスを起動できませんでした。

The file transfer service could not start because an error that stops processing occurred.

(S)

ファイル転送サービスの起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

**KMBR03432-E <C,P,F>**

---

続行できないエラーが発生したため、ファイル転送サービス監視プロセスを起動できませんでした。

The file transfer service monitor process could not start because an error that stops processing occurred.

(S)

ファイル転送サービス監視プロセスの起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

**KMBR03435-E <C,P,F>**

---

ファイル転送サービス停止中に、タイムアウトが発生しました。

A time-out occurred while the file transfer service was terminating.

(S)

ファイル転送サービスは、停止処理を続行して自動終了します。

(O)

ファイル転送サービスで実行中の処理がある可能性があります。実行中の処理が終了すれば、ファイル転送サービスは自動終了します。しばらく待ってもファイル転送サービスが自動終了しないときは、ファイル転送サービスを強制終了してください。ただし、ファイル転送サービスを強制終了した場合、ファイル転送サービスで実行中の処理は無効になります。

#### KMBR03436-E <C,P,F>

---

続行できないエラーが発生したため、ファイル転送サービスを正常に終了できませんでした。

The file transfer service could not terminate normally because an error that stops processing occurred.

(S)

ファイル転送サービスの停止処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、終了コマンドを再度実行してください。

#### KMBR03437-W <C,F>

---

ファイル転送サービスプロセスが停止しているのを検知したため、ファイル転送サービスプロセスを再起動しています。

プロセス識別子：%1

The file transfer service process is restarting because the file transfer service process has terminated.

Process ID：%1

(S)

ファイル転送サービスプロセスを再起動して、要求された処理を続行します。

(O)

必要に応じてファイル転送サービスプロセスが停止した要因を取り除いてください。

#### KMBR03438-W <C,F>

---

ファイル転送サービス環境定義ファイルの読み込み中に、エラーを検知しました。

詳細：%1

位置：[%2]%3

An error was detected while the file transfer service environment definition file was being read.

Detail：%1

Location：[%2]%3

ファイル転送サービス環境定義ファイルの読み込み中に、詳細（%1）に示すエラーを検知しました。

(S)

処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、必要に応じてエラーの要因を取り除いてください。

表 3-13 KMBR03438-W 要因別の対策一覧

詳細(%1)に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
ftpsv.ini file cannot access.	ファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ等etcの下位にあるファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)にアクセスできません。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
entry value is invalid.	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のセクション(%2)に指定されたエントリ(%3)の値が不正です。	エントリ(%3)に指定できる範囲内の値を指定してください。
section name is invalid.	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のセクション(%2)のセクション名が不正です。 なお、セクション(%2)に指定されたエントリは、無効です。	正しいセクション名を指定してください。
entry name is invalid.	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のセクション(%2)に指定されたエントリ(%3)のエントリ名が不正です。	正しいエントリ名を指定してください。
section is duplicated.	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のセクション(%2)が重複定義されています。 なお、セクション(%2)に指定されたエントリは、無効です。	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のセクション(%2)の重複定義を取り除いてください。
entry is duplicated.	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のセクション(%2)中に、重複定義されたエントリ(%3)が存在します。	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のセクション(%2)から、エントリ(%3)の重複定義を取り除いてください。
entry is in an invalid section.	ファイル転送サービス環境定義ファイル(ftpsv.ini)のエントリ(%3)は不正なセクション(%2)中に定義されています。	正しいセクション名を指定するか、セクション(%2)の重複定義を取り除いてください。

## KMBR03439-E &lt;C,P,F&gt;

ファイル転送サービス環境定義ファイルが不正です。

要因：%1

位置：[%2]%3

The file transfer service environment definition file is incorrect.

Reason：%1

Location：[%2]%3

### 3 機能別メッセージ

(S)

ファイル転送サービス監視プロセスの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、ファイル転送サービスを再起動してください。

表 3-14 KMBR03439-E 要因別の対策一覧

要因 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
entry value is invalid.	ファイル転送サービス環境定義ファイル (ftpsv.ini) のセクション (%2) に指定されたエントリ (%3) の値が不正です。	エントリ (%3) に指定できる範囲内の値を指定してください。

#### KMBR03441-E <C,F>

ファイル転送サービスプロセスの VisiBroker プロパティの指定が不正です。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

The VisiBroker property of the file transfer service process is invalid.

Detail 1 : %1

Detail 2 : %2

(S)

ファイル転送サービスプロセスの起動処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%1)、詳細 2 (%2) に示されている VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

表 3-15 KMBR03441-E 要因別の対策一覧

詳細 1 (%1) に出力されるメッセージ	詳細 2 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
The file transfer service environment definition file. Location: [セクション名]エントリ名	The file transfer service environment definition file. Location: [セクション名]エントリ名  Environment variable: _HIEDMS_FTPVB_PROPERTY	詳細 1 または詳細 2 に示される VisiBroker プロパティの値のうち、どちらか、または両方が不正です。 なお、詳細 1 と詳細 2 の[セクション名]エントリ名は、ファイル転送サービスの実行環境ディレクトリ¥etc の下位にあるファイル転送サービス環境定義ファイル (ftpsv.ini) のセクション名とエントリ名です。	詳細 1, 詳細 2 に示される VisiBroker プロパティの指定を見直してください。

#### KMBR03442-I <C,F>

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了します。



The file transfer service termination command is forcibly terminating the file transfer service start control process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

#### KMBR03443-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了しました。

The file transfer service termination command forcibly terminated the file transfer service start control process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス開始制御プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR03444-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス監視プロセス (%1) を強制終了します。

The file transfer service termination command is forcibly terminating the file transfer service monitor process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス監視プロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

#### KMBR03445-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービス監視プロセス (%1) を強制終了しました。

The file transfer service termination command forcibly terminated the file transfer service monitor process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービス監視プロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR03446-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了します。

The file transfer service termination command is forcibly terminating the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了します。

(O)

—

#### KMBR03447-I <C,F>

---

ファイル転送サービス停止コマンドにより、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

The file transfer service termination command forcibly terminated the file transfer service process (%1).

(S)

ファイル転送サービス停止コマンドによって、ファイル転送サービスプロセス (%1) を強制終了しました。

(O)

—

#### KMBR04000-E <C,F>

---

OIID 管理テーブルにアクセスできないため処理できません。

エラーの詳細は直前のメッセージを参照してください。

File Sharing cannot continue processing because access to the OIID table failed.

For details of the error, see the previous message.

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR04001-E <C,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

関数名 : %1

エラー情報 1 : %2

エラー情報 2 : %3

要因コード 1 : %4

要因コード 2 : %5

保守情報 : %6

A database error occurred.

Function name : %1

Error information 1 : %2

Error information 2 : %3

Reason code 1 : %4

Reason code 2 : %5

Maintenance information : %6

%1 : エラーが発生した DABroker の関数名

%2 : DABroker のエラーメッセージ

%3 : データベースのエラーメッセージ

%4 : DABroker のエラーコード

%5 : データベースのエラーコード

%6 : 保守情報

(S)

処理を中止します。

(O)

エラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR04002-E <C,F>

---

データベースが停止したため、データベースへのアクセス中にタイムアウトが発生しました。

保守情報 : %1

The database was stopped, so a time-out error occurred during an attempt to access the database.

Maintenance information : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

データベースが停止した要因を取り除いてから、データベースを再起動して、再度実行してください。

### KMBR04003-E <C,F>

---

標準ライブラリでエラーが発生しました。

エラー情報 : %1

保守情報 : %2

An error occurred in the standard library.

Error information : %1

Maintenance information : %2

Visual C++の標準ライブラリでエラーが発生しました。

(S)

処理を中止します。

(O)

エラー情報 (%1) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

### KMBR04004-E <C,F>

---

File Sharing で、プログラムエラーが発生しました。

### 3 機能別メッセージ

要因コード：%1

保守情報：%2

A program error occurred in the File Sharing.

Reason code：%1

Maintenance information：%2

(S)

処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

#### KMBR04005-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのオープンに失敗しました。

パス名：%1

保守情報：%2

A memory-mapped file could not be opened.

Path name：%1

Maintenance information：%2

(S)

処理を中止します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。File Sharing のシステムファイルの構成が壊れている可能性があるため、システムファイルの構成を再度確認してください。

#### KMBR04006-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのクローズに失敗しました。

パス名：%1

保守情報：%2

A memory-mapped file could not be closed.

Path name：%1

Maintenance information：%2

(S)

エラーを無視して、メモリマップトファイルの終了処理を続行します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。

#### KMBR04007-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのロックに失敗しました。

パス名：%1

保守情報：%2

A memory-mapped file could not be locked.

Path name : %1

Maintenance information : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。

#### KMBR04008-E <C,F>

---

メモリマップトファイルのアンロックに失敗しました。

パス名 : %1

保守情報 : %2

A memory-mapped file could not be unlocked.

Path name : %1

Maintenance information : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

システムエラーの詳細については、トレースファイルを参照してください。

#### KMBR04009-E <C,F>

---

データベース接続時の環境変数の設定処理で、システムエラーが発生しました。

エラー情報 : %1

要因コード : %2

A system error occurred in the processing to set environment variables when connecting to a database.

Error information : %1

Reason code : %2

データベース接続時の環境変数を設定するために発行した putenv () システムコールでエラーが発生しました。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OSのマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR04013-E <C,F>

---

メモリマップトファイルの作成に失敗しました。

パス名 : %1

### 3 機能別メッセージ

保守情報：%2

The memory-mapped file could not be created.

Path name：%1

Maintenance information：%2

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に対策を実施してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR04014-E <C,F>

---

メモリマップトファイルの不正を検出しました。

要因：%1

詳細情報：%2

Invalid data was detected in the memory-mapped file.

Reason：%1

Detail information：%2

(S)

処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

#### KMBR04015-E <C,F>

---

作成できるオブジェクトの最大数に達しました。

The number of objects that can be created has reached the maximum.

(S)

処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

#### KMBR04016-E <C,F>

---

メタ情報の取得でエラーが発生しました。

要因コード：%1

保守情報 1：%2

保守情報 2：%3

An error occurred during acquisition of meta-information.

Reason code：%1

Maintenance information 1：%2

Maintenance information 2：%3

%1 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc¥meta\_files の下位に edmsys.ini ファイルが存在するかどうか、アクセス権（読み取り権）が設定されているかどうかを確認してください。なお、ファイルが存在しない場合は、-F オプションを指定して EDMPrintMeta コマンドを実行してください。また、アクセス権（読み取り権）がない場合は、アクセス権（読み取り権）を設定してください。
2. このメッセージの前に KMBR00003-E が出力されている場合は、KMBR00003-E を基に、エラーの要因を取り除いてください。
3. 保守員に連絡してください。

### KMBR04017-E <C,F>

DocumentSpace 構成定義ファイルの内容が不正です。

要因 : %1

位置 : [%2]%3

The content of the DocumentSpace configuration definition file is invalid.

Reason : %1

Location : [%2]%3

(S)

処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてください。

表 3-16 KMBR04017-E 要因別の対策一覧

要因(%1)に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
entry is not omissible.	docspace.ini のセクション[%2]にエンタリ [%3]の指定がありません。	docspace.ini のセクション[%2]に、エンタリ [%3]を指定してください。
entry value is invalid.	docspace.ini のセクション[%2]に指定されたエンタリ [%3]の値が正しくありません。	エンタリ [%3]に指定できる範囲内の値を指定してください。

### KMBR04209-W <C,F>

データベースコネクション割り当て待ちでタイムアウトが発生しました。

A time-out occurred during the wait for a database connection assignment.

指定した時間を超えたため、タイムアウトが発生しました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

再度処理を実行してください。頻繁にこのエラーが発生する場合は、データベース接続プールの設定を見直してください。

### KMBR05003-E <C,F>

---

SGML の構文解析時に使用するメッセージファイル (SGMLPAR.MSG) のオープンに失敗しました。

操作 : %1

要因コード : %2

The message file used when analyzing SGML syntax could not be opened.

Operation : %1

Reason code : %2

%1 : "open"

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

(S)

SGML 文書の構文解析処理を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、SGML の構文解析時に使用するメッセージファイルをオープン可能な状態にしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR05004-E <C,F>

---

一時的に使用するテンポラリファイルのオープン処理に失敗しました。

対象 : %1

操作 : %2

要因コード : %3

A temporary file could not be opened.

Object : %1

Operation : %2

Reason code : %3

%1 : ファイルパス

%2 : "open"

%3 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

(S)

SGML 文書の構文解析処理を中止しました。

(O)

要因コード (%3) を基に、テンポラリファイルをオープン可能な状態にしてから、処理を再度実行してください。



## KMBR05005-E &lt;C,P,F&gt;

実行環境に必要なファイルの読み込み中にエラーが発生しました。

ファイル名：%1

An error occurred during the reading file, which require the operating-environment.

File Name：%1

(S)

起動処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力された KMBR00003-E を参照し、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

## KMBR06000-E &lt;C,P,F&gt;

アクセス制御機能のセキュリティ定義ファイル (%1) の読み込み中にエラーを検知したため、File Sharing サーバを起動できません。

詳細：%2

位置：[%3]%4

File Sharing server cannot start because an error occurred during a read of the security definition file (%1) of the access control function.

Reason：%2

Location：[%3]%4

アクセス制御機能のセキュリティ定義ファイル (%1) 読み込み中に、詳細 (%2) に示すエラーを検知したため、File Sharing サーバを起動できません。

(S)

File Sharing サーバを起動できません。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

表 3-17 KMBR06000-E 要因別の対策一覧

詳細 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
file does not found.	セキュリティ定義ファイル (%1) がありません。	セキュリティ定義ファイル (%1) を作成してください。
parameter is not omissible.	セキュリティ定義ファイル (%1) に、位置 ([%3]%4) に示す省略不可のエントリを指定していません。	セキュリティ定義ファイル (%1) に、位置 ([%3]%4) に示すエントリを指定してください。
parameter is incorrect.	セキュリティ定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリの設定が不正です。	セキュリティ定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリの設定を修正してください。

## KMBR06001-E &lt;C,P,F&gt;

アクセス制御機能のユーザ権限定義ファイル (%1) の読み込み中にエラーを検知したため、File Sharing サーバを起動できません。

詳細 : %2

位置 : [%3]%4

File Sharing server cannot start because an error occurred during a read of the user permission definition file (%1) of the access control function.

Reason : %2

Location : [%3]%4

アクセス制御機能のユーザ権限定義ファイル (%1) の読み込み中に、詳細 (%2) に示すエラーを検知したため、File Sharing サーバを起動できません。

(S)

File Sharing サーバを起動できません。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing サーバを再起動してください。

表 3-18 KMBR06001-E 要因別の対策一覧

詳細 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
file does not found.	ユーザ権限定義ファイル (%1) がありません。	ユーザ権限定義ファイル (%1) を作成してください。
parameter is not omissible.	ユーザ権限定義ファイル (%1) に、位置 ([%3]%4) に示す省略不可のエントリを指定していません。	ユーザ権限定義ファイル (%1) に、位置 ([%3]%4) に示すエントリを指定してください。
parameter is incorrect.	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリの設定が不正です。	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリの設定を修正してください。
parameter for type of subject is incorrect.	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリに指定したサブジェクト種別が不正です。	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリに指定したサブジェクト種別を修正してください。
parameter for permission is incorrect.	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリに指定したパーミッションが不正です。	ユーザ権限定義ファイル (%1) の、位置 ([%3]%4) に示すエントリに指定したパーミッションを修正してください。

## KMBR06002-I &lt;C,P,F&gt;

アクセス制御機能が利用できる状態で、File Sharing サーバを起動します。

The File Sharing server will start, and the access control function will be available.

(S)

File Sharing サーバを起動しています。

(O)

—

**KMBR06003-I <C,P,F>**

---

アクセス制御機能が無効な状態で、File Sharing サーバを起動します。

The File Sharing server will start, but the access control function will not be available.

(S)

File Sharing サーバを起動しています。

(O)

—

**KMBR06004-E <C,P,F>**

---

ユーザ認証方式 (%1) の場合はアクセス制御機能を利用できないため、File Sharing サーバを起動できません。

The File Sharing server cannot start because the access control function is not available for user authentication (%1).

(S)

File Sharing サーバを起動できません。

(O)

DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に適切なユーザ認証方式を指定して、File Sharing サーバを再起動してください。

**KMBR06007-W <F>**

---

クライアントアプリケーション動作定義ファイル (%1) の読み込み中にエラーが発生しました。

要因 : %2

付加情報 : %3

Client Application continue, but an error occurred during a read of The Client Application Definition File (%1) .

Reason : %2

Additional information : %3

クライアントアプリケーション動作定義ファイル (%1) の読み込み中に、要因 (%2) に示すエラーを検知しました。

%1 : クライアントアプリケーション動作定義ファイルのファイル名

%2 : 表 3-19 の要因に示す値

%3 : エントリ名、システムコール名または保守情報

(S)

クライアントアプリケーションの動作定義は指定されていないものとして、File Sharing クライアント処理を続行します。

(O)

必要に応じて、表 3-19 に示す要因別対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、File Sharing クライアントを再度実行してください。

表 3-19 KMBR06007-W 要因別の対策一覧

要因 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
no memory.	付加情報 (%3) に示すメモリを確保できませんでした。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてください。
parameter is too long.	ファイル (%1) の付加情報 (%3) に示すエントリの指定が 1023 バイトを超えています。	付加情報 (%3) に示すエントリの値を 1023 バイト以下で指定してください。
system call error.	ファイル (%1) のエントリを読み込み中に付加情報 (%3) に示すシステムコールでエラーが発生しました。	付加情報 (%3) に示すシステムコール名とシステムコールが設定したエラー番号を基に、エラーの要因を取り除いてください。
registry get failed.	File Sharing クライアントのインストールディレクトリの取得時にエラーが発生しました。	File Sharing クライアントを再インストールしてください。

## KMBR08000-I &lt;C,P,F&gt;

Collaboration - File Sharing Server サービスを開始しています。

The Collaboration - File Sharing Server service is starting.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスを開始しています。

(O)

—

## KMBR08001-E &lt;C,P,F&gt;

続行できない障害が発生したため、Collaboration - File Sharing Server サービスを開始できません。

The Collaboration - File Sharing Server service cannot start because an error that stops processing occurred.

(S)

エラーが発生したため、Collaboration - File Sharing Server サービスを開始できません。

(O)

イベントログに出力されているメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、Collaboration - File Sharing Server サービスを再起動してください。

なお、エラーの要因が KMBR00003-E のシステムコール「StartServiceCtrlDispatcher」の場合は、しばらくしてから Collaboration - File Sharing Server サービスを再起動してください。

## KMBR08002-W &lt;C,P,F&gt;

Collaboration - File Sharing Server サービスは既に起動しています。

The Collaboration - File Sharing Server service is already running.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスはすでに起動しています。

(O)

—

#### KMBR08003-I <C,P,F>

---

Collaboration - File Sharing Server サービスを開始しました。

The Collaboration - File Sharing Server service has started.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスを開始しました。

(O)

—

#### KMBR08004-I <C,P,F>

---

Collaboration - File Sharing Server サービスを停止しています。

The Collaboration - File Sharing Server service is terminating.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスを停止しています。

(O)

—

#### KMBR08005-E <C,P,F>

---

続行できない障害が発生したため、Collaboration - File Sharing Server サービスを正常に停止できません。

The Collaboration - File Sharing Server service could not terminate normally because an error that stops processing occurred.

(S)

エラーが発生したため、Collaboration - File Sharing Server サービスを正常に停止できません。

(O)

イベントログに出力されているメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度停止コマンドを実行するか、強制終了コマンドを実行してください。

#### KMBR08006-W <C,P,F>

---

Collaboration - File Sharing Server サービスは既に停止しています。

The Collaboration - File Sharing Server service has already terminated.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスはすでに停止しています。

(O)

—

#### KMBR08007-I <C,P,F>

---

Collaboration - File Sharing Server サービスを停止しました。

The Collaboration - File Sharing Server service has terminated.

### 3 機能別メッセージ

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスを停止しました。

(O)

—

#### KMBR08008-W <C,P,F>

---

Collaboration - File Sharing Server サービスは起動処理中です。

The Collaboration - File Sharing Server service is now starting.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスは起動処理中です。

(O)

—

#### KMBR08009-W <C,P,F>

---

Collaboration - File Sharing Server サービスは停止処理中です。

The Collaboration - File Sharing Server service is now terminating.

(S)

Collaboration - File Sharing Server サービスは停止処理中です。

(O)

—

# 4

## File Sharing サーバのユティリティのメッセージ

この章では, File Sharing サーバの各ユティリティに関するメッセージについて説明します。

## 4.1 KMBR10000～KMBR19999

---

### KMBR10203-E <C,P,F>

---

指定したファイルの読み出しができません。

%1 を中止します。

ファイル名 : %2

The specified file cannot be read.

%1 will now stop.

File name : %2

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

指定したファイルに対するアクセス権があるか確認してください。

### KMBR10204-E <C,P,F>

---

データベース定義文格納ファイルの書き込みでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

データベース定義文格納ファイル名 : %2

要因コード : %3

An error occurred during a write to a DDL file.

%1 will now stop.

DDL file name : %2

Reason code : %3

%3 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OSのマニュアルを参照してください。

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

要因コード (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR10205-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、コマンド処理を続行できません。

%1 を中止します。

Memory became insufficient, so command processing cannot continue.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。



(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って、コマンド (%1) を再度実行してください。

#### KMBR10207-E <C,P,F>

---

メタ情報の読み込みでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

関数名 : %2

要因コード : %3

An error occurred while meta-information was being read.

%1 will now stop.

Function name : %2

Reason code : %3

%3 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

-f オプションに File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server%etc%meta\_files%edms.ini を指定して、EDMChkMeta コマンドを実行してください。その後、出力されたメッセージを基に、メタ情報ファイルを修正してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR10208-E <C,P,F>

---

文字列の最大長の設定が 0 であるか、文字列の長さがデータベース管理システムの制限値を超えています。

データベース定義文の出力処理を中止します。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

The maximum length of a string is set as zero, or exceeds the limit of the database system.

Output processing of the database definition statement will now stop.

Class name : %1

Property name : %2

PropertyDescription オブジェクトの dmaProp\_MaximumLengthString プロパティに 0 が指定されているか、dmaProp\_MaximumLengthString プロパティに指定されている値がデータベース管理システムの制限値を超えています。

クラス (%1) は、String 型プロパティを持つ ClassDescription オブジェクトの dmaProp\_DisplayName プロパティの値です。プロパティ (%2) は、String 型プロパティを持つ PropertyDescription オブジェクトの dmaProp\_DisplayName プロパティの値です。

(S)

データベース定義文の出力処理を中止します。

(O)

メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10209-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

%1 を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に指定したデータベースのエントリを確認してください。

イベントログにエラーメッセージが出力されている場合、イベントログのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR10210-E <C,P,F>

---

メタ情報が登録されていません。

%1 を中止します。

Meta-information is not registered.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報を登録してから、コマンド (%1) を再度実行してください。

#### KMBR10211-I <C,P,F>

---

データベース定義文の出力を正常に終了しました。

Output of the database definition statement ended normally.

エラーは見つかりませんでした。

(S)

データベース定義文の出力を正常に終了しました。

(O)

—

#### KMBR10212-E <C,P,F>

---

このメタ情報は、ほかのプロセスで使用中的のため、処理を続行できません。

%1 を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing cannot continue.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

このメタ情報にアクセスしているほかのプロセスの終了を待って、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10221-W <P,F>

---

クラス名の指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

A class name is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10222-W <P,F>

---

プロパティ名の指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

A property name is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10223-W <P,F>

---

エリア名の指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An area name is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10224-W <P,F>

---

指定できないセクションが指定されています。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An unspecifiable section is specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

このメッセージが出力される前に実行したコマンドに応じて、次に示す対策を実施してください。

- EDMCrtSql コマンドの場合

ファイル (%1) の%2 行目にあるセクションの指定を修正してから、EDMCrtSql コマンドを再度実行してください。

- EDMAAddMeta コマンドの場合

出力されたデータベース定義文格納ファイル内のエリア名を修正してから、データベースを作成してください。

#### KMBR10225-W <P,F>

---

セクションの指定がありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

A section is not specified.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

このメッセージが出力される前に実行したコマンドに応じて、次に示す対策を実施してください。

- EDMCrtSql コマンドの場合

セクションを指定してから、EDMCrtSql コマンドを再度実行してください。

- EDMAAddMeta コマンドの場合

出力されたデータベース定義文格納ファイル内のエリア名を修正してから、データベースを作成してください。

**KMBR10226-W <P,F>**

---

文法が不正です。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

Syntax is invalid.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にある文法を確認してください。

**KMBR10227-W <P,F>**

---

エントリが重複しています。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An entry is duplicated.

File name : %1

Line number : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

**KMBR10228-I <P,F>**

---

デフォルトのエリア名が設定されました。

エリア名 : %1

クラス名 : %2

The default area name was set.

Area name : %1

Class name : %2

(S)

処理を続行します。

(O)

—

**KMBR10229-I <P,F>**

---

デフォルトのエリア名が設定されました。

エリア名 : %1

クラス名 : %2

プロパティ名 : %3

The default area name was set.

Area name : %1

Class name : %2

Property name : %3

(S)

処理を続行します。

(O)

—

#### KMBR10230-I <P,F>

---

RD エリア定義情報ファイルで 10 件のエラーを検知しました。

RD エリア定義情報ファイルの解析処理を中止します。

Analyzing the RD area definition information file will now stop because ten errors were detected in the file.

(S)

RD エリア定義情報の解析を中止して、処理を続行します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、RD エリア定義情報ファイルを修正してください。

#### KMBR10231-W <P,F>

---

LOB 用 RD エリア名が重複しています。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

RD エリア名 : %3

The name of the RD area for LOB is duplicated.

File name : %1

Line number : %2

RD area name : %3

RD エリア名 (%3) が、ファイル (%1) 内で重複しています。

[LobArea], [SGMLTEXTLobArea]および[NgramIndexArea]セクション内で指定する RD エリア名は、ファイル内で一意になっていなければなりません。

(S)

処理を続行します。

(O)

重複している RD エリア名 (%3) が、ファイル (%1) 内で一意になるように修正してください。

**KMBR10254-E <C,P,F>**

---

インデクス情報ファイルのオープンでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

インデクス情報ファイル名 : %2

An error occurred during the opening of the index information file.

%1 will now stop.

Index information file name : %2

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR10255-E <C,P,F>**

---

インデクス情報ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

%1 を中止します。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

An error occurred during a read of the index information file.

%1 will now stop.

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR10256-E <P,F>**

---

プロパティの内容のチェック中に、エラーが発生しました。

%1 を中止します。

An error occurred during a check of the property contents.

%1 will now stop.

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR10257-W <P,F>**

---

インデクスの数が、データベース管理システムの制限値を超えています。

クラス名 : %1

The number of indexes exceeds the limit of the database system.

Class name : %1

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイルを確認してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10258-I <P,F>

---

インデクス情報ファイルで 10 件のエラーを検知しました。

インデクス情報ファイルの解析処理を中止します。

Analyzing the index information file will now stop because ten errors were detected in the index information file.

(S)

インデクス情報ファイルの解析を中止して、処理を続行します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、インデクス情報ファイルを修正してください。

#### KMBR10259-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

コンマ (,) 以外の文字がエスケープされています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A character other than a comma (,) is escaped.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の %2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10260-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

行頭が (class=) で始まっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line does not begin with class=.



Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10261-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

UNIQUE の後にコンマ (,) がありません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A comma (,) is missing after UNIQUE.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10263-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

(class=) の後に (prop=) の記述がありません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

prop= is missing after class=.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10264-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

(order=) に、ASC 又は DESC 以外の値を指定しています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A value other than ASC or DESC is specified in order=.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10265-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

(order=ASC/DESC) の次が改行, コンマ (,) 又は終端になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line feed, comma (,), or end mark must be specified after order=ASC/DESC.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10266-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

コンマ (,) の次が (order=) 又は (prop=) になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

order= or prop= must be specified after a comma (,).

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

**KMBR10267-W <P,F>**

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

(prop=プロパティ名) の次が改行, コンマ (,) 又は終端になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line feed, comma (,), or end mark must be specified after prop=*property-name*.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイル (%1) のチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

**KMBR10268-W <P,F>**

---

インデクスのキーに定義したプロパティの数が, データベース管理システムの制限値を超えています。

プロパティ数 : %1

行番号 : %2

The number of properties defined in the index key exceeds the limit of the database system.

Property number : %1

Line number : %2

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイルを確認してから, コマンドを再度実行してください。

**KMBR10269-W <P,F>**

---

キーの構成が同一のインデクスが既に定義されています。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

An index with the same key organization is already defined.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) を確認してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10270-W <P,F>

---

プロパティの最大長がデータベース管理システムの制限値を超えています。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

The maximum length of the property exceeds the limit of the database system.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

文字列の最大長がデータベース管理システムの制限値を超えています。

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) を確認してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10271-W <P,F>

---

指定したクラスには、指定したプロパティはありません。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

The specified property does not exist in the specified class.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) を確認してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10272-W <P,F>

---

指定したクラスは定義されていないか、永続化クラスではありません。

クラス名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

The specified class is not defined, or is not a persistent class.

Class name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

データベース定義文の出力処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) を確認してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10273-W <P,F>

---

インデクス情報ファイル内の記述形式が不正です。

EXCEPT の次が改行又は終端になっていません。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax in the index information file is invalid.

A line feed or end mark must be specified after EXCEPT.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるデータの指定を確認してください。

#### KMBR10274-W <P,F>

---

インデクス名が不正です。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The index name is invalid.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるインデクス名は、次に示す文字を使って指定してください。なお、先頭 1 バイトには、英小文字または英大文字を指定してください。

- 英小文字
- 英大文字
- 数字
- 空白
- \_ (下線)

- - (ハイフン)

#### KMBR10275-W <P,F>

---

インデクス名の長さが制限長を超えています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The length of the index name exceeds the limit.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるインデクス名を、30 バイト以内にしてください。

#### KMBR10276-W <P,F>

---

インデクス名が重複しています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The index name is duplicated.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるインデクス名は、重複しないように指定してください。

#### KMBR10277-W <P,F>

---

インデクス名が複数指定されています。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

Two or more index names are specified.

Index information file name : %1

Line number : %2

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目には、インデクス名を一つだけ指定してください。

**KMBR10278-W <P,F>**

---

指定したプロパティには、インデクスは定義できません。

プロパティ名 : %1

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

An index cannot be defined for the specified property.

Property name : %1

Index information file name : %2

Line number : %3

全文検索または概念検索用の登録情報を参照することを示すためのプロパティおよび全文検索機能付きプロパティに、インデクスは定義できません。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) を確認してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR10279-W <P,F>**

---

%1 が一つのインデクス定義内に複数指定されています。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

%1 is duplicated in an index definition.

Index information file name : %2

Line number : %3

一つのインデクス定義内に、%1 は複数指定できません。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) の%3 行目にあるデータの指定を確認してください。

**KMBR10280-W <P,F>**

---

%1 はこのセクションに指定できません。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

%1 cannot be specified in this section.

Index information file name : %2

Line number : %3

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) の%3 行目にあるデータの指定位置を確認してください。

**KMBR10281-W <P,F>**

---

%1 の値が不正です。

インデクス情報ファイル名 : %2

行番号 : %3

%1 is invalid.

Index information file name : %2

Line number : %3

インデクス定義に指定した値が不正です。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%2) の%3 行目にあるデータの値を確認してください。

**KMBR10282-W <P,F>**

---

文法が不正です。

インデクス情報ファイル名 : %1

行番号 : %2

The syntax is invalid.

Index information file name : %1

Line number : %2

インデクス定義の文法が不正です。

(S)

インデクス情報ファイルのチェック処理を続行します。

(O)

インデクス情報ファイル (%1) の%2 行目にあるインデクス定義の文法を確認してください。

**KMBR10301-E <C,P,F>**

---

指定したメタ情報ファイルはありません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

メタ情報ファイル名 : %1

The specified meta-information file does not exist.

Processing to register the meta-information file will now stop.

Meta-information file name : %1

引数で指定したメタ情報ファイル、またはメタ情報ファイル内で指定したメタ情報ファイルがありません。

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。



(O)

メタ情報ファイル (%1) があるか確認してください。その後、EDMDelMeta コマンドを実行してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10302-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、メタ情報ファイルの登録処理を続行できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Memory became insufficient, so processing to register the meta-information file cannot continue.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って、EDMDelMeta コマンドを実行してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10303-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the meta-information file was being read.

Processing to register the meta-information file will now stop.

File name : %1

Reason code : %2

%2 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

エラーの要因を取り除いて、EDMDelMeta コマンドを実行してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10304-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に、指定したデータベースのエントリがあるか確認してください。

イベントログにエラーメッセージが出力されている場合、イベントログのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR10305-E <C,P,F>

---

データベースへの登録でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

An error occurred while the file was being registered in the database.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細についてイベントログを参照して、エラーの要因を取り除いてください。その後、EDMDelMeta コマンドを実行してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10306-E <C,P,F>

---

メタ情報の登録は既に完了しています。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The meta-information has already been registered.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

再登録が必要な場合は、-d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10307-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、文書空間で作成するオブジェクトを定義するファイルではありません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The specified meta-information file does not define an object created in the document space.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

メタ情報ファイルを正しく指定してから、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10308-E <C,P,F>

---

このメタ情報は、ほかのプロセスで使用するため、メタ情報ファイルの登録処理を続行できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing to register the meta-information cannot continue.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

メタ情報にアクセスしているほかのプロセスの終了を待って、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10311-I <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの登録処理を正常に終了しました。

Processing to register the meta-information file completed normally.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を正常に終了しました。

(O)

—

#### KMBR10312-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルと-v オプションに指定した VariableArray 型要素の格納先が一致していません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

格納先 : %1

The meta-information file and the storage destination of a VariableArray-type element specified in the -v option are not the same.

Processing to register the meta-information file will now stop.

Storage destination : %1

%1 : メタ情報ファイル内の VariableArray 型要素の格納先

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- -v オプションを指定しないで、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。
- -v オプションの値をメタ情報ファイルと合わせて、EDMInitMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10313-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、アクセス制御機能を使用しないファイルのため、-A オプションは指定できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -A option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the access control function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-A オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10314-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、アクセス制御機能を使用したファイルのため、-A オプションを指定してください。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Specify the -A option because the specified meta-information file uses access control.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-A オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10315-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、ファイルリンク機能を使用しないファイルのため、-L オプションは指定できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -L option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the file link function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-L オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

File Link 連携機能を使用する場合は、EDMInitMeta コマンドの-f オプションにシステム提供時のメタ情報ファイルを指定して、再度実行してください。

#### KMBR10316-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、ファイルリンク機能を使用したファイルのため、-L オプションを指定してください。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Specify the -L option because the specified meta-information file use the file link function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-L オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

File Link 連携機能を使用しない場合は、EDMinitMeta コマンドの-f オプションにシステム提供時のメタ情報ファイルを指定して、再度実行してください。

#### KMBR10317-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルと-u オプションに指定した値が一致していません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

データベース定義名称種別：%1

The meta-information file and the value specified in the -u option are not the same.

Processing to register the meta-information file will now stop.

Database definition name type：%1

%1：メタ情報ファイル内のデータベース定義名称種別

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

クラス名やプロパティ名をデータベース定義の名称とする環境の場合は、-u オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。それ以外の場合は、-u オプションの値をメタ情報ファイルと合わせて、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10318-E <C,P,F>

---

-c オプションの値が不正です。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -c option is invalid.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-c オプションに、2~4,096 の範囲の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10319-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、マルチファイル管理機能を使用しないファイルのため、-c オプションは指定できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -c option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the multi-file function.

Processing to register the meta-information file will now stop.

-f オプションに指定できないメタ情報ファイルを指定しています。

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

指定したメタ情報ファイルは、マルチファイル管理機能を使用できません。

-c オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10322-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、リファレンスファイル機能を使用しないファイルのため、-R オプションは指定できません。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -R option cannot be specified for the specified meta-information file because the file does not use the reference file function. Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-R オプションを指定しないで、コマンドを再実行してください。

リファレンスファイル機能を使用する場合、EDMInitMeta コマンドの-f オプションに、システム提供時のメタ情報ファイルを指定して再実行してください。

#### KMBR10323-E <C,P,F>

---

指定したメタ情報ファイルは、リファレンスファイル機能を使用したファイルのため、-R オプションを指定してください。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

Specify the -R option because the specified meta-information file uses the reference file function. Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-R オプションを指定して、コマンドを再実行してください。

リファレンスファイル機能を使用しない場合、EDMInitMeta コマンドの-f オプションに、システム提供時のメタ情報ファイルを指定して再実行してください。

#### KMBR10327-E <C,P,F>

---

-C オプションの値が不正です。

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

The -C option is invalid. Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止します。

(O)

-C オプションに"SJIS"または"UTF-8"の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10401-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、メタ情報ファイルの削除処理を続行できません。

メタ情報の削除処理を中止します。

Memory became insufficient, so processing to delete the meta-information file cannot continue.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って利用可能なメモリを増やしてから、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10402-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

メタ情報の削除処理を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に、指定したデータベースのエントリがあるか確認してください。

イベントログにエラーメッセージが出力されている場合、イベントログのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR10403-E <C,P,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

メタ情報の削除処理を中止します。

An error occurred in the database.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細についてイベントログを参照して、エラーの要因を取り除いてください。その後、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10404-E <C,P,F>

---

メタ情報は登録されていません。

メタ情報の削除処理を中止します。

The meta-information has not been registered.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

—

#### KMBR10405-E <C,P,F>

---

このメタ情報は、ほかのプロセスで使用中的のため、メタ情報の削除処理を続行できません。

メタ情報の削除処理を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing to delete the meta-information cannot continue.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

メタ情報にアクセスしているほかのプロセスの終了を待って、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10406-E <P,F>

---

引数で指定したスーパークラス又はサブクラスが、データベースに登録されていません。

メタ情報の削除処理を中止します。

クラス名 : %1

The super class or subclass specified in the argument has not been registered in the database.

Processing to delete the meta-information will now stop.

Class name : %1

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

クラス (%1) があるか確認してください。

#### KMBR10407-E <P,F>

---

引数で指定したサブクラスは、スーパークラスのサブクラスではありません。

メタ情報の削除処理を中止します。

The subclass specified in the argument is not a subclass of the super class.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

指定したサブクラスが指定したスーパークラスを継承しているか確認してください。

#### KMBR10408-E <P,F>

---

指定したクラスに、指定したプロパティはありません。

メタ情報の削除処理を中止します。

The specified property does not exist in the specified class.

Processing to delete the meta-information will now stop.



(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

指定したクラスに、指定したプロパティがあるか確認してください。

**KMBR10409-E <P,F>**

---

ファイルの出力処理に失敗しました。

メタ情報の削除処理を中止します。

Output processing of the file failed.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

ファイル名を確認してから、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10410-I <C,P,F>**

---

メタ情報の削除処理を正常に終了しました。

Processing to delete the meta-information ended normally.

(S)

メタ情報の削除処理を正常に終了しました。

(O)

—

**KMBR10411-I <C,P,F>**

---

サブクラス情報の削除処理を正常に終了しました。

サブクラス名 : %1

サブクラス GUID : %2

Processing to delete the subclass information ended normally.

Subclass name : %1

Subclass GUID : %2

(S)

サブクラス情報の削除処理を正常に終了しました。

(O)

—

**KMBR10412-I <C,P,F>**

---

プロパティ情報の削除処理を正常に終了しました。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

Processing to delete the property information ended normally.

Class name : %1

Property name : %2

(S)

プロパティ情報の削除処理を正常に終了しました。

(O)

—

#### KMBR10413-E <P,F>

---

指定したクラスにオブジェクトがあります。

メタ情報の削除処理を中止します。

An object exists in the specified class.

Processing to delete the meta-information will now stop.

(S)

メタ情報の削除処理を中止します。

(O)

指定したクラスのオブジェクトを削除してから、EDMDelMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10500-E <P,F>

---

プロパティの指定 (値) が%1 バイトを超えています。

行番号 : %2

The specification (value) of the property exceeds %1 bytes.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10501-E <P,F>

---

プロパティの指定内容が重複しています。

行番号 : %1

The specified contents of the property are duplicated.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10502-E <P,F>**

---

dmaProp\_DataType プロパティが指定されていないのに、%1 が指定されています。

行番号 : %2

%1 is specified even though the dmaProp\_DataType property is not specified.

Line number : %2

%1 には、次に示すプロパティのどれかが入ります。

- dmaProp\_DescriptiveText
- dmaProp\_Ids
- dmaProp\_Cardinality
- dmaProp\_IsSelectable
- dmaProp\_IsSearchable
- dmaProp\_IsOrderable
- dmaProp\_QueryOperatorDescriptions
- dmaProp\_IsValueRequired
- dmaProp\_IsHidden
- dmaProp\_MaximumLengthString
- dmaProp\_RequiredClass

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10503-E <P,F>**

---

dmaProp\_DataType プロパティに DMA\_DATATYPE\_OBJECT を指定したときは、%1 も指定してください。

行番号 : %2

Specify %1 when DMA\_DATATYPE\_OBJECT is specified for the dmaProp\_DataType property.

Line number : %2

%1 には、次に示すプロパティのどれかが入ります。

- dmaProp\_Cardinality
- dmaProp\_RequiredClass
- dmaProp\_MaximumElements

VariableArray 型プロパティの要素の格納先が HiRDB の場合は、これらのプロパティを必ず指定してください。

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10504-E <P,F>

---

アクション中には、同じ名称のプロパティが既にあります。

アクション名：%1

プロパティ名：%2

行番号：%3

A property with the same name exists in the action.

Action name : %1

Property name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10507-E <P,F>

---

全文検索機能付きクラス又は概念検索機能付きクラスには、%1 プロパティも指定してください。

行番号：%2

Specify the %1 property for a class that has the full-text search function or a conceptual search function.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10533-E <P,F>

---

GUID 値は重複しないように指定してください。

行番号：%1

The GUID value must not be duplicated.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

重複している GUID 値をメタ情報ファイル内で一意にしてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10534-E <P,F>

---

~QueryOperator~の指定が重複しています。

行番号：%1

The specification of ~QueryOperator~ is duplicated.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

重複している~QueryOperator~の指定をメタ情報ファイル内で一意にしてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10550-E <P,F>

---

データベースへのアクセス準備に失敗しました。

処理名 : %1

要因コード : %2

An error occurred during preparation for database access.

Processing name : %1

Reason code : %2

データベースへのアクセス準備 (%1 の処理) に失敗しました。

%2 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

データベースまたはネットワーク環境を見直してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10570-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

プロパティのデータが 1 件もありません。

テーブル名 : %1

セクション名 : %2

プロパティ名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

The database search failed.

No property data exists.

Table name : %1

Section name : %2

Property name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10571-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

テーブル名：%1

セクション名：%2

プロパティ名：%3

ファイル名：%4

行番号：%5

The database search failed.

Table name：%1

Section name：%2

Property name：%3

File name：%4

Line number：%5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10572-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

SQL：%1

ファイル名：%2

行番号：%3

The database search failed.

SQL：%1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10573-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

データベースには、指定したクラスはありません。

クラス名 : %1

SQL : %2

行番号 : %3

The database search failed.

The specified class does not exist in the database.

Class name : %1

SQL : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10574-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

データベースには、指定したプロパティはありません。

プロパティ名 : %1

SQL : %2

行番号 : %3

The database search failed.

The specified property does not exist in the database.

Property name : %1

SQL : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10575-E <P,F>

---

データベースの検索に失敗しました。

dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティを指定できません。

アクション : %1

SQL : %2

セクション名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

The database search failed.

The dmaProp\_QueryOperatorDescriptions property cannot be specified.

Action : %1

SQL : %2

Section name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。



**KMBR10576-E <P,F>**

---

データベースの検索に失敗しました。

EDMS\_METAINI テーブルの MAX\_OCCUR 検索でエラーが発生しました。

セクション名 : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

The database search failed.

An error occurred during the search for MAX\_OCCUR in the EDMS\_METAINI table.

Section name : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10577-E <P,F>**

---

指定したプロパティはデータベースにありませんでした。

プロパティ名 : %1

SQL : %2

行番号 : %3

The specified property does not exist in the database.

Property name : %1

SQL : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

KMBR10587-E <P,F>

---

表識別子が重複しています。

アクション : %1

スーパークラス名 : %2

サブクラス名 : %3

SQL : %4

The table ID is duplicated.

Action : %1

Super class name : %2

Subclass name : %3

SQL : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

KMBR10588-E <P,F>

---

列名が重複しています。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

SQL : %3

行番号 : %4

The column name is duplicated.

Class name : %1

Property name : %2

SQL : %3

Line number : %4

列名は、すでに存在します。

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

**KMBR10589-E <P,F>**

---

全文検索又は概念検索用のプロパティは、既にあります。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

SQL : %3

行番号 : %4

The property for the full-text search or for a conceptual search already exists.

Class name : %1

Property name : %2

SQL : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

**KMBR10590-E <C,P,F>**

---

データベースの内容に矛盾を検知しました。

メタ情報のテーブルのセクション内には、同じ名称のプロパティが既にあります。

メタ情報のテーブル名 : %1

セクション名 : %2

プロパティ名 : %3

ファイル名 : %4

行番号 : %5

A conflict was detected in the database contents.

A property with the same name already exists in the meta-information table section.

Meta-information table name : %1

Section name : %2

Property name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10591-E <C,P,F>

---

指定したサブクラスは既にあります。

アクション : %1

スーパークラス名 : %2

サブクラス名 : %3

SQL : %4

The specified subclass already exists.

Action : %1

Super class name : %2

Subclass name : %3

SQL : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR10592-E <C,P,F>

---

データベースの内容に矛盾を検知しました。

SQL : %1

保守情報 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

A conflict was detected in the database contents.

SQL : %1

Maintenance information : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。
- データベースにエラーが発生している場合は、データベースからエラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10594-E <C,P,F>

---

指定したプロパティは既にあります。

クラス名 : %1

プロパティ名 : %2

SQL : %3

行番号 : %4

The specified property already exists.

Class name : %1

Property name : %2

SQL : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR10597-E <P,F>

---

edmClass\_Struct クラスのサブクラスを指定してください。

行番号 : %1

Specify a subclass of the edmClass\_Struct class.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR10610-E <C,P,F>

---

データベースへのメタ情報の更新で失敗しました。

バックアップからデータベースを回復してください。

セクション名：%1

プロパティ名：%2

オカレンス名：%3

ファイル名：%4

行番号：%5

The attempt to update meta-information in the database failed.

Restore the database from a backup.

Section name : %1

Property name : %2

Occurrence name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

データベースのメッセージを基にエラーの要因を取り除いて、バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10611-E <C,P,F>

---

データベースへのメタ情報 (EDMS\_METAINI テーブル) の挿入に失敗しました。

バックアップからデータベースを回復してください。

処理名：%1

セクション名：%2

ファイル名：%3

行番号：%4

An error occurred during the attempt to insert meta-information (EDMS\_METAINI table) into the database.

Restore the database from a backup.

Processing name : %1

Section name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

データベースのメッセージを基にエラーの要因を取り除いて、バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10612-E <C,P,F>

---

データベースへのメタ情報 (EDMS\_METAINI テーブル) の更新に失敗しました。

バックアップからデータベースを回復してください。

処理名 : %1

セクション名 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

An error occurred during the attempt to update meta-information (EDMS\_METAINI table) in the database.

Restore the database from a backup.

Processing name : %1

Section name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

データベースのメッセージを基にエラーの要因を取り除いて、バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10630-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

プロパティが見つかりません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

The property was not found.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10631-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

プロパティオブジェクトが見つかりません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

The property object was not found.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10632-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

データタイプに誤りがあります。

データタイプ : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

An internal conflict was detected.

The data type is invalid.

Data type : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10633-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

セクションオブジェクトが見つかりません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

A section object was not found.

File name : %1



Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10634-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

仮想ファイルにセクションオブジェクトが見つかりません。

仮想ファイル名 : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

An internal conflict was detected.

A section object was not found in the virtual file.

Virtual file name : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10635-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

生成中間物のオブジェクトにエラーがあります。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the work object.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10636-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

指定内容管理オブジェクトにエラーがあります。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the control object.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10637-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

定義情報ファイルの指定内容管理オブジェクトにエラーがあります。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the control object in the definition information file.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10638-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

指定内容管理オブジェクトがありません。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

The specified control object does not exist.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

**KMBR10639-E <C,P,F>**

---

内部矛盾を検知しました。

仮想メタ情報ファイルオブジェクトの生成中間物のオブジェクトにエラーがあります。

ファイル名：%1

行番号：%2

An internal conflict was detected.

An error occurred in the work object of the virtual meta-information file.

File name：%1

Line number：%2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

**KMBR10640-E <C,P,F>**

---

内部矛盾を検知しました。

GUID の自動設定に失敗しました。

要因コード：%1

An internal conflict was detected.

GUID auto-setting failed.

Reason code：%1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。
- 手動で GUID 値をメタ情報ファイルに設定してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10641-E <C,P,F>**

---

内部矛盾を検知しました。

セクション内には、同じ名称のプロパティが既にあります。

仮想ファイル名：%1

セクション名：%2

プロパティ名：%3

ファイル名：%4

行番号：%5

An internal conflict was detected.

A property with the same name already exists in the section.

Virtual file name : %1

Section name : %2

Property name : %3

File name : %4

Line number : %5

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10642-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

仮想ファイルにセクションオブジェクトが見つかりません。

オブジェクト名 : %1

仮想ファイル名 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

An internal conflict was detected.

A section object was not found in the virtual file.

Object name : %1

Virtual file name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10643-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

GUID の自動設定に失敗しました。

ファイル名 : %1

行番号 : %2

An internal conflict was detected.

GUID auto-setting failed.

File name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

要因に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。
- 手動で GUID 値をメタ情報ファイルに設定してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10644-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

仮想ファイル内には、同じ名称のセクションが既にあります。

仮想ファイル名 : %1

セクション名 : %2

ファイル名 : %3

行番号 : %4

An internal conflict was detected.

A section with the same name already exists in the virtual file.

Virtual file name : %1

Section name : %2

File name : %3

Line number : %4

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10645-E <C,P,F>

---

内部矛盾を検知しました。

生成中間物のオブジェクトにエラーがあります。

オブジェクト名 : %1

ファイル名 : %2

行番号 : %3

An internal conflict was detected.

An error occurred in the work object.

Object name : %1

File name : %2

Line number : %3

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

保守情報を取得してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR10650-I <C,P,F>

---

メタ情報の追加処理が正常に終了しました。

Processing to add the meta-information ended normally.

(S)

メタ情報の追加処理が正常に終了しました。

(O)

—

#### KMBR10651-I <C,P,F>

---

メタ情報の追加処理が異常終了しました。

Processing to add the meta-information ended abnormally.

(S)

メタ情報の追加処理を異常終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力された EDMAddMeta コマンドのメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR10652-I <C,P,F>

---

差分データベース定義文の出力に失敗しました。

The differential database definition statement could not be output.

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力された EDMAddMeta コマンドのメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR10750-E <P,F>

---

アクションの指定がありません。

行番号 : %1

No action is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10751-E <P,F>**

---

アクションの指定が不正です。

行番号 : %1

The action is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10752-E <P,F>**

---

アクションに、クラス名又はデータタイプが指定されていません。

行番号 : %1

A class name or a data type is not specified in the action.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10753-E <P,F>**

---

アクションに、不要なクラス名又はデータタイプが指定されています。

行番号 : %1

An unneeded class name or data type is specified in the action.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10754-E <P,F>**

---

アクションに不正なデータタイプを指定しています。

行番号 : %1

An invalid data type is specified for the action.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、再度 EDMAAddMeta コマンドを実行してください。

#### KMBR10755-E <P,F>

---

指定できないアクションが指定されています。

行番号：%1

An unspecifiable action is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAAddMeta コマンドを実行してください。

#### KMBR10756-E <P,F>

---

定義を追加するためのアクションの指定がありません。

The action to add the definition is not specified.

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10770-E <P,F>

---

プロパティを追加できないクラス名を指定しています。

行番号：%1

The name of a class that cannot add a property is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10771-E <P,F>

---

指定したクラスには、%1 のプロパティを指定できません。

行番号：%2

The %1 property cannot be specified for the specified class.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。



(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10772-E <P,F>

---

サブクラス名が%1 バイトを超えています。

行番号 : %2

The length of the subclass name exceeds %1 bytes.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10773-E <P,F>

---

指定できないスーパークラス名を指定しています。

行番号 : %1

An unspecifiable super class name is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10789-E <P,F>

---

指定したクラスには、全文検索又は概念検索用のプロパティが既に指定されています。

行番号 : %1

The property for the full-text search or a conceptual search has already been specified for the specified class.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10791-E <P,F>

---

%1 プロパティを指定してください。

行番号 : %2

Specify the %1 property.

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10792-E <P,F>

---

dmaProp\_Ids プロパティの指定を省略する場合は、EDMAddMeta コマンドに -g オプションを指定してください。

アクション名 : %1

行番号 : %2

Specify the -g option in the EDMAddMeta command if the specification of the dmaProp\_Ids property is omitted.

Action name : %1

Line number : %2

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

-g オプションを指定して、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10793-E <P,F>

---

指定したクラスには、同じ名称のプロパティが既にあります。

行番号 : %1

A property with the same name already exists in the specified class.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR10794-E <P,F>

---

指定したデータタイプは、同じ名称のプロパティのデータタイプと一致していません。

行番号 : %1

The specified data type does not match the data type of a property that has the same name.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10795-E <P,F>**

---

プロパティの指定 (値) が長過ぎます。

行番号 : %1

The specified value of the property is too long.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10796-E <P,F>**

---

プロパティの指定 (値) が不正です。

行番号 : %1

The specified value of the property is invalid.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10797-E <P,F>**

---

指定できないプロパティが指定されています。

行番号 : %1

An unspecifiable property is specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10798-E <P,F>**

---

プロパティの指定が不正です。

行番号 : %1

The property is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10799-E <P,F>**

---

プロパティの指定 (データタイプ) が不正です。

行番号 : %1

The property (data type) is incorrectly specified.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR10800-E <P,F>**

---

dmaProp\_Ids プロパティの指定を省略する場合は、EDMAddMeta コマンドに -g オプションを指定してください。

行番号 : %1

Specify the -g option in the EDMAddMeta command if the specification of the dmaProp\_Ids property is omitted.

Line number : %1

(S)

メタ情報の追加処理を中止します。

(O)

-g オプションを指定して、EDMAddMeta コマンドを再度実行してください。

**KMBR12000-I <C,P,F>**

---

メタ情報ファイルの出力処理が正常に終了しました。

Output processing of the meta-information file ended normally.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を正常に終了しました。

(O)

—

**KMBR12001-E <C,P,F>**

---

指定したディレクトリ名のディレクトリはありません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

ディレクトリ名 : %1

The specified directory does not exist.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Directory name : %1

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

ディレクトリ名を正しく指定して、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12002-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリ名と一致するディレクトリはありません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

ディレクトリ名 : %1

No directory matches the specified directory name.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Directory name : %1

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

ディレクトリ名を正しく指定して、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12003-E <C,P,F>

---

指定したディレクトリに対する書き込み権限がありません。

ディレクトリ名 : %1

You lack write permission for the specified directory.

Directory name : %1

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

指定したディレクトリに対するアクセス権（書き込み権）があるかどうかを確認してください。

#### KMBR12004-E <C,P,F>

---

メタ情報は登録されていません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

The meta-information has not been registered.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報を登録してから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12005-E <C,P,F>

---

メモリが不足しているため、コマンド処理を続行できません。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

Memory became insufficient, so the command processing cannot continue.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

実行中のプログラムの終了を待って、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12006-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの出力処理でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

An error occurred during output processing of the meta-information file.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

イベントログを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基にエラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12007-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に、指定したデータベースのエントリがあるか確認してください。

イベントログにエラーメッセージが出力されている場合、イベントログのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR12008-E <C,P,F>

---

データベースでエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

An error occurred in the database.

Output processing of the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

イベントログを参照して、このメッセージの前に出力された KMBR04001-E のメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR12009-E <C,P,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

関数名 : %1

要因コード : %2

An error occurred during a system call.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Function name : %1

Reason code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12010-E <P,F>

---

ディレクトリがありません。

メタ情報ファイル出力処理を中止します。

The directory does not exist.

Output processing of the meta-information file will now stop.

Directory name : %1.

(S)

メタ情報ファイルの出力処理を中止します。

(O)

環境変数「DOCBROKERDIR」に指定した File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server のパス名を確認してから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12101-I <C,P,F>

---

クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しています。

Processing to create the class definition information file is starting.

(S)

クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しています。

(O)

—

**KMBR12102-I <C,P,F>**

---

クラス定義情報ファイルの作成処理が正常に終了しました。

Processing to create the class definition information file ended normally.

(S)

クラス定義情報ファイルの作成処理を正常に終了しました。

(O)

—

**KMBR12103-I <C,P,F>**

---

クラス定義情報ファイルの作成処理が異常終了しました。

Processing to create the class definition information file ended abnormally.

(S)

クラス定義情報ファイルの作成処理を異常終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に対策を実施してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR12201-I <C,P,F>**

---

%1 件のユーザ定義識別子を出力しました。

%1 user definition identifiers were output.

(S)

処理を続行します。

(O)

—

**KMBR12202-I <C,P,F>**

---

ユーザ定義識別子は見つかりませんでした。

The user definition identifier was missing.

(S)

処理を続行します。

(O)

EDMAddMeta コマンドを実行してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR12204-E <C,P,F>**

---

プリフィックスの指定値が不正です。

値: %1

The specified value of the prefix is invalid.



Value : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

英小文字, 英大文字, 数字, 「\_」(下線文字) を使用したプリフィックス (%1) を指定して, コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12205-E <C,P,F>

---

%1 オプションで指定するファイル名は, 英小文字, 英大文字, 数字, 「\_」(下線文字), 「-」(ハイフン), 及び「.」(ピリオド) 以外は使用できません。

The file name that is specified in the %1 option cannot be used other than lowercase , uppercase , numeric , '\_' (underscore) , '-' (hyphen) and '.' (period).

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 オプションで指定するファイル名に, 英小文字, 英大文字, 数字, 「\_」(下線文字), 「-」(ハイフン), 「.」(ピリオド) を指定して, コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12301-E <C,P,F>

---

-i オプションで指定した実行環境 ID が既に登録されています。

実行環境のホスト名 : %1

実行環境のパス名 : %2

The execution-environment id specified in the -i option has already been registered.

Execution environment host name : %1

Execution environment path name : %2

(S)

処理を中止します。

(O)

登録されていない実行環境 ID (実行環境識別子) を指定して, コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12302-E <C,P,F>

---

既に実行環境が登録されているため, 実行環境を登録する必要はありません。

実行環境 ID : %1

Registering the execution environment is not necessary because the execution environment has already been registered.

execution-environment id : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

—

#### KMBR12303-E <C,P,F>

---

既に実行環境が登録されているため、実行環境を変更できません。

実行環境 ID : %1

The execution environment cannot change because the execution environment has already been registered.

Execution-environment id : %1

(S)

処理を中止します。

(O)

登録済みの実行環境 (実行環境 ID (%1)) を変更してから、コマンドを再度実行してください。なお、実行環境の変更手順については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

#### KMBR12304-E <C,P,F>

---

-i オプション又は-u オプションの値が不正です。

The -i option or -u option invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

-i オプションまたは u オプションに、1~254 の整数を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12305-E <C,P,F>

---

この実行環境で OIID が既に割り当てられているため、実行環境を削除できません。

The execution environment cannot delete because OIID has already been allocated in the execution environment.

(S)

処理を中止します。

(O)

—

#### KMBR12306-E <C,P,F>

---

実行環境 ID がシステムで扱える最大値を超えているため、登録できません。

The execution-environment id cannot register because the id exceeds the system limit.

システムに登録できる実行環境 ID (実行環境識別子) は 255 個です。

(S)

処理を中止します。

(O)

—

**KMBR12307-E <C,P,F>**

---

現在の環境ではこのコマンドは実行できません。

The command cannot be executed for the current environment.

(S)

処理を中止します。

(O)

File Sharing のメタ情報ファイルで構築した環境かどうか確認してください。

**KMBR12308-E <C,P,F>**

---

実行環境が登録されていないため、実行環境の変更ができません。

The execution environment cannot change because the execution environment is not registered.

(S)

処理を中止します。

(O)

登録済みの実行環境識別子を指定して、コマンドを再度実行してください。

**KMBR12309-E <C,P,F>**

---

実行環境ファイルが壊れているため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because the execution-environment file is corrupted.

(S)

処理を中止します。

(O)

-p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。その後、コマンドを再度実行してください。

**KMBR12310-E <C,P,F>**

---

実行環境ファイルの出力に失敗しました。

ファイル名：%1

要因コード：%2

The execution-environment file could not be output.

File name：%1

Reason code：%2

%2：システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

ファイル名 (%1) および要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、-p オプションを指定して、EDMRegEnvId コマンドを実行してください。

#### KMBR12311-E <C,P,F>

---

この実行環境は実行環境 ID が 0 のため、登録、変更又は削除はできません。

The execution environment cannot register or change or delete because the execution-environment id is 0.

(S)

処理を中止します。

(O)

実行環境 ID (実行環境識別子) が 0 以外のときに、このメッセージが出力された場合は、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc を削除してから、実行環境を再構築してください。なお、実行環境の構築については、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

#### KMBR12312-I <P,F>

---

実行環境 ID を%1 で登録しました。

Registered a execution-environment id(%1).

(S)

処理を続行します。

(O)

—

#### KMBR12313-E <C,P,F>

---

実行環境は登録されていません。

The execution environment has not been registered.

(S)

処理を中止します。

(O)

このコマンドを実行した実行環境は登録されていないため、-a オプションを指定できません。-a オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR12351-I <P,F>

---

実行環境の一覧を出力します。

A list of the execution environment.

このメッセージのあとに、登録されている実行環境の数だけ次に示すメッセージが出力されます。

[ID=%1 HOST-NAME=%2 ENVDIR=%3]

%1：実行環境識別子

%2：ホスト名

%3：環境変数「DOCBROKERDIR」に指定している File Sharing サーバの実行環境ディレクトリパス

なお、実行環境識別子が 0 の場合は、HOST-NAME (%2) および ENVDIR (%3) には「----」が出力されます。

(S)  
処理を続行します。

(O)  
—

#### KMBR12401-I <C,P,F>

障害情報取得カスタマイズファイルの読み込み中に、エラーを検知しました。

詳細：%1

位置：[%2]%3

An error was detected while the customize file for the command was being read.

Detail：%1

Location：[%2]%3

getrascustom.ini ファイルで指定した障害情報が取得できません。

(S)  
処理を続行します。

(O)  
次の表に示す対策一覧を基に、必要に応じてエラーの要因を取り除いてください。

表 4-1 KMBR12401-I 要因別の対策一覧

詳細 (%1) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
file cannot open.	getrascustom.ini ファイルのオープンに失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
file cannot read.	getrascustom.ini ファイルの読み込みに失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。
entry name is invalid.	getrascustom.ini のセクション (%2) に指定されたエントリ (%3) のエントリ名が 32 バイトを超えています。	エントリ名を 32 バイト以内にしてください。
entry value is invalid.	getrascustom.ini のセクション (%2) に指定されたエントリ (%3) の値が不正です。	エントリ (%3) に指定したパス名を見直してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対パスを指定する。</li> <li>1,023 バイト以内で指定する。</li> </ul>

#### KMBR12402-E <C,P,F>

指定したディレクトリ下にディレクトリ (%1) が存在するため、処理を続行できません。

ディレクトリ名：%2

Processing cannot continue because the directory (%1) exists in the specified directory.

Directory name：%2

(S)

処理を中止します。

(O)

ディレクトリ名 (%2) と異なるディレクトリを指定して、再度実行してください。または、しばらくしてからコマンドを再度実行してください。

#### KMBR12501-I <P>

---

%1 を開始します。

%1 will start.

%1 : コマンド名

(S)

処理を開始します。

(O)

—

#### KMBR12502-I <P>

---

%1 が終了しました。

%1 ended.

%1 : コマンド名

(S)

処理を終了しました。

(O)

—

#### KMBR12503-I <P>

---

%1 が異常終了しました。

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

詳細 3 : %4

%1 ended abnormally.

Detail1 : %2

Detail2 : %3

Detail3 : %4

%1 : コマンド名

(S)

処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、詳細 1 (%2) に示されているメッセージの要因を取り除いてから、再度コマンド (%1) を実行してください。

表 4-2 KMBR12503-I 要因別の対策一覧

詳細 1 (%2) に出力されるメッセージ	エラーの要因	対策
you are not super user.	実行者がスーパーユーザではありません。	実行者をスーパーユーザに変更してから、再度実行してください。
command failed.	詳細 2 (%3) が詳細 3 (%4) の戻り値で異常終了しました。	しばらくしてから再度実行してください。再度実行してもエラーとなる場合は、システム管理者に連絡してください。

## KMBR13001-I &lt;C,P,F&gt;

コマンド%1 を開始します。

The command %1 will start.

(S)

コマンドの処理を開始します。

(O)

—

## KMBR13002-I &lt;C,P,F&gt;

コマンド%1 を終了しました。

The command %1 ended.

(S)

コマンドの処理を終了しました。

(O)

—

## KMBR13003-E &lt;C,P,F&gt;

メモリが不足しているため、コマンド%1 の処理を中止します。

Memory became insufficient, so processing of the command %1 will now stop.

(S)

メモリが不足しているため、コマンド処理を中止します。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

## KMBR13004-E &lt;C,P,F&gt;

カレントディレクトリパスの取得に失敗したため、コマンド%1 の処理を中止します。

要因コード：%2

The command %1 will now stop because the current directory path could not be acquired.

Reason code：%2

システムコール「getcwd」によるカレントディレクトリパスの取得に失敗したため、コマンド%1の処理を中止します。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、対策を実施してください。

表 4-3 KMBR13004-E 要因別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
12	メモリ不足が不足しています。	メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、コマンド%1を再度実行してください。
13	カレントディレクトリパスに対するアクセス権（読み取り権および実行権）がありません。	カレントディレクトリパスに対して、コマンド実行ユーザにアクセス権（読み取り権および実行権）を設定してから、コマンド%1を再度実行してください。
その他	—	このメッセージおよび指定したオプションを記録してメタ情報ファイルを保存してから、保守員に連絡してください。

#### KMBR13005-E <P,F>

プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_Cardinality プロパティの値をリストで定義するプロパティに、リストオブジェクトを記述するセクションを指定していません。

The section that codes the list-object is not specified in the property value.

The property uses LIST to define the value of the dmaProp\_Cardinality property in the section that codes the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティにリストオブジェクトを記述するセクションを指定してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13006-E <P,F>

dmaProp\_ClassDescription プロパティの値が不正です。

要因コード：%1

The value of the dmaProp\_ClassDescription property is invalid.

Reason code：%1

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。



表 4-4 KMBR13006-E 要因別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
-2147220981	dmaProp_ClassDescription プロパティがありません。	セクションに dmaProp_ClassDescription プロパティを追加してください。
-2147220889	dmaProp_ClassDescription プロパティのデータ型が Object 型ではありません。	セクションの dmaProp_ClassDescription プロパティと、プロパティの値の区切り文字を「=obj=」にしてください。
-2147220958	dmaProp_ClassDescription プロパティの値が NULL または空値です。	セクションの dmaProp_ClassDescription プロパティの値に、クラス定義を記述するセクションを指定してください。

#### KMBR13007-E <P,F>

オブジェクト定義を記述するセクションのプロパティに指定したデータ型と、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_DataType プロパティに指定したデータ型が一致しません。

The data type specified in the property of the section that codes the object definition does not match the data type specified in the dmaProp\_DataType property in the section that codes the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーが発生したプロパティのプロパティ値の区切り文字として指定するデータ型と、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_DataType プロパティに指定するデータ型を一致させてください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13008-E <P,F>

オブジェクト定義を記述するセクションのプロパティに指定したデータ型と、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_Cardinality プロパティに指定した基本単位が一致しません。

The data type specified in the property of the section that codes the object definition does not match the cardinality specified in the dmaProp\_Cardinality property in the section that codes the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティとプロパティ値の区切り文字を「=obj=」に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13012-E <P,F>

クラス定義を記述するセクションから参照するプロパティの並びが、そのクラスで定義するオブジェクトのプロパティの並びと一致しません。

The list of properties referenced from the section that codes the class definition does not match the list of properties of objects that are defined in the class.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーが発生したセクションの dmaProp\_ClassDescription プロパティから参照するクラス定義を記述するセクションで、dmaProp\_PropertyDescriptions プロパティから参照するセクションに記述するプロパティの並びを、エラーが発生したセクションに記述するプロパティの並びと同じにしてください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13013-E <P,F>

---

クラス定義の dmaProp\_DisplayName プロパティに指定したクラス名が、オブジェクト定義に指定したクラス名と一致しません。

The class name specified in the dmaProp\_DisplayName property of the class definition does not match the class name specified in the object definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

クラス定義を記述するセクションの dmaProp\_DisplayName プロパティに指定するクラス名と、オブジェクト定義を記述するセクションに指定するクラス名を同じにしてください。その後、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13015-E <P,F>

---

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最大値を超えています。

The property value exceeds the property's maximum value that was specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMaximumXXXX プロパティに指定したプロパティの最大値を超えています。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMaximumXXXX プロパティに指定されている値以下を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13016-E <P,F>

---

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最小値未満です。

The property value is less than the property's minimum value that was specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMinimumXXXX プロパティに指定したプロパティの最小値未満です。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMinimumXXXX プロパティに指定されている値以上を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13017-E <P,F>

---

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最大値を超えています。

The value of the list-object element exceeds the property's maximum value that was specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMaximumXXXX プロパティに指定したプロパティの最大値を超えています。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMaximumXXXX プロパティに指定されている値以下を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13018-E <P,F>

---

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティの最小値未満です。

The value of the list-object element is less than the property's minimum value that was specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMinimumXXXX プロパティに指定したプロパティの最小値未満です。なお、XXXX には、DateTime、Float64 または Integer32 のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertyMinimumXXXX プロパティに指定されている値以上を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13020-E <P,F>

---

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の選択値の範囲外です。

The value specified in the property is out of the selectable range of property values specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定したリストの要素以外の値です。なお、XXXX には、Binary, Boolean, DateTime, Float64, Id, Integer32, Object または String のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定されているリストの要素のどれかを指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13021-E <P,F>

---

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の選択値の範囲外です。

The value specified in the list-object element is out of the selectable range of property values specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定したリストの要素以外の値です。なお、XXXX には、Binary, Boolean, DateTime, Float64, Id, Integer32, Object または String のどれかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_PropertySelectionsXXXX プロパティが参照するセクションに指定されているリストの要素のどれかを指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13022-E <P,F>

---

[=obj=] 型で指定したセクションの、ClassFactory プロパティに指定した値が不正です。

要因コード : %1

The value specified in the ClassFactory property in the section specified with the =obj= type is invalid.

Reason code : %1

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-5 KMBR13022-E 要因別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
-2147220981	ClassFactory を指定する記述がありません。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションに ClassFactory の指定を記述してください。
-2147220889	ClassFactory のデータ型が text 型ではありません。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションの ClassFactory のデータ型の指定を区切り文字「=text=」にしてください。
-2147220958	ClassFactory の値が NULL または空値です。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションの ClassFactory の値に、そのセクションに記述するオブジェクトのクラスを指定してください。
-2147220951	ClassFactory の値が不正です。	プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定するセクションの ClassFactory の値に、値を正しく指定してください。

## KMBR13023-E &lt;P,F&gt;

プロパティに指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の最大長を超えています。

The property value exceeds the property's maximum length that was specified in the property definition.

プロパティに指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定したプロパティの最大長を超えています。なお、XXXX には、Binary または String のどちらかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティに、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定されているプロパティの値以下を指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

## KMBR13024-E &lt;P,F&gt;

リストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義に指定したプロパティ値の最大長を超えています。

The value of the list-object element exceeds the property's maximum length that was specified in the property definition.

リストオブジェクトを記述するセクションのリストの要素に指定した値は、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定したプロパティの最大長を超えています。なお、XXXX には、Binary または String のどちらかが入ります。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

リストオブジェクトの要素に、プロパティ定義を記述するセクションの dmaProp\_MaximumLengthXXXX プロパティに指定されているプロパティの値以下を指定してくだ

さい。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

**KMBR13025-E <C,P,F>**

オプションに指定したメタ情報ファイル%1 はありません。

The meta-information file %1 specified in the option does not exist.

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイル名を正しく指定してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13026-E <C,P,F>**

メタ情報ファイル%1 のオープンに失敗しました。

要因コード：%2

The meta-information file %1 could not be opened.

Reason code：%2

システムコール「open」によるメタ情報ファイル%1 のオープンに失敗しました。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

処理を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-6 KMBR13026-E 要因別の対策一覧

要因コード	エラーの要因	対策
11	指定したファイルは、ほかのプロセスでロックされています。	ファイルをロックしているプロセスを終了してください。
13	指定したファイルまたはファイルパスに対するアクセス権がありません。	ファイルまたはファイルパスに対するアクセス権（読み取り権）を、コマンド実行ユーザに設定してください。
22	指定したファイルパスが不正です。	正しいファイルパスを指定してください。
23	ファイルテーブルがいっぱいです。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>不要なプロセスを終了する。</li> </ul>
24	オープンファイル数がシステムの最大値を超えています。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>不要なプロセスを終了する。</li> </ul>
その他	—	次の手順で、対策を実施してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>このメッセージおよび指定したオプションを記録する。</li> <li>メタ情報ファイルをすべて保存する。</li> <li>保守員に連絡する。</li> </ol>

**KMBR13027-E <C,P,F>**

---

メタ情報ファイル%1 の文字コードセットが%2 ではありません。

The character code set of the meta-information file %1 is not %2.

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイル%1 の文字コードセットを%2 に修正してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13028-E <C,P,F>**

---

不正なメタ情報ファイル%1 を指定しています。

The invalid meta-information file %1 is specified.

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイルを正しく指定してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13029-I <P,F>**

---

セクション名が 256 バイトを超えているため、ほかのセクションから参照できません。

The section name exceeds 256 bytes, so it cannot be referenced from other sections.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

このセクション名をほかのセクションのエントリの値に指定する可能性がある場合は、セクション名を 256 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。該当するセクションについては、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

**KMBR13030-E <P,F>**

---

プロパティ名が 128 バイトを超えています。

The property name exceeds 128 bytes.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティ名を 128 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13032-E <P,F>

---

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値が、256 バイトを超えています。

The value specified in the property or the list-object element exceeds 256 bytes.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティの値またはリストオブジェクトの要素に指定した値を 256 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13033-E <P,F>

---

1 行の長さが 399 バイトを超えています。

The length of the line exceeds 399 bytes.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

1 行の長さを 399 バイト以下に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13034-E <P,F>

---

クラス定義を記述するセクションの dmaProp\_ImmediateSubclassDescription プロパティに指定しているリストオブジェクトの要素のセクションで、dmaProp\_SuperclassDescription プロパティに、スーパークラスの ClassDescription オブジェクトを指定していません。

In the section of the list-object elements specified in the dmaProp\_ImmediateSubclassDescription property in the section that codes class definitions, the ClassDescription object of the super class is not specified in the dmaProp\_SuperclassDescription property.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

クラス定義を記述するセクションの dmaProp\_ImmediateSubclassDescription プロパティに指定している、リストオブジェクトの要素のクラス定義を記述するセクションで、dmaProp\_SuperclassDescription プロパティに、このクラス定義を記述するセクションを指定してください。その後、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13037-E <P,F>

---

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値には、%1 を指定してください。

Specify %1 for the value of the property or the value of list-object elements.

(S)

コマンドの処理を続行します。



(O)

プロパティの値またはリストオブジェクトに指定する要素の値に%1 を指定してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

**KMBR13040-E <P,F>**

プロパティ%1 の値%2 が不正です。

The value %2 of the property %1 is invalid.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、プロパティの値を修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-7 KMBR13040-E プロパティ別の対策一覧

プロパティ名	対策
dmaProp_DataType	指定したプロパティに応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが dmaClass_EnumerationOfObject クラスのプロパティの場合 DMA_DATATYPE_RESULT_ROW または DMA_DATATYPE_OBJECT を指定してください。</li> <li>プロパティが dmaClass_ListOfXXXX<sup>*1</sup> クラスまたは dmaClass_PropertyDescriptionXXXX<sup>*1</sup> クラスのプロパティの場合 DMA_DATATYPE_YYYY<sup>*2</sup> を指定してください。</li> </ul>
dmaProp_Cardinality	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_CARDINALITY_SINGLE</li> <li>DMA_CARDINALITY_LIST</li> <li>DMA_CARDINALITY_ENUM</li> <li>255 (VariableArray)</li> </ul>
dmaProp_OperandDataType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>DMA_DATATYPE_ID</li> <li>DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>DMA_DATATYPE_STRING</li> </ul>
dmaProp_ResultType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>DMA_DATATYPE_ID</li> </ul>

プロパティ名	対策
dmaProp_ResultType	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>• DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>• DMA_DATATYPE_STRING</li> <li>• DMA_DATATYPE_CLASS</li> </ul>
dmaProp_JoinParticipation	<p>次のどれかを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DMA_JOIN_PARTICIPATION_NONE</li> <li>• DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND</li> <li>• DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR</li> </ul>
dmaProp_SuperclassPropertyCount	dmaProp_SuperclassDescription プロパティで指定したクラス定義から継承するプロパティの個数を指定してください。
dmaProp_MaximumElements	DMA_NO_MAXIMUM を指定してください。
dmaProp_SuperclassDescription	継承するクラスのクラス定義を記述するセクションを指定してください。
ClassFactory	<p>次のどれかを指定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• dmaClass_ClassDescription クラス</li> <li>• dmaClass_PropertyDescriptionXXXX<sup>*1</sup> クラス</li> <li>• dmaClass_ListOfXXXX<sup>*1</sup> クラス</li> <li>• dmaClass_QueryYYYY<sup>*3</sup> クラス</li> </ul>

## 注※1

XXXX には、次のどれかが入ります。

Binary, Boolean, DateTime, Float64, Id, Integer32, Object, String

## 注※2

YYYY には、次のどれかが入ります。

BINARY, BOOLEAN, DATETIME, FLOAT64, INTEGER32, OBJECT, ID, STRING

## 注※3

YYYY には、次のどれかが入ります。

空値, ConstantBinary, ConstantBinaries, ConstantBoolean, ConstantBooleans, ConstantDateTime, ConstantDateTimes, ConstantFloat64, ConstantFloat64s, ConstantId, ConstantIds, ConstantInteger32, ConstantInteger32s, ConstantString, ConstantStrings, JoinOperator, Node, OperandDescription, Operator, OperatorDescription, OrderByNode, Property, SearchableClass

## KMBR13041-E &lt;P,F&gt;

プロパティ又は ListOfObject オブジェクトの要素に指定したセクションのメタ情報ファイル名を、相対パスで指定しています。

The meta-information file name of the section specified for the property or the ListOfObject object elements is specified with a relative path.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティまたは ListOfObject オブジェクトの要素に指定するセクションのメタ情報ファイル名を、絶対パスまたはカレントディレクトリパスに修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13042-E <P,F>

ユーザが定義したクラス又はプロパティの名称が、 dma 又は edm で始まっています。

The user-defined class or property name begins with dma or edm.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ユーザが定義するクラスまたはプロパティの名称を、 dma または edm 以外で始まる名称に修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13043-E <P,F>

プロパティ及びリストの要素の組み合わせが不正です。

The combination of the property and the list elements is invalid.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-8 KMBR13043-E プロパティ別の対策一覧

プロパティ名	対策
dmaClass_PropertyDescriptionXXXX クラスの dmaProp_IsOrderable プロパティおよび dmaProp_IsSelectable プロパティ	dmaProp_IsOrderable プロパティに 1 を指定する場合は、 dmaProp_IsSelectable プロパティにも 1 を指定してください。なお、XXXX には、Binary、Boolean、DateTime、Float64、Id、Integer32、Object または String のどれかが入ります。
dmaClass_QueryOperandDescription クラスの dmaProp_AllowsSingleton プロパティおよび dmaProp_AllowsList プロパティ	dmaProp_AllowsSingleton プロパティまたは dmaProp_AllowsList プロパティの少なくとも一つに、1 を指定してください。
dmaClass_QueryOperandDescription クラスの dmaProp_AllowsContext プロパティ、 dmaProp_AllowsProperty プロパティおよび dmaProp_AllowsExpression プロパティ	dmaProp_AllowsContext プロパティ、 dmaProp_AllowsProperty プロパティまたは dmaProp_AllowsExpression プロパティの少なくとも一つに、1 を指定してください。
dmaClass_QueryOperatorDescription クラスの dmaProp_JoinParticipation プロパティおよび dmaProp_ResultType プロパティ	dmaProp_JoinParticipation プロパティに DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND または DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR を指定する場合は、 dmaProp_ResultType プロパティに DMA_DATATYPE_CLASS を指定してください。

プロパティ名	対策
dmaClass_QueryOperatorDescription クラスの dmaProp_JoinParticipation プロパティおよび dmaProp_IsList プロパティ	dmaProp_JoinParticipation プロパティに DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND または DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR を指定する 場合は、dmaProp_IsList プロパティに 0 を指定してくださ い。

#### KMBR13046-E <P,F>

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値が、プロパティ定義の  
dmaProp\_RequiredClass プロパティに指定したクラス又はそのサブクラスのオブジェクトではありません。

The value specified in the property or the list-object element is not an object of the class or subclass specified in the dmaProp\_RequiredClass property of the property definition.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティまたはリストオブジェクトの要素に指定したセクションを、プロパティ定義の  
dmaProp\_RequiredClass プロパティに指定するクラスまたはそのサブクラスのオブジェクトのセク  
ションに修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、この  
メッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13047-E <P,F>

プロパティ又は ListOfObject オブジェクトの要素に [=obj=] で指定した、セクションがありません。

A section specified with =obj= does not exist for the property or the ListOfObject object element.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

プロパティまたは ListOfObject オブジェクトの要素の [=obj=] に、セクションを正しく指定してか  
ら、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出  
力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13048-E <C,P,F>

-s オプションに指定したセクション%1 は、-f オプションに指定したメタ情報ファイル%2 にはありません。

The section %1 specified for the -s option does not exist in the meta-information file %2 specified for the -f option.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-s オプションに、-f オプションで指定したメタ情報ファイル内のセクションを指定して、コマンドを再  
度実行してください。

#### KMBR13049-E <C,P,F>

-c オプションに指定したクラス%1 は、-f オプションに指定したメタ情報ファイル%2 にはありません。

The class %1 specified in the -c option does not exist in the meta-information file %2 specified in the -f option.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-c オプションに、-f オプションに指定したメタ情報ファイル内のクラスを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13050-E <C,P,F>

---

-c オプションに指定したメタ情報ファイル%1 のクラス%2 は、オブジェクト定義ではありません。

The class %2 of the meta-information file %1 specified in the -c option is not an object definition.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-c オプションに、オブジェクト定義を記述するセクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13051-E <C,P,F>

---

-s オプションに指定したメタ情報ファイル%1 のセクション%2 は、クラス定義及びプロパティ定義のセクションではありません。

The section %2 of the meta-information file %1 specified in the -s option is not a section of the class definition and the property definition.

(S)

処理を中止しました。

(O)

-s オプションに、クラス定義またはプロパティ定義を記述するセクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13052-E <P,F>

---

セクション名%1 がメタ情報ファイル%2 で重複しています。

The section name %1 is duplicated in the meta-information file %2.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

重複しているセクション名をファイル%2 内で一意にしてから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13053-E <P,F>

---

プロパティ%1 に値を指定していないか、基本単位をリストで定義し要素を持たないリストオブジェクトを指定しています。

No value is specified in the property %1, or a list-object is defined but the list-object does not have an element and a cardinality is defined in the list.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、プロパティ%1の値を修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-9 KMBR13053-E プロパティ別の対策一覧

プロパティ名	対策
dmaProp_Ids	指定したプロパティに応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが dmaClass_ClassDescription クラスのプロパティの場合 プロパティに指定するセクションの要素に、クラス識別子を指定してください。</li> <li>プロパティが dmaClass_PropertyDescription クラスのプロパティの場合 プロパティに指定するセクションの要素に、プロパティ識別子を指定してください。</li> </ul>
dmaProp_DataType	指定したプロパティに応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>プロパティが dmaClass_ListOfXXXX*<sup>1</sup> クラスまたは dmaClass_PropertyDescriptionXXXX*<sup>1</sup> クラスのプロパティの場合 DMA_DATATYPE_YYYY*<sup>2</sup> を指定してください。ただし、XXXX のデータ型と YYYY のデータ型は一致している必要があります。</li> <li>プロパティが dmaClass_EnumerationOfObject クラスの場合 DMA_DATATYPE_OBJECT または DMA_DATATYPE_RESULT_ROW を指定してください。</li> </ul>
dmaProp_Cardinality	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_CARDINALITY_SINGLE</li> <li>DMA_CARDINALITY_LIST</li> <li>DMA_CARDINALITY_ENUM</li> <li>255 (VariableArray)</li> </ul>
dmaProp_ResultType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>DMA_DATATYPE_ID</li> <li>DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>DMA_DATATYPE_STRING</li> <li>DMA_DATATYPE_CLASS</li> </ul>
dmaProp_JoinParticipation	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>DMA_JOIN_PARTICIPATION_NONE</li> </ul>

プロパティ名	対策
dmaProp_JoinParticipation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERAND</li> <li>• DMA_JOIN_PARTICIPATION_OPERATOR</li> </ul>
dmaProp_IsList	0 または 1 を指定してください。
dmaProp_OperandDataType	次のどれかを指定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DMA_DATATYPE_BINARY</li> <li>• DMA_DATATYPE_BOOLEAN</li> <li>• DMA_DATATYPE_FLOAT64</li> <li>• DMA_DATATYPE_ID</li> <li>• DMA_DATATYPE_INTEGER32</li> <li>• DMA_DATATYPE_OBJECT</li> <li>• DMA_DATATYPE_STRING</li> </ul>
dmaProp_AllowsSingleton	0 または 1 を指定してください。
dmaProp_AllowsList	
dmaProp_AllowsConstant	
dmaProp_AllowsProperty	
dmaProp_AllowsExpression	
dmaProp_SuperclassDescription	継承するクラスのクラス定義を記述しているセクションを指定してください。

## 注※1

XXXX には、次のどれかが入ります。

Binary, Boolean, DateTime, Float64, Id, Integer32, Object, String

## 注※2

YYYY には、次のどれかが入ります。

BINARY, BOOLEAN, DATETIME, FLOAT64, ID, INTEGER32, OBJECT, STRING

## KMBR13054-E &lt;P,F&gt;

プロパティに指定した値又はリストオブジェクトの要素に指定した値%1 は、プロパティ又はリストオブジェクトの要素に指定したデータ型に対して記述形式が不正です。

The value %1 specified in the property or the list-object element has a syntax that is invalid for the data type of the property or the list-object element.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の表に示すデータ型別の記述形式一覧を基に、プロパティまたはリストオブジェクトの要素を修正してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

表 4-10 KMBR13054-E データ型別の記述形式一覧

データ型	記述形式
bin 型	PropertyName=bin= [0x] 16 進数値文字 16 進数値文字は必ず偶数けた数を指定してください。
bool 型	PropertyName=bool=0;1
guid 型	PropertyName=guid=guid;dmaNameCorrespondingToGuid <ul style="list-style-type: none"> <li>guid オペレーティングシステムの機能を利用して取得した GUID を指定してください。ただし、GUID は次の形式に従って 36 バイトで記述してください。 GUID の形式：XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX</li> </ul> (凡例) X：16 進数値文字 -：マイナス記号 <ul style="list-style-type: none"> <li>dmaNameCorrespondingToGuid GUID が定義されているクラス名、プロパティ名などを指定してください。</li> </ul>
int 型	PropertyName=int=符号付き 10 進数値;dmaNameCorrespondingToEnum <ul style="list-style-type: none"> <li>dmaNameCorrespondingToEnum Enum の値が定義されているマクロ名を指定してください。</li> </ul>
float 型	PropertyName=float=浮動小数点数

## KMBR13055-E &lt;C,P,F&gt;

環境変数%1 を指定してください。

Specify the environment variable %1.

(S)

処理を中止しました。

(O)

環境変数%1 を指定して、コマンドを再度実行してください。

## KMBR13056-E &lt;C,P,F&gt;

ファイルシステムに入出力エラーが発生しました。

対象：%1

操作：%2

要因コード：%3

保守情報：%4

An I/O error occurred in the file system.

Object：%1

Operation：%2

Reason code：%3

Maintenance information：%4

ファイルシステム中のオブジェクト%1 に対して、操作%2 を行った時にエラーが発生しました。



(S)

処理を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。なお、次の表に示す要因コード以外の場合は、このメッセージおよび指定したオプションを記録して、メタ情報ファイルを保存してから、保守員に連絡してください。

表 4-11 KMBR13056-E 操作および要因別の対策一覧

操作	要因コード	エラーの要因	対策
open	2	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルパスの構成要素にディレクトリ以外のものがある。</li> <li>ファイルの絶対パスが長過ぎる。</li> </ul>	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数「DOCBROKERDIR」に、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Serverを指定しているかどうかを確認する。</li> <li>環境変数「DOCBROKERDIR」に指定したディレクトリの下位にある adm ディレクトリを削除してから、File Sharing サーバを再度インストールする。</li> </ul>
	11	ファイルがほかのプロセスでロックされています。	対象%1 に示すファイルをロックしているプロセスを終了してください。
	13	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイルまたはファイルパスに対するアクセス権が不足している。</li> <li>ファイル%1 がディレクトリである。</li> </ul>	次の手順で対策を実施してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>環境変数「DOCBROKERDIR」に指定したディレクトリの下位にある adm ディレクトリを削除する。</li> <li>File Sharing サーバをインストールする。</li> </ol>
	20	ファイルパスの構成要素にディレクトリ以外のものがあります。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数「DOCBROKERDIR」に、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Serverを指定しているかどうかを確認する。</li> <li>File Sharing サーバをインストールする。</li> </ul>
	21	対象%1 がディレクトリです。	次の手順で対策を実施してください。 <ol style="list-style-type: none"> <li>対象%1 に示すディレクトリを削除する。</li> <li>File Sharing サーバをインストールする。</li> </ol>
	22	ファイルパスが不正です。	環境変数「DOCBROKERDIR」に、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Serverを指定しているかどうかを確認してください。

操作	要因 コード	エラーの要因	対策
open	23	ファイルテーブルがいっぱいです。	次の対策を実施してください。 • 不要なプロセスを終了する。
	28	ファイルシステムがいっぱいです。	不要なファイルを削除してください。
	30	ファイルは読み取り専用のファイルシステムに存在します。	環境変数「DOCBROKERDIR」に、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Serverを指定しているかどうか確認してください。
fcntl	24	ロック中のファイル数が、システムの上限値を超えています。	不要なプロセスを終了してください。
	46	次のどちらかがシステムの上限値を超えています。 • ロック中のファイル数 • ロック中のファイルセグメント数	次の対策を実施してください。 • 不要なプロセスを終了する。
write	28	ファイルシステムがいっぱいです。	不要なファイルを削除してください。
fopen	11	ファイルがほかのプロセスでロックされています。	対象%1 に示すファイルをロックしているプロセスを終了してください。
	12	メモリが不足しています。	次のどちらかを実施してください。 • メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。 • メモリを増設する。
	13	次の要因が考えられます。 1. ファイルに対するアクセス権がない。 2. 対象%1 がディレクトリである。	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 • <b>要因 1 の場合</b> 保守情報に出力される、fopen の第 2 引数の内容を基に、ファイルに対するアクセス権をコマンド実行ユーザに設定してください。 • <b>要因 2 の場合</b> 対象%1 を正しく作成してください。
	20	パスの指定に、ディレクトリ以外のものを指定しています。	%1 のファイルのパスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認してください。
	23	ファイルテーブルがいっぱいです。	次の対策を実施してください。 • 不要なプロセスを終了する。
remove	1	コマンド実行ユーザには、ファイルまたはディレクトリを削除する権限がありません。	対象%1 に示すファイルまたはディレクトリは、コマンド実行ユーザ以外のユーザによって作成され、スティッ

操作	要因 コード	エラーの要因	対策
remove	1	コマンド実行ユーザには、ファイルまたはディレクトリを削除する権限がありません。	キービットが設定されているため削除できません。対象%1 に示すファイルまたはディレクトリを作成したユーザに削除を依頼してください。
	2	対象%1 のファイル名またはファイルの絶対パスが長過ぎます。	対象%1 を削除してください。
	13	次の要因が考えられます。 1. ファイルに対するアクセス権がない。 2. 対象%1 がコマンド実行ディレクトリである。 3. 対象%1 のディレクトリが空ではない。	要因に応じて次のどれかを実施してください。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要因 1 の場合 ファイル%1 のパスプリフィックスに対するアクセス権（実行権）をコマンド実行ユーザに設定するか、ファイル%1 またはファイル%1 が格納されているディレクトリに対するアクセス権（読み取り権または書き込み権）をコマンド実行ユーザに設定してください。</li> <li>• 要因 2 の場合 別のディレクトリに移動してください。</li> <li>• 要因 3 の場合 対象%1 を削除してください。</li> </ul>
	17	ディレクトリが空ではありません。	対象%1 に示すディレクトリの下位にあるファイルまたはディレクトリを削除してください。
mkdir	2	パスの指定に、存在しないディレクトリを指定しています。	%1 のファイルのパスプリフィックスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認してください。
	13	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスの指定に、存在しないディレクトリを指定している。</li> <li>• 対象%1 のファイル名またはファイルの絶対パスが長過ぎる。</li> <li>• 対象%1 のパスにディレクトリ以外のものを指定している。</li> </ul>	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• %1 のファイルのパスプリフィックスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認する。</li> <li>• 対象%1 に示すファイル名またはファイルの絶対パスをシステムの上限值以下にする。</li> </ul>
	20	パスの指定に、ディレクトリ以外のものを指定しています。	%1 のファイルのパスおよびプリフィックスに指定しているディレクトリが存在するかどうか確認してください。
	28	ファイルシステムがいっぱいです。	不要なファイルを削除してください。

#### 4 File Sharing サーバのユーティリティのメッセージ

操作	要因 コード	エラーの要因	対策
mkdir	30	デバイスが読み取り専用です。	%1 のディレクトリを書き込み可能なデバイスにしてください。
	31	上位ディレクトリへのリンク数が、システムの上限值を超えています。	%1 のディレクトリの下位にある不要なファイルを削除してください。
lstat	13	リンクに対するアクセス権がありません。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>File Sharing サーバをインストールする。</li> </ul>
	20	対象ファイルのパス中にディレクトリ以外のものがあります。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 [DOCBROKERDIR] に、File Sharing サーバのインストールディレクトリ*Server を指定しているかどうか確認する。</li> <li>File Sharing サーバをインストールする。</li> </ul>
opendir	12	メモリが不足しています。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>不要なプロセスを終了する。</li> <li>メモリを増設する。</li> </ul>
	13	対象ファイルに対するアクセス権がありません。	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>%1 のファイルのパスプレフィックスに対するアクセス権(実行権)をコマンド実行ユーザに設定する。</li> <li>%1 のファイルまたはファイルのディレクトリに対するアクセス権(読み取り権)をコマンド実行ユーザに設定する。</li> </ul>
	23	ファイルテーブルがいっぱいです。	次の対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>不要なプロセスを終了する。</li> </ul>
GetFileAttribute	※	保守情報%4 に示す要因によって、ディレクトリ%1 の属性の取得に失敗しました。	保守情報%4 に示すエラーの要因を取り除いてください。
FindFirstFile	※	保守情報%4 に示す要因によって、ディレクトリ%1 にあるファイルの検索に失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。
FindNextFile	※	保守情報%4 に示す要因によって、ディレクトリ%1 にあるファイルの検索に失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。
FindClose	※	保守情報%4 に示す要因によって、ディレクトリ%1 にあるファイルの検索に失敗しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

操作	要因 コード	エラーの要因	対策
GetFileInformationByHandle	*	保守情報%4 に示す要因によって、ディレクトリ%1 にあるファイルの検索に失敗しました。	保守情報%4 に示すエラーの要因を取り除いてください。

注※

保守情報%4 に対応する要因コードが出力されます。

#### KMBR13057-I <C,P,F>

エラー件数が%1 件に達したため処理を中止します。

The number of errors reached %1, so processing will now stop.

(S)

処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、メタ情報ファイルのエラーが発生した個所を修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13058-E <C,P,F>

メタ情報ファイル%1 の行の終わりが不正です。

The end of a line of the meta-information file %1 is invalid.

(S)

処理を中止しました。

(O)

メタ情報ファイル%1 の行の終わりに、<LF>、<CR>または<CR>+<LF>のどれかを追加してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13059-E <P,F>

セクションを指定した"[]" (角括弧) の中に、セクション名を指定していません。

No section name is specified in [ ].

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

セクションの[]の中に、セクション名を指定してから、コマンドを再度実行してください。エラーが発生した個所については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。

#### KMBR13103-E <P,F>

クラスに対応する表%1 がありません。

The table %1 corresponding to the class does not exist.

エラーが発生したクラスについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13161-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

要因に応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

**メタ情報ファイルに不要なクラスを定義している場合**

1. EDMDelMeta コマンドを実行して、KMBR13161-E に出力されたクラスを削除する。
2. コマンドを再度実行する。

**クラスに対応する表がデータベースにない場合**

1. EDMCrtSql コマンドを実行して、すべてのクラスのデータベース定義文を出力する。
2. 出力したデータベース定義文から、表%1 のデータベース定義文だけを抽出する。
3. 抽出したデータベース定義文を基に、データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、表を作成する。
4. コマンドを再度実行する。

**KMBR13104-E <P,F>**

プロパティに対応する列がありません。

The column corresponding to the property does not exist.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-12 KMBR13104-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

データベース定義ユティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加してから、コマンドを再度実行してください。

データベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TALBE [認可識別子. ] 表識別子 ADD 列名 データ型 [ (データ長) ] [ARRAY [最大要素数]]

- 表識別子：KMBR13165-E の%1
- 列名：KMBR13165-E の%2
- データ型：KMBR13165-E の%3
- データ長：KMBR13165-E の%4
- 最大要素数：KMBR13165-E の%5

## KMBR13105-E <P,F>

プロパティと列のデータ型が一致しません。

The column data type does not match the property data type.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-13 KMBR13105-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報
KMBR13166-E	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の手順に従って、プロパティと列のデータ型を一致させてから、コマンドを再度実行してください。

1. データベース定義ユーティリティ (pddef) を実行して、KMBR13166-E に出力された列を表から削除する。
2. データベース定義ユーティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加する。

表にデータが格納されている場合、列は削除できないので、KMBR13166-E に出力された列を任意の列名に変更してから、KMBR13165-E に出力された列を追加してください。

手順 1 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [認可識別子.] 表識別子 DROP 列名

- 表識別子：KMBR13166-E の%1
- 列名：KMBR13166-E の%2

手順 2 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [認可識別子.] 表識別子 ADD 列名 データ型 [(データ長)] [ARRAY [最大要素数]]

- 表識別子：KMBR13165-E の%1
- 列名：KMBR13165-E の%2
- データ型：KMBR13165-E の%3
- データ長：KMBR13165-E の%4
- 最大要素数：KMBR13165-E の%5

## KMBR13106-E <P,F>

String 型で定義したプロパティの最大長又は Object 型で定義したプロパティと、列のデータ長が一致していません。

The maximum length of the property defined with a String type or the property defined with an Object type does not match the column data length.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-14 KMBR13106-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報
KMBR13166-E	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の手順に従って、プロパティの最大長と列のデータ長を一致させてから、コマンドを再度実行してください。

1. データベース定義ユーティリティ (pddef) を実行して、KMBR13166-E に出力された列を表から削除する。
2. データベース定義ユーティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加する。

表にデータが格納されている場合、列は削除できないので、KMBR13166-E に出力された列を任意の列名に変更してから、KMBR13165-E に出力された列を追加してください。

手順 1 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TALBE [認可識別子.] 表識別子 DROP 列名

- 表識別子：KMBR13166-E の%1
- 列名：KMBR13166-E の%2

手順 2 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TALBE [認可識別子.] 表識別子 ADD 列名 データ型 [(データ長)]  
[ARRAY [最大要素数]]

- 表識別子：KMBR13165-E の%1
- 列名：KMBR13165-E の%2
- データ型：KMBR13165-E の%3
- データ長：KMBR13165-E の%4
- 最大要素数：KMBR13165-E の%5

## KMBR13107-W <P,F>

クラスに定義していない列があります。

The column exists that is not defined in the class.

エラーが発生したクラス、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。



表 4-15 KMBR13107-W のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13163-W	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13168-W	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

KMBR13168-W の情報を基に、クラスに定義していない不要な列を削除してから、コマンドを再度実行してください。ただし、不要な列が存在しても File Sharing の動作に影響はありません。

データベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [認可識別子.] 表識別子 DROP 列名

- 表識別子: KMBR13168-W の%1
- 列名: KMBR13168-W の%2

### KMBR13108-E <P,F>

VariableArray 型で定義するプロパティに対応する列の最大要素数が不正です。

The maximum number of elements of the column corresponding to a property defined with the VariableArray type is invalid.

エラーが発生したクラス、プロパティ、表および列については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-16 KMBR13108-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	メッセージの内容
KMBR13161-E	エラーが発生したクラスの情報
KMBR13162-E	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13165-E	メタ情報から作成する表および列の情報
KMBR13166-E	データベースにある表および列の情報

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

次の手順に従って、プロパティの最大要素数と列の最大要素数を一致させてから、コマンドを再度実行してください。

1. データベース定義ユーティリティ (pddef) を実行して、KMBR13166-E に出力された列を表から削除する。
2. データベース定義ユーティリティ (pddef) を実行して、KMBR13165-E に出力された列を表に追加する。

表にデータが格納されている場合、列は削除できないので、KMBR13166-E に出力された列を任意の列名に変更してから、KMBR13165-E に出力された列を追加してください。

手順 1 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [認可識別子.] 表識別子 DROP 列名

- 表識別子：KMBR13166-E %1
- 列名：KMBR13166-E %2

手順 2 のデータベース定義文の例とメッセージに出力される埋め込み文字との対応を次に示します。

ALTER TABLE [認可識別子.] 表識別子 ADD 列名 データ型 [(データ長)] [ARRAY [最大要素数]]

- 表識別子：KMBR13165-E の%1
- 列名：KMBR13165-E の%2
- データ型：KMBR13165-E の%3
- データ長：KMBR13165-E の%4
- 最大要素数：KMBR13165-E の%5

#### KMBR13109-W <P,F>

クラスと対応しない表%1 があります。

The table %1 does not correspond to the class.

VariableArray 型で定義しているプロパティの要素の格納先を、HiRDB の繰り返し列に指定しているのに、要素を格納する表%1 が存在しています。

エラーが発生したクラスについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13163-W を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

不要な表を削除してください。その後、コマンドを再度実行してください。ただし、不要な表が存在しても File Sharing の動作には影響ありません。

#### KMBR13121-E <C,P,F>

メタ情報として必要なプロパティ、又はリストに指定した要素の値%1 が不正です。

One of the following items required as meta-information is invalid : the value %1 of the property or the element specified in the list.

エラーが発生したプロパティおよびリストに指定した要素については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-17 KMBR13121-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージ ID	エラーの要因	メッセージの内容
KMBR13997-E	プロパティの値が不正です。	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13998-E	リストの要素の値が不正です。	エラーが発生したリストの要素の情報

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-18 KMBR13121-E エラーが発生したファイルおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生したメタ情報ファイル	オプション「-p」の指定	対策
edmsys.ini	該当しない	次の手順で、対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。 3. 保守員に連絡する。
edmsysclass.ini edmsysprop.ini dmaclass.ini dmaprop.ini	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. エラーが発生したファイルを、KMBR13997-E または KMBR13998-E で示す、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるメタ情報ファイルで上書きする。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
	なし	エラーが発生したファイルを、KMBR13997-E または KMBR13998-E で示す、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるメタ情報ファイルで上書きしてください。
その他	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除く。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
	なし	EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてください。

## KMBR13122-E &lt;C,P,F&gt;

メタ情報として必要なセクション%1 がメタ情報ファイル%2 にありません。

The section %1 required as meta-information is not in the meta-information file %2.

セクション%1 が、VariableArray 型で定義するプロパティのオブジェクト定義を記述しているセクションの場合、このメッセージのあとにプロパティ定義を記述しているセクションについての情報が KMBR13996-E に出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルからエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-19 KMBR13122-E エラーが発生したファイル、セクションおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生した メタ情報ファイル	エラーが発生 したセクショ ン	オプション 「-p」の指定	対策
edmsys.ini	該当しない	該当しない	次の手順で、対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。 3. 保守員に連絡する。
オプション「-f」に 指定するファイル	dmaClass_Do cSpace	該当しない	-f オプションに指定したファイルに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>オブジェクト定義を記述しているファイルの場合 このメッセージおよび指定したオプションを記録して、すべてのメタ情報ファイルを保存してください。その後、保守員に連絡してください。</li> <li>オブジェクト定義を記述していないファイルの場合 -f オプションに、オブジェクト定義を記述しているファイルを指定します。</li> </ul>
	GUID	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkTbl コマンドの-f オプションに指定したファイルに、セクション*を追加する。 3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. EDMChkTbl コマンドの-f オプションに指定したファイルに、セクション*を追加する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。
dsclass.ini edmclass.ini	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server ¥etc の下位あるメタ情報ファイル%2 を基に、セクション%1 を修正する。 3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。

エラーが発生した メタ情報ファイル	エラーが発生 したセクショ ン	オプション [-p] の指定	対策
dsclass.ini edmclass.ini	該当しない	あり	メタ情報が登録されます。
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server ¥etc の下位にあるメタ情報ファイル%2 を基に、セクショ ン%1 を修正する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。

## 注※

-f オプションに指定するファイルに追加するセクションを次に示します。

[セクション名]

dmaProp\_ClassDescription=obj=edmclass.ini@edmClass\_VariableArrayOfObject

dmaProp\_This=obj=Self

dmaProp\_DataType=int=DMA\_DATATYPE\_OBJECT

dmaProp\_RequiresUniqueElements=bool=0

dmaProp\_MaximumElements=int=最大要素数

dmaProp\_MinimumElements=int=2

dmaProp\_RequiredClass=obj=VariableArray型のプロパティの要素を格納するクラス

- セクション名  
KMBR13122-E の%1 を指定します。
- 最大要素数  
VariableArray 型プロパティの最大要素数を指定します。
- VariableArray 型のプロパティの要素を格納するクラス  
KMBR13996-E で示すセクションの、dmaProp\_RequiredClass プロパティの値を指定します。

## KMBR13123-E &lt;C,P,F&gt;

メタ情報として必要なプロパティ%1 がありません。

The property %1 required as meta-information does not exist.

エラーが発生したセクションおよびプロパティについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13997-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルからエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-20 KMBR13123-E エラーが発生したファイル、プロパティおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生した メタ情報ファイル	エラーが発生し たプロパティ	オプション [-p] の指定	対策
オプション [-f] に 指定するファイル	dmaProp_Clas sDescriptions	該当しない	次の手順で、対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。

エラーが発生した メタ情報ファイル	エラーが発生し たプロパティ	オプション [-p] の指定	対策
オプション [-f] に 指定するファイル	dmaProp_Clas sDescriptions	該当しない	3. 保守員に連絡する。
	dmaProp_Clas sDescriptions 以外	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除く。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてください。
edmsysclass.ini edmsysprop.ini dmaclass.ini dmaprop.ini	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. エラーが発生したファイルを、KMBR13997-E で示す、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるメタ情報ファイルで上書きする。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	エラーが発生したファイルを、KMBR13997-E で示す、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるメタ情報ファイルで上書きしてください。
その他	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除く。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルにあるエラーの要因を取り除いてください。

## KMBR13124-E &lt;C,P,F&gt;

プロパティ又はリストの要素に値がありません。

There is no value in the property or in the list element.

エラーが発生したプロパティまたはリストの要素については、このメッセージのあとに出力されるメッセージを参照してください。このメッセージのあとに出力されるメッセージを次の表に示します。

表 4-21 KMBR13124-E のあとに出力されるメッセージ

メッセージID	エラーの要因	メッセージの内容
KMBR13997-E	メタ情報として必要なプロパティに、値がありません。	エラーが発生したプロパティの情報
KMBR13998-E	メタ情報として必要なリストに、要素がありません。	エラーが発生したリストの要素の情報

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-22 KMBR13124-E エラーが発生したファイル、プロパティおよびオプションの指定別の対策一覧

エラーが発生したメタ情報ファイル	エラーが発生したプロパティ	オプション「-p」の指定	対策
edmsys.ini	該当しない	該当しない	次の手順で対策を実施してください。 1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。 2. メタ情報ファイルをすべて保存する。 3. 保守員に連絡する。
dmaclass.ini dmaprop.ini edmsysclass.ini edmsysprop.ini	該当しない	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. エラーが発生したファイルを、KMBR13997-E または KMBR13998-E で示す、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server*etc の下位にあるメタ情報ファイルで上書きする。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	エラーが発生したファイルを、KMBR13997-E または KMBR13998-E で示す、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server*etc の下位にあるメタ情報ファイルで上書きしてください。
その他	ユーザが追加したプロパティ	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。

エラーが発生したメタ情報ファイル	エラーが発生したプロパティ	オプション「-p」の指定	対策
その他	ユーザが追加したプロパティ	あり	メタ情報ファイルが出力されます。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 3. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. エラーが発生したプロパティに、任意の値を指定する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。
	システムが定義するプロパティ	あり	次の手順で対策を実施してください。 1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。 2. File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるメタ情報ファイルを基に、エラーが発生したプロパティの値を修正する。 3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。 4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。
		なし	次の手順で対策を実施してください。 1. File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc の下位にあるメタ情報ファイルを基に、エラーが発生したプロパティの値を修正する。 2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。

## KMBR13125-W &lt;P,F&gt;

使用しない edmClass\_Struct クラスのサブクラスがあります。

The subclass of the unused edmClass\_Struct class exists.

エラーが発生したセクションについては、このメッセージのあとに出力される KMBR13163-W を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。



(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイルから不要なクラスを削除してから、コマンドを再度実行してください。

表 4-23 KMBR13125-W オプションの指定別の対策一覧

オプション 「-p」の指定	対策
あり	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. -F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 メタ情報ファイルが出力されます。</li> <li>2. 出力したメタ情報ファイルに記述されている、KMBR13163-W で示すセクションを削除する。</li> <li>3. edmclass.ini ファイルの edmClass_Struct セクションに記述されている、 dmaProp_ImmediateSubclassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「2.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>4. このコマンドの -f オプションに指定したメタ情報ファイルの dmaClass_DocSpace セクションに指定する、dmaProp_ClassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「2.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>5. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。</li> <li>6. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。</li> </ol>
なし	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. メタ情報ファイルに記述されている、KMBR13163-W で示すセクションを削除する。</li> <li>2. edmclass.ini ファイルの edmClass_Struct セクションの dmaProp_ImmediateSubclassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「1.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>3. このコマンドの -f オプションに指定したメタ情報ファイルに記述されている、dmaClass_DocSpace セクションに指定する、dmaProp_ClassDescriptions プロパティが示すリストのセクションのエントリから、「1.」で削除したセクションへの参照を削除する。</li> <li>4. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。</li> </ol>

### KMBR13126-E <C,P,F>

VariableArray 型で定義しているプロパティの最大要素数の指定が不正です。

The maximum number of elements of a property defined with the VariableArray type is invalid.

メタ情報の VariableArray 型で定義するプロパティのオブジェクト定義を記述しているセクションにある、dmaProp\_MaximumElements の値が不正です。

エラーが発生したセクションについては、KMBR13996-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、メタ情報ファイル内のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-24 KMBR13126-E オプションの指定別の対策一覧

オプション [-p] の指定	対策
あり	<p>次の手順で対策を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. -l オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 作業用ディレクトリにメタ情報ファイルが出力されます。</li> <li>2. KMBR13996-E で示すメタ情報ファイルのセクションに指定する、dmaProp_MaximumElements プロパティの値に、VariableArray 型プロパティの最大要素数を指定する。</li> <li>3. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイル確認する。</li> <li>4. -d オプションを指定して、EDMInitMeta コマンドを実行する。 メタ情報が登録されます。</li> </ol>
なし	<p>次の手順で対策を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. KMBR13996-E で示すメタ情報ファイルのセクションに指定する、dmaProp_MaximumElements プロパティの値に、VariableArray 型プロパティの最大要素数を指定する。</li> <li>2. EDMChkMeta コマンドを実行して、メタ情報ファイルを確認する。</li> </ol>

## KMBR13131-E &lt;C,P,F&gt;

データベースでエラーが発生しました。

関数名：%1

エラー情報 1：%2

要因コード 1：%3

エラー情報 2：%4

要因コード 2：%5

保守情報：%6

An error occurred in the database.

Function name：%1

Error information 1：%2

Reason code 1：%3

Error information 2：%4

Reason code 2：%5

Maintenance information：%6

エラー情報として次の情報を出力します。

%1：エラーになった DABroker の関数名

%2：DABroker のエラーメッセージ

%3：DABroker のエラーコード

%4：データベースのエラーメッセージ

%5：データベースのエラーコード

%6：保守情報

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

出力された DABroker のエラーメッセージ (%2) およびエラーコード (%3)、データベースのエラーメッセージ (%4) およびエラーコード (%5) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13141-E <C,P,F>**

DocumentSpace 構成定義ファイルに必要な情報がありません。

セクション名 : %1

エントリ名 : %2

Required information for the DocumentSpace configuration definition file is missing.

Section name : %1

Entry name : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、DocumentSpace 構成定義ファイルのエラーを取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

表 4-25 KMBR13141-E エラーが発生したエントリ別の対策一覧

エラーが発生したエントリ	対策
DbType	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリを追加する。</li> <li>エントリの値に、「HIRDB」を指定する。</li> </ul>
PdUser	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリを追加する。</li> <li>データベースにアクセスするために、エントリの値に、File Sharing の管理者のユーザ名およびパスワードを、次に示す形式で指定する。 "ユーザ名"/"パスワード"</li> </ul>
その他	次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エントリ%2 を指定する。</li> <li>エントリ%2 の名前を正しく指定する。</li> </ul>

**KMBR13142-E <C,P,F>**

DocumentSpace 構成定義ファイルがありません。

The DocumentSpace configuration definition file does not exist.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

File Sharing サーバのインストールディレクトリ%Server%adm%etc\_org の下位にあるサンプルファイルを基に、DocumentSpace 構成定義ファイルを作成してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13151-E <C,P,F>

---

表識別子又は列名の取得に失敗しました。

種別 : %1

要因コード : %2

クラス名 : %3

クラスインデクス : %4

プロパティ名 1 : %5

プロパティ名 2 : %6

The table ID or the column name could not be acquired.

Type : %1

Reason code : %2

Class name : %3

Class index : %4

Property name 1 : %5

Property name 2 : %6

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

次の手順で、対策を実施してください。

1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。
2. メタ情報ファイルをすべて保存する。
3. 保守員に連絡する。

#### KMBR13152-E <C,P,F>

---

ファイル%1 の読み込みに失敗しました。

保守情報 1 : %2

保守情報 2 : %3

要因コード : %4

Reading of file %1 failed.

Maintenance information 1 : %2

Maintenance information 2 : %3

Reason code : %4

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥adm の下位にあるエラーが発生したファイル%1 を、File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥adm¥etc\_org の下位にあるファイル%1 で上書きしてください。

**KMBR13161-E <P,F>**


---

エラー位置 メタ情報 クラス名 : %1 メタ情報ファイル名 : %2 セクション名 : %3

Error location Meta-information Class name : %1 Meta-information file name : %2 Section name : %3

エラーが発生したクラスを示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

**KMBR13162-E <P,F>**


---

エラー位置 メタ情報 プロパティ名 : %1 メタ情報ファイル名 : %2 セクション名 : %3

Error location Meta-information Property name : %1 Meta-information file name : %2 Section name : %3

エラーが発生したプロパティを示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

**KMBR13163-W <P,F>**


---

エラー位置 メタ情報 クラス名 : %1 メタ情報ファイル名 : %2 セクション名 : %3

Error location Meta-information Class name : %1 Meta-information file name : %2 Section name : %3

エラーの発生したクラスを示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

**KMBR13165-E <P,F>**


---

定義内容 表定義 (メタ情報) 表識別子 : %1 列名 : %2 データ型 : %3 データ長 : %4 最大要素数 : %5

Definition content Table definition (meta-information) Table ID : %1 Column name : %2 Data type : %3

Data length : %4 Maximum number of elements : %5

メタ情報で定義した列の情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

**KMBR13166-E <P,F>**


---

定義内容 表定義 表識別子 : %1 列名 : %2 データ型 : %3 データ長 : %4 最大要素数 : %5

Definition content Table definition Table ID : %1 Column name : %2 Data type : %3 Data length : %4  
Maximum number of elements : %5

データベースに定義している列の情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

#### KMBR13168-W <P,F>

---

定義内容 表定義 表識別子 : %1 列名 : %2 データ型 : %3 データ長 : %4 最大要素数 : %5

Definition content Table definition Table ID : %1 Column name : %2 Data type : %3 Data length : %4  
Maximum number of elements : %5

データベースに定義している列の情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従います。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従ってください。

#### KMBR13171-E <C,P,F>

---

-c オプションで指定したクラス%1 を定義していないか、確認する必要のないクラスです。

The class %1 specified in the -c option is not defined, or the class does not require confirmation.

(S)

クラス%1 の処理を中止します。複数のクラスを指定している場合は、次に指定しているクラスの処理を続行します。

(O)

クラス名を正しく指定してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13172-E <C,P,F>

---

-p オプションを指定したときは、-f オプションにファイル名を指定してください。

When the -p option is specified, specify a file name in the -f option.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

-f オプションにファイル名だけを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR13181-E <C,P,F>

---

メタ情報ファイルの出力に失敗しました。

The meta-information file could not be output.

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13182-W <P,F>**

---

作業用ディレクトリ%1 の削除に失敗しました。

The work directory %1 could not be deleted.

一時的に作成した作業用ディレクトリ%1 の削除に失敗しました。

エラーの内容については、このメッセージのあとに出力される KMBR13056-E を参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

このメッセージのあとに出力される KMBR13056-E を基に、エラーの要因を取り除いてから、OS のコマンドを実行して作業用ディレクトリ%1 を削除してください。

**KMBR13183-I <P,F>**

---

作業用ディレクトリ%1 にメタ情報を出力します。

The meta-information will be output to the work directory %1.

作業用ディレクトリ%1 は、コマンド終了時に削除されます。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

—

**KMBR13184-E <C,P,F>**

---

メタ情報が登録されていません。

No meta-information is registered.

(S)

処理を中止します。

(O)

EDMInitMeta コマンドを実行してメタ情報を登録してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR13199-E <C,P,F>**

---

内部矛盾が発生しました。

An internal conflict occurred.

(S)

コマンドの処理を中止します

(O)

次の手順で、対策を実施してください。

1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。

2. メタ情報ファイルをすべて保存する。
3. 保守員に連絡する。

#### KMBR13990-E <C,P,F>

---

内部矛盾が発生しました。

An internal conflict occurred.

(S)

このメッセージのあとに出力されるメッセージが KMBR13996-E の場合、コマンドの処理を続行します。それ以外の場合は、処理を中止します。

(O)

次の手順で、対策を実施してください。

1. このメッセージおよび指定したオプションを記録する。
2. メタ情報ファイルをすべて保存する。
3. 保守員に連絡する。

#### KMBR13994-I <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名：%1 セクション名：%2

Error location Meta-information file name：%1 Section name：%2

エラーが発生したセクションを示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13995-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名：%1 行番号：%2

Error location Meta-information file name：%1 Line number：%2

メタ情報ファイル内のエラーの発生位置を示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1 が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13996-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名：%1 セクション名：%2

Error location Meta-information file name：%1 Section name：%2



エラーが発生したセクションを示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13997-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名：%1 セクション名：%2 プロパティ名：%3

Error location Meta-information file name : %1 Section name : %2 Property name : %3

エラーが発生したプロパティを示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13998-E <P,F>

---

エラー位置 メタ情報ファイル名：%1 セクション名：%2 要素位置：%3

Error location Meta-information file name : %1 Section name : %2 Element position : %3

エラーが発生したリストオブジェクトの要素を示すメッセージです。

コマンドまたはメタ情報ファイルに指定したファイル名%1が、絶対パスで指定されていない場合、コマンドで指定したメタ情報ファイルと同じディレクトリにあることを意味します。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、対策を実施してください。

#### KMBR13999-E <C,P,F>

---

エラー位置 ファイル名：%1 行番号：%2 要因コード：%3

Error location File name : %1 Line number : %2 Reason code : %3

エラーが発生した個所の詳細情報を示すメッセージです。

(S)

このメッセージの前に出力されたメッセージに従って処理します。

(O)

—

### KMBR16701-E <P,F>

---

データ行の前にヘッダ行を挿入してください。

Insert a header line before the data line.

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルにヘッダ行を挿入してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR16710-E <P,F>

---

文書クラス定義ファイルの構成に誤りがあります。

定義：%1

エントリ：%2

The structure of the document class definition file is incorrect. Definition: %1 Entry: %2

文書クラス定義ファイルとは、見積もり情報定義ファイルのことです。見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1：見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2：エントリ名

構成に誤りのあるエントリが複数ある場合は、「, (コンマ)」で区切りエントリ名が出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

### KMBR16711-E <P,F>

---

TargetType エントリに VR を指定したときは、指定できないエントリです。

定義：%1

エントリ：%2

The entry cannot be specified when VR is specified in the targetType entry. Definition: %1 Entry: %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1：見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2：見積もり情報定義ファイルで指定したエントリ名=見積もり情報定義ファイルで指定したエントリの値

指定できないエントリを複数定義した場合は、「, (コンマ)」で区切り「見積もり情報定義ファイルで指定したエントリ名=見積もり情報定義ファイルで指定したエントリの値」の形式で出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16712-E <P,F>**

---

エントリに指定した値が重複しています。

定義 : %1

エントリ : %2

The value specified in the entry is duplicated. Definition: %1 Entry: %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ名

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16713-E <P,F>**

---

インデクスのキーに定義したプロパティの数が、データベース管理システムの制限値を超えています。

定義 : %1

The number of properties defined in the index key exceeds the limit of the database system. Definition: %1

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの定義内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16720-E <P,F>**

---

複数のプロパティをキーとするインデクスを定義する場合、2 行目以降のインデクスには指定できないエントリです。

定義 : %1

エントリ : %2

When an index, for which two or more properties are used as keys, is defined, an entry cannot be specified for an index in the second or subsequent line. Definition: %1 Entry: %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1：見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2：見積もり情報定義ファイルで指定したエントリ名=見積もり情報定義ファイルで指定したエントリの値

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16801-E <P,F>

---

エントリを指定できません。

定義：%1

エントリ：%2

The entry cannot be specified. Definition: %1 Entry: %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1：見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2：エントリ名

指定できないエントリを複数定義している場合は、「, (コンマ)」で区切りエントリ名が出力されます。ヘッダで定義したエントリの数を超えてエントリを指定した場合は、超えたエントリの数分の「, (コンマ)」が出力されます。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16802-E <P,F>

---

エントリが重複しています。

定義：%1

エントリ：%2

An entry is duplicated. Definition: %1 Entry: %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1：見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2：エントリ名

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

---

**KMBR16803-E <P,F>**

エントリの指定が必要です。

定義 : %1

エントリ : %2

An entry must be specified. Definition: %1 Entry: %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ名

指定が必要なエントリを複数定義していない場合は、「, (コンマ)」で区切りエントリ名が出力されません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

---

**KMBR16804-E <P,F>**

エントリに指定した値に誤りがあります。

定義 : %1

エントリ : %2

The value specified in the entry is invalid. Definition: %1 Entry: %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2 : エントリ

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) のエントリ (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

---

**KMBR16805-E <P,F>**

エントリの指定形式に誤りがあります。

行番号 : %1

入力行 : %2

The specification format of the entry is invalid. Line number : %1. Input line : %2

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの指定形式に誤りがあった行番号

%2 : 見積もり情報定義ファイルの指定形式に誤りがあった行のうち、誤りがあった個所以降の行の内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルの入力行 (%2) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16810-E <P,F>

---

文書クラス定義ファイル内に定義が見つかりませんでした。

The definition in the document class definition file is missing.

文書クラス定義ファイルとは見積もり情報定義ファイルのことです。見積もり情報定義ファイルに定義 (ヘッダ行およびデータ行, またはデータ行) がありません。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

ヘッダ行およびデータ行を定義していない場合: ヘッダ行とデータ行を定義してからコマンドを再度実行してください。

データ行を定義していない場合: データ行を定義してからコマンドを再度実行してください。

または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16820-E <P,F>

---

ファイルの解析処理でエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

エラー情報 : %2

An error occurred during the analysis processing of the file. File name: %1 Error information: %2

ファイルの解析でエラーが発生しました。

%1 : エラー要因となる定義ファイル名。絶対パスまたは相対パスで表示されます。

%2 : 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、指定したファイル (%1) のエラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16821-E <P,F>**

---

クラスの定義でエラーが発生しました。

定義 : %1

エラー情報 : %2

An error occurred in the class definition. Definition : %1 Error information : %2

定義中にエラーが発生しました。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2 : 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16822-E <P,F>**

---

プロパティの定義でエラーが発生しました。

定義 : %1

エラー情報 : %2

An error occurred in the property definition. Definition : %1 Error information : %2

定義中にエラーが発生しました。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2 : 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16823-E <P,F>**

---

インデクスの定義でエラーが発生しました。

定義 : %1

エラー情報 : %2

An error occurred in the index definition. Definition : %1 Error information : %2

定義中にエラーが発生しました。

%1：見積もり情報定義ファイルの定義内容

%2：文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、見積もり情報定義ファイルで指定した定義（%1）を修正してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16829-E <P,F>

---

文書空間定義コマンドの実行中にエラーが発生しました。

エラー情報：%1

An error occurred while the document space definition command was being executed. Error information：%1

文書空間の定義中にエラーが発生しました。

%1：文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、エラー要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR16830-E <P,F>

---

クラスの定義を先に記述してください。

定義：%1

Code the class definition in advance. Definition：%1

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1：見積もり情報定義ファイルの定義内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義（%1）より先にクラスの定義を記述してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。



**KMBR16831-E <P,F>**

---

プロパティの定義を先に記述してください。

定義 : %1

Code the property definition in advance. Definition : %1

見積もり情報定義ファイルの内容に誤りがあります。

%1 : 見積もり情報定義ファイルの定義内容

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

見積もり情報定義ファイルで指定した定義 (%1) より先にプロパティの定義を記述してから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16920-E <C,P,F>**

---

文書空間構築コマンドの実行中にエラーが発生しました。

エラー情報 : %1

An error occurred while the document space structure command was being executed. Error information : %1

文書空間の構築中にエラーが発生しました。

%1 : 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンドで発生したエラー情報。エラー情報の詳細については、「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

「4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処」を参照し、エラー要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。または、File Sharing が提供しているファイルを基にファイルを再作成してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR16930-I <C,P,F>**

---

メタ情報ファイルの登録処理を開始しました。

Processing to register the meta-information file was started.

文書空間の構築で、メタ情報ファイルの登録処理を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

—

**KMBR16931-I <C,P,F>**

---

メタ情報の追加処理を開始しました。

Processing to add the meta information was started.

文書空間の構築で、メタ情報の追加処理を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

—

#### KMBR16932-I <C,P,F>

---

データベース定義文の出力処理を開始しました。

Processing to output of the database definition statement was started.

文書空間の構築で、データベース定義文の出力処理とデータベースの定義 (EDMCBuildDocSpace コマンドの -m exec 指定時)、または、データベース定義文の出力処理 (EDMCBuildDocSpace コマンドの -m print 指定時) を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

—

#### KMBR16933-I <C,P,F>

---

クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しました。

Processing to create the class definition information file was started.

文書空間の構築で、クラス定義情報ファイルの作成処理を開始しました。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

—

#### KMBR16990-I <P,F>

---

付加情報 : %1

Additional information : %1

文書空間の定義または文書空間の構築時に発生したエラーの要因を示すメッセージです。

%1 : 情報種別 = 値

出力される情報種別と値を次の表に示します。

表 4-26 付加情報の内容

情報種別	値
directory name	ディレクトリ名
file name	ファイル名 (絶対パスまたは相対パス)
line number	ファイルの行番号

情報種別	値
item	項目 (セクション名, エントリ名, クラス名, プロパティ名, インデクス名などの項目)
item value	項目の値
backup file name	バックアップファイル名 (絶対パス)
command name	コマンド名
detail	詳細情報※1
item kind	項目種別※2
class name	クラス名
property name	プロパティ名
area name	エリア名
area size	エリアサイズ
environment	環境変数
argument name	文書空間定義構築ライブラリの引数の名前 (保守情報)
argument value	文書空間定義構築ライブラリの引数の値 (エントリの値, ディレクトリ名など)
index number	インデクスの番号 (単一列インデクスの場合は0が設定されます。複数列インデクスの場合, 見積もり情報定義ファイルで定義した順に, 0から順に値が設定されます)

注※1

詳細情報の出力内容と意味を次の表に示します。

表 4-27 詳細情報の出力内容と意味

出力内容	意味
alreadyset	設定済み
different cardinality	基本単位不一致
different id	ID 不一致
different max value	最大値不一致
different value	値不一致
different name	名前不一致
different type	データ型不一致
duplicate entry	エントリ重複
duplicate section	セクション重複
duplicate value	値重複
insufficient entry	エントリ不足
invalid character	文字不正
invalid count	数不正

出力内容	意味
invalid format	形式不正
invalid order	順序不正
invalid parameter	引数不正
invalid size	サイズ不正
invalid type	データ型不正
invalid value	値不正
invalid entry	エントリ不正
invalid index	インデクス不正
invalid environment	環境不正
no keyword	キーワード不正
no section	セクションなし
not found name	名前が見当たらない
not null parameter	不要なパラメタの設定 (引数 NULL 以外)
not set automatically	自動設定不可
null parameter	パラメタが未設定 (引数 NULL)
null value	値が未設定 (値 NULL)
out of range	範囲外
reserved value	予約済みの値
unmatched docinfo	文書空間情報ファイルと見積もり情報定義ファイルのエントリの内容が不一致
unspecifiable value	指定不可の値

注※2

項目種別の出力内容と意味を次の表に示します。

表 4-28 項目種別の出力内容と意味

出力内容	意味
DCR Object Count	リンクファイル実体数
Link Count	リンク数
Object Count	ファイル実体数
Relation Count	リレーション数
VCR Object Count	リンクファイル実体数
Content Size	コンテンツサイズ
Index Count	一つのクラスに対するインデクス数

出力内容	意味
Area Count	エリア数

(S)

—

(O)

付加情報 (%1) を基に、先に出力されたメッセージの対処を実施してください。

#### KMBR16999-E <P,F>

初期処理に失敗しました。

Initialization failed.

初期処理に失敗しました。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

保守員に連絡してください。

#### KMBR19001-E <P,F>

ほかのプロセスがメタ情報を使っているため、処理を続行できません。

%1 を中止します。

Another process is using the meta-information, so processing cannot continue.

%1 will now stop.

File Sharing サーバが起動しているか、ほかのコマンドを実行しているため、処理を続行できません。

%1：コマンド名

(S)

コマンド (%1) の処理を中止します。

(O)

要因に応じて次の対策を実施してください。

- File Sharing サーバが起動している場合は、File Sharing サーバを停止してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。
- File Sharing サーバが起動していない場合は、ほかのコマンドの終了を待って、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19002-W <C,P,F>

データベース内のメタ情報は更新できましたが、出力処理でエラーが発生したため、動作環境メタ情報ファイルは出力できませんでした。

The meta-information in the database was updated; however, the operating-environment meta-information file could not be output because an error occurred in output processing.

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

イベントログを参照して、このメッセージの前に出力されたメッセージを基にエラーの要因を取り除いてください。その後、-l オプションを指定しないで、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。EDMInitMeta コマンドの延長で出力された場合は、-F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行してください。

#### KMBR19003-E <C,P,F>

---

ファイルの読み込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being read.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19004-E <C,P,F>

---

ファイルのオープンでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being opened.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19005-E <C,P,F>

---

指定した名称のファイルがありません。

ファイル名 : %1

The specified file does not exist.

File name : %1

指定した名称のファイルがないか、メタ情報ファイル内に指定したメタ情報ファイルがありません。

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ファイル (%1) があるか確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

---

**KMBR19006-E <C,P,F>**

メモリが不足しているため、処理を続行できません。

Memory became insufficient, so processing cannot continue.

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

実行中のほかのプログラムの終了を待って、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

---

**KMBR19007-E <C,P,F>**

文書空間 ID が見つかりません。

The document space ID was not found.

メタ情報ファイル内に文書空間 ID が見つかりません。

メタ情報ファイルからこのセクションが削除されているか、引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル (edms.ini) ではありません。

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

---

**KMBR19008-E <C,P,F>**

指定したファイルは、ディレクトリ又はスペシャルファイルなどであり、通常のファイルではありません。

ファイル名 : %1

The specified file is a directory or a special file, and is not an ordinary file.

File name : %1

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ファイル (%1) を確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

---

**KMBR19009-E <C,P,F>**

ファイルに対するアクセス権がありません。

ファイル名 : %1

You lack access permission for the file.

File name : %1

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ファイル (%1) に対するアクセス権を設定してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19010-E <C,P,F>

---

ディレクトリがありません。

ディレクトリ名 : %1

The directory does not exist.

Directory name : %1

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ディレクトリ (%1) を確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19011-E <C,P,F>

---

ディレクトリが不正です。

ディレクトリ名 : %1

The directory is invalid.

Directory name : %1

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ディレクトリ (%1) を確認してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19012-E <C,P,F>

---

ディレクトリに対するアクセス権がありません。

ディレクトリ名 : %1

You lack access permission for the directory.

Directory name : %1

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

ディレクトリ (%1) に対するアクセス権を設定してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。



**KMBR19013-E <C,P,F>**

---

コマンドの処理でエラーが発生したため、コマンドの処理を中止します。

付加情報 : %1 (%2)

An error occurred in command processing, so command processing will now stop.

Additional information : %1 (%2)

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

付加情報を記録してから、保守員に連絡してください。

**KMBR19014-W <P,F>**

---

セクションが見つかりません。

ファイル名 : %1

セクション名 : [%2]

The section was not found.

File name : %1

Section name : [%2].

メタ情報ファイル内に必要なセクションが見つかりません。

メタ情報ファイルからこのセクションが削除されているか、引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル (edms.ini) ではありません。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

要因に応じて次の対策を実施してください。

- **セクション名が削除されている場合**

メタ情報ファイルから削除されているセクションを回復してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

- **引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル (edms.ini) でない場合**

引数を修正してから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

**KMBR19015-W <P,F>**

---

プロパティが見つかりません。

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

プロパティ名 : %4

The property was not found.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

Property name : %4

メタ情報ファイル内に必要なプロパティが見つかりません。

メタ情報ファイルからこのプロパティが削除されているか、引数に指定したメタ情報ファイルが文書空間内に生成するオブジェクトの定義ファイル (edms.ini) ではありません。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の%2 行目にあるセクション (%3) 内のプロパティ (%4) の指定を確認してください。

#### KMBR19016-W <P,F>

---

セクション内に、同じ名称のプロパティが既に指定されています。

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

プロパティ名 : %4

A property with the same name is already specified in the section.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

Property name : %4

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の%2 行目にあるセクション (%3) 内のプロパティ (%4) の指定を確認してから、不要な指定を削除してください。

#### KMBR19017-W <P,F>

---

ファイル内に、同じ名称のセクションが既に指定されています。

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

A section with the same name is already specified in the file.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) 内のセクション (%3) の指定を確認してから、不要な指定を削除してください。

#### KMBR19018-W <P,F>

---

GUID 値の形式が不正です。

GUID : %1

The format of the GUID value is invalid.

GUID : %1

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

GUID 値 (%1) の指定を確認してください。

#### KMBR19019-W <P,F>

---

ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being written.

File name : %1

Reason code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OSのマニュアルを参照してください。

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

#### KMBR19020-W <P,F>

---

text 型のデータの指定が不正です。

ファイル名 : %1 (%2)

セクション名 : [%3]

プロパティ名 : %4

The text-format data is invalid.

File name : %1 (%2)

Section name : [%3]

Property name : %4

(S)

コマンドの処理を続行します。

(O)

ファイル (%1) の %2 行目にあるセクション (%3) 内のプロパティ (%4) を確認してください。

#### KMBR19021-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得に失敗しました。

要因コード : %1

GuidClass : %2

The database definition name could not be acquired.

Reason code : %1

GuidClass : %2

%1 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- **EDMAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合**  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- **EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合**  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19022-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得に失敗しました。

要因コード : %1.

GuidProperty : %2.

The database definition name could not be acquired.

Reason code : %1

GuidProperty : %2

%1 : DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- **EDMAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合**  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- **EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合**  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19023-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得に失敗しました。

要因コード：%1.

GuidVArray：%2.

GuidElement：%3.

The database definition name could not be acquired.

Reason code：%1

GuidVArray：%2

GuidElement：%3

%1：DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- **EDMAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合**  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- **EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合**  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19024-E <P,F>

---

データベース定義の名称の取得準備に失敗しました。

関数名：%1.

要因コード：%2.

Preparation to acquire the database definition name failed.

Function name：%1

Reason code：%2

%2：DMA の戻り値

DMA の戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

実行したコマンドに応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- **EDMAddMeta コマンドや移行処理を実行して異常終了した場合**  
バックアップからデータベースを回復してから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。データベースにエラーが発生したときは、エラーの要因を取り除いてから、EDMAddMeta コマンドや移行処理を再度実行してください。
- **EDMPrintMeta コマンドを実行して異常終了した場合**  
エラーの要因を取り除いてから、EDMPrintMeta コマンドを再度実行してください。

KMBR19030-E <P,F>

---

表識別子に誤りがあります。

行番号 : %1

The table ID is invalid.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

KMBR19031-E <P,F>

---

列名に誤りがあります。

行番号 : %1

The column name is invalid.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

KMBR19032-E <P,F>

---

インデクス名に誤りがあります。

行番号 : %1

The index name is invalid.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

KMBR19040-E <P,F>

---

表識別子が制限長を超えています。

制限長 : %1

行番号 : %2

The table ID exceeds the limit.

Limit : %1

Line number : %2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19041-E <P,F>

---

列名が制限長を超えています。

制限長：%1

行番号：%2

The column name exceeds the limit.

Limit：%1

Line number：%2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19042-E <P,F>

---

インデクス名が制限長を超えています。

制限長：%1

行番号：%2

The index name exceeds the limit.

Limit：%1

Line number：%2

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19050-E <P,F>

---

表識別子が重複しています。

行番号：%1

The table ID is duplicated.

Line number：%1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR19051-E <P,F>

---

列名が重複しています。

行番号 : %1

The column name is duplicated.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR19052-E <P,F>

---

インデクス名が重複しています。

行番号 : %1

The index name is duplicated.

Line number : %1

(S)

コマンドの処理を中止します。

(O)

定義情報ファイルを修正してから、コマンドを再度実行してください。

なお、このメッセージが出力される前に、EDMAddMeta コマンドを実行して「バックアップからデータベースを回復してください」というメッセージが出力されていたのに、バックアップからデータベースを回復していない場合は、バックアップからデータベースを回復してください。

#### KMBR19100-E <C,P,F>

---

ファイルのクローズでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being closed.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。



(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

**KMBR19101-E <C,P,F>**

---

ファイルの書き込みでエラーが発生しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

An error occurred while the file was being written.

File name : %1

Reason code : %2

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したコマンドを再度実行してください。

**KMBR19120-E <C,P,F>**

---

データベースへの登録でエラーが発生しました。

メタ情報ファイルの登録処理を中止しました。

An error occurred while the file was being registered in the database.

Processing to register the meta-information file will now stop.

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止しました。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細についてイベントログを参照して、エラーの要因を取り除いてください。その後、コマンドを再度実行してください。

**KMBR19121-E <C,P,F>**

---

データベースの検索でエラーが発生しました。

要因コード 1 : %1

要因コード 2 : %2

エラー情報 : %3

An error occurred during a database search.

Reason code 1 : %1

Reason code 2 : %2

Error information : %3

%1 : DABroker のリターンコード

%2 : データベースのエラーコード

#### 4 File Sharing サーバのユーティリティのメッセージ

%3：データベースのエラーメッセージ

(S)

コマンドの処理を中止しました。

(O)

要因コード 1 (%1), 要因コード 2 (%2) およびエラー情報 (%3) を基に, エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR19122-E <C,P,F>

---

データベースへの登録でエラーが発生しました。

要因コード 1 : %1

要因コード 2 : %2

エラー情報 : %3

An error occurred while the file was being registered in the database.

Reason code 1 : %1

Reason code 2 : %2

Error information : %3

(S)

メタ情報ファイルの登録処理を中止しました。

(O)

データベースで発生したエラー情報の詳細についてイベントログを参照して, エラーの要因を取り除いてください。その後, コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19190-I <C,P,F>

---

%1 を開始します。

%1 will start.

%1 : コマンド名

(S)

処理を開始します。

(O)

—

#### KMBR19191-E <C,P,F>

---

%1 オプションの値が不正です。

The %1 option is invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 オプションの値を見直してから, 再度実行してください。

**KMBR19200-I <C,P,F>**

---

%1 が終了しました。

%1 ended.

(S)

処理を終了しました。

(O)

—

**KMBR19201-I <C,P,F>**

---

%1 が異常終了しました。

%1 ended abnormally.

(S)

処理を終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

**KMBR19243-E <C,P,F>**

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名：%1

要因コード：%2

付加情報：%3

An error occurred during a system call.

Function name：%1

Reason code：%2

Additional information：%3

システムコール (%1) でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2：システムコールが設定したエラー番号

エラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

%3：保守情報

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

**KMBR19247-E <C,P,F>**

---

データベースでエラーが発生しました。

要因コード 1：%1

要因コード 2：%2

エラー情報：%3

An error occurred in the database.

Reason code 1：%1

Reason code 2：%2

Error information：%3

%1：DABroker のリターンコード

%2：データベースのエラーコード

%3：データベースのエラーメッセージ

(S)

処理を中止します。

(O)

要因コード 1 (%1)、要因コード 2 (%2) およびエラー情報 (%3) を基に、エラーの要因を取り除いて、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19248-E <C,P,F>

---

データベースへの接続でエラーが発生しました。

An error occurred during an attempt to connect to the database.

(S)

処理を中止します。

(O)

データベースが起動されているか確認してください。また、DocumentSpace 構成定義ファイル (docspace.ini) に指定したデータベースのエントリを確認してください。

イベントログにエラーメッセージが出力されている場合、イベントログのエラーメッセージを参照して、エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

#### KMBR19249-E <C,P,F>

---

%1 オプションと%2 オプションで指定するファイルが同じです。

The file that is specified in the %1 option and the %2 option is the same.

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 オプションで指定するファイルと、%2 オプションで指定するファイルに異なるファイルを指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19250-E <C,P,F>

---

実行環境ファイルが壊れているため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because the execution-environment file is corrupted.

(S)

処理を中止します。

(O)

-p オプションを指定して EDMRegEnvId コマンドを実行して、実行環境ファイルを出力してから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR19251-E <C,P,F>**


---

実行環境ファイルの出力に失敗しました。

ファイル名 : %1

要因コード : %2

The execution-environment file could not be output.

File name : %1

Reason code : %2

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

(S)

処理を中止します。

(O)

ファイル名 (%1) および要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

**KMBR19252-E <C,P,F>**


---

この実行環境は実行環境 ID が 0 でないため、-e オプションは指定できません。

The -e option cannot be specified because the execution-environment id is not 0.

(S)

処理を中止します。

(O)

実行環境識別子が 0 の実行環境で、コマンドを再度実行してください。

File Sharing のメタ情報ファイルで構築した環境の場合、-e オプションを指定しないで、コマンドを再度実行してください。

**KMBR19253-E <C,P,F>**


---

現在の環境ではこのコマンドは実行できません。

The command cannot be executed for the current environment.

(S)

処理を中止します。

(O)

File Sharing の環境に移行してから、再度実行してください。

**KMBR19254-W <P,F>**


---

現在の環境に対して移行は必要ありません。

Shifting is not necessary for the current environment.

(S)

移行処理は実行しません。

(O)

このコマンドを実行する必要はありません。

#### KMBR19255-E <P,F>

---

-c オプションの値が不正です。

The -c option is invalid.

(S)

処理を中止します。

(O)

-c オプションに、2~4,096 の範囲の値を指定して、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19256-E <C,P,F>

---

実行環境 ID が 0 ではありません。

The execution-environment id is not 0.

(S)

処理を中止します。

(O)

実行環境識別子が 0 の実行環境で、コマンドを再度実行してください。

#### KMBR19257-W <P,F>

---

指定したオプションを無視します。

オプション: %1

The specified option is ignored.

Option: %1

(S)

指定したオプションを無視して、処理を続行します。

(O)

—

#### KMBR19258-E <C,P,F>

---

必要なオプションを指定していません。

オプション: %1

The required option is not specified.

Option: %1

(S)

処理を中止します。

(O)

%1 に出力されたオプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

KMBR19300-I <P,F>

---

文書空間構築情報を削除しました。

The document space construction information was deleted.

(S)

処理を続行します。

(O)

—

## 4.2 文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンド実行時のエラー要因と対処

文書空間の定義コマンドまたは文書空間の構築コマンドにエラーが発生した場合、次の形式でエラー情報が出力されます。

エラー情報の出力形式

rc=要因コード, reason=理由コード [, func=関数名] [, pos=保守情報 (位置情報)] [, 保守情報]

エラーの要因と対処

エラーの要因と対処を次の表に示します。

表 4-29 エラーの要因と対処

要因コード	エラーの要因	対策
1	内部矛盾。	保守員に連絡してください。
3	システムコールエラーが発生しました。	システムコールが設定したエラー番号 (理由コード※1), システムコールの関数名 (関数名※2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。  システムコールが設定したエラー番号 (理由コード※1), システムコールの関数名 (関数名※2), およびこのメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
5	コマンドでエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。 定義情報ファイル, RD エリア定義情報ファイルまたはインデクス情報ファイルの定義でエラーが発生した場合は、次のように対処してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>このメッセージの前に出力されたメッセージと定義情報ファイル, RD エリア定義情報ファイル, またはインデクス情報ファイルの定義の内容からエラーの要因を特定し、エラー要因を取り除いてください。その後、コマンドを再度実行してください。</li></ul>
6	パラメタ不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
7	メモリ不足です。	メモリを増設してください。またはメモリを大量に消費しているアプリケーションを停止させて、コマンドを再度実行してください。
8	項目がありません。または、指定できない項目です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
13	形式が不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
18	ファイルが存在しません。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
19	ディレクトリが存在しません。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
21	環境が不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。



要因コード	エラーの要因	対策
21	環境が不正です。	{File Sharing サーバのインストールディレクトリ}¥Server¥adm ¥etc_org の下位にあるファイルを、{File Sharing サーバのインストールディレクトリ}¥Server¥etc の下位にコピーして、コマンドを再度実行してください。
30	必須項目が指定されていません。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
45	コマンドの実行順序が正しくありません。	EDMCDefDocSpace -e all コマンドを実行してから、コマンドを再度実行してください。
	EDMCBuildDocSpace コマンドは実行済です。	文書空間の再構築が必要な場合は、データベースを文書空間構築前の状態に回復してください。その後、コマンドを再度実行してください。
62	データベースでエラーが発生しました。	このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
63	値が不正です。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。
64	値がオーバーフローしました。	このメッセージのあとに出力された KMBR16990-I を基に、エラーの要因を取り除いてから、コマンドを再度実行してください。

注※1 理由コード：システムコールが設定したエラー番号を出力します。

注※2 システムコールの関数名を出力します。



# 5

## 詳細エラーメッセージ

この章では, File Sharing で発生したエラーの詳細に関するメッセージについて説明します。

## 5.1 KMBR20000～KMBR29999

---

### KMBR20000-E <D>

---

次のメソッドでエラーを検知しました。

メソッド名：%1

メジャーコード：%2

マイナーコード：%3

An error was detected in the following method.

Method name：%1

Major code：%2

Minor code：%3

メソッド (%1) で、メジャーコード (%2) およびマイナーコード (%3) のエラーを検知しました。

(S)

メソッド処理を実行しています。

(O)

このメッセージのあとに出力されるメッセージを基に、対策を実施してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR21000-E <D>

---

指定ユーザ%1 は認証されませんでした。

要因：オペレーティングシステムの/etc/passwd ファイル、LDAP 又は UOC に登録されていないユーザ名を指定しています。

The user %1 was not authenticated.

Reason：The specified user name is not registered in the /etc/passwd file of the operating system, LDAP, or UOC.

Windows の場合、要因の部分に表示される「オペレーティングシステムの/etc/passwd ファイル」を「Windows のユーザマネージャ」に読み替えてください。

(S)

文書空間との接続処理を中止します。

(O)

採用している認証方式に応じて次の対策のどれかを実施してください。

- Windows のユーザマネージャによる認証の場合  
ユーザマネージャに登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- LDAP 対応のディレクトリサービスによる認証の場合  
LDAP 対応のディレクトリサービスに登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- UOC による認証の場合  
UOC に登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR21001-E <D>

---

指定ユーザ%1 は認証されませんでした。

要因：パスワードが不正です。

The user %1 was not authenticated.

Reason : The password is invalid.

指定したユーザ名のパスワードが、Windows のユーザマネージャ、LDAP 対応のディレクトリサービスまたは UOC に登録されているパスワードと一致していません。

(S)

文書空間との接続処理を中止します。

(O)

採用している認証方式に応じて次の対策のどれかを実施してください。

- Windows のユーザマネージャによる認証の場合  
ユーザマネージャに登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- LDAP 対応のディレクトリサービスによる認証の場合  
LDAP 対応のディレクトリサービスに登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。
- UOC による認証の場合  
UOC に登録されているユーザ名を指定してから、再度接続してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR21002-E <D>

---

ファイル転送受付オブジェクトへのバインドに失敗しました。

オブジェクト名：%1

Binding to an object for file transmission reception failed.

Object name : %1

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

ファイル転送サービスの開始モードの状態に応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- 静的モードで、ファイル転送サービスの開始コマンドを実行していない場合  
ファイル転送サービスの開始コマンドを実行してから、クライアントアプリケーションを再度実行してください。
- 動的モードの場合  
ネットワーク環境を確認してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR21003-E <D>

---

トランザクション処理中のため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because a transaction is being processed.

トランザクション処理中に、ほかのトランザクションを開始しようとしてしました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

トランザクション終了後、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR21004-E <D>

---

トランザクションが開始されていないため、処理を続行できません。

Processing cannot continue because a transaction is not started.

トランザクションが開始されていない状態でトランザクションを有効または無効にしようとしてしました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

トランザクション開始後、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR21005-E <D>

---

データベースへの処理中にエラーが発生しました。

SQL Code : %1

SQL State : %2

An error occurred during processing for a database.

SQL code : %1

SQL state : %2

データベースへのアクセスで SQL Code (%1), SQL State (%2) で示されるエラーが発生しました。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

エラーメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR22001-E <D>

---

CdbrEqStatement::Initialize メソッドを実行した CdbrEqStatement オブジェクトに対して、CdbrEqStatement::Initialize メソッドは実行できません。

The CdbrEqStatement::Initialize method cannot be executed for a CdbrEqStatement object that executed the CdbrEqStatement::Initialize method.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrEqStatement::Initialize メソッドを実行した CdbrEqStatement オブジェクトに対して、CdbrEqStatement::Terminate メソッドを実行してから、CdbrEqStatement::Initialize メソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR22002-E <D>

---

CdbrEqStatement::Set メソッドを実行していない CdbrEqStatement オブジェクトに対して、%1 メソッドは実行できません。

The %1 method cannot be executed for the CdbrEqStatement object for which the CdbrEqStatement::Set method has not been executed.

CdbrEqStatement::Set メソッドで設定する前の edmSQL 文を、CdbrEqStatement::Execute メソッドで実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrEqStatement::Set メソッドを実行していない CdbrEqStatement オブジェクトに対して、CdbrEqStatement::Set メソッドを実行してから、CdbrEqStatement::Execute メソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR22003-E <D>

---

CdbrEqStatement::Execute メソッドを実行していない CdbrEqStatement オブジェクトに対して、CdbrEqStatement::GetResult メソッドは実行できません。

The CdbrEqStatement::GetResult method cannot be executed for the CdbrEqStatement object for which the CdbrEqStatement::Execute method has not been executed.

CdbrEqStatement::Set メソッドで設定済みの edmSQL 文を、CdbrEqStatement::Execute メソッドで実行する前に、CdbrEqStatement::GetResult メソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrEqStatement::Execute メソッドを実行していない CdbrEqStatement オブジェクトに対して、CdbrEqStatement::Execute メソッドを実行してから、CdbrEqStatement::GetResult メソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR22011-E <D>

---

指定したパラメタ (%1) は未サポートのため、%2 メソッドは実行できません。

The %2 method cannot be executed because the specified parameter %1 is not supported.

%2 : CdbrEqStatement クラスのメソッド

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

指定したパラメタ (%1) を修正してから、メソッド (%2) を再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR22021-E <D>

---

CdbrEqStatement::Set メソッドを実行して、CdbrEqStatement オブジェクトに設定した edmSQL 文に構文解析エラーがあるため、%1 メソッドは実行できません。

構文解析情報ファイル名 : %2

The %1 method cannot be executed because there is a syntax analysis error in the edmSQL statement that was set in the CdbrEqStatement object by executing the CdbrEqStatement::Set method.

Name of parse information file : %2

%1 : CdbrEqStatement::Execute メソッド

%2 : 構文解析情報ファイル名または (null)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrEqStatement オブジェクトに設定した edmSQL 文を修正して、CdbrEqStatement::Set メソッドを実行してから、メソッド (%1) を実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR23000-E <D>

---

パラメタ (%1) には、NULL を指定できません。

ユーザ名 : %2

NULL cannot be specified in the parameter %1.

User name : %2

パラメタ (%1) に NULL が指定されているため、処理を続行できません。

%1 : NULL を指定しているパラメタ名

%2 : エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタ (%1) に指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR23001-E <D>

---

パラメタ (%1) に%2 を指定した場合は、パラメタ (%3) に%4 を指定できません。

ユーザ名 : %5

%4 cannot be specified for the parameter %3 when %2 is specified for the parameter %1.

User name : %5



パラメタ (%1) とパラメタ (%3) にそれぞれ指定した値は、組み合わせて使えないため、処理を続行できません。

%1：パラメタ名

%2：パラメタ (%1) に指定した値

%3：パラメタ名

%4：パラメタ (%3) に指定した値

%5：エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタ (%1) に指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR23002-E <D>

---

EDM カタログには、NULL 文字列を指定できません。

ユーザ名：%1

A NULL character string cannot be specified for the EDM catalog.

User name：%1

EDM カタログファイルに NULL が指定されているため、処理を続行できません。

%1：エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR23003-E <D>

---

%1 バイト以上の長さの URL (%2) が指定されているため、処理を続行できません。

ユーザ名：%3

The URL (%2) that has more than %1 bytes was specified, so processing could not continue.

User name：%3

%1 バイト以上の長さの URL (%2) が指定されているため、処理を続行できません。

%1：指定できる URL のバイト数

%2：ユーザが指定した URL

%3：エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR23004-E <D>

---

URL (%1) はサポートされていないプロトコルを使用しています。

ユーザ名：%2

The URL (%1) is using an unsupported protocol.

User name：%2

URL (%1) は File Sharing がサポートしていないプロトコルを使用しているため、処理を続行できません。

%1：ユーザが指定した URL

%2：エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR23005-E <D>

---

URL (%1) が不正です。

ユーザ名：%2

The URL (%1) is invalid.

User name：%2

URL (%1) は URL として認識できないため、処理を続行できません。

%1：ユーザが指定した URL

%2：エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR23006-E <D>

---

EDM カタログのオープンでエラー (%1) が発生しました。

ユーザ名：%2

An error (%1) occurred while the EDM catalog was being opened.

User name : %2

EDM カタログをオープンするときにエラーが発生したため、処理を続行できません。

%1 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

%2 : エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR23007-E <D>

---

EDM カタログの読み出しでエラー (%1) が発生しました。

ユーザ名 : %2

An error (%1) occurred while the EDM catalog was being read.

User name : %2

EDM カタログを読み出すときにエラーが発生したため、処理を続行できません。

%1 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

%2 : エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR23008-E <D>

---

EDM カタログのクローズでエラー (%1) が発生しました。

ユーザ名 : %2

An error (%1) occurred while the EDM catalog was being closed.

User name : %2

EDM カタログをクローズするときにエラーが発生したため、処理を続行できません。

%1 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

%2 : エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR23009-E <D>

---

文書部品識別子が不正です。

文書部品識別子：%1

ユーザ名：%2

The document part ID is invalid.

Document Part ID：%1

User name：%2

%1：エラーになった文書部品識別子

%2：エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した文書部品識別子を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR23010-E <D>

---

指定した構造体 (%1) のメンバ (%2) の値が (%3) であったため、エラーとなりました。

ユーザ名：%4

An error occurred because the value of the member (%2) of the specified structure (%1) is (%3).

User name：%4

%4：エラーが発生したセッションを利用しているユーザ名

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パラメタに指定した構造体の値を見直してから、このメッセージが出力される前に実行したプログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR24000-E <D>

---

構造体%1のメンバ%2の値が%3であったため、エラーになりました。

詳細：%4

プロパティの出現インデクス：%5

プロパティのGUID値：%6

An error occurred because the value of the member %2 of the structure %1 is %3.

Details : %4

Index where the property appears : %5

GUID value of a property : %6

構造体%1 のメンバ%2 の値が%3 であったため、エラーになりました。不正なプロパティは、構造体%1 の%5 で示したインデクスの位置に設定してあります。また、指定したプロパティの GUID 値は%6 です。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す要因一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

表 5-1 KMBR24000-E %4 に出力される詳細別の要因一覧

詳細	要因
Bad PropId	そのクラスには、指定した GUID 値 (%6) のプロパティがありません。
Parameter is out of range	設定した値が許容値の範囲外の値です。
Parameter is incorrect	設定した値が不正です。
PropId duplicated	設定したプロパティが重複しています。
Property is not persistent.	設定したプロパティは永続プロパティではありません。
Property is unavailable.	設定したプロパティは操作できません。

## KMBR24001-E <D>

プロパティ構造体に指定した String 型プロパティの文字列長が許容範囲内がないため、メソッドを実行できません。

文字列長 : %1

プロパティの出現インデクス : %2

プロパティの GUID 値 : %3

The method cannot be executed because the length of a character string of a string- type property specified in a property structure exceeds the permitted range.

Character string length : %1

Index for which a property appears : %2

GUID value of the property : %3

String 型プロパティの文字列長が%1 であるため、許容範囲内にありません。このプロパティは、プロパティ構造体の%2 で示したインデクスの位置に設定してあります。また、指定したプロパティの GUID 値は%3 です。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

プロパティ構造体に指定する String 型プロパティに応じて、次に示す対策を実施してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

- dbrProp\_OwnerId プロパティを指定する場合  
1 バイト～定義長 (dmaProp\_MaximumLengthString プロパティの値) の文字列を指定してください。
- dbrProp\_OwnerId プロパティ以外の String 型プロパティを指定する場合  
0 バイト～定義長 (dmaProp\_MaximumLengthString プロパティの値) の文字列を指定してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR24002-E <D>

構造体 SDBR\_PATHLIST に指定した pItem の %1 番目に指定した要素でエラーになりました。

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

An error occurred by the number %1 element of the specified pItem of the specified structure SDBR\_PATHLIST.

Details1 : %2

Details2 : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す要因一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。詳細 1 に出力されたメッセージが項番 7~10 のとき、詳細 2 には、エラーとなったシステムコールのエラー番号が出力されます。それ以外のときは、「-」が出力されます。システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

表 5-2 KMBR24002-E %2 に出力される詳細別の要因一覧

項番	詳細	要因
1	FilePath is NULL.	ファイルパスに NULL を指定しています。
2	FileName is too long.	ファイル名の長さが 256 バイト以上です。
3	ComponentType is too long.	コンポーネントタイプの文字列長が 256 バイト以上です。
4	File is not found.	指定したファイルがありません。
5	Access Denied.	指定したファイルにアクセスできません。
6	URL is invalid.	指定した URL が不正です。
7	File open failed.	関数 open または fopen でファイルのオープンに失敗しました。
8	File read failed.	関数 fread でファイルの読み込みに失敗しました。
9	File seek failed.	関数 lseek でファイルのシークに失敗しました。
10	File close failed.	関数 close または fclose でファイルのクローズに失敗しました。

## KMBR24003-E &lt;D&gt;

構造体 SDBR\_CONTENTLIST に指定した pItem の%1 番目に指定した要素でエラーになりました。

詳細 1 : %2

詳細 2 : %3

An error occurred by the number %1 element of the specified pItem of the specified structure SDBR\_CONTENTLIST.

Details1 : %2

Details2 : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す要因一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。詳細 1 に出力されたメッセージが項番 8~11 のとき、詳細 2 には、エラーとなったシステムコールのエラー番号が出力されます。それ以外のときは、「-」が出力されます。システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

表 5-3 KMBR24003-E %2 に出力される詳細別の要因一覧

項番	詳細	要因
1	RetrievalName is NULL.	ファイル名に NULL を指定しています。
2	RetrievalName is empty.	ファイル名に空文字列を指定しています。
3	ComponentType is NULL.	コンポーネントタイプに NULL を指定しています。
4	ComponentType is empty.	コンポーネントタイプに空文字列を指定しています。
5	RetrievalName is too long.	ファイル名の長さが 256 バイト以上です。
6	ComponentType is too long.	コンポーネントタイプの文字列長が 256 バイト以上です。
7	Access Denied.	指定したディレクトリにアクセス権がないため、ファイルを作成できません。
8	File open failed.	関数 open または fopen でファイルのオープンに失敗しました。
9	File write failed.	関数 fwrite でファイルの書き込みに失敗しました。
10	File seek failed.	関数 lseek でファイルのシークに失敗しました。
11	File close failed.	関数 close または fclose でファイルのクローズに失敗しました。

## KMBR24004-E &lt;D&gt;

メモリが不足しているため、DocumentSpace 構成定義ファイルの BlobSubstrThreshold エントリに指定したサイズでファイルの取得・格納の処理を続行できません。

Memory became insufficient, so processing to acquire and store files cannot continue by the specified size of BlobSubstrThreshold entry in the DocumentSpace configuration definition file.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。または、DocumentSpace 構成定義ファイルの BlobSubstrThreshold エントリに指定した値を利用可能なサイズに変更する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

### KMBR24007-E <D>

---

XML インデクスデータ作成機能は無効です。

The XML index data creation function is invalid.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

Preprocessing Library for Text Search がインストールされていないか、または Preprocessing Library for Text Search の実行環境が設定されていません。

Preprocessing Library for Text Search をインストールし、次に示す環境変数に Preprocessing Library for Text Search の実行環境を設定してください。そのあと、プログラムを再度実行してください。

- PATH

なお、このエラーメッセージは詳細エラーログファイルには出力されますが、CdbrSession::GetLastDetailError メソッドの引数としては出力されません。

### KMBR24009-E <D>

---

リファレンスファイル機能のコンテンツ操作でエラーが発生しました。

詳細 1 : %1

詳細 2 : %2

詳細 3 : %3

An error occurred in a content operation of a reference file function.

Detail 1 : %1

Detail 2 : %2

Detail 3 : %3

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。詳細 2 に出力される、システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。



表 5-4 KMBR24009-E 要因別の対策一覧

詳細 1	詳細 2	詳細 3	要因	対策
Access Denied.	エラー番号	パス情報	指定したファイルにアクセスできません。	詳細 3 に示すファイルのアクセス権を見直してください。
File open / Directory make failed.	エラー番号	パス情報	関数 open, fopen でファイルのオープン, または mkdir でディレクトリの作成に失敗しました。	ファイル実体格納先ベースパス以下のディレクトリのアクセス権を見直してください。また, 詳細 2 に示すエラー番号から OS のマニュアルを参照し, 対処してください。
File read failed.	エラー番号	パス情報	関数 fread でファイルの読み込みに失敗しました。	詳細 2 に示すエラー番号から OS のマニュアルを参照し, 対処してください。
File write failed.	エラー番号	パス情報	関数 fwrite でファイルの書き込みに失敗しました。	詳細 2 に示すエラー番号から OS のマニュアルを参照し, 対処してください。
File seek failed.	エラー番号	パス情報	関数 lseek でファイルのシークに失敗しました。	詳細 2 に示すエラー番号から OS のマニュアルを参照し, 対処してください。
File close failed.	エラー番号	パス情報	関数 close, fclose でファイルのクローズに失敗しました。	詳細 2 に示すエラー番号から OS のマニュアルを参照し, 対処してください。
File unlink / Directory remove failed.	エラー番号	パス情報	関数 unlink でファイルの削除, または rmdir でディレクトリの削除に失敗しました。	詳細 2 に示すエラー番号から OS のマニュアルを参照し, 対処してください。
FilePath is too long.	—※1	パス情報	ファイル実体の格納パスが長過ぎます。	ファイル実体格納先のベースパス, File Sharing がファイル実体を管理するためのディレクトリ※2, およびファイル名を合わせた長さ (パスの区切り文字も含む) が, 260 バイト未満になっているか見直してください。
Delete path invalid.	—※1	パス情報	削除パスの指定が不正です。	削除パスの指定を見直してください。
Memory insufficient.	—※1	—※1	メモリ不足です。	不要なアプリケーションの実行を終了するなどして, メモリ容量を増やしてください。
Reference path invalid.	エラー番号	パス情報	ファイル実体格納先ベースパスの指定が不正です。	ファイル実体格納先ベースパスの指定を見直してください。
Reference path is not directory.	—※1	パス情報	ファイル実体格納先ベースパスの指定がディレクトリではありません。	ファイル実体格納先ベースパスの指定を見直してください。

詳細 1	詳細 2	詳細 3	要因	対策
Already connected by other user.	コンピュータ名	接続済みのユーザ	UNC で指定したコンピュータはすでにほかのユーザを使用して接続されています。	詳細 2 に示すコンピュータ名をネットワークリソース情報ファイルに定義したユーザで接続して使用するためには、File Sharing サーバを再起動する必要があります。詳細 3 に示す接続済みのユーザを使用する場合には、ネットワークリソース情報ファイルのユーザを変更して File Sharing サーバを再起動してください。
Network resource information invalid.	コンピュータ名	—※1	UNC で指定したコンピュータの指定がネットワークリソース情報ファイルの指定と一致していません。	詳細 2 に示すコンピュータ名の指定およびネットワークリソース情報ファイルの指定を見直してください。
Network resource connection failed.	エラー番号	コンピュータ名	UNC で指定したコンピュータの接続でエラーが発生しました。	詳細 2 に示すエラー番号から OS のマニュアルを参照し、対処してください。
Current version content not found.	エラー番号	パス情報	ファイル実体が存在しません。	該当するファイルを削除したあと、再度ファイルを登録してください。
Reference type mismatch.	指定されたリファレンス種別	ファイルのリファレンス種別	リファレンス種別の指定が、ファイル実体のリファレンス種別と一致していません。	<p>詳細 1 に示す指定されたリファレンス種別と、詳細 2 に示すファイルのリファレンス種別を確認して、指定を見直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• RELATIVE ファイル実体の格納先をユーザ任意のファイルシステム上の領域とし、ファイル実体ロケーションを相対パスで管理するファイルです。</li> <li>• NONE ファイル実体を持たなく、ファイル実体ロケーションを管理しないファイルのことです。</li> </ul>
File read stopped.	読み込み要求サイズと中断した時点の読み込みサイズ※3	パス情報	関数 fread でファイルの読み込みが中断しました。	詳細 3 に示すパス情報を基に、該当するディスクに異常がないかどうかを確認してください。
File write stopped.	書き込み要求サイズと中断した時点の書き込みサイズ※4	パス情報	関数 fwrite でファイルの書き込みが中断しました。	詳細 3 に示すパス情報を基に、該当するディスクに異常がないかどうかを確認してください。

注※1

— (ハイフン) が出力されます。

## 注※2

File Sharing がファイル実体を管理するためのディレクトリについては、マニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

## 注※3

「Request size=XXX Read size=XXX」の形式（XXX：バイト数）で出力されます。

## 注※4

「Request size=XXX Write size=XXX」の形式（XXX：バイト数）で出力されます。

**KMBR24010-E <D>**

引数 (%1) に指定した値 (%2) は不正です。

The value (%2) specified for the argument (%1) is invalid.

引数 (%1) に指定した値 (%2) が不正なため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

引数 (%1) に正しい値を指定してから、プログラムを再度実行してください。

**KMBR25000-E <D>**

オブジェクトに対するアクセス権がないため、メソッドを実行できません。

クラス名 : %1

必要なパーミッション : %2

The method cannot be executed because you do not have access permission for the object.

Class name : %1

Required permission : %2

クラス (%1) のオブジェクトに対するアクセス権がないため、メソッドを実行できません。クラス (%1) のオブジェクトにアクセスする場合、パーミッション (%2) が必要です。

%1 には、次に示すクラスのどれかが出力されます。

- CdbrReferentialContainer
- CdbrConfiguratedReferentialContainer
- CdbrVersionTraceableContainer
- CdbrDocument
- CdbrVersionableDocument
- CdbrSgmlDocument
- CdbrConceptualSgmlDocument
- CdbrVersionableCompoundDtd
- CdbrIndependentPersistent

%2 には、次の表に示すパーミッションのどれかが出力されます。

表 5-5 KMBR25000-E %2 に出力されるパーミッション

%2 に出力されるパーミッション	パーミッションの名称
PRIM_READ_PROPS	基本プロパティ参照権
PRIM_WRITE_PROPS	基本プロパティ更新権
PRIM_READ_CONTENTS	基本コンテンツ参照権
PRIM_WRITE_CONTENTS	基本コンテンツ更新権
PRIM_DELETE	基本オブジェクト削除権
PRIM_LINK	基本リンク権
PRIM_VERSION	基本バージョン管理権

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

セキュリティ管理者に、クラス (%1) のオブジェクトに対するパーミッション (%2) の設定を依頼してください。パーミッション (%2) が設定されたら、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR25001-E <D>

オブジェクト作成権がないため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because you do not have create permission for the object.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

セキュリティ管理者に、オブジェクト作成権の設定を依頼してください。オブジェクト作成権が設定されたら、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR25002-E <D>

アクセス制御情報変更権がないため、メソッドを実行できません。

クラス名 : %1

The method cannot be executed because you do not have change permission for the access control information.

Class name : %1

クラス (%1) のオブジェクトに対するアクセス制御情報変更権がないため、メソッドを実行できません。  
%1 には、次に示すクラスのどれかが出力されます。

- CdbReferentialContainer
- CdbConfiguredReferentialContainer
- CdbVersionTraceableContainer

- CdbrDocument
- CdbrVersionableDocument
- CdbrSgmlDocument
- CdbrConceptualSgmlDocument
- CdbrVersionableCompoundDtd
- CdbrIndependentPersistent
- CdbrPublicACL

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

セキュリティ管理者に、クラス (%1) のオブジェクトに対するアクセス制御情報変更権の設定を依頼してください。アクセス制御情報変更権が設定されたら、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR25003-E <D>

---

オブジェクトの所有者又はセキュリティ管理者ではないため、プロパティの値を更新できません。

プロパティの出現インデクス : %1

プロパティの GUID 値 : %2

The value of the property cannot be changed because you are not the owner of the object nor a security manager.

Index for which the property appears : %1

GUID value of the property : %2

GUID 値 (%2) を持つプロパティは、オブジェクトの所有者またはセキュリティ管理者でしか更新できません。このプロパティは、プロパティ構造体のインデクス (%1) の位置に設定してあります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次に示す対策のどちらかを実施してください。

- セキュリティ管理者にプロパティを更新できるパーミッションの設定を依頼する。パーミッションが設定されたら、プロパティの値を更新する。
- オブジェクトの所有者またはセキュリティ管理者に、プロパティの値の更新を依頼する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR25004-E <D>

---

プロパティ構造体に指定したパーミッションが定義外のため、メソッドを実行できません。

プロパティの出現インデクス : %1

プロパティの GUID 値 : %2

パーミッション : %3

The method cannot be executed because the permission specified for the property structure is out of the definition.

Index for which a property appears : %1

GUID value of the property : %2

Permission : %3

GUID 値 (%2) を持つプロパティを更新しようとしたが、定義外のパーミッション (%3) が設定されています。このプロパティは、プロパティ構造体のインデクス (%1) の位置に設定してあります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パーミッションに、File Sharing で定義している基本パーミッションまたは組み合わせパーミッションの論理和を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR25005-E <D>

---

指定した OIID に該当するパブリック ACL がないため、メソッドを実行できません。

OIID の出現インデクス : %1

OIID : %2

The method cannot be executed because there is no public ACL for the specified OIID.

Index for which OIID appears : %1

OIID : %2

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

文書空間にあるパブリック ACL の OIID (%2) を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR25006-E <D>

---

指定したパブリック ACL の OIID が不正なため、メソッドを実行できません。

OIID の出現インデクス : %1

OIID : %2

The method cannot be executed because the OIID of the specified public ACL is invalid.

Index for which OIID appears : %1

OIID : %2

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

パブリック ACL の OIID (%2) を正しく指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR25007-E <D>**


---

指定した OIID に該当するパブリック ACL はバインドされていないため、メソッドを実行できません。

OIID の出現インデクス : %1

OIID : %2

The method cannot be executed because the public ACL for the specified OIID is not bound.

Index for which OIID appears : %1

OIID : %2

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

指定した OIID (%2) のパブリック ACL をバインドしてから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR25008-E <D>**


---

dbrProp\_PublicACLIds プロパティを更新しようとしたますが、パブリック ACL の OIID の個数が制限を超えたため、メソッドを実行できません。

プロパティの出現インデクス : %1

パブリック ACL の OIID の個数 : %2

An attempt was made to change the dbrProp\_PublicACLIds property, however, the method cannot be executed because the number of the OIIDs of the public ACL exceeds the limit.

Index for which a property appears : %1

Number of OIIDs of public ACL : %2

dbrProp\_PublicACLIds プロパティに指定できるパブリック ACL の数は 10 個です。

dbrProp\_PublicACLIds プロパティに、11 個以上のパブリック ACL を指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

dbrProp\_PublicACLIds プロパティに、10 個以下のパブリック ACL を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR25009-E <D>**


---

プロパティ構造体に指定した ACE の個数が制限を超えたため、メソッドを実行できません。

プロパティの出現インデクス : %1

プロパティの GUID 値 : %2

ACE の個数 : %3

The method cannot be executed because the number of ACEs specified in the property structure exceeds the limit.

Index for which a property appears : %1

GUID value of the property : %2

Number of ACEs : %3

dbrProp\_ACL プロパティおよび dbrProp\_SACL プロパティに指定できる ACE の数は 64 個です。

dbrProp\_ACL プロパティおよび dbrProp\_SACL プロパティに ACE を 65 個以上にすると、エラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

dbrProp\_ACL プロパティおよび dbrProp\_SACL プロパティに、64 個以下の ACE を指定してから、このメッセージが出力される前に実行したメソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR25010-E <D>

---

オブジェクトの所有者またはセキュリティ管理者ではないため、オブジェクトを削除できません。

The object cannot be removed because you are not the owner of the object nor a security manager.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

オブジェクトの所有者またはセキュリティ管理者に、オブジェクトの削除を依頼してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26000-E <D>

---

引数 (%1) に指定した値 (%2) は不正です。

The value (%2) specified for the argument (%1) is invalid.

引数 (%1) に指定した値 (%2) が不正なため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

引数 (%1) に正しい値を指定してから、プログラムを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26001-E <D>

---

%1 バイトのメモリが確保できません。

%1 bytes of memory cannot be allocated.

File Sharing クライアントのメモリが不足しているため、処理を続行できません。



(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

不要なアプリケーションまたはメモリを大量に消費しているアプリケーションを終了してから、処理を再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26002-E <D>

---

セッションは既に接続中のため、CdbSession::Connect メソッドを実行できません。

The CdbSession::Connect method cannot be executed because a session is already connected.

すでに接続中のセッションに対して CdbSession::Connect メソッドを発行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

新規にセッションを生成しようとしている場合は、一度 CdbSession::Disconnect メソッドを発行してください。接続中のセッションを利用する場合は、処理を続行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26003-E <D>

---

セッションが接続されていないため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because a session is not connected.

接続されていないセッションに対して CdbSession::Connect メソッド以外のメソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbSession::Connect メソッドを発行して、セッションを接続状態にしてください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26004-E <D>

---

オブジェクトは OIID (%1) で既に接続中のため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the object is already connected by OIID (%1).

すでに接続中のオブジェクトに対して CdbDMA::SetOIID メソッド、CdbDMA::ConnectObject メソッドまたは CdbDMA::CreateObject メソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

%1：接続しているオブジェクトの OIID

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

処理するオブジェクトに応じて次のどちらかの対策を実施してください。

- 接続中のオブジェクトに対して処理を実行する場合

メソッドを再度実行してください。

- 新規のオブジェクトに対して処理を実行する場合  
新規のオブジェクトを作成してから、メソッドを再度実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26005-E <D>

---

オブジェクトが未接続状態のため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the object is unconnected.

未接続状態のオブジェクトに対して、CdbrDMA::SetOIID メソッド、CdbrDMA::ConnectObject メソッドおよび CdbrDMA::CreateObject メソッドを発行しないで、ほかのメソッドを実行しようとしたため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrDMA::SetOIID メソッド、CdbrDMA::ConnectObject メソッドおよび CdbrDMA::CreateObject メソッドを実行して、オブジェクトを接続状態にしてください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26006-E <D>

---

Query オブジェクトが初期化されていないため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the Query object is not initialized.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrQuery::InitialQuery メソッドを実行して、Query オブジェクトを初期化してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26007-E <D>

---

検索を実行していないため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the query is not executed.

検索を実行していない Query オブジェクトに対して、CdbrQuery::GetSearchResult メソッドなどの検索結果を取得するメソッドを発行しているため、処理を続行できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

Query オブジェクトに対して CdbrQuery::ExecuteSearch メソッドを実行してから、CdbrQuery::GetSearchResult メソッドなどを実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR26008-E <D>

---

OIID が%1 のオブジェクトは既に削除されているため、メソッドを実行できません。

The method cannot be executed because the object with OIID %1 has already been deleted.

%1：削除されたオブジェクトの OIID

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

CdbrQuery::ExecuteSearch メソッドで検索を実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27001-E <D>

---

%1 番目の副問い合わせの解析処理で、エラーが発生しました。

An error occurred during the analysis processing of the number %1 sub-query.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. このメッセージのあとに出力されるメッセージを基に対策を実施する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27011-E <D>

---

lLockType に、DMA\_LOCK\_READ、DMA\_LOCK\_WRITE 又は DBR\_LOCK\_READ\_FOR\_UPDATE 以外を指定しています。

In lLockType, only DMA\_LOCK\_READ, DMA\_LOCK\_WRITE and DBR\_LOCK\_READ\_FOR\_UPDATE can be specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lLockType に、次に示すロック種別のどれかを指定する。
  - ・ DMA\_LOCK\_READ
  - ・ DMA\_LOCK\_WRITE
  - ・ DBR\_LOCK\_READ\_FOR\_UPDATE
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27021-E <D>

---

使用可能なスタックサイズを超える検索を実行しようとした。

An attempt was made to perform a search that exceeds the usable stack size.

次に示すオペレータに、複数の階層で検索条件を指定するとエラーになります。

- dmaQueryOperator\_And オペレータ

- dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- dmaQueryOperator\_AndNot オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 検索条件の階層が必要以上に深くないか確認する。  
例えば、dmaQueryOperator\_And オペレータや dmaQueryOperator\_Or オペレータなどの多項演算が可能なオペレータは同一階層に複数の条件を指定します。
2. 検索条件を最適化する。
3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27031-E <D>

---

SDBR\_QUERYCONDITION 構造体の lMaximumResultItems に、0 又は-2 以下を指定しています。

In lMaximumResultItems of the SDBR\_QUERYCONDITION structure, either -2 or less, or 0 is specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_QUERYCONDITION 構造体で lMaximumResultItems に、-1 または 1 以上を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27101-E <D>

---

FROM 句を指定していません。

The FROM clause is not specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 検索可能クラスを 1 個以上指定した FROM 句を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27111-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx と前の SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx が同じです。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

lOccurx is the same as the lOccurx of a previous SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.lOccurx に、前の SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx と異なる出現インデックスを指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27112-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx に、-1 以下を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx, -1 or less is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.lOccurx に、0 以上を指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27121-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pClassID と前の SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID が異なります。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

pClassID is different from the pClassID of a previous SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

lOccurx と前の SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx が同じ場合、pClassID に、前の SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID と異なる検索可能クラスを指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lOccurx と前の SDBR\_JOINEXPRELT (FROM) 構造体の lOccurx が同じ場合、pClassID に、前の SDBR\_JOINEXPRELT (FROM) 構造体の pClassID と同じ検索可能クラスを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27122-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

pClassID に、dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティにない検索可能クラスを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pClassID, a searchable class that is not in the dmaProp\_ClassDescriptions property of the dmaClass\_DocSpace class is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT (FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pClassID に、dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティ※に定義されている検索可能クラスを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティに定義されているクラスについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_DocSpace] セクションの [dmaClass\_DocSpace/dmaProp\_ClassDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27123-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

pClassID に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_SearchableClassDescriptions プロパティにない検索可能クラスを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pClassID, a searchable class that is not in the dmaProp\_SearchableClassDescriptions property of the dmaClass\_Scope class is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT (FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pClassID に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_SearchableClassDescriptions プロパティ※に定義されている検索可能クラスを指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_SearchableClassDescriptions プロパティに定義されている検索可能クラスについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_Scope] セクションの [dmaClass\_Scope/dmaProp\_SearchableClassDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27131-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

bInclSubclasses に、DMA\_FALSE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In bInclSubclasses, only DMA\_FALSE can be specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. bInclSubclasses に、DMA\_FALSE を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27141-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

pJoinID に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティにないオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pJoinID, an operator that is not in the dmaProp\_Operators property of the dmaClass\_Scope class is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pJoinID に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティ※に定義されているオペレータを指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティに定義されているオペレータについては、File Sharing サーバの動作環境メタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_Scope] セクションの [dmaClass\_Scope/dmaProp\_Operators] セクションを参照してください。

### KMBR27142-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pJoinID に、dmaJoinOperator\_Cross オペレータ、dmaJoinOperator\_LeftOuter オペレータ又は dmaJoinOperator\_RightOuter オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pJoinID, the dmaJoinOperator\_Cross operator, the dmaJoinOperator\_LeftOuter operator or the dmaJoinOperator\_RightOuter operator is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT (FROM)

File Sharing では、クラスの結合に INNER JOIN 以外を指定できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pJoinID に、dmaJoinOperator\_Inner オペレータを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27143-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pJoinID に、dmaJoinOperator\_Inner オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pJoinID, only the dmaJoinOperator\_Inner operator can be specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT (FROM)

File Sharing では、クラスの結合に INNER JOIN 以外を指定できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pJoinID に、dmaJoinOperator\_Inner オペレータを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27144-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。



pJoinID に, dmaProp\_JoinParticipation プロパティが DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERATOR 以外のオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pJoinID, an operator for which the dmaProp\_JoinParticipation property is not DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERATOR is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pJoinID に, dmaProp\_JoinParticipation プロパティ※が DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERATOR のオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_JoinParticipation プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

#### KMBR27145-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pJoinID に, NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pJoinID, NULL is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

複数のクラスを対象にした検索をする場合、pJoinID に NULL を指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pJoinID に, dmaJoinOperator\_Inner オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27146-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pJoinID に, オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pJoinID, an operator is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

結合されるクラスの pJoinID にオペレータを指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pJoinID に、NULL を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27151-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pEqualOp に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティにないオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pEqualOp, an operator that is not in the dmaProp\_Operators property of the dmaClass\_Scope class is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pEqualOp に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティ\*に定義されているオペレータを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティに定義されているオペレータについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_Scope] セクションの [dmaClass\_Scope/dmaProp\_Operators] セクションを参照してください。

## KMBR27152-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pEqualOp に、dmaProp\_AllowsSingleton プロパティが 0 のオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pEqualOp, an operator for which the dmaProp\_AllowsSingleton property is 0 is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

複数のクラスを対象にした検索をする場合、pEqualOp にオペランドが単体でないオペレータを指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pEqualOp に、dmaProp\_AllowsSingleton プロパティ※が 1 のオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_AllowsSingleton プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27153-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pEqualOp に、dmaProp\_JoinParticipation プロパティが DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERAND 以外のオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pEqualOp, an operator for which the dmaProp\_JoinParticipation property is not DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERAND is specified.

%1：SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pEqualOp に、dmaProp\_JoinParticipation プロパティ※が DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERAND のオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_JoinParticipation プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27154-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pEqualOp に、dmaQueryOperator\_EqualBinary オペレータ、dmaQueryOperator\_UnequalBinary オペレータ、dmaQueryOperator\_EqualFloat64 オペレータ、dmaQueryOperator\_UnequalFloat64 オペレータ、dmaQueryOperator\_EqualDateTime オペレータ又は dmaQueryOperator\_UnequalDateTime オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pEqualOp, a following operator is specified: the dmaQueryOperator\_EqualBinary operator, the dmaQueryOperator\_UnequalBinary operator, the dmaQueryOperator\_EqualFloat64 operator, the

dmaQueryOperator\_UnequalFloat64 operator, the dmaQueryOperator\_EqualDateTime operator, or the dmaQueryOperator\_UnequalDateTime operator.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

pEqualOp に、次に示すオペレータのどれかを指定しています。

- dmaQueryOperator\_EqualBinary オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalBinary オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualFloat64 オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalFloat64 オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualDateTime オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalDateTime オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pEqualOp に、次に示すオペレータのどれかを指定する。

- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualId オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalId オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualObject オペレータ

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27155-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pEqualOp に、dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ、dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ、dmaQueryOperator\_EqualBoolean オペレータ、dmaQueryOperator\_UnequalBoolean オペレータ、dmaQueryOperator\_EqualInteger32 オペレータ、dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 オペレータ、dmaQueryOperator\_EqualId オペレータ、dmaQueryOperator\_UnequalId オペレータ又は dmaQueryOperator\_EqualObject オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pEqualOp, an operator other than the following is specified: the dmaQueryOperator\_EqualString operator, the dmaQueryOperator\_UnequalString operator, the dmaQueryOperator\_EqualBoolean operator, the dmaQueryOperator\_UnequalBoolean operator, the dmaQueryOperator\_EqualInteger32 operator, the dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 operator, the dmaQueryOperator\_EqualId operator, the dmaQueryOperator\_UnequalId operator, or the dmaQueryOperator\_EqualObject operator.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

pEqualOp に、次に示すオペレータ以外を指定しています。

- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualId オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalId オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualObject オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pEqualOp に、上記のオペレータのどれかを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27156-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pEqualOp の dmaProp\_OperandDataType プロパティと、pPropID1 又は pPropID2 の dmaProp\_DataType プロパティが異なります。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The dmaProp\_OperandDataType property of pEqualOp is different from the dmaProp\_DataType property of pPropID1 or pPropID2.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pPropID1 および pPropID2 に、dmaProp\_DataType プロパティ<sup>※1</sup>が pEqualOp の dmaProp\_OperandDataType プロパティ<sup>※2</sup>と同じプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※1

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

注※2

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/ dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27161-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx1 又は lOccurx2 に、lOccurx 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx1 or lOccurx2, only lOccurx can be specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.lOccurx1 および lOccurx2 に、pPropID1 および pPropID2 で指定したプロパティに対応する検索可能クラスの出現インデクス (lOccurx) を指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27162-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx1 又は lOccurx2 に-1 以下を指定しているか、lOccurx1 と lOccurx2 に同じ検索可能クラス出現インデクスを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx1 or lOccurx2, -1 or less is specified; or in lOccurx1 and lOccurx2, the same searchable class appearance index is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.lOccurx1 および lOccurx2 に、pPropID1 および pPropID2 で指定したプロパティに対応する 0 以上の異なる検索可能クラスの出現インデクス (lOccurx) を指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27171-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID1 の dmaProp\_DataType プロパティと、pPropID2 の dmaProp\_DataType プロパティが異なります。  
An error occurred at number %2 of the structure %1.

The dmaProp\_DataType property of pPropID1 is different from the dmaProp\_DataType property of pPropID2.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID2 に、pPropID1 の dmaProp\_DataType プロパティ<sup>※</sup>と同じ dmaProp\_DataType プロパティを持つプロパティを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27172-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID1 又は pPropID2 に、dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_SINGLE 以外のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID1 or pPropID2, a property for which the dmaProp\_Cardinality property is not DMA\_CARDINALITY\_SINGLE is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID1 および pPropID2 に、dmaProp\_Cardinality プロパティ<sup>※</sup>が DMA\_CARDINALITY\_SINGLE のプロパティを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_Cardinality プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27173-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID1 又は pPropID2 に、dmaProp\_IsSearchable プロパティが 0 のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID1 or pPropID2, a property for which the dmaProp\_IsSearchable property is 0 is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID1 および pPropID2 に、dmaProp\_IsSearchable プロパティが 1 のプロパティを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_IsSearchable プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27174-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID1 又は pPropID2 に、lOccurx1 又は lOccurx2 に対応した pClassID がないプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID1 or pPropID2, a specified property is not in the pClassID corresponding to lOccurx1 or lOccurx2.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID1 および pPropID2 に、lOccurx1 および lOccurx2 に対応した pClassID に定義されているプロパティをそれぞれ指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27175-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID1 又は pPropID2 に、pEqualOp の dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティがないプロパティを指定しています。



An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID1 or pPropID2, a specified property is not in the dmaProp\_QueryOperatorDescriptions property of pEqualOp.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pPropID1 および pPropID2 に、pEqualOp の dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティに定義されているプロパティをそれぞれ指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27176-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID1 又は pPropID2 に、特殊なプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID1 or pPropID2, a special property is specified.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)

pPropID1 または pPropID2 に、次に示す特殊なプロパティを指定しています。

- edmProp\_TextIndex プロパティ
- edmProp\_StIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptStIndex プロパティ
- edmProp\_Content プロパティ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pPropID1 および pPropID2 に、上記の特殊なプロパティ以外を指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27201-E <D>

---

SELECT 句を指定していません。

The SELECT clause is not specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. プロパティを 1 個以上指定した SELECT 句を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27202-E <D>

オペレータのオペランドに、プロパティを 0 個又は 2 個以上指定した副問い合わせの SELECT 句を指定しています。

In an operator's operand, a SELECT clause of a sub-query that specified no property or 2 or more properties is specified.

次に示すオペレータのオペランドに、プロパティを 0 個または 2 個以上指定した副問い合わせの SELECT 句を指定しています。

- dmaQueryOperator\_InString オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_InId オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualId オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalId オペレータ
- dmaQueryOperator\_InInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualInteger32 オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに、プロパティを 1 個指定した副問い合わせの SELECT 句を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27203-E <D>

---

オペレータのオペランドに、副問い合わせを指定しています。

In an operator's operand, a sub-query is specified.

次に示すオペレータ以外のオペランドに、副問い合わせを指定しています。

- dmaQueryOperator\_Exists オペレータ
- dmaQueryOperator\_InString オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_InId オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualId オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalId オペレータ
- dmaQueryOperator\_InInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualInteger32 オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに、副問い合わせを指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27204-E <D>

---

dmaQueryOperator\_Exists オペレータのオペランドに、プロパティを1個以上指定した副問い合わせの SELECT 句を指定しています。

In a dmaQueryOperator\_Exists operator's operand, the SELECT clause of a sub-query that specified one or more properties is specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. dmaQueryOperator\_Exists オペレータのオペランドに、プロパティを指定しない副問い合わせの SELECT 句を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27211-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx に、-1 以下を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx, -1 or less is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lOccurx に、0 以上を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27212-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx に、SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx, only lOccurx of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure can be specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lOccurx に、SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27213-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に、 dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティにない検索可能クラスを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure corresponding to lOccurx, a searchable class that is not in the dmaProp\_ClassDescriptions property of the dmaClass\_DocSpace class is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に、 dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティ※に定義されている検索可能クラスを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティに定義されている検索可能クラスについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_DocSpace] セクションの [dmaClass\_DocSpace/dmaProp\_ClassDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27214-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に、 dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_SearchableClassDescriptions プロパティにない検索可能クラスを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure corresponding to lOccurx, a searchable class that is not in the dmaProp\_SearchableClassDescriptions property of the dmaClass\_Scope class is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT (FROM) 構造体の pClassID に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_SearchableClassDescriptions プロパティ<sup>\*</sup>に定義されている検索可能クラスを指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_SearchableClassDescriptions プロパティに定義されている検索可能クラスについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_Scope] セクションの [dmaClass\_Scope/dmaProp\_SearchableClassDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27221-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_SINGLE 又は EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY 以外のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a property for which the dmaProp\_Cardinality property is not DMA\_CARDINALITY\_SINGLE or EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pPropID に、dmaProp\_Cardinality プロパティ<sup>\*</sup>が DMA\_CARDINALITY\_SINGLE または EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY のプロパティを指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_Cardinality プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27222-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、dmaProp\_Cardinality プロパティが EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a property for which the dmaProp\_Cardinality property is EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

副問い合わせの SELECT 句にプロパティを指定している場合、pPropID に、dmaProp\_Cardinality プロパティが EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY のプロパティを指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pPropID に、dmaProp\_Cardinality プロパティ<sup>※</sup>が EDM\_DMA\_CARDINALITY\_SINGLE のプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_Cardinality プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27223-E <D>

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_OBJECT で、dmaProp\_Cardinality プロパティが EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY 以外のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a property for which the dmaProp\_DataType property is DMA\_DATATYPE\_OBJECT and the dmaProp\_Cardinality property is not EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティ<sup>※1</sup>が DMA\_DATATYPE\_OBJECT で、dmaProp\_Cardinality プロパティ<sup>※2</sup>が EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY のプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※1

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

注※2

プロパティの dmaProp\_Cardinality プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27224-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_OBJECT のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a property for which the dmaProp\_DataType property is DMA\_DATATYPE\_OBJECT is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

副問い合わせの SELECT 句にプロパティを指定している場合、pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_OBJECT のプロパティを指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティ※が次に示す値を持つプロパティを指定する。

- ・ DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN
- ・ DMA\_DATATYPE\_ID
- ・ DMA\_DATATYPE\_INTEGER32
- ・ DMA\_DATATYPE\_STRING

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27225-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、dmaProp\_IsSelectable プロパティが 0 のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a property for which the dmaProp\_IsSelectable property is 0 is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.pPropID に、dmaProp\_IsSelectable プロパティ※が 1 のプロパティを指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。



## 注※

プロパティの dmaProp\_IsSelectable プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27226-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、edmProp\_Count プロパティ、edmProp\_Score プロパティ、edmProp\_ScoreConcept プロパティ、edmProp\_Content プロパティ、edmProp\_TextIndex プロパティ、edmProp\_StIndex プロパティ、edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ又は edmProp\_ConceptStIndex プロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a following property is specified: the edmProp\_Count property, the edmProp\_Score property, the edmProp\_ScoreConcept property, the edmProp\_Content property, the edmProp\_TextIndex property, the edmProp\_StIndex property, the edmProp\_ConceptTextIndex property, or the edmProp\_ConceptStIndex property.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

IOccurx に DBR\_COUNT マクロを指定している場合、pPropID に次に示すプロパティを指定するとエラーになります。

- edmProp\_Count プロパティ
- edmProp\_Score プロパティ
- edmProp\_ScoreConcept プロパティ
- edmProp\_Content プロパティ
- edmProp\_TextIndex プロパティ
- edmProp\_StIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptStIndex プロパティ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. pPropID に、上記のプロパティ以外を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27227-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、edmProp\_Count プロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, the edmProp\_Count property is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

SELECT 句にプロパティを 2 個以上指定している場合、pPropID に edmProp\_Count プロパティを指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID に、edmProp\_Count プロパティ以外を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27228-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID がないプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a specified property is not in the pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure corresponding to lOccurx.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID に、lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に定義されているプロパティを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27229-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

pPropID に、特殊なプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID, a special property is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

pPropID に、次に示す特殊なプロパティを指定しています。

- edmProp\_TextIndex プロパティ
- edmProp\_StIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptStIndex プロパティ
- edmProp\_Content プロパティ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID に、上記の特殊なプロパティ以外を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27231-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

上位オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティと、pPropID の dmaProp\_DataType プロパティが異なります。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The dmaProp\_OperandDataType property of the upper operator is different from the dmaProp\_DataType property of pPropID.

%1：SDBR\_PROPERTY(SELECT)

副問い合わせの SELECT 句にプロパティを指定している場合、pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティが上位オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティと異なるプロパティを指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティ※1 が上位オペレータの dmaProp\_OperandDataType※2 プロパティと同じ値を持つプロパティを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※1

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

注※2

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27232-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに、副問い合わせを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, a sub-query is specified.

%1 : SDBR\_PROPERTY(SELECT)

次に示すオペレータ以外のオペランドに、副問い合わせを指定しています。

- dmaQueryOperator\_Exists オペレータ
- dmaQueryOperator\_InString オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_InId オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualId オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalId オペレータ
- dmaQueryOperator\_InInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualInteger32 オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに、副問い合わせを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27301-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

InNodeLevel に、0 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In InNodeLevel, only 0 can be specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lNodeLevel に、0 を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27311-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

lNodeType に、DDBR\_OPERATOR\_NODETYPE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lNodeType, only DDBR\_OPERATOR\_NODETYPE can be specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

ノードにオペレータを指定した場合、lNodeType に、DDBR\_OPERATOR\_NODETYPE 以外を指定するとエラーになります。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lNodeType に、DDBR\_OPERATOR\_NODETYPE を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27312-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

lNodeType に、DDBR\_STOPPER\_NODETYPE, DDBR\_OPERATOR\_NODETYPE, DDBR\_STRINGCONST\_NODETYPE, DDBR\_BOOLEANCONST\_NODETYPE, DDBR\_INTEGERCONST\_NODETYPE, DDBR\_IDCONST\_NODETYPE, DDBR\_PROPERTY\_NODETYPE, DDBR\_QUERYROOT\_NODETYPE, DDBR\_STRINGSCONST\_NODETYPE, DDBR\_BOOLEANSCONST\_NODETYPE, DDBR\_INTEGERSCONST\_NODETYPE, DDBR\_IDSCONST\_NODETYPE 又は DDBR\_ARRAYPROPERTY\_NODETYPE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lNodeType, something other than the following is specified: DDBR\_STOPPER\_NODETYPE, DDBR\_OPERATOR\_NODETYPE, DDBR\_STRINGCONST\_NODETYPE, DDBR\_BOOLEANCONST\_NODETYPE, DDBR\_INTEGERCONST\_NODETYPE, DDBR\_IDCONST\_NODETYPE, DDBR\_PROPERTY\_NODETYPE, DDBR\_QUERYROOT\_NODETYPE, DDBR\_STRINGSCONST\_NODETYPE, DDBR\_BOOLEANSCONST\_NODETYPE, DDBR\_INTEGERSCONST\_NODETYPE, DDBR\_IDSCONST\_NODETYPE, or DDBR\_ARRAYPROPERTY\_NODETYPE.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

INodeType に、次に示す値以外を指定しています。

- DDBR\_STOPPER\_NODETYPE
- DDBR\_OPERATOR\_NODETYPE
- DDBR\_STRINGCONST\_NODETYPE
- DDBR\_BOOLEANCONST\_NODETYPE
- DDBR\_INTEGERCONST\_NODETYPE
- DDBR\_IDCONST\_NODETYPE
- DDBR\_PROPERTY\_NODETYPE
- DDBR\_QUERYROOT\_NODETYPE
- DDBR\_STRINGSCONST\_NODETYPE
- DDBR\_BOOLEANSCONST\_NODETYPE
- DDBR\_INTEGERSCONST\_NODETYPE
- DDBR\_IDSCONST\_NODETYPE
- DDBR\_ARRAYPROPERTY\_NODETYPE

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. INodeType に、上記の値のどれかを指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27321-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_BINARY 以外のオペランドに、SDBR\_BINARYCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_OperandDataType property of an operator is not DMA\_DATATYPE\_BINARY, the SDBR\_BINARYCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ※が DMA\_DATATYPE\_BINARY のオペランドに、SDBR\_BINARYCONST 構造体を指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## 注※

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27322-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN 以外のオペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_OperandDataType property of an operator is not DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN, the SDBR\_BOOLEANCONST structure is specified.

%1：SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ\*が DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN のオペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## 注※

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27323-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_DATETIME 以外のオペランドに、SDBR\_DATETIMECONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_OperandDataType property of an operator is not DMA\_DATATYPE\_DATETIME, the SDBR\_DATETIMECONST structure is specified.

%1：SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ※が DMA\_DATATYPE\_DATETIME のオペランドに、SDBR\_DATETIMECONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27324-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_FLOAT64 以外のオペランドに、SDBR\_FLOATCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_OperandDataType property of an operator is not DMA\_DATATYPE\_FLOAT64, the SDBR\_FLOATCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ※が DMA\_DATATYPE\_FLOAT64 のオペランドに、SDBR\_FLOATCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27325-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_ID 以外のオペランドに、SDBR\_IDCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_OperandDataType property of an operator is not DMA\_DATATYPE\_ID, the SDBR\_IDCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)



(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ<sup>\*</sup>が DMA\_DATATYPE\_ID のオペランドに、SDBR\_IDCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注<sup>\*</sup>

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27326-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_INTEGER32 以外のオペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_OperandDataType property of an operator is not DMA\_DATATYPE\_INTEGER32, the SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ<sup>\*</sup>が DMA\_DATATYPE\_INTEGER32 のオペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注<sup>\*</sup>

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27327-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_STRING 以外のオペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_OperandDataType property of an operator is not DMA\_DATATYPE\_STRING, the SDBR\_STRINGCONST structure is specified

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ<sup>※</sup>が DMA\_DATATYPE\_STRING のオペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini : 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini : 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27328-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

上位オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティと、下位オペランドの SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の pPropID の dmaProp\_DataType プロパティが異なります。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The dmaProp\_OperandDataType property of the upper operator is different from the dmaProp\_DataType property of pPropID of the lower operand's SDBR\_PROPERTY structure or the lower operand's SDBR\_ARRAYPROPERTY structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 下位オペランドの SDBR\_PROPERTY 構造体または SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体で pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティ<sup>※1</sup> が上位オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ<sup>※2</sup> と同じ値を持つプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※1

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## 注※2

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27329-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

上位オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティと、下位オペレータの dmaProp\_ResultType プロパティが異なります。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The dmaProp\_OperandDataType property of the upper operand is different from the dmaProp\_ResultType property of the lower operand.

%1：SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 下位オペレータに、dmaProp\_ResultType プロパティ※1 が上位オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティ※2 と同じオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## 注※1

オペレータの dmaProp\_ResultType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションを参照してください。

## 注※2

オペレータの dmaProp\_OperandDataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27331-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_AllowsSingleton プロパティが 0 のオペランドに、dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_SINGLE のオペランドを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_AllowsSingleton property of an operator is 0, an operand for which the dmaProp\_Cardinality property is DMA\_CARDINALITY\_SINGLE is specified.

%1：SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_AllowsSingleton プロパティ<sup>※</sup>が 1 のオペランドに、dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_SINGLE のオペランドを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_AllowsSingleton プロパティに定義する値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini: 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini: 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27332-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_AllowsSingleton プロパティが 0 のオペランドに SDBR\_PROPERTY 構造体を指定しているか、SDBR\_PROPERTY 構造体で pPropID に dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_SINGLE 以外のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_AllowsSingleton property of an operator is 0, the SDBR\_PROPERTY structure is specified, or in pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure, the property for which the dmaProp\_Cardinality property is not DMA\_CARDINALITY\_SINGLE is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_AllowsSingleton プロパティ<sup>※</sup>が 1 のオペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体を指定する。
2. 手順 1 で指定した構造体で、pPropID に dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_SINGLE のプロパティを指定する。
3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_AllowsSingleton プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini: 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini: 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27341-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_AllowsList プロパティが 0 のオペランドに、dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_LIST のオペランドを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_AllowsList property of an operator is 0, an operand for which the dmaProp\_Cardinality property is DMA\_CARDINALITY\_LIST is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_AllowsList プロパティ\*が 1 のオペランドに、dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_LIST のオペランドを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_AllowsList プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini: 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini: 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/ dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27351-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_AllowsConstant プロパティが 0 のオペランドに、定数のオペランドを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_AllowsConstant property of an operator is 0, an operand of a constant is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_AllowsConstant プロパティが 1 のオペランド\*に、次に示す定数のどれかを指定する。
  - ・ FALSE
  - ・ TRUE
  - ・ UNKNOWN
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## 注※

オペレータの dmaProp\_AllowsConstant プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27361-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータの dmaProp\_AllowsProperty プロパティが 0 のオペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_AllowsProperty property of an operator is 0, the SDBR\_PROPERTY structure or the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータの dmaProp\_AllowsProperty プロパティ※が 1 のオペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体または SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## 注※

オペレータの dmaProp\_AllowsProperty プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27371-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_OPERATOR 構造体の pID に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティにないオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pID of the SDBR\_OPERATOR structure, an operator that is not in the dmaProp\_Operators property of the dmaClass\_Scope class is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_OPERATOR 構造体で pID に、dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティ※に定義されているオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_Scope クラスの dmaProp\_Operators プロパティに定義されているオペレータについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_Scope] セクションの [dmaClass\_Scope/dmaProp\_Operators] セクションを参照してください。

## KMBR27372-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_OPERATOR 構造体の pID に、dmaProp\_JoinParticipation プロパティが DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_NONE 又は DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERAND 以外のオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pID of the SDBR\_OPERATOR structure, an operator for which the dmaProp\_JoinParticipation property is not DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_NONE or not DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERAND is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_OPERATOR 構造体で pID に、dmaProp\_JoinParticipation プロパティ※が DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_NONE または DMA\_JOIN\_PARTICIPATION\_OPERAND のオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_JoinParticipation プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27373-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_OPERATOR 構造体の pID に、不正なオペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pID of the SDBR\_OPERATOR structure, an invalid operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

SDBR\_OPERATOR 構造体で pID に、次に示すオペレータ以外を指定しています。

- dmaQueryOperator\_And オペレータ

- dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- dmaQueryOperator\_Not オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualId オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalId オペレータ
- dmaQueryOperator\_EqualObject オペレータ
- dmaQueryOperator\_IsNull オペレータ
- dmaQueryOperator\_Like オペレータ
- dmaQueryOperator\_AddInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_SubtractInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_NegateInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_AbsoluteValueInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_MultiplyInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_DivideInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_Exists オペレータ
- dmaQueryOperator\_InBoolean オペレータ
- dmaQueryOperator\_InString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InInteger32 オペレータ
- dmaQueryOperator\_InId オペレータ
- edmQueryOperator\_Contains オペレータ
- edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ
- edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ
- edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
- edmQueryOperator\_Prox オペレータ



- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ
- edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- edmQueryOperator\_Dot オペレータ
- edmQueryOperator\_Arrow オペレータ
- edmQueryOperator\_Xlike オペレータ
- edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ
- edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータ
- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_OPERATOR 構造体で pID に、上記のオペレータのどれかを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27381-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータに、dmaProp\_MaximumOperands プロパティより多いオペランドを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator, more operands than the dmaProp\_MaximumOperands property are specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータに、dmaProp\_MaximumOperands プロパティ※以下のオペランドを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_MaximumOperands プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini : 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini : 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションを参照してください。

### KMBR27382-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータに、dmaProp\_MinimumOperands プロパティより少ないオペランドを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator, fewer operands than the dmaProp\_MinimumOperands property are specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータに、 dmaProp\_MinimumOperands プロパティ\*以上のオペランドを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_MinimumOperands プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini : 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini : 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションを参照してください。

### KMBR27391-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに、NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, NULL is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータのオペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27392-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, NULL is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータのオペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で, pVal に文字列を指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27393-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに, SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst に NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, NULL is specified in pStringConst of the SDBR\_STRINGSCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータのオペランドに指定した SDBR\_STRINGSCONST 構造体で, pStringConst に SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27394-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに, SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst の pVal に NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, NULL is specified in pVal of pStringConst of the SDBR\_STRINGSCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. オペレータのオペランドに指定した SDBR\_STRINGSCONST 構造体で, pStringConst の pVal に文字列を指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27395-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に文字数が 133 以外の文字列を指定しているか、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst の pVal に文字数が 133 以外の文字列を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, a character string whose character count is not 133 is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure, or is specified in pVal of pStringConst of the SDBR\_STRINGSCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータのオペランドに指定した SDBR\_PROPERTY 構造体で、pPropID に dmaProp\_OIID プロパティを指定している場合、そのオペレータのオペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で、pVal に 133 文字以外の文字列を指定したり、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で、pStringConst の pVal に 133 文字以外の文字列を指定したりできません。

- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InString オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で、pVal に 133 文字の文字列を指定するか、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で、pStringConst の pVal に 133 文字の文字列を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27396-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に "dma:/// " 以外で始まる文字列を指定しているか、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst の pVal に "dma:/// " 以外で始まる文字列を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, a character string not beginning with dma:/// is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure, or it is specified in pVal of pStringConst of the SDBR\_STRINGSCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータのオペランドに指定した SDBR\_PROPERTY 構造体で、pPropID に dmaProp\_OIID プロパティを指定している場合、そのオペレータのオペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体

で、pVal に"dma:://"で始まる文字列以外を指定したり、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で、pStringConst の pVal に"dma:://"で始まる文字列以外を指定したりできません。

- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InString オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに指定した SDBR\_STRINGSCONST 構造体で、pVal に"dma:://"で始まる文字列を指定するか、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で、pStringConst の pVal に"dma:://"で始まる文字列を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27401-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

オペレータのオペランドに、edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は edmQueryOperator\_Arrow オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operator's operand, the edmQueryOperator\_Dot operator or the edmQueryOperator\_Arrow operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータ以外のオペランドに、edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータを指定しています。

- dmaQueryOperator\_EqualString
- dmaQueryOperator\_UnequalString
- dmaQueryOperator\_GreaterString
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString
- dmaQueryOperator\_LessString
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString
- dmaQueryOperator\_EqualBoolean
- dmaQueryOperator\_UnequalBoolean
- dmaQueryOperator\_EqualInteger32
- dmaQueryOperator\_UnequalInteger32

- dmaQueryOperator\_GreaterInteger32
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualInteger32
- dmaQueryOperator\_LessInteger32
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualInteger32
- dmaQueryOperator\_EqualId
- dmaQueryOperator\_UnequalId
- dmaQueryOperator\_EqualObject
- dmaQueryOperator\_Like
- edmQueryOperator\_Xlike

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに、edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27411-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ, dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ, dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ, dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ, dmaQueryOperator\_LessString オペレータ, dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ又は dmaQueryOperator\_InString オペレータのオペランドに、NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

NULL is specified in an operand of a following operator: the dmaQueryOperator\_EqualString operator, the dmaQueryOperator\_UnequalString operator, the dmaQueryOperator\_GreaterString operator, the dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString operator, the dmaQueryOperator\_LessString operator, the dmaQueryOperator\_LessOrEqualString operator, or the dmaQueryOperator\_InString operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータのオペランドには、NULL を指定できません。

- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InString オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに、次に示す構造体のどれかを指定する。

- ・ SDBR\_STRINGCONST 構造体
- ・ SDBR\_STRINGSCONST 構造体
- ・ SDBR\_PROPERTY 構造体
- ・ SDBR\_QUERYROOT 構造体

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27421-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

dmaQueryOperator\_Exists オペレータに、オペランドを 0 個又は 2 個以上指定しているか、  
dmaQueryOperator\_Exists オペレータのオペランドに、SDBR\_QUERYROOT 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the dmaQueryOperator\_Exists operator, no operand is specified or two or more operands are specified; or in an operand of the dmaQueryOperator\_Exists operator, something other than an SDBR\_QUERYROOT structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. dmaQueryOperator\_Exists オペレータのオペランドに、SDBR\_QUERYROOT 構造体を 1 個だけ指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27431-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

dmaQueryOperator\_Like オペレータ又は edmQueryOperator\_Xlike オペレータの  
dmaProp\_AllowsExpression プロパティが 0 のオペランドに、edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は  
edmQueryOperator\_Arrow オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which the dmaProp\_AllowsExpression property of the dmaQueryOperator\_Like operator or edmQueryOperator\_Xlike operator is 0, an operator other than the edmQueryOperator\_Dot operator or the edmQueryOperator\_Arrow operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. dmaQueryOperator\_Like オペレータまたは edmQueryOperator\_Xlike オペレータの dmaProp\_AllowsExpression プロパティ<sup>\*</sup>が 0 のオペランドに、次に示すオペレータのどちらかを指定する。

- ・ edmQueryOperator\_Dot オペレータ
- ・ edmQueryOperator\_Arrow オペレータ

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaQueryOperator\_Like オペレータまたは edmQueryOperator\_Xlike オペレータの dmaProp\_AllowsExpression プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini : 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini : 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27432-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

dmaQueryOperator\_Like オペレータ又は edmQueryOperator\_Xlike オペレータ以外の dmaProp\_AllowsExpression プロパティが 0 のオペランドに、オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand for which 0 is specified for the dmaProp\_AllowsExpression property of an operator other than the dmaQueryOperator\_Like operator or the edmQueryOperator\_Xlike operator, an operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. dmaQueryOperator\_Like オペレータまたは edmQueryOperator\_Xlike オペレータ以外の dmaProp\_AllowsExpression プロパティ<sup>\*</sup>が 1 のオペランドに、オペレータを指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaQueryOperator\_Like オペレータまたは edmQueryOperator\_Xlike オペレータの dmaProp\_AllowsExpression プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini : 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini : 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27441-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。



edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は edmQueryOperator\_Arrow オペレータのオペランドに、オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand of the edmQueryOperator\_Dot operator or the edmQueryOperator\_Arrow operator, an operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータのオペランドに、オペレータ以外を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27442-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_Dot operator or edmQueryOperator\_Arrow operator, something other than an SDBR\_ARRAYPROPERTY structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27443-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 1 オペランド以外に、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand other than the first operand of the edmQueryOperator\_Dot operator or edmQueryOperator\_Arrow operator, the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27444-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Dot operator or edmQueryOperator\_Arrow operator, something other than an SDBR\_PROPERTY structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27445-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 2 オペランド以外に、SDBR\_PROPERTY 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In a location other than the second operand of the edmQueryOperator\_Dot operator or edmQueryOperator\_Arrow operator, the SDBR\_PROPERTY structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27446-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Dot オペレータ又は edmQueryOperator\_Arrow オペレータ以外のオペランドに、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand other than the edmQueryOperator\_Dot operator or edmQueryOperator\_Arrow operator, the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_Dot オペレータまたは edmQueryOperator\_Arrow オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27451-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

メタ情報に指定している edmQueryOperator\_Contains オペレータ、edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ、edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ、edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータ、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ、edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ、edmQueryOperator\_Prox オペレータ、edmQueryOperator\_Soundex オペレータ、edmQueryOperator\_Synonym オペレータ又は edmQueryOperator\_AndNot オペレータの dmaProp\_OperandDescriptions プロパティにあるオペランドの個数が不正です。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the dmaProp\_OperandDescriptions property of one of the following operators, the number of operands that is specified in meta information is invalid: the edmQueryOperator\_Contains operator, the edmQueryOperator\_ContainsWithScore operator, the edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight operator, the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, the edmQueryOperator\_EqualContent operator, the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, the edmQueryOperator\_Prox operator, the edmQueryOperator\_Soundex operator, the edmQueryOperator\_Synonym operator, or the edmQueryOperator\_AndNot operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータの dmaProp\_OperandDescriptions プロパティに、オペランド個数以外の dmaProp\_OperandDescription プロパティを定義しています。

- edmQueryOperator\_Contains オペレータ
- edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ

- edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ
- edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータ
- edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ
- edmQueryOperator\_AndNot オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータの dmaProp\_OperandDescriptions プロパティに、オペランド個数の dmaProp\_OperandDescription プロパティ※を定義する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_OperandDescriptions プロパティに定義されている dmaProp\_OperandDescription プロパティの個数については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini：検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini：拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27452-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Contains オペレータ, edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ, edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ又は edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータ以外のオペランドの下位に, edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ, edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ, edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ, edmQueryOperator\_Prox オペレータ, edmQueryOperator\_Soundex オペレータ又は edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the lower part of an operand (other than for the operators edmQueryOperator\_Contains, edmQueryOperator\_ContainsWithScore, edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight, or edmQueryOperator\_ConceptWithScore), a following operator is specified:

edmQueryOperator\_SpecificAnd, edmQueryOperator\_EqualContent, edmQueryOperator\_RelativeContent, edmQueryOperator\_Prox, edmQueryOperator\_Soundex, or edmQueryOperator\_Synonym.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

1~4 のオペレータ以外のオペランドの下位には, 5~10 のオペレータを指定できません。

1. edmQueryOperator\_Contains オペレータ
2. edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ

- 3.edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ
- 4.edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータ
- 5.edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ
- 6.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
- 7.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- 8.edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- 9.edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- 10.edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.上記の 1~4 のオペレータのオペランドの下位に、上記の 5~10 のオペレータを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27453-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Contains オペレータ, edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ又は edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータのオペランドの下位に, dmaQueryOperator\_And オペレータ, dmaQueryOperator\_Or オペレータ, dmaQueryOperator\_Not オペレータ, edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ, edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ, edmQueryOperator\_Prox オペレータ, edmQueryOperator\_Soundex オペレータ, edmQueryOperator\_Synonym オペレータ又は edmQueryOperator\_AndNot オペレータ以外を指定していません。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the lower part of an operand of the edmQueryOperator\_Contains operator, edmQueryOperator\_ContainsWithScore operator or edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight, an operator other than the following operators is specified: dmaQueryOperator\_And, dmaQueryOperator\_Or, dmaQueryOperator\_Not, edmQueryOperator\_SpecificAnd, edmQueryOperator\_EqualContent, edmQueryOperator\_Prox, edmQueryOperator\_Soundex, edmQueryOperator\_Synonym, or edmQueryOperator\_AndNot operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す 1~3 のオペレータのオペランドの下位には、4~12 のオペレータ以外を指定できません。

- 1.edmQueryOperator\_Contains オペレータ
- 2.edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ
- 3.edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ
- 4.dmaQueryOperator\_And オペレータ
- 5.dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- 6.dmaQueryOperator\_Not オペレータ
- 7.edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ

- 8.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
- 9.edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- 10.edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- 11.edmQueryOperator\_Synonym オペレータ
- 12.edmQueryOperator\_AndNot オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.上記の1～3のオペレータのオペランドの下位に、上記の4～12のオペレータを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力されたKMBR20000-Eで示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27454-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Contains オペレータ, edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ又は edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータの第1オペランドに, edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ, edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ, edmQueryOperator\_AndNot オペレータ, dmaQueryOperator\_And オペレータ, dmaQueryOperator\_Or オペレータ又は dmaQueryOperator\_Not オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_Contains operator, edmQueryOperator\_ContainsWithScore operator or edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight operator, an operator other than one of the following operators is specified: edmQueryOperator\_SpecificAnd, edmQueryOperator\_EqualContent, edmQueryOperator\_AndNot, dmaQueryOperator\_And, dmaQueryOperator\_Or or dmaQueryOperator\_Not operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す1～3のオペレータの第1オペランドに、4～9以外のオペレータを指定しています。

- 1.edmQueryOperator\_Contains オペレータ
- 2.edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ
- 3.edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ
- 4.edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ
- 5.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
- 6.edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- 7.dmaQueryOperator\_And オペレータ
- 8.dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- 9.dmaQueryOperator\_Not オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記の 1~3 のオペレータの第 1 オペランドに、上記の 4~9 のオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27455-E <D>

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Contains オペレータ、edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ又は edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータの第 1 オペランド以外に、edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ、edmQueryOperator\_AndNot オペレータ、dmaQueryOperator\_And オペレータ、dmaQueryOperator\_Or オペレータ又は dmaQueryOperator\_Not オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand other than the first operand of the edmQueryOperator\_Contains operator, edmQueryOperator\_ContainsWithScore operator, or edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight operator, a following operator is specified: the edmQueryOperator\_SpecificAnd operator, the edmQueryOperator\_EqualContent operator, the edmQueryOperator\_AndNot operator, the dmaQueryOperator\_And operator, the dmaQueryOperator\_Or operator, or the dmaQueryOperator\_Not operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す 1~3 のオペレータの第 1 オペランド以外に、4~9 のオペレータを指定しています。

1. edmQueryOperator\_Contains オペレータ
2. edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータ
3. edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータ
4. edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ
5. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
6. edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
7. dmaQueryOperator\_And オペレータ
8. dmaQueryOperator\_Or オペレータ
9. dmaQueryOperator\_Not オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記の 1~3 のオペレータの第 1 オペランドに、上記の 4~9 のオペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27461-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_ContainsWithScore operator, NULL is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータの第 1 オペランドに、次に示すオペレータのどれかを指定する。

- ・ dmaQueryOperator\_And オペレータ
- ・ dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- ・ dmaQueryOperator\_Not オペレータ
- ・ edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- ・ edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
- ・ edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27462-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体以外を指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体で bVal に DMA\_FALSE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_ContainsWithScore operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_BOOLEANCONST structure is specified, or something other than DMA\_FALSE is specified in bVal of the SDBR\_BOOLEANCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.edmQueryOperator\_ContainsWithScore オペレータの第 2 オペランドに SDBR\_BOOLEANCONST 構造体を指定する。

2.手順 1 で指定した構造体で、bVal に DMA\_FALSE を指定する。

3.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。



**KMBR27471-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight operator, NULL is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータの第 1 オペランドに、次に示すオペレータのどれかを指定する。

- ・ dmaQueryOperator\_And オペレータ
- ・ dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- ・ dmaQueryOperator\_Not オペレータ
- ・ edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- ・ edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ
- ・ edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータ

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27472-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified, or NULL is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_ContainsWithHighlight オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。

2. 手順 1 で指定した構造体で、pVal にハイライトタグ名を指定する。

3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27481-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータのオペランドに、edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ、edmQueryOperator\_AndNot オペレータ、dmaQueryOperator\_And オペレータ、dmaQueryOperator\_Or オペレータ又は dmaQueryOperator\_Not オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, something other than the following is specified: the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, the edmQueryOperator\_AndNot operator, the dmaQueryOperator\_And operator, the dmaQueryOperator\_Or operator, or the dmaQueryOperator\_Not operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータのオペランドに、次に示すオペレータ以外を指定しています。

- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- dmaQueryOperator\_And オペレータ
- dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- dmaQueryOperator\_Not オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータのオペランドに、上記のオペレータのどれかを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27482-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータのオペランドの下位に、dmaQueryOperator\_And オペレータ、dmaQueryOperator\_Or オペレータ、edmQueryOperator\_AndNot オペレータ、dmaQueryOperator\_Not オペレータ、edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ、edmQueryOperator\_Soundex オペレータ又は edmQueryOperator\_Synonym オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the lower part of an operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, something other than the following is specified: the dmaQueryOperator\_And operator, the dmaQueryOperator\_Or operator, the edmQueryOperator\_AndNot operator, the dmaQueryOperator\_Not operator, the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, the edmQueryOperator\_Soundex operator, or the edmQueryOperator\_Synonym operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータのオペランドの下位に、次に示すオペレータ以外を指定しています。

- dmaQueryOperator\_And オペレータ
- dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- dmaQueryOperator\_Not オペレータ
- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータのオペランドの下位に、上記のオペレータのどれかを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27483-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_PROPERTY 構造体以外を指定しているか、SDBR\_PROPERTY 構造体で pPropID に edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ又は edmProp\_ConceptStIndex プロパティ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_PROPERTY structure is specified, or something other than an edmProp\_ConceptTextIndex property or the edmProp\_ConceptStIndex property is specified in pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体を指定する。
2. 手順 1 で指定した構造体で、pPropID に次に示すプロパティのどちらかを指定する。
  - edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ
  - edmProp\_ConceptStIndex プロパティ
3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27484-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, NULL is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 2 オペランドに、次に示すオペレータのどれかを指定する。

- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- dmaQueryOperator\_And オペレータ
- dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- dmaQueryOperator\_Not オペレータ

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27485-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 2 オペランド以外に、edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ、edmQueryOperator\_AndNot オペレータ、dmaQueryOperator\_And オペレータ、dmaQueryOperator\_Or オペレータ又は dmaQueryOperator\_Not オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In a location other than the second operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, one of the following operators is specified: the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, the edmQueryOperator\_AndNot operator, the dmaQueryOperator\_And operator, the dmaQueryOperator\_Or operator, or the dmaQueryOperator\_Not operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 2 オペランド以外に、次に示すオペレータを指定しています。

- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- edmQueryOperator\_AndNot オペレータ
- dmaQueryOperator\_And オペレータ
- dmaQueryOperator\_Or オペレータ
- dmaQueryOperator\_Not オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 2 オペランドに、上記のオペレータのどれかを指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27486-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 3 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_BOOLEANCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 3 オペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体を指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27487-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 3 オペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体で bVal に DMA\_TRUE 又は DMA\_FALSE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, something other than DMA\_TRUE or DMA\_FALSE is specified in bVal of the SDBR\_BOOLEANCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 3 オペランドに指定した SDBR\_BOOLEANCONST 構造体で、bVal に DMA\_TRUE または DMA\_FALSE を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27488-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 4 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fourth operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 4 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27489-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 4 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体で IVal に-1 以下を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fourth operand of the edmQueryOperator\_ConceptWithScore operator, -1 or less is specified in IVal of the SDBR\_INTEGERCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_ConceptWithScore オペレータの第 4 オペランドに指定した SDBR\_INTEGERCONST 構造体で、IVal に 0 以上を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27491-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータのオペランドの下位に、edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the lower part of an operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, the edmQueryOperator\_SpecificAnd operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ以外のオペランドの下位に、edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータを指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27492-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_PROPERTY 構造体以外を指定しているか、SDBR\_PROPERTY 構造体で pPropID に edmProp\_Content プロパティ、edmProp\_TextIndex プロパティ、edmProp\_StIndex プロパティ、edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ又は edmProp\_ConceptStIndex プロパティ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified, something other than an SDBR\_PROPERTY structure is specified, or something other than the following is specified in pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure: the edmProp\_Content property, the edmProp\_TextIndex property, the edmProp\_StIndex property, the edmProp\_ConceptTextIndex property, or the edmProp\_ConceptStIndex property.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_PROPERTY 構造体を指定する。
2. 手順 1 で指定した構造体で、pPropID に次に示すプロパティのどれかを指定する。
  - ・ edmProp\_Content プロパティ
  - ・ edmProp\_TextIndex プロパティ
  - ・ edmProp\_StIndex プロパティ
  - ・ edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ
  - ・ edmProp\_ConceptStIndex プロパティ
3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27493-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27494-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 2 オペランド以外に、NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

NULL is specified in a location other than the second operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27495-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 2 オペランド以外に、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.



In a location other than the second operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. 手順 1 で指定した構造体で、pVal に NULL を指定する。
3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27496-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 3 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 3 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27497-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 3 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体で lVal に 0 から 100 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, something other than 0 through 100 is specified in lVal of the SDBR\_INTEGERCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 3 オペランドに指定した SDBR\_INTEGERCONST 構造体で, IVal に 0~100 を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27498-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに, NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fourth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに, 次に示す構造体またはオペレータのどれかを指定する。
  - SDBR\_STRINGCONST 構造体
  - SDBR\_STRINGSCONST 構造体
  - edmQueryOperator\_Prox オペレータ
  - edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
  - edmQueryOperator\_Synonym オペレータ
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27499-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに, SDBR\_STRINGCONST 構造体, SDBR\_STRINGSCONST 構造体, edmQueryOperator\_Prox オペレータ, edmQueryOperator\_Soundex オペレータ又は edmQueryOperator\_Synonym オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fourth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, something other than the following is specified: the SDBR\_STRINGCONST structure, the SDBR\_STRINGSCONST structure, the edmQueryOperator\_Prox operator, the edmQueryOperator\_Soundex operator or the edmQueryOperator\_Synonym operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに, 次に示す構造体またはオペレータ以外を指定しています。

- SDBR\_STRINGCONST 構造体

- SDBR\_STRINGSCONST 構造体
- edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに、上記の構造体またはオペレータのどれかを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27500-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに指定している SDBR\_STRINGSCONST 構造体の lStringCount と、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに指定している SDBR\_INTEGERSCONST 構造体の lIntegerCount が異なります。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

lStringCount of the SDBR\_STRINGSCONST structure specified in the fourth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator is different from lIntegerCount of the SDBR\_INTEGERSCONST structure specified in the fifth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに指定した SDBR\_INTEGERSCONST 構造体で lIntegerCount に、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに指定した SDBR\_STRINGSCONST 構造体で lStringCount に指定した数を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27501-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Prox オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In a location other than the fourth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, the edmQueryOperator\_Prox operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに、edmQueryOperator\_Prox オペレータを指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27502-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In a location other than the fourth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, the edmQueryOperator\_Soundex operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27503-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In a location other than the fourth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, the edmQueryOperator\_Synonym operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27504-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fifth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定している場合、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27505-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fifth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに、次に示すオペレータを指定している場合、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定できません。

- edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27506-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_INTEGERSCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fifth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_INTEGERSCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに SDBR\_STRINGSCONST 構造体を指定している場合、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_INTEGERSCONST 構造体以外を指定できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_INTEGERSCONST 構造体を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27507-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体で IVal に 0 から 100 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fifth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, something other than 0 through 100 is specified in IVal of the SDBR\_INTEGERCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに指定した SDBR\_INTEGERCONST 構造体で、lVal に 0~100 を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27508-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 6 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に AND 又は OR 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the sixth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified, or something other than AND or OR is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに SDBR\_STRINGCONST 構造体または SDBR\_STRINGSCONST 構造体を指定している場合、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 6 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定したり、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に AND または OR 以外を指定したりできません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 6 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. 手順 1 で指定した構造体で、pVal に AND または OR を指定する。
3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27509-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 6 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に OR 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the sixth operand of the edmQueryOperator\_EqualContent operator, NULL is specified, something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified, or something other than OR is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに次に示すオペレータを指定している場合、edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 6 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定したり、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に OR 以外を指定したりできません。

- edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 6 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. 手順 1 で指定した構造体で、pVal に OR を指定する。
3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27510-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ以外のオペランドに、edmQueryOperator\_Prox オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In an operand other than the edmQueryOperator\_EqualContent operator, the edmQueryOperator\_Prox operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_EqualContent オペレータのオペランドに、edmQueryOperator\_Prox オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27521-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータ、edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ又は edmQueryOperator\_EqualContent オペレータのオペランド以外に、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.



The edmQueryOperator\_Soundex operator is specified somewhere other than in an operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, edmQueryOperator\_RelativeContent operator, or edmQueryOperator\_EqualContent operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータ以外のオペランドに、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定しています。

- edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27522-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータ、edmQueryOperator\_Soundex オペレータ、edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ又は edmQueryOperator\_EqualContent オペレータのオペランド以外に、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The edmQueryOperator\_Synonym operator is specified somewhere other than in an operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, edmQueryOperator\_Soundex operator, edmQueryOperator\_RelativeContent operator, or edmQueryOperator\_EqualContent operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータ以外のオペランドに、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定しています。

- edmQueryOperator\_Prox オペレータ
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータ
- edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のオペレータのオペランドに、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27523-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体、SDBR\_STRINGSCONST 構造体、edmQueryOperator\_Soundex オペレータ又は edmQueryOperator\_Synonym オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, NULL is specified, or something other than the following is specified: the SDBR\_STRINGCONST structure, the SDBR\_STRINGSCONST structure, the edmQueryOperator\_Soundex operator, or the edmQueryOperator\_Synonym operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 1 オペランドに、次に示す構造体またはオペレータ以外を指定しています。

- SDBR\_STRINGCONST 構造体
- SDBR\_STRINGSCONST 構造体
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 1 オペランドに、上記の構造体またはオペレータのどれかを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27524-E &lt;D&gt;

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 1 オペランド又は第 2 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The edmQueryOperator\_Soundex operator is specified somewhere other than in the first or the second operand of the edmQueryOperator\_Prox operator

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 1 オペランドまたは第 2 オペランドに、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27525-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 1 オペランド又は第 2 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The edmQueryOperator\_Synonym operator is specified somewhere other than in the first or second operand of the edmQueryOperator\_Prox operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 1 オペランドまたは第 2 オペランドに、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27526-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体、SDBR\_STRINGSCONST 構造体、edmQueryOperator\_Soundex オペレータ又は edmQueryOperator\_Synonym オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, NULL is specified or something other than the following is specified: the SDBR\_STRINGCONST structure, the SDBR\_STRINGSCONST structure, the edmQueryOperator\_Soundex operator, or the edmQueryOperator\_Synonym operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 2 オペランドに、次に示す構造体またはオペレータ以外を指定しています。

- SDBR\_STRINGCONST 構造体
- SDBR\_STRINGSCONST 構造体
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 2 オペランドに、上記の構造体またはオペレータのどれかを指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27527-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 3 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 3 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27528-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 3 オペランドに、SDBR\_INTEGERCONST 構造体で IVal に-1 以下を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, -1 or less is specified in IVal of the SDBR\_INTEGERCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 3 オペランドに指定した SDBR\_INTEGERCONST 構造体で、IVal に 0 以上を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27529-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 4 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に Equal, GreaterThan, GreaterThanOrEqualTo, LessThan 又は LessThanOrEqualTo 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fourth operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified, or something other than Equal, GreaterThan, GreaterThanOrEqualTo, LessThan, or LessThanOrEqualTo is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 4 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
- 2.手順 1 で指定した構造体で、pVal に次に示す値のどれかを指定する。
  - ・ Equal
  - ・ GreaterThan
  - ・ GreaterThanOrEqualTo
  - ・ LessThan
  - ・ LessThanOrEqualTo
- 3.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27530-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 5 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fifth operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27531-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に Character 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fifth operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, something other than Character is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 5 オペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で、pVal に Character を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27532-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 5 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に Word, Sentence 又は Paragraph を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fifth operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, Word, Sentence, or Paragraph is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 5 オペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で、pVal に Character を指定する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27533-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 6 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体以外を指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体で bVal に DMA\_TRUE 又は DMA\_FALSE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the sixth operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, NULL is specified, something other than an SDBR\_BOOLEANCONST structure is specified, or something other than DMA\_TRUE or DMA\_FALSE is specified in bVal of the SDBR\_BOOLEANCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 6 オペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体を指定する。
- 2.手順 1 で指定した構造体で、bVal に DMA\_TRUE または DMA\_FALSE を指定する。
- 3.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27534-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 7 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体以外を指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体で bVal に DMA\_TRUE 又は DMA\_FALSE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the seventh operand of the edmQueryOperator\_Prox operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_BOOLEANCONST structure is specified, or something other than DMA\_TRUE or DMA\_FALSE is specified in bVal of the SDBR\_BOOLEANCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Prox オペレータの第 7 オペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体を指定する。
- 2.手順 1 で指定した構造体で、bVal に DMA\_TRUE または DMA\_FALSE を指定する。
- 3.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27541-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体又は edmQueryOperator\_Synonym オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_Soundex operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure or the edmQueryOperator\_Synonym operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体または edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27542-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 1 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In a location other than the first operand of the edmQueryOperator\_Soundex operator, the edmQueryOperator\_Synonym operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 1 オペランドに、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27543-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Soundex operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.



%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27544-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に、A、E 又は K 以外を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に、A、E 又は K を重複して指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Soundex operator, something other than A, E, or K is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure; or A, E, or K is duplicated in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で、pVal に、A、E または K を重複しないように指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27545-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に、H、I 又は S を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Soundex operator, H, I, or S is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で, pVal に, A, E または K を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27546-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに, SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Soundex operator, NULL is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で, pVal に, A, E または K を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27547-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに, SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に文字数が 1, 2 又は 3 以外の文字列を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Soundex operator, a character string that is not 1, 2, or 3 characters is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Soundex オペレータの第 2 オペランドに指定した SDBR\_STRINGCONST 構造体で, pVal に 1~3 文字の文字列を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27551-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Synonym オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_Synonym operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Synonym オペレータの第 1 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27552-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_Synonym オペレータの第 2 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_Synonym operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_Synonym オペレータの第 2 オペランドに、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27561-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the first operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 1 オペランドに, SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27562-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 1 オペランド以外に, NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

NULL is specified in a location other than the first operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 1 オペランドに, NULL を指定する。

2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27563-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 1 オペランド以外に, SDBR\_STRINGCONST 構造体で pVal に NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In a location other than the first operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, NULL is specified in pVal of the SDBR\_STRINGCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 1 オペランドに, SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
  - 2.手順 1 で指定した構造体で, pVal に NULL を指定する。
  - 3.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27564-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 2 オペランドに, NULL を指定しているか, SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, NULL is specified or something other than an SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 2 オペランドに, SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27565-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 2 オペランドに, SDBR\_INTEGERCONST 構造体で IVal に 0 から 100 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, something other than 0 through 100 is specified in IVal of the SDBR\_INTEGERCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 2 オペランドに指定した SDBR\_INTEGERCONST 構造体で, IVal に 0~100 を指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27566-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第3オペランドに、NULLを指定しているか、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_BOOLEANCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第3オペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27567-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第3オペランドに、SDBR\_BOOLEANCONST 構造体で bVal に DMA\_TRUE 又は DMA\_FALSE 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the third operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, something other than DMA\_TRUE or DMA\_FALSE is specified in bVal of the SDBR\_BOOLEANCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第3オペランドに指定した SDBR\_BOOLEANCONST 構造体で、bVal に DMA\_TRUE または DMA\_FALSE を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27568-E <D>**

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第4オペランドに、NULLを指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体、edmQueryOperator\_Soundex オペレータ又は edmQueryOperator\_Synonym オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the fourth operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator, NULL is specified or something other than the following is specified: an SDBR\_STRINGCONST structure, the edmQueryOperator\_Soundex operator, or the edmQueryOperator\_Synonym operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 4 オペランドに、NULL を指定しているか、次に示す構造体またはオペレータ以外を指定しています。

- SDBR\_STRINGCONST 構造体
- edmQueryOperator\_Soundex オペレータ
- edmQueryOperator\_Synonym オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 4 オペランドに、上記の構造体またはオペレータのどれかを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27569-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 4 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The edmQueryOperator\_Soundex operator is specified in a location other than the fourth operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 4 オペランドに、edmQueryOperator\_Soundex オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27570-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 4 オペランド以外に、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The edmQueryOperator\_Synonym operator is specified in a location other than the fourth operand of the edmQueryOperator\_RelativeContent operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_RelativeContent オペレータの第 4 オペランドに、edmQueryOperator\_Synonym オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27581-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

メタ情報に指定している edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの dmaProp\_OperandDescriptions プロパティにあるオペランドの個数が 1 個以下又は 3 個以上です。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the dmaProp\_OperandDescriptions property of the edmQueryOperator\_SpecificAnd operator, the number of operands that is specified in meta information is 1 or less or 3 or more.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの dmaProp\_OperandDescriptions プロパティに、dmaProp\_OperandDescription プロパティ※を 2 個定義する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

オペレータの dmaProp\_OperandDescriptions プロパティに定義されている dmaProp\_OperandDescription プロパティの個数については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (dsqop.ini : 検索オペレータの場合) またはメタ情報ファイル (edmqop.ini : 拡張検索オペレータの場合) の [オペレータ名] セクションの [オペレータ名/dmaProp\_OperandDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27582-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの第 1 オペランドに、NULL を指定しているか、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.



In the first operand of the edmQueryOperator\_SpecificAnd operator, NULL is specified, or something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの第 1 オペランドに, SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27583-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの第 2 オペランドに, edmQueryOperator\_EqualContent オペレータ以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In the second operand of the edmQueryOperator\_SpecificAnd operator, something other than an edmQueryOperator\_EqualContent operator is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの第 2 オペランドに, edmQueryOperator\_EqualContent オペレータを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27584-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの第 2 オペランドに, NULL を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

NULL is specified in the second operand of the edmQueryOperator\_SpecificAnd operator.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.edmQueryOperator\_SpecificAnd オペレータの第2オペランドに,  
edmQueryOperator\_EqualContent オペレータを指定する。
  - 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27591-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。  
SDBR\_BINARIESCONST 構造体を指定しています。  
An error occurred at number %2 of the structure %1.  
The SDBR\_BINARIESCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_BINARIESCONST 構造体以外を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27592-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。  
SDBR\_BINARYCONST 構造体を指定しています。  
An error occurred at number %2 of the structure %1.  
The SDBR\_BINARYCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_BINARYCONST 構造体以外を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27601-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。  
SDBR\_DATETIMECONST 構造体を指定しています。  
An error occurred at number %2 of the structure %1.  
The SDBR\_DATETIMECONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_DATETIMECONST 構造体以外を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27602-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_DATETIMESCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The SDBR\_DATETIMESCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_DATETIMESCONST 構造体以外を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27611-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_FLOATCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The SDBR\_FLOATCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_FLOATCONST 構造体以外を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27612-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_FLOATSCONST 構造体を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

The SDBR\_FLOATSCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_FLOATSCONST 構造体以外を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27621-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_INTEGERSCONST 構造体の pIntegerConst に、SDBR\_INTEGERCONST 構造体で IVal に 0 から 100 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pIntegerConst of the SDBR\_INTEGERSCONST structure, something other than 0 through 100 is specified in IVal of the SDBR\_INTEGERCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに SDBR\_INTEGERSCONST 構造体を指定している場合、SDBR\_INTEGERSCONST 構造体で pIntegerConst に、SDBR\_INTEGERCONST 構造体で IVal に 0~100 以外を指定できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_INTEGERSCONST 構造体で pIntegerConst に指定した SDBR\_INTEGERCONST 構造体で、IVal に 0~100 を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27622-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_INTEGERSCONST 構造体の pIntegerConst に、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pIntegerConst of the SDBR\_INTEGERSCONST structure, something other than an SDBR\_INTEGERCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 5 オペランドに SDBR\_INTEGERSCONST 構造体を指定している場合、SDBR\_INTEGERSCONST 構造体で pIntegerConst に、SDBR\_INTEGERCONST 構造体以外を指定できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_INTEGERSCONST 構造体で pIntegerConst に、SDBR\_INTEGERCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27631-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_STRINGSCONST 構造体の pStringConst に、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pStringConst of the SDBR\_STRINGSCONST structure, something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すオペレータのオペランドに SDBR\_STRINGSCONST 構造体を指定している場合、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst に、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定できません。

- dmaQueryOperator\_EqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_UnequalString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterString オペレータ
- dmaQueryOperator\_GreaterOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessString オペレータ
- dmaQueryOperator\_LessOrEqualString オペレータ
- dmaQueryOperator\_InString オペレータ

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst に、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27632-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_STRINGSCONST 構造体の pStringConst に、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pStringConst of the SDBR\_STRINGSCONST structure, something other than an SDBR\_STRINGCONST structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

edmQueryOperator\_EqualContent オペレータの第 4 オペランドに SDBR\_STRINGSCONST 構造体を指定している場合、SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst に、SDBR\_STRINGCONST 構造体以外を指定できません。

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_STRINGSCONST 構造体で pStringConst に、SDBR\_STRINGCONST 構造体を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27641-E <D>

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_STRINGSCONST 構造体の lStringCount、SDBR\_BOOLEANSCONST 構造体の lBooleanCount、SDBR\_INTEGERSCONST 構造体の lIntegerCount 又は SDBR\_IDSCONST 構造体の IIDCount に、0 以下を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

0 or less is specified in lStringCount of the SDBR\_STRINGSCONST structure, lBooleanCount of the SDBR\_BOOLEANSCONST structure, lIntegerCount of the SDBR\_INTEGERSCONST structure, or IIDCount of the SDBR\_IDSCONST structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示すパラメータには、0 以下を指定できません。

- SDBR\_STRINGSCONST 構造体の lStringCount
- SDBR\_BOOLEANSCONST 構造体の lBooleanCount
- SDBR\_INTEGERSCONST 構造体の lIntegerCount
- SDBR\_IDSCONST 構造体の IIDCount

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記のパラメータに、1 以上を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KMBR27651-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に、dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティにない検索可能クラスを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure corresponding to lOccurx of the SDBR\_PROPERTY structure, a searchable class that is not in the dmaProp\_ClassDescriptions property of the dmaClass\_DocSpace class is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_PROPERTY 構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に、dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティ※に定義されている検索可能クラスを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティに定義されている検索可能クラスについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_DocSpace] セクションの [dmaClass\_DocSpace/dmaProp\_ClassDescriptions] セクションを参照してください。

**KMBR27652-E <D>**

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体の pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_BINARY, DMA\_DATATYPE\_FLOAT64 又は DMA\_DATATYPE\_DATETIME のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure, a property is specified for which the dmaProp\_DataType property is DMA\_DATATYPE\_BINARY, DMA\_DATATYPE\_FLOAT64, or DMA\_DATATYPE\_DATETIME property.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

SDBR\_PROPERTY 構造体で pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティが次に示す値のプロパティを指定しています。

- DMA\_DATATYPE\_BINARY
- DMA\_DATATYPE\_FLOAT64
- DMA\_DATATYPE\_DATETIME

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_PROPERTY 構造体で pPropID に, dmaProp\_DataType プロパティ※が上記のプロパティ以外を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については, File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27653-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体の pPropID に, 特殊なプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure, a special property is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

SDBR\_PROPERTY 構造体で pPropID に, 次に示す特殊なプロパティを指定しています。

- edmProp\_TextIndex プロパティ
- edmProp\_StIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptTextIndex プロパティ
- edmProp\_ConceptStIndex プロパティ
- edmProp\_Content プロパティ

(S)

処理を中止して, エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_PROPERTY 構造体で pPropID に, 上記の特殊なプロパティ以外を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお, 戻り値については, 「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27661-E <D>

---

%1 構造体の %2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の pPropID に, dmaProp\_Cardinality プロパティが EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY 以外のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, a property for which the dmaProp\_Cardinality property is other than EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)



(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体で pPropID に、dmaProp\_Cardinality プロパティ※が EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY のプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_Cardinality プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27662-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の pPropID に、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID がないプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, a specified property is not in pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure corresponding to lOccurx of the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体で pPropID に、SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に定義されているプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27663-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の lIthElement に、DMA\_NO\_MAXIMUM 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lIthElement of the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, something other than DMA\_NO\_MAXIMUM is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体で lIthElement に、DMA\_NO\_MAXIMUM を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27671-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の lOccurx に、-1 以下を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx of the SDBR\_PROPERTY structure or the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, -1 or less is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す構造体で lOccurx に、-1 以下を指定しています。

- SDBR\_PROPERTY 構造体
- SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.上記の構造体で lOccurx に、0 以上を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27672-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の lOccurx に、

SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx of the SDBR\_PROPERTY structure or the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, something other than lOccurx of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す構造体で lOccurx に、SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx 以外を指定しています。

- SDBR\_PROPERTY 構造体
- SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記の構造体で lOccurx に、SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx を指定する。
  2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。
- なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27673-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の pPropID に、dmaProp\_IsSearchable プロパティが 0 のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure or the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, a property for which the dmaProp\_IsSearchable property is 0 is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す構造体で pPropID に、dmaProp\_IsSearchable プロパティが 0 のプロパティを指定しています。

- SDBR\_PROPERTY 構造体
- SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記の構造体で pPropID に、dmaProp\_IsSearchable プロパティ\*が 1 のプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_IsSearchable プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27674-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の pPropID に、SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID がないプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure or the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, a specified property is not in pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure corresponding to lOccurx of the SDBR\_PROPERTY structure or the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す構造体で pPropID に、次に示す構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に定義されていないプロパティを指定しています。

- SDBR\_PROPERTY 構造体

- SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記の構造体で pPropID に、上記の構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) 構造体の pClassID に定義されているプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27675-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

SDBR\_PROPERTY 構造体又は SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体の pPropID に、上位オペレータが dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティにないプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY structure or the SDBR\_ARRAYPROPERTY structure, a property for which an upper operator is not in the dmaProp\_QueryOperatorDescriptions property is specified.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

次に示す構造体で pPropID に、上位オペレータが dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティにないプロパティを指定しています。

- SDBR\_PROPERTY 構造体
- SDBR\_ARRAYPROPERTY 構造体

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 上記の構造体で pPropID に、上位オペレータが dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティ※に定義されているプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaProp\_QueryOperatorDescriptions プロパティに定義されているプロパティについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションの [プロパティ名/dmaProp\_QueryOperatorDescriptions] セクションを参照してください。

## KMBR27701-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lSelectionsx に、0 から(SELECT 句のプロパティの個数-1)以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lSelectionsx, something other than 0 through (the number of properties of SELECT clause -1) is specified.

%1 : SDBR\_ORDERELT(ORDER BY)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lSelectionsx に、0～(SELECT 句のプロパティの個数-1)を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27702-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体の lOccurx に、SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx 以外を指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In lOccurx of the SDBR\_PROPERTY(SELECT) structure corresponding to lSelectionsx, something other than lOccurx of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure is specified.

%1 : SDBR\_ORDERELT(ORDER BY)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で lOccurx に、SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の lOccurx を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27703-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に、dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティにない検索可能クラスを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure corresponding to lOccurx of the SDBR\_PROPERTY(SELECT) structure corresponding to lSelectionsx, a searchable class that is not in the dmaProp\_ClassDescriptions property of the dmaClass\_DocSpace class is specified.

%1 : SDBR\_ORDERELT(ORDER BY)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に、 dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティ※に定義されている検索可能クラスを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

dmaClass\_DocSpace クラスの dmaProp\_ClassDescriptions プロパティに定義されている検索可能クラスについては、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edms.ini) の [dmaClass\_DocSpace] セクションの [dmaClass\_DocSpace/dmaProp\_ClassDescriptions] セクションを参照してください。

### KMBR27704-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体の pPropID に、dmaProp\_Cardinality プロパティが DMA\_CARDINALITY\_SINGLE 以外のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY(SELECT) structure corresponding to lSelectionsx, a property for which the dmaProp\_Cardinality property is not DMA\_CARDINALITY\_SINGLE is specified.

%1 : SDBR\_ORDERELT(ORDER BY)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、 dmaProp\_Cardinality プロパティ※が DMA\_CARDINALITY\_SINGLE のプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_Cardinality プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27705-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体の pPropID に、 dmaProp\_IsOrderable プロパティが 0 のプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY(SELECT) structure corresponding to lSelectionsx, a property for which the dmaProp\_IsOrderable property is 0 is specified.

%1 : SDBR\_ORDERELT(ORDER BY)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、dmaProp\_IsOrderable プロパティ\*が 1 のプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_IsOrderable プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27706-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体の pPropID に、lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID がないプロパティを指定しています。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

In pPropID of the SDBR\_PROPERTY(SELECT) structure corresponding to lSelectionsx, a specified property is not in pClassID of the SDBR\_JOINEXPRELT(FROM) structure that corresponds to lOccurx of the SDBR\_PROPERTY(SELECT) structure that corresponds to lSelectionsx.

%1 : SDBR\_ORDERELT(ORDER BY)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、lSelectionsx に対応した SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体の lOccurx に対応した SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)構造体の pClassID に定義されているプロパティを指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27711-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

使用可能なスタックサイズを超える検索を実行しようとした。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

An attempt was made to perform a search that exceeds the usable stack size.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 検索条件の階層が必要以上に深くないか確認する。

例えば、dmaQueryOperator\_And オペレータや dmaQueryOperator\_Or オペレータなどの多項演算が可能なオペレータは同一階層に複数の条件を指定します。

2. 検索条件を最適化する。

3. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27721-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

メモリが不足しているため、作業用データを格納するメモリ (%3 バイト) が確保できません。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

Memory became insufficient, so memory (%3 bytes) to store the work data cannot be allocated.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

%3 : 領域長

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。

2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27722-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

メモリが不足しているため、作業用の検索条件のツリー構造データを格納するメモリ (%3 バイト) が確保できません。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

Memory became insufficient, so memory (%3 bytes) to store tree structure data of search conditions used for work cannot be allocated.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)または SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

%3 : 領域長

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。



(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27723-E <D>

---

メモリが不足しているため、作業用の検索条件のツリー構造データを格納するメモリ (%1 バイト) が確保できません。

Memory became insufficient, so memory (%1 bytes) to store tree structure data of search conditions used for work cannot be allocated.

%1: 領域長

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27731-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

作業用の検索条件のツリー構造データの生成処理で、内部矛盾を検知しました。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

An internal conflict was detected during the generation of tree structure data of search conditions used for work.

%1: SDBR\_PROPERTY(SELECT)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27732-E <D>

---

作業用の検索条件のツリー構造データの生成処理で、内部矛盾を検知しました。

An internal conflict was detected during the generation of tree structure data of search conditions used for work.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27733-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

メタ情報の取得処理で、内部矛盾を検知しました。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

An internal conflict was detected during the processing to acquire meta-information.

%1 : SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27741-E <D>

---

%1 構造体の%2 番目でエラーが発生しました。

メタ情報の取得処理で、予期しないエラーが発生しました。

An error occurred at number %2 of the structure %1.

An unexpected error occurred during the processing to acquire meta-information.

%1 : SDBR\_JOINEXPRELT(FROM)または SDBR\_QUERYNODE(WHERE)

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27801-E <D>

---

%1 行%2 列の検索結果データの取得処理で、エラーが発生しました。

An error occurred during the processing to acquire search results (line %1, column %2).

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. このメッセージのあとに出力されるメッセージを基に対策を実施する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27811-E <D>

---

bSearchContinue に、DMA\_TRUE 又は DMA\_FALSE 以外を指定しています。

In bSearchContinue, only DMA\_TRUE or DMA\_FALSE can be specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. bSearchContinue に、DMA\_TRUE または DMA\_FALSE を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27821-E <D>

---

plSearchCount に、NULL, 0 又は-2 以下を指定しています。

In plSearchCount, NULL,-2 or less, or 0 is specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. plSearchCount に、-1 または 1 以上を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR27831-E <D>

---

dmaProp\_DataType プロパティが、DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN, DMA\_DATATYPE\_ID, DMA\_DATATYPE\_INTEGER32, DMA\_DATATYPE\_OBJECT 又は DMA\_DATATYPE\_STRING 以外のプロパティは取得できません。

A property for which the dmaProp\_DataType property is not one of the following cannot be acquired: DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN, DMA\_DATATYPE\_ID, DMA\_DATATYPE\_INTEGER32, DMA\_DATATYPE\_OBJECT or DMA\_DATATYPE\_STRING

dmaProp\_DataType プロパティが、次に示す値以外のプロパティは検索できません。

- DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN
- DMA\_DATATYPE\_ID
- DMA\_DATATYPE\_INTEGER32
- DMA\_DATATYPE\_OBJECT
- DMA\_DATATYPE\_STRING

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティ※が上記の値のプロパティを指定して、CdbQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27832-E <D>

---

dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_BINARY のプロパティは取得できません。

A property for which the dmaProp\_DataType property is DMA\_DATATYPE\_BINARY cannot be acquired.

dmaProp\_DataType プロパティが、次に示す値以外のプロパティは検索できません。

- DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN
- DMA\_DATATYPE\_ID
- DMA\_DATATYPE\_INTEGER32
- DMA\_DATATYPE\_OBJECT
- DMA\_DATATYPE\_STRING

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、dmaProp\_DataType プロパティ※が上記の値のプロパティを指定して、CdbQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

### KMBR27833-E <D>

---

dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_DATETIME のプロパティは取得できません。

A property for which the dmaProp\_DataType property is DMA\_DATATYPE\_DATETIME cannot be acquired.

dmaProp\_DataType プロパティが、次に示す値以外のプロパティは検索できません。

- DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN

- DMA\_DATATYPE\_ID
- DMA\_DATATYPE\_INTEGER32
- DMA\_DATATYPE\_OBJECT
- DMA\_DATATYPE\_STRING

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、 dmaProp\_DataType プロパティ<sup>※</sup>が上記の値のプロパティを指定して、 CdbQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27834-E <D>

dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_FLOAT64 のプロパティは取得できません。

A property for which the dmaProp\_DataType property is DMA\_DATATYPE\_FLOAT64 cannot be acquired.

dmaProp\_DataType プロパティが、次に示す値以外のプロパティは検索できません。

- DMA\_DATATYPE\_BOOLEAN
- DMA\_DATATYPE\_ID
- DMA\_DATATYPE\_INTEGER32
- DMA\_DATATYPE\_OBJECT
- DMA\_DATATYPE\_STRING

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、 dmaProp\_DataType プロパティ<sup>※</sup>が上記の値のプロパティを指定して、 CdbQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27835-E <D>

---

dmaProp\_DataType プロパティが DMA\_DATATYPE\_OBJECT で dmaProp\_Cardinality プロパティが EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY 以外のプロパティは取得できません。

A property other than the following cannot be acquired: the dmaProp\_DataType property is DMA\_DATATYPE\_OBJECT, and the dmaProp\_Cardinality property is EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.SDBR\_PROPERTY(SELECT)構造体で pPropID に、 dmaProp\_DataType プロパティ※1 が DMA\_DATATYPE\_OBJECT で、 dmaProp\_Cardinality プロパティ※2 が EDM\_DMA\_CARDINALITY\_VARRAY のプロパティを指定して、 CdbQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

注※1

プロパティの dmaProp\_DataType プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

注※2

プロパティの dmaProp\_Cardinality プロパティに定義されている値については、File Sharing サーバのメタ情報ファイル (edmsys.ini) またはユーザ作成ファイルの [プロパティ名] セクションを参照してください。

## KMBR27841-E <D>

---

アクセス権の判定処理で、エラーが発生しました。

An error occurred during the processing to judge the access permission.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

## KMBR27851-E <D>

---

メモリが不足しているため、検索結果データを格納するメモリ (%1 バイト) が確保できません。

Memory became insufficient, so memory (%1 bytes) to store search results cannot be allocated.

%1: 領域長

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27861-E <D>

---

検索結果データの格納処理で、エラーが発生しました。

An error occurred during the processing to store search results.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27862-E <D>

---

検索結果データの取得処理で、エラーが発生しました。

An error occurred during the processing to acquire the search results.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27863-E <D>

---

検索結果データの変換処理で、エラーが発生しました。

An error occurred during the processing to convert search results.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27871-E <D>

---

検索結果データの取得処理で、内部矛盾を検知しました。

An internal conflict was detected during the processing to acquire search results.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。  
なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27872-E <D>

---

検索結果データの変換処理で、内部矛盾を検知しました。

An internal conflict was detected during the processing to convert search results.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。  
なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27901-E <D>

---

IACLMode に、DBR\_QUERY\_GET\_ACL を指定しています。

In IACLMode, DBR\_QUERY\_GET\_ACL is specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. IACLMode に、DBR\_QUERY\_WITH\_ACL または DBR\_QUERY\_WITHOUT\_ACL を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27902-E <D>

---

IACLMode に、DBR\_QUERY\_WITH\_ACL 又は DBR\_QUERY\_WITHOUT\_ACL 以外を指定しています。

In IACLMode, only DBR\_QUERY\_WITH\_ACL or DBR\_QUERY\_WITHOUT\_ACL can be specified.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. IACLMode に、DBR\_QUERY\_WITH\_ACL または DBR\_QUERY\_WITHOUT\_ACL を指定する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27911-E <D>

---

pbReady に、NULL を指定しています。

In pbReady, NULL is specified.



(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
次の手順で対策を実施してください。

- 1.pbReady に、検索結果用意フラグを格納する領域を指定する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27921-E <D>

---

メモリが不足しているため、作業用データを格納するメモリ (%1 バイト) が確保できません。  
Memory became insufficient, so memory (%1 bytes) to store work data cannot be allocated.  
%1：領域長

(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
次の手順で対策を実施してください。

- 1.利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR27931-E <D>

---

作業用データの参照処理で、内部矛盾を検知しました。  
An internal conflict was detected during the processing to reference work data.

(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。  
なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28001-E <D>

---

初期化を実行していません。  
Initialization is not performed.

(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
次の手順で対策を実施してください。

- 1.CdbrQuery::InitialQuery メソッドを実行する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28002-E <D>

---

検索を実行していません。

Searching is not performed.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.CdbrQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28003-E <D>

---

検索を中止しています。

Searching has stopped.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.CdbrQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28004-E <D>

---

検索結果がありません。

No search result exists.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

- 1.CdbrQuery::ExecuteSearch メソッドを実行する。
- 2.このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28011-E <D>

---

トランザクション外でメソッドを実行しようとしてしました。

An attempt was made to execute a method outside a transaction.

(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
次の手順で対策を実施してください。  
1. CdbSession::Begin メソッドを実行する。  
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。  
なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28021-E <D>

---

アクセス制御対応のデータベースだけで有効なメソッドを実行しようとした。

An attempt was made to execute a method that is effective only for databases with access control.

(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
アクセス制御対応のデータベースで、このメッセージの前に出力された KMBR20000-E に示されたメソッドを実行してください。  
なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28031-E <D>

---

非同期の検索実行で、エラーが発生しました。

An error occurred during execution of an asynchronous search.

(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。  
なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28101-E <D>

---

メモリが不足しているため、処理を続行できません。

Memory became insufficient, so processing cannot continue.

(S)  
処理を中止して、エラーリターンします。

(O)  
次の手順で対策を実施してください。  
1. 利用可能なメモリを増やすために、メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了する。  
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。  
なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR28111-E <D>

---

データベースで障害が発生しました。

An error occurred in a database.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. イベントログを基に、データベースのエラーを取り除く。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR28112-E <D>

---

オブジェクトがロックされています。

An object is locked.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

しばらく時間をおいてから、このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR28113-E <D>

---

データベースへの論理的な接続が失われました。

The logical connection to the database was lost.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

次の手順で対策を実施してください。

1. 文書空間と接続するために、CdbSession::Connect メソッドを実行する。
2. このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行する。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR28114-E <D>

---

制限時間を超過しました。

The time limit was exceeded

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

しばらく時間をおいてから、このメッセージの前に出力された KMBR20000-E で示すメソッドを実行してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR28121-E <D>

---

予期しないエラーが発生しました。

An unexpected error occurred.

(S)

処理を中止して、エラーリターンします。

(O)

保守情報を取得してから、システム管理者に連絡してください。

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。



# 6

## オブジェクト操作ツールのメッセージ

この章では、オブジェクト操作ツールに関するメッセージについて説明します。

## 6.1 KMBR30000～KMBR39999

---

### KMBR30000-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツール内部でエラーが発生したため、オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

付加情報：%1 (%2)

An error occurred in the object operation tool, so execution of the tool was stopped.

Additional information：%1 (%2)

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

保守員に連絡してください。

### KMBR30010-E <P,F>

---

クラスのインスタンスを生成するためのメモリを確保できませんでした。

クラス名：%1

There was insufficient memory to create a class instance.

Class name：%1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR30011-E <P,F>

---

領域長のメモリを確保できませんでした。

領域名：%1

領域長：%2

Memory of the required size could not be allocated.

Area name：%1

Area size：%2

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、利用可能なメモリを増やしてから、処理を再度実行してください。

### KMBR30020-E <P,F>

---

環境変数を設定していません。

環境変数名：%1



The value of an environment variable is not set.

Environment variable : %1

環境変数 (%1) を設定していないため、処理を実行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

環境変数 (%1) を設定してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR30021-E <P,F>

---

環境変数を設定しています。

環境変数名 : %1

The value of the environment variable is already set.

Environment variable : %1

環境変数 (%1) を設定しているため、処理を実行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

環境変数 (%1) の設定を一時的に解除してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR30030-E <P,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

システムコール (%1) でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OSのマニュアルを参照してください。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

#### KMBR30031-E <P,F>

---

システムコールでエラーが発生しました。

関数名 : %1

要因コード : %2

付加情報 : %3

An error occurred during a system call.

Function name : %1

Reason code : %2

Additional information : %3

システムコール (%1) でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%2 : システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OS のマニュアルを参照してください。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

#### KMBR30040-E <P,F>

---

ディレクトリがありません。

ディレクトリ名 : %1

The directory does not exist.

Directory name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ディレクトリ (%1) が存在するか確認してください。

#### KMBR30041-E <P,F>

---

ファイルがありません。

ファイル名 : %1

The file does not exist.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイル (%1) が存在するか確認してください。

#### KMBR30042-E <P,F>

---

パス名が長過ぎます。

パス名 : %1

The path name is too long.

Path name : %1

パス名の長さの上限値は、259 バイトです。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

259 バイト以内の長さのパス名を指定してから、処理を再度実行してください。なお、パス名 (%1) に出力されたパスが次の表に示す対象パスに該当する場合は、次の表に示す対策一覧を基に対策を実施してください。

表 6-1 KMBR30042-E 対象パス別の対策一覧

対象パス	対策
実行環境制御ファイル Log セクションの Directory エントリに指定したディレクトリパス	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>次に示す条件を満たすように、Directory エントリを指定する。 (Directory エントリに指定した文字列のバイト数) + (Prefix エントリに指定した文字列のバイト数) + 8 バイト ≤ 259 バイト</li> <li>処理を再度実行する。</li> </ol>
環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリパス	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>次に示す条件を満たすように、環境変数「EDMCLASSDEFPATH」を指定する。 (環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したパスのバイト数) + 54 バイト ≤ 255 バイト</li> <li>処理を再度実行する。</li> </ol>
環境変数「DBRTOOLS DIR」に指定したディレクトリパス、または dbrtoolsetup コマンドの引数に指定した実行環境ディレクトリパス	<p>次の手順で対策を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>出力された値に応じて、次に示す条件を満たすように、環境変数「DBRTOOLS DIR」または dbrtoolsetup コマンドの引数を指定する。 &lt;環境変数「DBRTOOLS DIR」に指定したディレクトリパスが出力されたとき&gt; (環境変数「DBRTOOLS DIR」に指定したディレクトリパスのバイト数) + 52 バイト ≤ 255 バイト &lt;dbrtoolsetup コマンドの引数に指定した実行環境ディレクトリパスが出力されたとき&gt; (dbrtoolsetup コマンドの引数に指定した実行環境ディレクトリパスのバイト数) + 52 バイト ≤ 255 バイト</li> <li>処理を再度実行する。</li> </ol>

## KMBR30043-E &lt;P,F&gt;

ファイルの入力又は出力でエラーが発生しました。

ファイル名：%1

関数名：%2

要因コード：%3

A file I/O error occurred.

File name：%1

Function name：%2

Reason code：%3

ファイル (%1) の入力または出力操作時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

%3：システムコールが設定したエラー番号

システムコールが設定したエラー番号については、OSのマニュアルを参照してください。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

### KMBR30100-E <P,F>

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名：%1

要因コード：%2

付加情報：%3

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name：%1

Reason code：%2

Additional information：%3

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

表 6-2 KMBR30100-E 要因別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
InitializeForMulti	3	環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリに対してアクセス権（読み取り権、書き込み権または実行権）がありません。	環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリに対して、アクセス権（読み取り権、書き込み権または実行権）があるかどうか確認してください。
	7	共有メモリが不足しています。	共有メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。
	13	クラス定義情報ファイルのフォーマットが不正です。	クラス定義情報ファイルのフォーマットを確認してください。
	18	次の要因が考えられます。 1. キャッシュファイルの内容が不正である。 2. 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位にクラス定義情報ファイルがない。 3. クラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）がない。	要因に応じて次のどれかを実施してください。  • 要因 1 の場合 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位の cache ディレクトリにあるキャッシュファイルを削除してください。

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
InitializeForMulti	18	<p>次の要因が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャッシュファイルの内容が不正である。</li> <li>2. 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位にクラス定義情報ファイルがない。</li> <li>3. クラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）がない。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>要因 2 の場合</b> 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位に、クラス定義情報ファイルがあるかどうか確認してください。</li> <li>• <b>要因 3 の場合</b> 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの下位にあるクラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）があるかどうか確認してください。</li> </ul>
	19	<p>次の要因が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリがない。</li> <li>2. 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリに対してアクセス権（実行権）がない。または、環境変数「EDMCLASSDEFPATH」の指すディレクトリに読み取りの権限がない。</li> </ol>	<p>要因に応じて次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>要因 1 の場合</b> 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に、存在するディレクトリを設定してください。</li> <li>• <b>要因 2 の場合</b> 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に対するアクセス権（実行権）があるかどうか確認してください。または、環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に対する読み取りの権限があるかどうか確認してください。</li> </ul>
	20	<p>次の要因が考えられます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを同時に起動している。</li> <li>2. 先に起動したプロセスが、クラス定義情報ファイルをロックしている。</li> </ol>	<p>要因に応じて次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>要因 1 の場合</b> クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを、一つずつ起動してください。</li> <li>• <b>要因 2 の場合</b> クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを終了してから、再度実行してください。</li> </ul>
	21	<p>次の要因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」が設定されていない。</li> <li>• 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリのパスが絶対パスではない。</li> </ul>	<p>環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に、クラス定義情報ファイルの格納先を絶対パスで指定してください。</p>

6 オブジェクト操作ツールのメッセージ

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
InitializeForMulti	24	環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの直下で、ディレクトリ名以外で「cache」が使用されています。	環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリの直下では、「cache」はディレクトリ名だけに使用されるように見直してください。
	52	実行環境制御ファイルで指定した文書空間識別子とプリフィックスの一致するクラス定義情報ファイルが存在しません。	実行環境制御ファイルで指定した文書空間識別子とプリフィックスの一致するクラス定義情報ファイルがあるかどうか確認してください。
InitializeForCache	7	メモリが不足しています。	共有メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。
	20	次の要因が考えられます。 1. オブジェクト操作ツールのプロセスを同時に起動している。 2. 先に起動したプロセスが、クラス定義情報ファイルをロックしている。	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要因1の場合 オブジェクト操作ツールのプロセスを、一つずつ起動してください。</li> <li>• 要因2の場合 クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを終了してから、再度実行してください。</li> </ul>
CreateCache	7	メモリが不足しています。	共有メモリを使用しているほかのプロセスを終了してください。
	18	クラス定義情報ファイルに対してアクセス権（読み取り権）がありません。	オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ等の下位にコピーしたクラス定義情報ファイルに対して、アクセス権（読み取り権）があるかどうか確認してください。
	20	次の要因が考えられます。 1. オブジェクト操作ツールのプロセスを同時に起動している。 2. 先に起動したプロセスが、クラス定義情報ファイルをロックしている。	要因に応じて次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 要因1の場合 オブジェクト操作ツールのプロセスを、一つずつ起動してください。</li> <li>• 要因2の場合 クラス定義情報ファイルを使用するプロセスを終了してから、再度実行してください。</li> </ul>

KMBR30101-E <P,F>

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名：%1

要因コード：%2

クラス名：%3

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Class name : %3

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基にエラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

表 6-3 KMBR30101-E 要因別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetClassId	8	指定したクラス名は存在しません。	<p>環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] を設定している場合 環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] に指定したディレクトリ¥etc の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名があるかどうか確認してください。</li> <li>環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] を設定していない場合 オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ¥etc の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラスがあるかどうか確認してください。</li> </ul>
	51	クラスライブラリのクラス名が指定されています。	クラスライブラリのクラス名は指定できません。クラス名を見直してください。

## KMBR30102-E <P,F>

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

プロパティ名 : %3

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Property name : %3

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いて、処理を再度実行してください。

表 6-4 KMBR30102-E 要因別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetRequiredClassName	8	指定したプロパティ名は存在しません。	<p>環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] を設定している場合 環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] に指定したディレクトリ等etc の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したプロパティ名があるかどうか確認してください。</li> <li>• 環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] を設定していない場合 環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] に指定したディレクトリ等etc の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したプロパティがあるかどうか確認してください。</li> </ul>

## KMBR30103-E &lt;P,F&gt;

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Class name : %3

Property name : %4

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いて、処理を再度実行してください。



表 6-5 KMBR30103-E 要因別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetPropertyId	8	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>指定したクラス名が存在しない。</li> <li>指定したプロパティ名がクラスに存在しない。</li> </ul>	環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] を設定している場合</b> 環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] に指定したディレクトリ*etc の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名またはプロパティ名があるかどうか確認してください。</li> <li><b>環境変数 [EDMCLASSDEFPATH] を設定していない場合</b> オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ*etc の下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したプロパティ名またはクラス名があるかどうか確認してください。</li> </ul>
	51	クラスライブラリのクラス名が指定されています。	クラスライブラリのクラス名は指定できません。クラス名を見直してください。

## KMBR30104-E &lt;P,F&gt;

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

構成要素プロパティ名 : %5

An error occurred during the referencing of a class definition file.

Method name : %1

Reason code : %2

Class name : %3

Property name : %4

Constituent element property name : %5

クラス定義情報ファイルの参照処理でエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の表に示す対策一覧を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

表 6-6 KMBR30104-E 要因別の対策一覧

メソッド名 (%1)	要因コード (%2)	エラーの要因	対策
GetPropertyId	8	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>指定したクラス名が存在しない。</li> <li>指定したプロパティ名がクラスに存在しない。</li> <li>指定した構成要素プロパティ名がクラスのプロパティに存在しない。</li> </ul>	環境変数の設定に応じて、次のどちらかを実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>環境変数「EDMCLASSDEFPATH」を設定している場合</b> 環境変数「EDMCLASSDEFPATH」に指定したディレクトリ%etcの下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名、プロパティ名、または構成要素プロパティ名があるかどうか確認してください。</li> <li><b>環境変数「EDMCLASSDEFPATH」を設定していない場合</b> オブジェクト操作ツールの実行環境ディレクトリ%etcの下位にあるクラス定義情報ファイルを参照して、指定したクラス名、プロパティ名、または構成要素プロパティ名があるかどうか確認してください。</li> </ul>
	51	クラスライブラリのクラス名が指定されています。	クラスライブラリのクラス名は指定できません。クラス名を見直してください。

## KMBR30200-E &lt;P,F&gt;

クラスライブラリでエラーが発生しました。

クラス名 : %1

メソッド名 : %2

An error occurred in a class library.

Class name : %1

Method name : %2

クラスライブラリのメソッド (%2) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

## KMBR30201-E &lt;P,F&gt;

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2,%3

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR30202-E <P,F>

---

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2,%3

CORBA : %4

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

CORBA : %4

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### KMBR30203-E <P,F>

---

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名 : %1

要因コード : %2,%3

Database : %4,%5

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

Database : %4,%5

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR30204-E <P,F>

---

クラスライブラリでエラーが発生しました。

メソッド名：%1

要因コード：%2,%3

構文解析：%4

An error occurred in a class library.

Method name : %1

Reason code : %2,%3

Parser : %4

クラスライブラリのメソッド (%1) 実行時にエラーが発生したため、処理を続行できませんでした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

要因コード (%2, %3) を基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

なお、要因コードについては、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

### KMBR31000-E <P,F>

---

ファイル中に処理できない文字コードが含まれています。

ファイル名：%1

行：%2

文字コード：%3

The file includes a character code that cannot be processed.

File name : %1

Line : %2

Character code : %3

指定したファイル (%1) 内に処理できない文字 (%3) が含まれています。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31001-E <P,F>

---

指定した文字列は長過ぎます。

ファイル名：%1

行：%2

文字列：%3

The specified character string is too long.

File name : %1

Line : %2

Character string : %3

1,039 バイトを超える文字列 (%3) を指定しています。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31002-E <P,F>

---

構文が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

誤っている文字列 : %3

正しい文字列 : %4

Syntax error.

File name : %1

Line : %2

Incorrect character string : %3

Correct character string : %4

ファイル内の構文に不正な個所があります。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31003-E <P,F>

---

文字列 (%3) に指定している値を囲むためのシングルクォート ( ' ) が足りません。

ファイル名 : %1

行 : %2

文字列 : %3

One of the single quotation marks enclosing the specified value of %3 is missing.

File name : %1

Line : %2

Character string : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31004-E <P,F>

---

値がシングルクォートで囲まれていません。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

A value is not enclosed in single quotation marks.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

    エントリ (%3) に指定している値は、シングルクォート ( ' ) で囲む必要があります。

(S)

    オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

    ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31005-E <P,F>

---

指定した値が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

値 : %4

The specified value is invalid.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

Value : %4

(S)

    オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

    ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31006-E <P,F>

---

ファイルが空です。

ファイル名 : %1

The file is empty.

File name : %1

(S)

    オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31007-E <P,F>

---

ファイルにセクションの記述がありません。

ファイル名：%1

No section is coded in the file.

File name：%1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31008-E <P,F>

---

文字列（%3）に指定している値を囲むためのダブルクォート（"）が足りません。

ファイル名：%1

行：%2

文字列：%3

One of the double quotation marks enclosing the specified value of %3 is missing.

File name：%1

Line：%2

Character string：%3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31009-E <P,F>

---

名前がダブルクォートで囲まれていません。

ファイル名：%1

行：%2

名前：%3

The name is not enclosed in double quotation marks.

File name：%1

Line：%2

Name：%3

名前（%3）は、ダブルクォート（"）で囲む必要があります。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

**KMBR31100-E <P,F>**

---

指定したセクション名が不正です。

ファイル名：%1

行：%2

セクション名：%3

The specified section name is invalid.

File name：%1

Line：%2

Section name：%3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

**KMBR31101-E <P,F>**

---

指定したエントリ名が不正です。

ファイル名：%1

行：%2

エントリ名：%3

A specified entry name is invalid.

File name：%1

Line：%2

Entry name：%3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

**KMBR31102-E <P,F>**

---

必要なエントリを記述していません。

ファイル名：%1

セクション名：%2

エントリ名：%3

A required entry is missing.

File name：%1



Section name : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31103-W <P,F>

---

指定した値が不正であるためデフォルト値を使用します。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 : %3

値 : %4

デフォルト値 : %5

A specified value is invalid, so the default value is used.

File name : %1

Section name : %2

Entry name : %3

Value : %4

Default value : %5

(S)

デフォルト値 (%5) を使用してオブジェクト操作ツールを実行します。

(O)

ファイルの記述内容を確認してください。

#### KMBR31104-E <P,F>

---

指定した値の組み合わせが不正です。

ファイル名 : %1

セクション名 : %2

エントリ名 1 : %3

エントリ名 2 : %4

A combination of the values is invalid.

File name : %1

Section name : %2

Entry name 1 : %3

Entry name 2 : %4

エントリ名 1 (%3) とエントリ名 2 (%4) に指定した値の組み合わせが不正です。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

なお、エントリ名 1 (%3) およびエントリ名 2 (%4) に出力された値に応じて、次のどちらかの対策を実施してください。

- 指定していないエントリ名がエントリ名 1 (%3) またはエントリ名 2 (%4) に出力されている場合

デフォルトの値が仮定されているため、デフォルト値を考慮してください。

- エントリ名 1 (%3) およびエントリ名 2 (%4) が、それぞれディレクトリまたはプリフィックスの場合

次に示す条件を満たすようにパスを指定してから、処理を再度実行してください。

(Directory エントリに指定したディレクトリパスのバイト数) + (Prefix エントリに指定したディレクトリパスのバイト数) + 8 バイト ≤ 259 バイト

#### KMBR31200-E <P,F>

---

1 行に複数の ID は記述できません。

ファイル名 : %1

行 : %2

Two or more IDs cannot be coded on one line.

File name : %1

Line : %2

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31201-E <P,F>

---

ファイルに ID の記述がありません。

ファイル名 : %1

No ID is coded in the file.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31202-E <P,F>

---

指定した ID が不正です。

ID : %1

The specified ID is invalid.

ID : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ID を正しく指定してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31300-E <P,F>

---

指定したクラス名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

クラス名 : %3

A specified class name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Class name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31301-E <P,F>

---

指定したプロパティ名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

プロパティ名 : %3

A specified property name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Property name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31302-E <P,F>

---

指定した VariableArray 型プロパティの配列数又は構成要素プロパティ数が一致していません。

ファイル名 : %1

行 : %2

プロパティ名 : %3

The number of arrays of a VariableArray property or the number of constituent element properties is invalid.

File name : %1

Line : %2

Property name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31303-E <P,F>

---

VariableArray 型の構成要素プロパティに VariableArray 型のプロパティを指定しています。

ファイル名 : %1

行 : %2

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

A VariableArray type property is specified for a VariableArray type constituent element property.

File name : %1

Line : %2

Class name : %3

Property name : %4

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR31304-E <P,F>

---

指定したプロパティの基本単位又はデータ型はサポートされていません。

ファイル名 : %1

行 : %2

クラス名 : %3

プロパティ名 : %4

The cardinality or data type of the specified property is not supported.

File name : %1

Line : %2

Class name : %3

Property name : %4

指定した基本単位またはデータ型のプロパティに対する操作は、オブジェクト操作ツールではサポートされていません。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

クライアントアプリケーションを作成して実行してください。

#### KMBR31305-E <P,F>

---

指定したエントリの配列数が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

The number of array that is specified entry is invalid.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31306-E <P,F>

---

指定したエントリ名が不正です。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

A specified entry name is invalid.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31307-E <P,F>

---

必要なエントリを記述していません。

ファイル名 : %1

行 : %2

エントリ名 : %3

A required entry is missing.

File name : %1

Line : %2

Entry name : %3

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR31501-E <P,F>

---

指定した SQL 文が長過ぎます。

ファイル名 : %1

The specified SQL statement is too long.

File name : %1

指定した SQL 文は、8,190 バイトを超えています。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

8,190 バイト以内の SQL 文を記述したファイルを指定してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32000-W <P,F>

---

コマンド実行ログを出力できませんでした。

The command execution log cannot be output.

(S)

コマンド実行ログの出力を中止しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてください。

#### KMBR32001-E <P,F>

---

%1 件目のオブジェクト操作時にエラーが発生しました。

An error occurred during operations on %1 objects.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いて、%1 件目の処理から再度実行してください。

#### KMBR32002-I <P,F>

---

%1 件のオブジェクトに対する操作を実行しました。

The operation on %1 objects finished executing.

(S)

—

(O)

—

#### KMBR32003-I <P,F>

---

一覧取得又は検索の結果、該当するオブジェクトはありませんでした。

In the list acquisition results or the search results, the corresponding object does not exist.

(S)

—

(O)

—

#### KMBR32004-E <P,F>

---

他のコマンドが実行中のため指定したコマンドを実行できません。

This command cannot be executed because another command is being executed.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ほかのコマンドの処理が終了してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32100-E <P,F>

---

指定したコマンドのオプション又は引数が不正です。

An option or an argument of the specified command is invalid.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

コマンドのオプションまたは引数を正しく指定してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32101-E <P,F>

---

引数又はフラグ引数にファイルは指定できません。

ファイル名：%1

A file cannot be specified for an argument or flag argument.

File name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

コマンドのオプションまたは引数を正しく指定してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32102-E <P,F>

---

複数のオブジェクトを一括して操作することはできません。

You cannot operate on multiple objects in a batch.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

一件ずつ処理を実行してください。

### KMBR32103-E <P,F>

---

プロパティ情報ファイルに必要なエントリを定義していません。

エントリ名 : %1

A required entry is not defined in the property information file.

Entry name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

プロパティ情報ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32104-E <P,F>

---

二つのファイルに記述したオブジェクトの数が一致していません。

The numbers of objects coded in the two files do not match.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

各ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32105-E <P,F>

---

削除対象外のオブジェクトを削除対象に指定しています。

OIID : %1

An object that is not to be deleted is specified to be deleted.

OIID : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

コマンドのオプションまたは引数に指定しているファイルを確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32106-W <P,F>

---

ファイルが既にあるため処理をスキップします。



ファイル名：%1

Processing will be skipped because the file already exists.

File name：%1

(S)

ファイルに対する処理をスキップします。

(O)

—

#### KMBR32107-I <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成しました。

The execution environment of an object operation tool is created.

(S)

—

(O)

—

#### KMBR32108-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境作成中にエラーが発生したため、オブジェクト操作ツールの実行環境を作成できませんでした。

An error occurred during creation of an execution environment of an object operation tool, so the environment could not be created.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32109-I <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境を更新しました。

The execution environment of an object operation tool was updated.

(S)

—

(O)

—

#### KMBR32110-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境作成中にエラーが発生したため、オブジェクト操作ツールの実行環境を更新できませんでした。

An error occurred during creation of an execution environment of an object operation tool, so the environment could not be updated.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

このメッセージの前に出力されたメッセージを基に、エラーの要因を取り除いてから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32111-E <P,F>

---

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成したユーザと異なるユーザによって実行されました。

The user who attempted to update an execution environment of an object operation tool was different from the user who created the environment.

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成したユーザと異なるユーザが実行環境を更新しようとした。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

オブジェクト操作ツールの実行環境を作成したユーザで、処理を再度実行してください。

#### KMBR32112-W <P,F>

---

1行に出力できるサイズを超えたため、問い合わせファイルの選択式に指定したすべてのプロパティを出力できませんでした。

行：%1

The command cannot output all properties specified in the selection expression of the query file because the data exceeds the size that can be output in one line.

Line：%1

(S)

可能な範囲でプロパティを出力します。

(O)

実行環境制御ファイルの Output セクションの LineSize を変更してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32113-W <P,F>

---

1行に出力できるサイズを超えたため、すべての情報を出力できませんでした。

行：%1

The command cannot output all information because the data exceeds the size that can be output in one line.

Line：%1

(S)

可能な範囲で情報を出力します。

(O)

実行環境制御ファイルの Output セクションの LineSize を変更してから、処理を再度実行してください。

**KMBR32114-E <P,F>**

検索時にエラーが発生しました。

An error occurred during a search.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

エラーの要因を取り除いてから、再度実行してください。

**KMBR32115-I <P,F>**

検索を実行しました。

The search has finished.

(S)

—

(O)

—

**KMBR32117-I <P,F>**

指定したオブジェクトにはコンテンツが登録されていません。

OIID : %1

バージョン識別子 : %2

レンディションタイプ : %3

A no content registered in the specified object.

OIID : %1

Version ID : %2

Rendition Type : %3

バージョン識別子(%2), レンディションタイプ(%3)の値のうち, コマンドのオプションに指定がない場合, または指定したオブジェクトに対して該当しない情報の場合について, 次の表に示します。

表 6-7 KMBR32117-I バージョン識別子とレンディションタイプの値

表示	値	説明
バージョン識別子(%2)	latest	-v オプション省略時, 最新バージョンであることを示します。
	non apply	バージョンなし文書の場合に該当しない情報であることを示します。
レンディションタイプ(%3)	master	-M オプション省略時, マスタレンディションであることを示します。

(S)

—

(O)

—

### KMBR32118-E <P,F>

---

指定した URL が不正です。

URL : %1

The specified URL is invalid.

URL : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

次の内容を確認してエラーを取り除いてから、処理を再度実行してください。

- URL (%1) で指定したパスが正しいかどうか
- URL プロトコルに"file:"以外を使用していないかどうか
- コマンドの-k オプションの指定 (ファイル実体の格納先) と URL の指定 (ファイルまたはディレクトリ) が一致しているかどうか

### KMBR32119-E <P,F>

---

アップロード情報ファイルに必要なエントリを定義していません。

エントリ名 : %1

A required entry is not defined in the upload information file.

Entry name : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

アップロード情報ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32120-E <P,F>

---

プロパティ情報ファイルまたはアップロード情報ファイルに指定したディレクトリパスが不正です。

ディレクトリパス指定 : %1

A specified directory path is invalid in the property information file or upload information file.

Directory path : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

指定したディレクトリパスが存在するかどうか、URL プロトコルに"file:"以外を使用していないかどうかを確認してから、処理を再度実行してください。

### KMBR32121-E <P,F>

---

アップロード情報ファイルに指定したディレクトリパスにはファイルがありません。

ディレクトリパス指定 : %1

There is not a file in the directory path specified as an upload information file.

Directory path : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

マルチファイル文書をアップロードする場合、マルチファイル文書として登録するファイルが必要です。登録するファイルが格納されているディレクトリパスを指定してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32122-E <P,F>

---

プロパティ情報ファイルまたはアップロード情報ファイルに指定したエントリに対する値が不正です。

エントリ名 : %1

値 : %2

A specified entry value is invalid in the property information file or upload information file.

Entry name : %1

Value : %2

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

プロパティ情報ファイルまたはアップロード情報ファイルの記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32124-W <P,F>

---

指定されたオブジェクトはマルチファイル文書ではありません。

OIID : %1

A specified object is not the multi file document.

OIID : %1

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

指定されたオブジェクトは、マルチファイル文書ではありません。OIID (%1) で示すオブジェクトがマルチファイル文書であるか確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32125-E <P,F>

---

リファレンス種別が指定されていません。

The reference classification is not specified.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

リファレンスファイル機能で使用するリファレンス種別が、実行環境制御ファイル、コマンド引数、およびプロパティ情報ファイルのどれにも指定されていません。記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32126-E <P,F>

---

コンテンツ保管先ベースパスが指定されていません。

The path of the base content area is not specified.

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

リファレンスファイル機能で使用するファイル実体格納先ベースパスまたはファイル実体格納先パスが、実行環境制御ファイル、コマンド引数、およびプロパティ情報ファイルのどれにも指定されていません。記述内容を確認してから、処理を再度実行してください。

#### KMBR32200-E <P,F>

---

指定したオブジェクトに対する操作はサポートされていません。

オブジェクト種別 : %1

The operation is not supported for the specified object.

Object type : %1

指定したオブジェクトに対する操作は、オブジェクト操作ツールではサポートされていません。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

ほかのコマンドで処理を実行するか、クライアントアプリケーションを作成して処理を実行してください。

#### KMBR32201-E <P,F>

---

指定したオブジェクトに対する機能はサポートされていません。

機能 : %1

付加情報 : %2

The function is not supported for the specified object.

Function : %1

Additional information : %2

指定したオブジェクトに対する機能は、オブジェクト操作ツールではサポートされていません。

(S)

オブジェクト操作ツールの実行を中止しました。

(O)

クライアントアプリケーションを作成して処理を実行してください。

# 7

## File Sharing クライアント運用コマンドのメッセージ

この章では, File Sharing クライアント運用コマンドのメッセージについて説明します。

## 7.1 KDCF20000~KDCF29999

---

### KDCF20001-E <F,P>

---

The specified option is invalid.%1

%1：ユーザが指定したオプションと使用方法

(S)

誤ったオプションを指定して、次のどれかのコマンドを実行しました。

- cfsrtgrpflidr コマンド
- cflstflidr コマンド
- cfschggrpflidr コマンド
- cfsaddgrpprm コマンド
- cfsmodgrpprm コマンド
- cfsdelgrpprm コマンド
- cfsaddgrpmngr コマンド
- cfsdelgrpmngr コマンド
- cflstlad コマンド
- cfschkusdspc コマンド
- cfschgcode コマンド
- cfsoiid2name コマンド
- cflstprop コマンド
- cflstqt コマンド
- cfsexpfile コマンド

(O)

指定したオプションが正しいかどうかを確認して、再度実行してください。

### KDCF20002-I <F,P>

---

Root folder creation has completed.

(S)

グループルートフォルダの作成に成功しました。

(O)

—

### KDCF20003-E <F,P>

---

The length of the name is from 1 to 255 characters.

(S)

cfsrtgrpflidr コマンドの-name オプション (フォルダ名) または-nameen オプション (フォルダの英語名) に、空文字列 ("") または 255 文字を超えた値を指定しました。



(O)

グループルートフォルダのフォルダ名およびフォルダの英語名は、255 文字以内で指定してください。

**KDCF20004-E <F,P>**


---

The length of the comment is from 1 to 255 characters.

(S)

cfsrtgrpfldr コマンドの-cmt オプション (コメント) に、空文字列 ("" ) または 255 文字を超えた値を指定しました。

(O)

コメントは、255 文字以内で指定してください。

**KDCF20005-E <F,P>**


---

Names consisting of only spaces and tabs cannot be specified.

(S)

cfsrtgrpfldr コマンドの-name オプション (フォルダ名) または-nameen オプション (フォルダの英語名) に、半角スペースまたはタブだけが指定されました。

(O)

グループルートフォルダのフォルダ名またはフォルダの英語名に、半角スペースまたはタブだけは指定できません。名前を見直して、適切な値を指定してください。

**KDCF20007-E <F,P>**


---

The specified name already exists.

(S)

cfsrtgrpfldr コマンドの-name オプションに指定したフォルダ名と同名のグループルートフォルダが存在します。

(O)

グループルートフォルダのフォルダ名には、一意な名前を指定してください。

**KDCF20008-E <F,P>**


---

An attempt to create a group root folder has failed.

(S)

次の要因が考えられます。

- 作成するグループルートフォルダに設定するベースパス情報が登録されていません。
- 環境設定用プロパティファイルの [hptl\_clb\_cfs\_AssignmentModeForNoFreeSpace] に [alert] が設定されていて、かつ作成するグループルートフォルダに設定する最大許容サイズが、グループルートフォルダ用のデフォルト以外のベースパス情報の空き容量を超えています。
- 作成するグループルートフォルダに設定する最大許容サイズ情報が登録されていません。
- 作成するグループルートフォルダに設定するベースパス情報の最大予約可能容量に設定されている値が不正です。
- 作成するグループルートフォルダに設定するベースパス情報の空き容量に設定されている値が不正です。

- 作成するグループルートフォルダに設定するベースパス情報の使用数に設定されている値が不正です。
- 環境設定用プロパティファイルの「hptl\_clb\_cfs\_AssignmentModeForUsedCountMax」に「alert」が設定されていて、かつグループルートフォルダ用のデフォルト以外のベースパス情報の使用数が、上限の 2,147,483,647 に達しています。
- 作成するグループルートフォルダに設定するグループルートフォルダ用のデフォルトのベースパス情報の使用数が、上限の 2,147,483,647 に達しています。
- 作成するグループルートフォルダに設定する最大許容サイズ情報の最大許容サイズに設定されている値が不正です。
- 作成するグループルートフォルダに設定する最大許容サイズが、グループルートフォルダ用のデフォルトのベースパス情報の空き容量を超えています。

(O)

システム管理者は次のことを確認してください。

- グループルートフォルダを作成するユーザの詳細情報に対応したグループルートフォルダ用のベースパス情報、またはグループルートフォルダ用のデフォルトのベースパス情報が登録されているか。
- グループルートフォルダ用のデフォルト以外のベースパス情報の空き容量が、作成するグループルートフォルダに設定する最大許容サイズ以上になっているか。
- グループルートフォルダを作成するユーザの詳細情報に対応したグループルートフォルダ用の最大許容サイズ情報、またはグループルートフォルダ用のデフォルトの最大許容サイズ情報が登録されているか。
- 作成するグループルートフォルダに設定するベースパス情報の最大予約可能容量に、「-1」または「1048576」～「219902325552」の半角数値が設定されているか。
- 作成するグループルートフォルダに設定するベースパス情報の空き容量に、「-1」または「0」～「219902325552」の半角数値が設定されているか。
- 作成するグループルートフォルダに設定するベースパス情報の使用数が、0～2,147,483,647 の範囲の値になっているか。
- 作成するグループルートフォルダに設定するグループルートフォルダ用のデフォルト以外のベースパス情報の使用数が、上限の 2,147,483,647 に達していないか。
- 作成するグループルートフォルダに設定するグループルートフォルダ用のデフォルトのベースパス情報の使用数が、上限の 2,147,483,647 に達していないか。
- 作成するグループルートフォルダに設定する最大許容サイズ情報の最大許容サイズに、「1048576」～「109951162776」の半角数値が設定されているか。
- グループルートフォルダ用のデフォルトのベースパス情報の空き容量が、作成するグループルートフォルダに設定する最大許容サイズ以上になっているか。

## KDCF20009-E <F,P>

---

An error occurred during linkage with another component. Component name: %1 Error message: %2

(S)

ほかのコンポーネントとの連携に失敗しました。

(O)

付加情報 (%2) が出力されている場合は、コンポーネント(%1)のエラーメッセージを確認して対処してください。付加情報 (%2) が出力されていない場合は、コンポーネント(%1)のログを確認して対処してください。

**KDCF20010-E <F,P>**

---

The specified organization ID does not exist. %1

%1：存在しない組織 ID

(S)

指定された組織 ID はディレクトリサーバに存在しません。

(O)

ディレクトリサーバに登録されている組織 ID を指定してください。

**KDCF20011-E <F,P>**

---

The specified user ID does not exist. %1

%1：存在しないユーザ ID

(S)

指定されたユーザ ID はディレクトリサーバに存在しません。

(O)

ディレクトリサーバに登録されているユーザ ID を指定してください。

**KDCF20012-E <F,P>**

---

The specified organization or user cannot be added. Up to 64 organization or users can be set for the manager.

(S)

cfsrtgrpfldr コマンドまたは cfsaddgrpmngr コマンドで、運用者に指定した組織数とユーザ数の合計が 64 を超えました。

(O)

組織数とユーザ数の合計が 64 以下になるように指定してください。

**KDCF20013-E <F,P>**

---

The specified organization or user cannot be added. Access permissions can only be set for up to 64 users or organizations.

(S)

cfsrtgrpfldr コマンドまたは cfsaddgrpprm コマンドで、アクセス権を設定した組織数とユーザ数の合計が 64 を超えました。

(O)

組織数とユーザ数の合計が 64 以下になるように指定してください。

**KDCF20014-I <F,P>**

---

The root folder list was output.

(S)

ルートフォルダの一覧の出力に成功しました。

(O)

—

## KDCF20015-E <F,P>

---

An attempt to open the specified file has failed.

(S)

次のどれかの要因で、エラーが発生しました。

cfslstfldr コマンド、cfslstad コマンドまたは cfslstqt コマンドの場合

- 格納先ファイルが読み取り専用になっています。
- 格納先ファイルへのアクセス権がありません。
- 格納先フォルダが存在しません。
- 格納先ファイルのパスの長さが 255 バイトを超えています。
- 格納先ファイルのファイル名に、File Sharing で使用できない文字または文字列が含まれています。File Sharing で使用できない文字または文字列については、マニュアル「Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド」を参照してください。
- 格納先ファイルにフォルダを指定しました。

cfslstfldr コマンド以外のグループフォルダ用コマンドの場合

- 組織/ユーザ情報ファイルへのアクセス権がありません。
- 組織/ユーザ情報ファイルの格納先フォルダが存在しません。
- 組織/ユーザ情報ファイルが存在しません。
- 組織/ユーザ情報ファイルのファイル名に、File Sharing で使用できない文字または文字列が含まれています。File Sharing で使用できない文字または文字列については、マニュアル「Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド」を参照してください。

cfschgcode コマンド、cfsoiid2name コマンドまたは cfslstprop コマンドの場合

- 出力ファイルが読み取り専用になっています。
- 入力ファイルまたは出力ファイルへのアクセス権がありません。
- 出力先フォルダが存在しません。
- 入力ファイルと出力ファイルのパスが同じです。
- 入力ファイルが存在しません。
- 出力ファイルのパスの長さが 255 バイトを超えています。
- 出力ファイルのファイル名に、File Sharing で使用できない文字または文字列が含まれています。File Sharing で使用できない文字または文字列については、マニュアル「Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド」を参照してください。

(O)

入力ファイルと出力ファイルのパスを確認してください。

## KDCF20016-I <F,P>

---

The group root folder was made invisible.

(S)

グループルートフォルダの非表示化に成功しました。

(O)

—

**KDCF20017-E <F,P>**

---

The specified group rootfolder does not exist.

(S)

次のコマンドで、-id オプションで指定したグループルートフォルダが存在しないか、またはすでに非表示となっています。

- cfschggrpfldr コマンド
- cfsaddgrpprm コマンド
- cfsmodgrpprm コマンド
- cfsdelgrpprm コマンド
- cfsaddgrpmngr コマンド
- cfsdelgrpmngr コマンド

(O)

指定したグループ ID が正しいかどうかを確認してください。

**KDCF20018-I <F,P>**

---

Group folder access permissions were added.

(S)

グループルートフォルダのアクセス権の追加に成功しました。

(O)

—

**KDCF20019-W <F,P>**

---

Access permissions for the specified organization have already been set. %1

%1 : アクセス権設定済みの組織 ID

(S)

cfsaddgrpprm コマンドで、すでにアクセス権が設定されている組織を指定しました。

(O)

—

**KDCF20020-W <F,P>**

---

Access permissions for the specified user have already been set. %1

%1 : アクセス権設定済みのユーザ ID

(S)

cfsaddgrpprm コマンドで、すでにアクセス権が設定されているユーザを指定しました。

(O)

—

**KDCF20021-E <F,P>**

---

Specify either or both the organization ID and user ID.

(S)

次のコマンドで、組織 ID またはユーザ ID が指定されていません。

- cfsaddgrpprm コマンド
- cfsmodgrpprm コマンド
- cfsdelgrpprm コマンド
- cfsaddgrpmngr コマンド
- cfsdelgrpmngr コマンド

(O)

エラーとなったコマンドを確認し、次のどれかの対処を実行してください。

- -oid オプションと-uid オプションのどちらか、または両方を指定してください。
- 組織/ユーザ情報ファイルで、「ORG」または「USER」を指定するか、もしくは両方を指定してください。
- -moid オプションと-muid オプションのどちらか、または両方を指定してください。
- 組織/ユーザ情報ファイルで、「MNGORG」または「MNGUSER」のどちらか、もしくは両方を指定してください。

#### KDCF20022-I <F,P>

---

Access permissions for the group folder have been changed.

(S)

グループルートフォルダのアクセス権の変更に成功しました。

(O)

—

#### KDCF20023-E <F,P>

---

The organization before the change did not have access permissions set.

(S)

cfsmodgrpprm コマンドで、アクセス権を設定していない組織を変更前組織に指定しました。

(O)

変更前組織が正しいかどうか見直してください。

#### KDCF20024-E <F,P>

---

The same organization ID cannot be specified for the organization ID before and after the change.

(S)

cfsmodgrpprm コマンドで、変更前組織と変更後組織に同じ組織を指定しました。

(O)

変更前組織と変更後組織には異なる組織を指定してください。

#### KDCF20025-E <F,P>

---

The user before the change did not have access permissions set.

- (S)  
cfsmodgrpprm コマンドで、指定した変更前ユーザにアクセス権が設定されていません。
- (O)  
変更前ユーザが正しいかどうかを見直してください。

---

**KDCF20026-E <F,P>**


---

The same user ID cannot be specified for the user ID before and after the change.

- (S)  
cfsmodgrpprm コマンドで、変更前ユーザと変更後ユーザに同じユーザを指定しました。
- (O)  
変更前ユーザと変更後ユーザには異なるユーザを指定してください。

---

**KDCF20027-I <F,P>**


---

Access permissions for the group folder were deleted.

- (S)  
グループルートフォルダのアクセス権の削除に成功しました。
- (O)  
—

---

**KDCF20028-W <F,P>**


---

Access permissions have not been set for the specified organization. %1

%1 : アクセス権が設定されていない組織 ID

- (S)  
cfsdelgrpprm コマンドで、アクセス権が設定されていない組織を指定しました。
- (O)  
—

---

**KDCF20029-W <F,P>**


---

Access permissions have not been set for the specified user. %1

%1 : アクセス権が設定されていないユーザ ID

- (S)  
cfsdelgrpprm コマンドで、アクセス権が設定されていないユーザを指定しました。
- (O)  
—

---

**KDCF20030-I <F,P>**


---

A group folder manager was added.

- (S)  
グループフォルダの運用者の追加に成功しました。

(O)

—

KDCF20031-W <F,P>

---

A group folder manager has already been set for the specified organization. %1

%1 : 運用者に設定済みの組織 ID

(S)

cfstddgrpmngr コマンドで、すでに運用者に設定されている組織を指定しました。

(O)

—

KDCF20032-W <F,P>

---

A group folder manager has already been set for the specified user. %1

%1 : 運用者に設定済みのユーザ ID

(S)

cfstddgrpmngr コマンドで、すでに運用者に設定されているユーザを指定しました。

(O)

—

KDCF20036-I <F,P>

---

A group folder manager was deleted.

(S)

グループフォルダの運用者の削除に成功しました。

(O)

—

KDCF20037-W <F,P>

---

The specified organization is not a manager. %1

%1 : 運用者ではない組織 ID

(S)

cfstddgrpmngr コマンドで、運用者ではない組織を指定しました。

(O)

—

KDCF20038-W <F,P>

---

The specified user is not a manager. %1

%1 : 運用者ではないユーザ ID

(S)

cfstddgrpmngr コマンドで、運用者ではないユーザを指定しました。



(O)

-

**KDCF20039-E <F,P>**

Login to the File Sharing server failed. Major code: %1 Minor code: %2

%1: メジャーコード

%2: マイナーコード

(S)

File Sharing サーバへのログインに失敗しました。

(O)

クラスライブラリの戻り値であるメジャーコード、マイナーコードからエラーの原因を特定し対処してください。

クラスライブラリの戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

**KDCF20040-E <F,P>**

An internal error has occurred. %1

%1: 付加情報

(S)

次のどちらかの要因が考えられます。

- 内部エラーが発生しました。
- ユーザが [Ctrl] キーを押しながら [C] キーを押したか、または Windows のコマンドプロンプトの [閉じる] ボタンをクリックしました。

(O)

内部エラーが発生した場合

次の表に示す付加情報以外の付加情報 (%1) が出力されている場合、または付加情報 (%1) が出力されていない場合は、File Sharing クライアントマシンに出力されるエラーログを確認して障害の要因を取り除いてください。

表 7-1 付加情報

付加情報 (%1)	要因	対策
Logout waiting.	ログアウト中。	時間をおいてから再度実行してください。
Not authenticated.	ユーザ認証に失敗しました。	時間をおいてから再度実行してください。
jp.co.Hitachi.soft.collaboration.filesharing.exception.CfsNotAithenticated Exception	セキュリティ管理者の認証に失敗	File Sharing クライアントの環境設定用プロパティファイル (hptl_clb_cfs.properties) の hptl_clb_cfs_SecurityAdministratorID エントリに、セキュリティ管理者のユーザ ID が指定されているかどうかを確認してください。

付加情報 (%1)	要因	対策
jp.co.Hitachi.soft.collaboration. filesharing.exception.CfsNotAuthenticated Exception	しまし た。	File Sharing クライアントの環境設定用プロパティ ファイル (hptl_clb_cfs.properties) の hptl_clb_cfs_SecurityAdministratorID エントリ に、セキュリティ管理者のユーザ ID が指定されてい るかどうかを確認してください。

File Sharing サーバでエラーが発生している場合は、File Sharing サーバマシンに出力されるイベ  
ントビューアのメッセージから障害の要因を特定し、メッセージに従って対処してください。それ  
でも障害から回復できない場合は、保守員に連絡してください。このとき、File Sharing クライ  
アントまたは File Sharing サーバの障害情報を採取しておいてください。

ユーザ操作が要因の場合

—

### KDCF20041-E <F,P>

A property file is invalid. Key: %1

%1: エラーとなったキー

(S)

環境設定用プロパティファイルのキーに対して異常な値を設定した状態で、次のどれかのコマンドを実  
行しました。

- cfsctrlgrpflidr コマンド
- cfslstflidr コマンド
- cfschggrpflidr コマンド
- cfsaddgrpprm コマンド
- cfsmodgrpprm コマンド
- cfsdelgrpprm コマンド
- cfsaddgrpmngr コマンド
- cfsdelgrpmngr コマンド
- cfslstad コマンド
- cfschkusdspc コマンド
- cfsoiid2name コマンド
- cfslstprop コマンド
- cfslstqt コマンド
- cfsexpfile コマンド

(O)

メッセージの付加情報として出力された環境設定用プロパティファイルのキーに対して適切な値が設  
定されているかどうか確認してください。

### KDCF20042-E <F,P>

A property file could not be read.

(S)

次のコマンドの実行時に、環境設定用プロパティファイルの読み込みに失敗しました。

- cfsctrlgrpflidr コマンド
- cflstflidr コマンド
- cfschggrpflidr コマンド
- cfsaddgrpprm コマンド
- cfsmodgrpprm コマンド
- cfsdelgrpprm コマンド
- cfsaddgrpmngr コマンド
- cfsdelgrpmngr コマンド
- cflstad コマンド
- cfschkusdspc コマンド
- cfsoiid2name コマンド
- cflstprop コマンド
- cflstqt コマンド
- cfsexpfile コマンド

(O)

システム管理者は次のことを確認してください。

- 次に示すディレクトリに、環境設定用プロパティファイルがあるかどうか。  
{Collaboration Portal インストールディレクトリ}\*\clb\_home\*conf
- 環境設定用プロパティファイルにアクセスできるかどうか。
- 環境設定用プロパティファイルが壊れていないかどうか。

## KDCF20043-W <P>

---

The initialization of the trace has failed.

(S)

コマンド起動時に、次のどれかの要因でエラーが発生しました。

- AP トレースファイルおよび AP エラーログファイルの格納先ディレクトリが存在しません。
- AP トレースファイルおよび AP エラーログファイルの格納先ディレクトリに書き込み権限がありません。
- AP トレースファイルおよび格納先ディレクトリと AP トレースファイルのパス長の合計値が、最大パス長（257 バイト）を超えています。
- AP エラーログファイルの格納先ディレクトリと AP エラーログファイルのパス長の合計値が、最大パス長（257 バイト）を超えています。

(O)

システム管理者は次のことを確認してください。

- AP トレースファイルおよび AP エラーログファイルの格納先ディレクトリが存在するかどうか。
- AP トレースファイルおよび AP エラーログファイルの格納先ディレクトリに書き込み権限があるかどうか。

- AP トレースファイルおよび格納先ディレクトリと AP トレースファイルのパス長の合計値が、最大パス長（257 バイト）を超えていないかどうか。
- AP エラーログファイルの格納先ディレクトリと AP エラーログファイルのパス長の合計値が、最大パス長（257 バイト）を超えていないかどうか。

#### KDCF20044-E <F,P>

---

The length of the organization ID is from 1 to 254 characters.

(S)

組織 ID に、長さが 0 バイトの値または 254 バイトを超えた値を指定しました。

(O)

組織 ID は半角 254 文字以内で入力してください。

#### KDCF20045-E <F,P>

---

The length of the user ID is from 1 to 254 characters.

(S)

ユーザ ID に長さが 0 バイトの値または 254 バイトを超えた値を指定しました。

(O)

ユーザ ID は半角 254 文字以内で入力してください。

#### KDCF20046-E <F,P>

---

A specification of an information file for an organization or user is invalid.

(S)

組織/ユーザ情報ファイルの内容が、次のどれかになっています。

- cfsrtgrpflidr コマンドで、各行の 1 カラム目に指定された値が、「MNGORG」、「MNGUSER」、「ORG」、および「USER」以外の場合
- cfsaddgrpprm コマンドまたは cfsdelgrpprm コマンドで、各行の 1 カラム目に指定された値が、「ORG」および「USER」以外の場合
- cfsaddgrpmngr コマンドまたは cfsdelgrpmngr コマンドで、各行の 1 カラム目に指定された値が「MNGORG」および「MNGUSER」以外の場合
- 「MNGORG」、「MNGUSER」、「ORG」、または「USER」のあとに値を指定していない場合

(O)

組織/ユーザ情報ファイルの内容が正しいかどうか確認してください。

#### KDCF20048-E <F,P>

---

The length of the ID is from 1 to 16 characters.

(S)

-id オプションに、0 バイトの値または 16 バイトを超えた値を指定しました。

(O)

ID は、半角 16 文字以内で入力してください。

## KDCF20049-E &lt;F,P&gt;

---

An error occurred in the database. %1

%1：付加情報

(S)

データベースでエラーが発生しました。

(O)

データベースサーバが起動しているかどうか、またはデータベースサーバとの通信が正常にできるかどうか確認してください。

## KDCF20050-E &lt;F,P&gt;

---

An attempt to communicate with the File Sharing server has failed.

(S)

次のどちらかの要因が考えられます。

- File Sharing サーバとの通信に失敗しました。
- ユーザが [Ctrl] キーを押しながら [C] キーを押したか、または Windows のコマンドプロンプトの [閉じる] ボタンをクリックしました。

(O)

File Sharing サーバとの通信に失敗した場合

File Sharing サーバとの通信が正常にできるかどうか確認してください。

ユーザ操作が要因の場合

—

## KDCF20051-E &lt;F,P&gt;

---

An error occurred in the server. (major code: %1 minor code: %2)

%1：メジャーコード

%2：マイナーコード

(S)

次のどちらかの要因が考えられます。

- File Sharing サーバでエラーが発生しました。
- ユーザが [Ctrl] キーを押しながら [C] キーを押したか、または Windows のコマンドプロンプトの [閉じる] ボタンをクリックしました。

(O)

File Sharing サーバでエラーが発生した場合

クラスライブラリの戻り値であるメジャーコード、マイナーコードからエラーの原因を特定し対処してください。

クラスライブラリの戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

ユーザ操作が要因の場合

—

### KDCF20052-E <F,P>

---

An attempt to output to the file has failed.

(S)

格納先ファイルまたは出力ファイルがネットワークドライブ上にある場合、次のどれかのコマンドでファイルへの情報出力中に、ネットワークドライブが切断されました。

- cfslstfldr コマンド
- cfslstad コマンド
- cfsoiid2name コマンド
- cfslstprop コマンド
- cfslstqt コマンド
- cfsexpfile コマンド

(O)

格納先ファイルまたは出力ファイルのネットワークドライブが存在するか確認してください。

### KDCF20053-E <F,P>

---

Specify either the organization ID or user ID.

(S)

次のコマンドで、組織 ID とユーザ ID の両方が指定されています。

- cfsmodgrpprm コマンド
- cfsdelgrpprm コマンド

(O)

-oid オプションと-uid オプションのどちらかを指定してください。

### KDCF20054-E <F,P>

---

Specify "c" or "r" for the access permissions.

(S)

次のコマンドで、アクセス権に「c」および「r」以外を指定しています。

- cfsrtgrpfldr コマンド
- cfsaddgrpprm コマンド

(O)

アクセス権に「c」または「r」を指定してください。

### KDCF20055-E <F,P>

---

Execution of the command will now be interrupted.

(S)

次のどちらかの要因によって、コマンドの実行を中断しました。

- [Ctrl] キーを押しながら [C] キーを押しました。
- Windows のコマンドプロンプトの「閉じる」ボタンをクリックしました。

このとき、次のコマンドを実行中の場合には、作成、非表示化、追加、変更、削除が完了しなかったことを通知します。

- cfsctrlgrpflidr コマンド
- cfschggrpflidr コマンド
- cfsaddgrpprm コマンド
- cfsmodgrpprm コマンド
- cfsdelgrpprm コマンド
- cfsaddgrpmngr コマンド
- cfsdelgrpmngr コマンド

次のコマンドを実行中の場合には、ルートフォルダ情報格納ファイルまたはベースパス情報格納ファイルへの出力が完了しなかったことを通知します。

- cfslstflidr コマンド
- cfslstad コマンド
- cfslstqt コマンド

次のコマンドを実行中の場合には、使用量が最大使用可能容量を超過していないかどうかの確認が完了しなかったことを通知します。

- cfschkusdspc コマンド

次のコマンドを実行中の場合には、文字コード変換後のファイルの出力が完了しなかったことを通知します。

- cfschgcode コマンド

次のコマンドを実行中の場合には、出力ファイルへの出力が完了しなかったことを通知します。

- cfsoiid2name コマンド
- cfslstprop コマンド
- cfsexpfile コマンド

(O)

—

## KDCF20056-E <F,P>

---

The specified organization or user cannot be deleted. A %1 exists that the owner will become unable to access. (Name: %2 Owner: %3)

%1 : folder または file

%2 : フォルダまたはファイルの名前

%3 : 所有者名

(S)

次のどちらかの要因が考えられます。

- cfsdelgrpprm コマンドを実行してアクセス権から組織またはユーザを削除すると、所有者がアクセスできなくなるファイルまたはフォルダが存在する場合
- cfsmodgrpprm コマンドを実行して変更後の組織またはユーザに置き換えると、所有者がアクセスできなくなるファイルまたはフォルダが存在する場合

(O)

下位ファイルまたはフォルダの所有者に必ずアクセス権が存在するように設定したあと、再度実行してください。

#### KDCF20057-E <F,P>

---

An environment setting for the command is invalid.

(S)

次のどちらかの要因が考えられます。

- コマンドの環境設定が不正です。
- ユーザが [Ctrl] キーを押しながら [C] キーを押したか、または Windows のコマンドプロンプトの [閉じる] ボタンをクリックしました。

(O)

コマンドの環境設定が不正の場合

システム管理者は、環境変数 EDMCLASSDEFPATH に設定したパスに、クラス定義情報ファイルが存在しているかどうかを確認してください。

ユーザ操作が要因の場合

—

#### KDCF20058-I <F,P>

---

The list of basepath information was successfully output.

(S)

ベースパス情報の一覧の出力に成功しました。

(O)

—

#### KDCF20059-W <F,P>

---

The used space for the maximum usable space exceeds the threshold. (name = %1)

%1：ベースパス情報の名前

(S)

次のコマンドを実行したときに、%1 のベースパス情報が設定されているルートフォルダの使用済みサイズの合計が、最大使用可能容量のしきい値となる割合を超えていて、かつ最大使用可能容量以下になっています。

- cfslstad コマンド
- cfschkusdspc コマンド

(O)

ベースパス情報の最大使用可能容量を大きくしてください。

#### KDCF20060-W <F,P>

---

The used space exceeds the maximum usable space. (name = %1)

%1：ベースパス情報の名前



(S)

次のコマンドを実行したときに、%1 のベースパス情報が設定されているルートフォルダの使用済みサイズの合計が、最大使用可能容量を超えています。

- cfslstad コマンド
- cfschkusdspc コマンド

(O)

ベースパス情報の最大使用可能容量を大きくしてください。

#### KDCF20061-I <F,P>

---

The check of the used space was completed.

(S)

使用量が最大使用可能容量を超過していないかどうかの確認が終了しました。

(O)

—

#### KDCF20062-I <F,P>

---

The basepath information of status changed read-only for files. (name = %1)

%1：ベースパス情報の名前

(S)

cfschkusdspc コマンドを実行したときに、ベースパス情報の状態を [ファイルの参照のみ許可] に変更しました。

(O)

—

#### KDCF20063-E <F,P>

---

The specified basepath information does not exist. (name = %1)

%1：ベースパス情報の名前

(S)

cfschkusdspc コマンドの-name オプションで指定したベースパス情報が存在しません。

(O)

指定したベースパス情報の名前が正しいか確認してください。

#### KDCF20064-I <F,P>

---

The encoded file has been output.

(S)

エンコードされたファイルが出力されました。

(O)

—

### KDCF20065-E <F,P>

---

Specify either the name or the type.

(S)

cfschkusdspc コマンドで、-name オプションと-type オプションの両方が指定されています。

(O)

-name オプションと-type オプションのどちらかを指定してください。

### KDCF20066-I <F,P>

---

The access history file to which the names were added has been output. (successfully changed = %1, not found = %2, invalid = %3)

%1 : OIID にファイル名またはフォルダ名を付加した件数

%2 : OIID に対応するファイルまたはフォルダが存在しなかった件数

%3 : 不正なアクセス履歴の件数

(S)

cfsoiid2name コマンドが正常終了しました。

(O)

—

### KDCF20067-I <F,P>

---

The object information was output. (successfully collected = %1, not found = %2, invalid = %3)

%1 : OIID からファイルまたはフォルダの情報を取得した件数

%2 : OIID に対応するファイルまたはフォルダが存在しなかった件数

%3 : 不正なアクセス履歴, または OIID の件数

(S)

cfslstprop コマンドが正常終了しました。

(O)

—

### KDCF20068-E <F,P>

---

The ID of the additional-post user is specified. Specify the ID of the main-post user. (userid= %1)

%1 : 兼任ユーザのユーザ ID

兼任ユーザのユーザ ID が複数指定された場合は「, (コンマ)」で区切って表示されます。

(S)

兼任ユーザのユーザ ID が指定されました。

(O)

主体ユーザのユーザ ID を指定してください。

### KDCF20087-E <F,P>

---

An access permission for the folder cannot be modified because a subfolder was added under that folder.

(S)

ファイル共有プロパティファイルのキー「hptl\_clb\_cfs\_GroupFolderPermSettingMode」に「bottomup」を設定した状態で、cfsdelgrpprm コマンドを実行したとき、アクセス権を削除するフォルダの下に、フォルダが追加（作成、移動またはコピー）されています。

(O)

cfsdelgrpprm コマンドを再度実行してください。

#### KDCF20088-E <F,P>

---

An access permission for the folder cannot be modified because a organization or user was added to the access permissions of a subfolder of that folder.

(S)

ファイル共有プロパティファイルのキー「hptl\_clb\_cfs\_GroupFolderPermSettingMode」に「bottomup」を設定した状態で、cfsdelgrpprm コマンドを実行したとき、下位フォルダのアクセス権に次のどれかが追加されています。

- 削除した組織
- 削除した組織の下位組織
- 削除した組織の所属ユーザ
- 削除した組織の下位組織に所属するユーザ
- 削除したユーザ

(O)

cfsdelgrpprm コマンドを再度実行してください。

#### KDCF20089-I <F,P>

---

The list of quota information was successfully output.

(S)

最大許容サイズ情報の一覧の出力に成功しました。

(O)

—

#### KDCF20090-I <F,P>

---

The export processing has finished. (%1 successfully exported = %2, %1 that failed to be exported = %3)

%1：コンテンツデータエクスポートの場合：files

アクセス権一覧エクスポートの場合：access permissions

%2：エクスポートに成功した件数

%3：エクスポートに失敗した件数

(S)

cfsexpfile コマンドが正常終了しました。

(O)

—

## KDCF20091-I <F,P>

---

Number of processed %1: %2

%1 : コンテンツデータエクスポートの場合 : files

アクセス権一覧エクスポートの場合 : access permissions

%2 : 処理した件数

(S)

%2 件の %1 をエクスポートしました。成功・失敗に関係なく環境設定用プロパティファイル (hptl\_clb\_cfs.properties) のキー「hptl\_clb\_cfs\_ContentsMessageCount」に設定された数のファイルまたはアクセス権を処理するたびに、このメッセージを出力します。

(O)

—

## KDCF20092-E <F,P>

---

The %1 could not be opened. (%2)

(S)

cfsexpfile コマンドの実行時に、次のどれかの要因でエラーが発生しました。

%1 :

- 入力ファイルの場合 : specified file
- ファイルまたはディレクトリの場合 : file or directory
- コンテンツデータファイルの場合 : contents data file
- コンテンツファイルの一時ファイルの場合 : temporary content file
- 出力先ディレクトリの場合 : specified directory
- コンテンツデータ格納ディレクトリの場合 : contents data storage directory
- コンテンツ格納ディレクトリの場合 : contents storage directory
- コンテンツディレクトリの場合 : content directory

%2 :

- %1 が存在しない。 : Does not exist
- %1 がファイルでない。 : Not a file
- %1 に読み込み権限がない。 : No read permission
- %1 のパスが 255 バイトを超えた。 : Exceeds 255 bytes
- %1 のパスが 0 バイトまたは 255 バイトを超えた。 : 0 byte or Exceeds 255bytes
- %1 がディレクトリでない。 : Not a directory
- %1 に書き込み権限がない。 : No write permission
- %1 が作成できない。 : Cannot create
- %1 がすでに存在する。 : Already exists
- %1 で内部エラーが発生した。 : Internal error

(O)

次のように対処してください。

- Does not exist の場合：%1 に存在するパスを指定してください。
- Not a file の場合：%1 にファイルを指定してください。
- No read permission の場合：%1 への読み込み権限を設定してください。
- Exceeds 255 bytes の場合：%1 を 255 バイト以内となるように指定してください。
- 0 byte or Exceeds 255 bytes の場合：%1 を 0 バイト以上 255 バイト以内となるように指定してください。
- Not a directory の場合：%1 にディレクトリを指定してください。
- No write permission の場合：%1 への書き込み権限を設定してください。
- Cannot create の場合：%1 の上位ディレクトリに作成権限を設定してください。
- Already exists の場合：%1 と同じ名前が存在しない出力先ディレクトリを指定してください。
- Internal error の場合：内部エラーが発生した場合は、システム管理者に連絡してください。

#### KDCF20093-E <F,P>

---

The distribution URL could not be output.

(S)

cfsexpfile コマンドの実行時に、次のどちらかの要因でエラーが発生しました。

- 配布 URL を作成する共通 URL を格納するレコードが存在しません。
- 配布 URL を作成する共通 URL を格納するレコードに URL が設定されていません。

(O)

最新の Collaboration - File Sharing への移行手順を実行し、配布 URL を作成する共通 URL を格納するテーブルを追加してください。[ファイル共有設定] ポートレットの [オプション▼] - [エクスポート情報を登録する] をクリックしてから、cfsexpfile コマンドを再度実行してください。



# 8

## 監査ログのメッセージ

この章では、監査ログに出力されるメッセージについて説明します。

## 8.1 監査ログのメッセージの概要

ここでは、監査ログに出力されるメッセージについて説明します。

### (1) 監査ログのメッセージの種類

監査ログ出力機能を使用した場合に出力されるメッセージには、次の2種類があります。

- File Sharing のポートレットの操作時に出力されるメッセージ
- コマンド実行時に出力されるメッセージ

### (2) 監査ログのメッセージの出力先

監査ログは、監査ログファイルに出力されます。

File Sharing で出力される監査ログを次に示します。

- Collaboration の監査ログファイル  
Collaboration の監査ログファイルには、File Sharing ポートレットおよびコマンドの操作履歴（監査ログ）が出力されます。  
監査ログのメッセージの出力先の詳細は、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

### (3) 監査ログのメッセージの出力形式および監査ログの出力項目の意味

監査ログファイルに出力されるメッセージの出力形式および監査ログの出力項目の意味は、メッセージの種類によって異なります。

それぞれのメッセージの出力形式および監査ログの出力項目の意味の詳細は、次に示すマニュアルを参照してください。

- File Sharing のポートレットの操作時に出力されるメッセージ  
マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。
- コマンド実行時に出力されるメッセージ  
マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

### (4) 監査ログのメッセージの記載形式

このマニュアルでの、監査ログのメッセージの記載形式について説明します。

KDCFnnnnn-i <Y>

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
メッセージの出力項目名	メッセージの出力項目の意味	メッセージの出力内容

(凡例)

可変値に関する説明

コマンド

メッセージが出力される契機となるコマンド



### 出力ポイント

メッセージが出力されるタイミング

各項目の詳細を次に示します。

#### KDCFnnnnn

メッセージの nnnnn はメッセージの番号です。それぞれのメッセージに 5 けたの固有の番号が付いています。

##### KDCF00500~KDCF00599 :

監査ログに出力されるメッセージのうち、[ファイル共有] ポートレットおよび [ファイル共有設定] ポートレットの操作時に出力されるメッセージを示します。

##### KDCF20500~KDCF20599 :

監査ログに出力されるメッセージのうち、コマンド実行時に出力されるメッセージを示します。

i

メッセージの種類を示します。

E : エラーメッセージであることを表します。

W : 警告メッセージであることを表します。

I : 通知メッセージであることを表します。

<Y>

メッセージの出力先を表します。

K : 監査ログファイル

#### メッセージの内容

メッセージに出力される項目の内容を表に示します。

ここでは、メッセージごとに固有の意味を持つ項目、または固有の値が出力される項目について説明します。すべてのメッセージで共通の意味を持つ項目、または共通の値が出力される項目については、マニュアル「Collaboration 導入ガイド」を参照してください。

#### 可変値に関する説明

メッセージテキストの可変値に表示される情報を「%n」（%n は任意の数字）または「<斜体の文字列>」の形式で示します。可変値に関する説明の記述例を次に示します。

(例)

%1 : <ユーザ ID>

#### コマンド

メッセージが出力される契機となるコマンドを示します。

#### 出力ポイント

メッセージが出力されるタイミングを示します。

## 8.2 File Sharing のポートレット操作時に出力される メッセージ KDCF00500~KDCF00599

### KDCF00500-I <K>

#### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00500-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Quota 最大許容サイズ情報を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OID&gt;</li> </ul>
obj:name*		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;フォルダ名またはファイル名&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-1 を参照してください。
op	動作情報	Enforce
objloc:source	オブジェクトロケーション情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OID&gt;</li> </ul>
objloc:destination*		詳細は、表 8-2 を参照してください。
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• General User 一般ユーザ権限で操作したことを示します。</li> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 にアクセスしました。(成功)

#### (凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

#### 注※

出力内容の組み合わせによっては、obj:name および objloc:destination が出力されない場合もあります。

- オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:id および obj:name の出力内容は、obj の出力内容によって異なります。obj:name は、フォルダの削除、ファイルの削除、フォルダの移動および別のルートフォルダへのファイルの移動をした場合にだけ出力されます。同一ルートフォルダ内でファイルを移動した場合には、obj:name は出力されません。オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-1 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id	obj:name
Basepath	<操作したベースパス情報の OIID>	—
File	<操作したファイルの OIID>	<操作したファイルのファイル名>
Folder	<操作したフォルダの OIID>	<操作したフォルダのフォルダ名>
Quota	<操作した最大許容サイズ情報の OIID>	—

(凡例)

—：出力されません。

- オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-2 オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

objloc:source	objloc:destination
<移動元フォルダの OIID>	<移動先フォルダの OIID>
<コピー元フォルダの OIID>	<コピー先フォルダの OIID>
<削除元フォルダの OIID>	—
<作成先フォルダの OIID>	—
<登録先フォルダの OIID>	—

(凡例)

—：出力されません。

#### 出力ポイント

- 最大許容サイズ情報への操作
- ファイルへの操作
- フォルダへの操作
- ベースパス情報への操作

## KDCF00501-E <K>

#### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00501-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AccessControl

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Quota 最大許容サイズ情報を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OIID&gt;</li> </ul>
obj:name*		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;フォルダ名またはファイル名&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-3 を参照してください。
op	動作情報	Enforce
objloc:source	オブジェクトロケーション情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OIID&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-4 を参照してください。
objloc:destination*		
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• General User 一般ユーザ権限で操作したことを示します。</li> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 にアクセスしました。(失敗)

## (凡例)

%1：ユーザID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

## 注※

出力内容の組み合わせによっては、obj:name および objloc:destination が出力されない場合もあります。

- オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:id および obj:name の出力内容は、obj の出力内容によって異なります。obj:name は、フォルダの削除、ファイルの削除、フォルダの移動および別のルートフォルダへのファイルの移動をした場合にだけ出力されます。同一ルートフォルダ内でファイルを移動した場合には、obj:name は出力されません。オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-3 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id	obj:name
Basepath	<操作したベースパス情報の OIID>	—
File	<操作したファイルの OIID>	<操作したファイルのファイル名>
Folder	<操作したフォルダの OIID>	<操作したフォルダのフォルダ名>

obj	obj:id	obj:name
Quota	<操作した最大許容サイズ情報の OIID>	-

(凡例)

- : 出力されません。

• オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-4 オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

objloc:source	objloc:destination
<移動元フォルダの OIID>	<移動先フォルダの OIID>
<コピー元フォルダの OIID>	<コピー先フォルダの OIID>
<削除元フォルダの OIID>	-
<作成先フォルダの OIID>	-
<登録先フォルダの OIID>	-

(凡例)

- : 出力されません。

出力ポイント

- 最大許容サイズ情報への操作
- ファイルへの操作
- フォルダへの操作
- ベースパス情報への操作

## KDCF00510-I <K>

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00510-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• File.permission ファイルのアクセス権を操作したことを示します。</li> <li>• Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OIID&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-5 を参照してください。

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Modify アクセス権を更新した場合。</li> <li>Refer アクセス権を参照した場合。</li> </ul>
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>General User 一般ユーザ権限で操作したことを示します。</li> <li>Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(成功)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3：監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

• オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-5 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id
File.permission	<操作したファイルの OIID>
Folder.permission	<操作したフォルダの OIID>

出力ポイント

- ファイルのアクセス権の更新
- ファイルのアクセス権の参照
- フォルダのアクセス権の更新
- フォルダのアクセス権の参照

## KDCF00511-E <K>

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00511-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>File.permission</li> </ul>

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj	オブジェクト情報	ファイルのアクセス権を操作したことを示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;OIID&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-6 を参照してください。
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Modify アクセス権を更新した場合。</li> <li>Refer アクセス権を参照した場合。</li> </ul>
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>General User 一般ユーザ権限で操作したことを示します。</li> <li>Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(失敗)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3：監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

• オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-6 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id
File.permission	<操作したファイルの OIID>
Folder.permission	<操作したフォルダの OIID>

出力ポイント

- ファイルのアクセス権の更新
- ファイルのアクセス権の参照
- フォルダのアクセス権の更新
- フォルダのアクセス権の参照

## KDCF00520-E <K>

メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00520-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	<プロセス ID>
obj:file	オブジェクト情報	<プロパティファイル名>
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	プロセス%1 が%2 を読み込みました。(失敗)

(凡例)

%1：プロセス ID

%2：プロパティファイル名

#### 出力ポイント

プロパティファイルの読み込み

## KDCF00521-E <K>

#### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00521-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	<プロセス ID>
obj:file	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;ファイル名またはキー名&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-7 を参照してください。
obj:param		
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	プロセス%1 が%2 のキー%3 を読み込みました。(失敗)

(凡例)

%1：プロセス ID

%2：プロパティファイル名

%3：読み込みに失敗したキー名

- オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-7 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:file	obj:param
<プロパティファイル名>	<読み込みに失敗したキー名>



## 出力ポイント

プロパティファイルのキーの読み込み

## KDCF00530-I &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00530-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• Basepath.property ベースパス情報のプロパティを操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• File.permission ファイルのアクセス権を操作したことを示します。</li> <li>• File.property ファイルのプロパティを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> <li>• Folder.property フォルダのプロパティを操作したことを示します。</li> <li>• Quota 最大許容サイズ情報を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OID&gt;</li> </ul>
obj:name <sup>※</sup>		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;フォルダ名またはファイル名&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-8 を参照してください。
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Add 最大許容サイズ情報、またはベースパス情報を追加した場合。</li> <li>• Attach</li> </ul>

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<p>ファイルを本文に添付した場合。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Copy フォルダまたはファイルをコピーした場合。</li> <li>• Create フォルダを作成した場合。</li> <li>• Delete フォルダ、ファイル、最大許容サイズ情報、またはベースパス情報を削除した場合。</li> <li>• Download ファイルをダウンロードした場合。</li> <li>• Lock ファイルをロックした場合。</li> <li>• Modify ファイルを更新した場合。 フォルダ、ファイル、またはベースパス情報のプロパティを更新した場合。 フォルダまたはファイルのアクセス権を更新した場合。</li> <li>• Move フォルダまたはファイルを移動した場合。</li> <li>• Open フォルダを表示した場合。</li> <li>• Refer フォルダ、ファイル、またはベースパス情報のプロパティを参照した場合。 フォルダまたはファイルのアクセス権を参照した場合。</li> <li>• Register ファイルを登録した場合。</li> <li>• Return ファイルをロック前の状態に戻した場合。</li> <li>• Search フォルダを検索した場合。</li> <li>• Unlock ファイルをアンロックし、更新を反映した場合。</li> </ul>
objloc:source	オブジェクトロケーション情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OIID&gt;</li> </ul> <p>詳細は、表 8-9 を参照してください。</p>
objloc:destination <sup>※</sup>		
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• General User 一般ユーザ権限で操作したことを示します。</li> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(成功)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3：監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

注※

出力内容の組み合わせによっては、obj:name および objloc:destination が出力されない場合もあります。

• オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:id および obj:name の出力内容は、obj の出力内容によって異なります。obj:name は、フォルダの削除、ファイルの削除、フォルダの移動および別のルートフォルダへのファイルの移動をした場合にだけ出力されます。同一ルートフォルダ内でファイルを移動した場合には、obj:name は出力されません。オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-8 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id	obj:name
Basepath	<削除したベースパス情報の OIID>	—
	<追加したベースパス情報の OIID>	—
Basepath.property	<プロパティを更新したベースパス情報の OIID>	—
	<プロパティを参照したベースパス情報の OIID>	—
File	<アンロックしたファイルの OIID>	—
	<移動したファイルの OIID>	<移動したファイルのファイル名>
	<更新したファイルの OIID>	—
	<コピーしたファイルの OIID>	—
	<削除したファイルの OIID>	<削除したファイルのファイル名>
	<ダウンロードしたファイルの OIID>	—
	<添付したファイルの OIID>	—
	<登録したファイルの OIID>	—
	<ロックしたファイルの OIID>	—
<ロック前に戻したファイルの OIID>	—	
File.permission	<更新したファイルの OIID>	—
	<参照したファイルの OIID>	—
File.property	<更新したファイルの OIID>	—

obj	obj:id	obj:name
File.property	<参照したファイルの OIID>	—
Folder	<移動したフォルダの OIID>	<移動したフォルダのフォルダ名>
	<検索する場所に指定したフォルダの OIID>	—
	<コピーしたフォルダの OIID>	—
	<削除したフォルダの OIID>	<削除したフォルダのフォルダ名>
	<作成したフォルダの OIID>	—
	<表示したフォルダの OIID>	—
Folder.permission	<更新したフォルダの OIID>	—
	<参照したフォルダの OIID>	—
Folder.property	<更新したフォルダの OIID>	—
	<参照したフォルダの OIID>	—
Quota	<削除した最大許容サイズ情報の OIID>	—
	<追加した最大許容サイズ情報の OIID>	—

(凡例)

— : 出力されません。

• オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-9 オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

objloc:source	objloc:destination
<移動元フォルダの OIID>	<移動先フォルダの OIID>
<コピー元フォルダの OIID>	<コピー先フォルダの OIID>
<削除元フォルダの OIID>	—
<作成先フォルダの OIID>	—
<登録先フォルダの OIID>	—

(凡例)

— : 出力されません。

出力ポイント

- 最大許容サイズ情報の削除
- 最大許容サイズ情報の追加
- ファイルのアクセス権の更新
- ファイルのアクセス権の参照
- ファイルの移動

- ファイルの上書き移動
- ファイルの上書きコピー
- ファイルの更新
- ファイルのコピー
- ファイルの削除
- ファイルのダウンロード
- ファイルの登録
- ファイルのプロパティの更新
- ファイルのプロパティの参照
- ファイルのロック
- ファイルをアンロックし更新を反映
- ファイルをロック前の状態に戻す
- ファイルを本文に添付
- フォルダのアクセス権の更新
- フォルダのアクセス権の参照
- フォルダの移動
- フォルダの上書き移動
- フォルダの上書きコピー
- フォルダの検索
- フォルダのコピー
- フォルダの削除
- フォルダの作成
- フォルダの表示
- フォルダのプロパティの更新
- フォルダのプロパティの参照
- ベースパス情報の追加
- ベースパス情報の削除
- ベースパス情報のプロパティの更新
- ベースパス情報のプロパティの参照

## KDCF00531-E <K>

### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00531-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• Basepath.property ベースパス情報のプロパティを操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• File.permission ファイルのアクセス権を操作したことを示します。</li> <li>• File.property ファイルのプロパティを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> <li>• Folder.property フォルダのプロパティを操作したことを示します。</li> <li>• Quota 最大許容サイズ情報を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OIID&gt;</li> </ul>
obj:name*		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;フォルダ名またはファイル名&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-10 を参照してください。
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Add 最大許容サイズ情報、またはベースパス情報を追加した場合。</li> <li>• Attach ファイルを本文に添付した場合。</li> <li>• Copy フォルダまたはファイルをコピーした場合。</li> <li>• Create フォルダを作成した場合。</li> <li>• Delete フォルダ、ファイル、最大許容サイズ情報、またはベースパス情報を削除した場合。</li> <li>• Download ファイルをダウンロードした場合。</li> </ul>

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Lock ファイルをロックした場合。</li> <li>• Modify ファイルを更新した場合。 フォルダ、ファイル、またはベースパス情報のプロパティを更新した場合。 フォルダまたはファイルのアクセス権を更新した場合。</li> <li>• Move フォルダまたはファイルを移動した場合。</li> <li>• Open フォルダを表示した場合。</li> <li>• Refer フォルダ、ファイル、またはベースパス情報のプロパティを参照した場合。 フォルダまたはファイルのアクセス権を参照した場合。</li> <li>• Register ファイルを登録した場合。</li> <li>• Return ファイルをロック前の状態に戻した場合。</li> <li>• Search フォルダを検索した場合。</li> <li>• Unlock ファイルをアンロックし、更新を反映した場合。</li> </ul>
objloc:source	オブジェクトロケーション情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OIID&gt; 詳細は、表 8-11 を参照してください。</li> </ul>
objloc:destination*		
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• General User 一般ユーザ権限で操作したことを示します。</li> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(失敗)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3：監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

注※

出力内容の組み合わせによっては、obj:name および objloc:destination が出力されない場合もあります。

- オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:id および obj:name の出力内容は、obj の出力内容によって異なります。obj:name は、フォルダの削除、ファイルの削除、フォルダの移動および別のルートフォルダへのファイルの移動をした場合にだけ出力されます。同一ルートフォルダ内でファイルを移動した場合には、obj:name は出力されません。オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-10 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id	obj:name
Basepath	<削除したベースパス情報の OIID>	—
	<追加したベースパス情報の OIID>	—
Basepath.property	<プロパティを更新したベースパス情報の OIID>	—
	<プロパティを参照したベースパス情報の OIID>	—
File	<アンロックしたファイルの OIID>	—
	<移動したファイルの OIID>	<移動したファイルのファイル名>
	<更新したファイルの OIID>	—
	<コピーしたファイルの OIID>	—
	<削除したファイルの OIID>	<削除したファイルのファイル名>
	<ダウンロードしたファイルの OIID>	—
	<添付したファイルの OIID>	—
	<登録したファイルの OIID>	—
	<ロックしたファイルの OIID>	—
	<ロック前に戻したファイルの OIID>	—
File.permission	<更新したファイルの OIID>	—
	<参照したファイルの OIID>	—
File.property	<更新したファイルの OIID>	—
	<参照したファイルの OIID>	—
Folder	<移動したフォルダの OIID>	<移動したフォルダのフォルダ名>
	<検索する場所に指定したフォルダの OIID>	—
	<コピーしたフォルダの OIID>	—
	<削除したフォルダの OIID>	<削除したフォルダのフォルダ名>
	<作成したフォルダの OIID>	—
	<表示したフォルダの OIID>	—
Folder.permission	<更新したフォルダの OIID>	—



obj	obj:id	obj:name
Folder.permission	<参照したフォルダの OIID>	—
Folder.property	<更新したフォルダの OIID>	—
	<参照したフォルダの OIID>	—
Quota	<削除した最大許容サイズ情報の OIID>	—
	<追加した最大許容サイズ情報の OIID>	—

(凡例)

—：出力されません。

- オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-11 オブジェクトロケーション情報の出力内容の組み合わせ

objloc:source	objloc:destination
<移動元フォルダの OIID>	<移動先フォルダの OIID>
<コピー元フォルダの OIID>	<コピー先フォルダの OIID>
<削除元フォルダの OIID>	—
<作成先フォルダの OIID>	—
<登録先フォルダの OIID>	—

(凡例)

—：出力されません。

### 出力ポイント

- 最大許容サイズ情報の削除
- 最大許容サイズ情報の追加
- ファイルのアクセス権の更新
- ファイルのアクセス権の参照
- ファイルの移動
- ファイルの上書き移動
- ファイルの上書きコピー
- ファイルの更新
- ファイルのコピー
- ファイルの削除
- ファイルのダウンロード
- ファイルの登録
- ファイルのプロパティの更新
- ファイルのプロパティの参照

- ファイルのロック
- ファイルをアンロックし更新を反映
- ファイルをロック前の状態に戻す
- ファイルを本文に添付
- フォルダのアクセス権の更新
- フォルダのアクセス権の参照
- フォルダの移動
- フォルダの上書き移動
- フォルダの上書きコピー
- フォルダの検索
- フォルダのコピー
- フォルダの削除
- フォルダの作成
- フォルダの表示
- フォルダのプロパティの更新
- フォルダのプロパティの参照
- ベースパス情報の追加
- ベースパス情報の削除
- ベースパス情報のプロパティの更新
- ベースパス情報のプロパティの参照

## KDCF00540-W &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF00540-W
compid	コンポーネント名	Filesharing_Portlet
ctgry	監査事象の種別	AnomalyEvent
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
op	動作情報	Occur
objloc	オブジェクトロケーション情報	<監査事象 AnomalyEvent の発生場所を示す保守情報>
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• General User 一般ユーザ権限で操作したことを示します。</li> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>

出力ポイント

指定された値のエラー

## 8.3 コマンド実行時に出力されるメッセージ KDCF20500~KDCF20599

### KDCF20500-I <K>

#### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20500-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	StartStop
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
obj:command	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;コマンド名&gt;</li> <li>• &lt;戻り値&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-21 を参照してください。
obj:rc		
op	動作情報	Stop
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 がコマンド%2 を戻り値%3 で終了しました。(成功)

#### (凡例)

- %1 : ユーザ ID
- %2 : コマンド名
- %3 : 戻り値

#### • オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-12 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:command	obj:rc
<コマンド名>	<戻り値>

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschgcode
- cfschggrpfldr

- cfschkusdspc
- cfscrtgrpflr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstflr
- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

## 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20501-E &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20501-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	StartStop
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
obj:command	オブジェクト情報	• <コマンド名>
obj:rc		• <戻り値> 詳細は、表 8-22 を参照してください。
op	動作情報	Stop
auth	権限情報	• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。
msg	自由記述	ユーザ%1 がコマンド%2 を戻り値%3 で終了しました。(失敗)

(凡例)

- %1：ユーザ ID
- %2：コマンド名
- %3：戻り値

## • オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-13 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:command	obj:rc
<コマンド名>	<戻り値>

なお、戻り値については、「9. 戻り値一覧」を参照してください。

#### コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschgcode
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

#### 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20502-I <K>

#### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20502-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	StartStop
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
obj:command	オブジェクト情報	• <コマンド名>
obj:arg		• <オプション> 詳細は、表 8-23 を参照してください。
op	動作情報	Start

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 がコマンド%2 をオプション%3 で開始しました。

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：コマンド名

%3：オプション。ただし、オブジェクト情報 (obj:arg) の値がない場合、「指定なし」が出力されます。コマンドの区切りの半角スペースを含めて、256 文字まで表示します。また、引数に半角スペースを連続して指定している場合、区切り文字として半角スペースを一つ出力します。

• オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-14 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:command	obj:arg
<コマンド名>	<オプション>*

注※

コマンドの区切りの半角スペースを含めて、512 文字まで表示します。また、引数に半角スペースを連続して指定している場合、区切り文字として半角スペースを一つ出力します。

## コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschgcode
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfsctgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

## 出力ポイント

コマンドの実行

## KDC20510-I &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDC20510-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Quota 最大許容サイズ情報を取得したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• All すべてのベースパス情報またはフォルダを操作したことを示します。</li> <li>• &lt;OID&gt; 詳細は、表 8-24 を参照してください。</li> </ul>
op	動作情報	Enforce
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 にアクセスしました。(成功)

(凡例)

%1 : ユーザ ID

%2 : 監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

- オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-15 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id
Basepath	All
	<使用量を確認したベースパス情報の OIID>
File	<操作したファイルの OIID>
Folder	All



obj	obj:id
Folder	<操作したフォルダの OIID>
Quota	<取得した最大許容サイズ情報の OIID>

#### コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschgrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

#### 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20511-E <K>

#### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20511-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	AccessControl
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Quota</li> </ul>

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj	オブジェクト情報	最大許容サイズ情報を取得したことを示します。
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• All すべてのベースパス情報またはフォルダを操作したことを示します。</li> <li>• &lt;OID&gt; 詳細は、表 8-25 を参照してください。</li> </ul>
op	動作情報	Enforce
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 にアクセスしました。(失敗)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

- オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-16 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id
Basepath	All
	<使用量を確認したベースパス情報の OIID>
File	<操作したファイルの OIID>
Folder	All
	<操作したフォルダの OIID>
Quota	<取得した最大許容サイズ情報の OIID>

#### コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstfldr

- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

## 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20520-I &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20520-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<操作したフォルダの OIID>
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Modify アクセス権を更新した場合。</li> </ul>
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(成功)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3：監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

## コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile\*
- cfsmodgrpprm

注\*

-l perm オプションを指定して、cfsexpfile コマンドを実行した場合にだけ出力されます。

## 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20521-E &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20521-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	ConfigurationAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<操作したフォルダの OIID>
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Modify アクセス権を更新した場合。</li> </ul>
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(失敗)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2：監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3：監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

## コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile\*
- cfsmodgrpprm

注\*

-l perm オプションを指定して、cfsexpfile コマンドを実行した場合にだけ出力されます。

## 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20530-E &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20530-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	<プロセス ID>
obj:file	オブジェクト情報	<プロパティファイル名>
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	プロセス%1 が%2 を読み込みました。(失敗)

(凡例)

%1：プロセス ID

%2：プロパティファイル名

## コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschgcode
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

## 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20531-E &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20531-E

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	Failure
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:pid	サブジェクト識別情報	<プロセス ID>
obj:file	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;ファイル名またはキー名&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-26 を参照してください。
obj:param		
op	動作情報	Occur
msg	自由記述	プロセス%1 が%2 のキー%3 を読み込みました。(失敗)

(凡例)

%1：プロセス ID

%2：プロパティファイル名

%3：読み込みに失敗したキー名

• オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

オブジェクト情報の出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-17 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:file	obj:param
<プロパティファイル名>	<読み込みに失敗したキー名>

コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschgcode
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20540-I &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20540-I
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Success
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> <li>• Quota 最大許容サイズ情報を取得したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• All すべてのベースパス情報またはフォルダを操作したことを示します。</li> </ul>
obj:command		<ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;OIID&gt;</li> <li>• &lt;コマンド名&gt;</li> </ul> 詳細は、表 8-27 を参照してください。
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Add ベースパス情報の登録、グループルートフォルダのアクセス権の追加、またはグループルートフォルダの運用者を追加した場合。</li> <li>• Create グループルートフォルダを作成した場合。</li> <li>• Delete ベースパス情報の削除、グループルートフォルダのアクセス権の削除、またはグループルートフォルダの運用者を削除した場合。</li> <li>• Download ファイルをダウンロードした場合。</li> <li>• Modify グループルートフォルダを非表示化またはグループルートフォルダのアクセス権を変更した場合。</li> <li>• Refer</li> </ul>

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
op	動作情報	ベースパス情報の一覧を取得, 最大使用可能容量の確認, OIID からフォルダ名またはファイル名への変換, または OIID に対応するオブジェクトの情報を取得した場合。
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(成功)

(凡例)

%1: ユーザ ID

%2: 監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3: 監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

• オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:id および obj:command の出力内容は, obj の出力内容によって異なります。出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-18 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id	obj:command
Basepath	All	cfschkusdspc
	All	cflstst
	<使用量を確認したベースパス情報の OIID>	cfschkusdspc
File	<情報を取得したオブジェクトの OIID>	cfsexpfile
		cflststprop
	<ファイル名に変換したオブジェクトの OIID>	cfsoiid2name
Folder	All	cflststfldr
	<作成したフォルダの OIID>	cfscrtgrpfldr
	<情報を取得したオブジェクトの OIID>	cfsexpfile
		cflststprop
	<非表示化したフォルダの OIID>	cfschggrpfldr
	<フォルダ名に変換したオブジェクトの OIID>	cfsoiid2name
Folder.permission	<情報を取得したオブジェクトの OIID>	cfsexpfile
	<アクセス権を追加したグループルートフォルダの OIID>	cfsaddgrpprm



obj	obj:id	obj:command
Folder.permission	<アクセス権を削除したグループルートフォルダの OIID>	cfsdelgrpprm
	<アクセス権を変更したグループルートフォルダの OIID>	cfsmodgrpprm
	<運用者を追加したグループルートフォルダの OIID>	cfsaddgrpmngr
	<運用者を削除したグループルートフォルダの OIID>	cfsdelgrpmngr
Quota	<取得した最大許容サイズ情報の OIID>	cfslstqt

### コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

### 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20541-E <K>

### メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20541-E
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	ContentAccess
result	監査事象の結果	Failure
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザ ID>

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
obj	オブジェクト情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Basepath ベースパス情報を操作したことを示します。</li> <li>• File ファイルを操作したことを示します。</li> <li>• Folder フォルダを操作したことを示します。</li> <li>• Folder.permission フォルダのアクセス権を操作したことを示します。</li> <li>• Quota 最大許容サイズ情報を取得したことを示します。</li> </ul>
obj:id		<ul style="list-style-type: none"> <li>• All すべてのベースパス情報またはフォルダを操作したことを示します。</li> <li>• &lt;OIID&gt;</li> <li>• &lt;コマンド名&gt;</li> </ul> <p>詳細は、表 8-28 を参照してください。</p>
obj:command		
op	動作情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Add ベースパス情報の登録、グループルートフォルダのアクセス権の追加、またはグループルートフォルダの運用者を追加した場合。</li> <li>• Create グループルートフォルダを作成した場合。</li> <li>• Delete ベースパス情報の削除、グループルートフォルダのアクセス権の削除、またはグループルートフォルダの運用者を削除した場合。</li> <li>• Download ファイルをダウンロードした場合。</li> <li>• Modify グループルートフォルダを非表示化またはグループルートフォルダのアクセス権を変更した場合。</li> <li>• Refer ベースパス情報の一覧を取得、最大使用可能容量の確認、OIID からフォルダ名またはファイル名への変換、または OIID に対応するオブジェクトの情報を取得した場合。</li> </ul>
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>
msg	自由記述	ユーザ%1 が%2 を%3。(失敗)

(凡例)

%1：ユーザ ID

%2: 監査ログ出力項目のオブジェクト情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(1) オブジェクト情報に対応するリソース」を参照してください。

%3: 監査ログ出力項目の動作情報の値に対応するリソース。詳細は「8.4(2) 動作情報に対応するリソース」を参照してください。

- オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj:id および obj:command の出力内容は、obj の出力内容によって異なります。出力内容の組み合わせを次の表に示します。

表 8-19 オブジェクト情報の出力内容の組み合わせ

obj	obj:id	obj:command
Basepath	All	cfschkusdspc
	All	cfslstad
	<使用量を確認したベースパス情報の OIID>	cfschkusdspc
File	<情報を取得したオブジェクトの OIID>	cfsexpfile
		cfslstprop
	<ファイル名に変換したオブジェクトの OIID>	cfsoiid2name
Folder	All	cfslstfldr
	<作成したフォルダの OIID>	cfsCRTgrpfldr
	<情報を取得したオブジェクトの OIID>	cfsexpfile
		cfslstprop
	<非表示化したフォルダの OIID>	cfschggrpfldr
Folder.permission	<情報を取得したオブジェクトの OIID>	cfsexpfile
	<アクセス権を追加したグループルートフォルダの OIID>	cfsaddgrpprm
	<アクセス権を削除したグループルートフォルダの OIID>	cfsdelgrpprm
	<アクセス権を変更したグループルートフォルダの OIID>	cfsmodgrpprm
	<運用者を追加したグループルートフォルダの OIID>	cfsaddgrpmngr
	<運用者を削除したグループルートフォルダの OIID>	cfsdelgrpmngr
Quota	<取得した最大許容サイズ情報の OIID>	cfslstqt

#### コマンド

- cfsaddgrpmngr

- cfsaddgrpprm
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr
- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

## 出力ポイント

コマンドの実行

## KDCF20550-W &lt;K&gt;

## メッセージの内容

出力項目名	出力項目の意味	出力内容
msgid	メッセージ ID	KDCF20550-W
compid	コンポーネント名	Filesharing_<コマンド名>
ctgry	監査事象の種別	AnomalyEvent
result	監査事象の結果	Occurrence
subj:uid	サブジェクト識別情報	<ユーザID>
op	動作情報	Occur
objloc	オブジェクトロケーション情報	<入力チェックを行ったコマンド名>
auth	権限情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Security Administrator セキュリティ管理者権限で操作したことを示します。</li> </ul>

## コマンド

- cfsaddgrpmngr
- cfsaddgrpprm
- cfschgcode
- cfschggrpfldr
- cfschkusdspc
- cfscrtgrpfldr
- cfsdelgrpmngr

- cfsdelgrpprm
- cfsexpfile
- cfslstad
- cfslstfldr
- cfslstprop
- cfslstqt
- cfsmodgrpprm
- cfsoiid2name

出力ポイント

コマンドの実行

## 8.4 監査ログのメッセージに出力されるリソースの一覧

メッセージの自由記述に出力される可変値は、オブジェクト情報および動作情報によって異なります。

この節では、メッセージに出力されるオブジェクト情報および動作情報に対応するリソースについて説明します。

### (1) オブジェクト情報に対応するリソース

メッセージに出力されるオブジェクト情報と、オブジェクト情報に対応して自由記述に出力されるリソースを次に示します。

表 8-20 オブジェクト情報に対応して自由記述に出力されるリソースの一覧

項番	オブジェクト情報	自由記述に出力されるリソース	
		日本語	英語
1	Basepath	ベースパス情報	basepath infomation
2	Basepath.property	ベースパス情報のプロパティ	basepath infomation properties
3	File	ファイル	a file
4	File.permission	ファイルのアクセス権	file permissions
5	File.property	ファイルのプロパティ	file properties
6	Folder	フォルダ	a folder
7	Folder.permission	フォルダのアクセス権	folder permissions
8	Folder.property	フォルダのプロパティ	folder properties
9	Quota	最大許容サイズ情報	quota infomation

### (2) 動作情報に対応するリソース

メッセージに出力される動作情報と、動作情報に対応して、自由記述に出力されるリソースを次に示します。

表 8-21 動作情報に対応して自由記述に出力されるリソースの一覧

項番	動作情報	自由記述に出力されるリソース	
		日本語	英語
1	Add	追加しました	Addition
2	Attach	添付しました	Attachment
3	Copy	コピーしました	Copying
4	Create	作成しました	Creation
5	Delete	削除しました	Deletion
6	Download	ダウンロードしました	Downloading

項番	動作情報	自由記述に出力されるリソース	
		日本語	英語
7	Lock	ロックしました	Locking
8	Modify	更新しました	Updationg
9	Move	移動しました	Moving
10	Open	開きました	Opening
11	Refer	参照しました	Referencing
12	Register	登録しました	Registration
13	Return	ロック前に戻しました	Unlocking
14	Search	検索しました	A search for the location
15	Unlock	アンロックし更新を反映しました	Unlocking and updating





# 9

## 戻り値一覧

この章では、クラスライブラリのメソッドを実行したときに返される戻り値について説明します。また、クラスライブラリの戻り値一覧を掲載します。

## 9.1 クラスライブラリの戻り値

クラスライブラリの戻り値には、`major_code` と `minor_code` があります。`major_code` の種類によって、エラーの種類を特定できます。`major_code` および `minor_code` は、`CdbrCore` で定義されている `GetLastError` メソッドによって返却されます。`major_code` はメソッドの戻り値として、`minor_code` はメソッドの引数として返却されます。

次の表に、戻り値の種類と `major_code` の関係を示します。

表 9-1 戻り値の種類と `major_code` の関係

戻り値の種類	<code>major_code</code>	<code>major_code</code> の戻り値
エラーがない場合	<code>ERR_NOERROR</code>	0
DMA の戻り値	<code>ERR_DMA</code>	1
CORBA の戻り値	<code>ERR_CORBA</code>	2
クラスライブラリ独自の戻り値	<code>ERR_DBR</code>	3
データベースエラーが発生した場合の戻り値	<code>ERR_DB</code>	4

`major_code` が、`ERR_DMA`、`ERR_DBR` または `ERR_DB` の場合、`minor_code` が取得できます。

なお、`major_code` が `ERR_CORBA` の場合の戻り値については、マニュアル「[VisiBroker for C++ プログラマーズガイド \(Windows\(R\)用\)](#)」を参照してください。

## 9.2 DMA の戻り値

major\_code が ERR\_DMA の場合の minor\_code の一覧を次の表に示します。

表 9-2 major\_code が ERR\_DMA の場合の DMA の戻り値一覧

minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
-2147024809	DMARC_BAD_PARAMETER	不正な引数が入力されました。	正しい引数を指定してください。
-2147024882	DMARC_NO_MEMORY	メモリ不足で実行できません。	メモリを増設してください。またはメモリを大量に消費しているアプリケーションを停止させて、処理を再実行してください。
-2147024891	DMARC_ACCESS_DENIED	要求された操作に対してアクセス権がありません。	正しいアクセス権を設定してください。
-2147217384	EDMRC_NOT_OUTTRANSACTON	トランザクション内でメソッドが呼ばれました。	CdbrSession::Begin()メソッドを呼び出す前に、この操作を実行してください。
-2147217386	EDMRC_FTPSERVICE_NOT_AVAILABLE	ファイル転送サービスが利用できません。	サーバのバージョンに対応したクライアントを利用してください。
-2147217387	EDMRC_FTPSERVICE_MAX_SESSION	ファイル転送サービスに同時に接続できるセッション数の上限に達しています。	時間をおいて、Connect ユーザ数が減ったあと、再度実行してください。または、ファイル転送サービス環境定義ファイルの FtpSessionMax エントリを見直してください。
-2147217388	EDMRC_NO_FTPSERVICE	使用できるファイル転送サービスがありません。	次の対処を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク環境を確認する。</li> <li>_HIEDMS_FTPMODE=STATIC を指定してファイル転送サービスを起動しているかどうかを、確認する。</li> <li>時間をおいて、再度実行する。</li> <li>ファイル転送サービスのセットアップコマンドを実行しているかどうかを、確認する。</li> </ul>
-2147217389	EDMRC_FTPSERVICE_LOST_CONNECTION	ファイル転送サービスへのセッションが切断されました。	ネットワーク環境を確認してください。または、時間をおいて、再度実行してください。
-2147217390	EDMRC_QPARAM_INDEX_OUT_OF_RANGE	?パラメタの設定で指定した値の個数を超える出現順序が指定されています。	?パラメタの設定を見直して、正しい出現順序を指定してください。
-2147217391	EDMRC_QPARAM_BAD_VALUE	?パラメタの設定で指定した値が、不正である可能性があります。	設定した?パラメタの値とデータ型を見直してください。

## 9 戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
-2147217402	EDMRC_IN_ASYNC_EXECUTE	SQL 文の非同期実行中です。	この操作は実行できません。
-2147217404	EDMRC_NOT_INTRANS ACTION	トランザクション外でメソッド が呼びられました。	Begin メソッドを呼び出したあと に、この操作を実行してください。
-2147217406	EDMRC_BAD_CATALOG	EDM カタログが不正です。	EDM カタログの内容を見直してく ださい。
-2147217407	EDMRC_PARSE_ERROR	SGML 文書または XML 文書の 構文解析エラーが発生しまし た。	SGML 文書または XML 文書の内 容を見直してください。
-2147220868	DMARC_CONFLICTING _OPERATION	メソッドの呼び出し順序が矛盾 しています。	正しい呼び出し順序でメソッドを コールしてください。
-2147220869	DMARC_MULTIPLE_CH ECKIN_NOT_SUPPORT ED	同一オブジェクト上の複数の異 なるチェックインをサポートし ません。	この操作は実行できません。
-2147220870	DMARC_BAD_DOC_SPACE	指定された識別子の文書空間は 存在しません。	正しい文書空間を指定してくださ い。
-2147220873	DMARC_AT_ENUM_EN D	EnumerationOfObject オブ ジェクトの現在位置は、要素で あるオブジェクト群の末尾で す。	File Sharing サーバのメタ情報 ファイル (slocalreg.ini) を見直 してください。
-2147220875	DMARC_RESULTS_TRU NCATED	結果集合は IdmaResultSet:TerminateRes ults の呼び出しによって、切断 されます。	この操作は実行できません。
-2147220876	DMARC_NETWORK_ER ROR	ネットワーク環境でエラーが発 生しました。	ネットワーク環境を確認してくだ さい。
-2147220877	DMARC_CLASS_NOT_S EARCHABLE	FromExpr(FROM 句)を参照す るクラスが検索可能クラスでは ありません。	指定するクラスの内容を見直して ください。
-2147220878	DMARC_PROPERTY_NO T_SEARCHABLE	QueryExpr(WHERE 句)を参照 しているプロパティは検索可能 なプロパティではありません。	検索可能なプロパティを指定して ください。
-2147220879	DMARC_PROPERTY_NO T_SELECTABLE	Selections(SELECT 句)のリス ト中を参照しているプロパティ は選択可能ではありません。	選択可能なプロパティを指定して ください。
-2147220885	DMARC_REQUIRED_VA LUE_ABSENT	必要なプロパティ値が設定され ていません。	値が必須のプロパティに値が設定 されていません。
-2147220887	DMARC_CONSTRAINT_ VIOLATED	制約違反の操作です。	この操作は実行できません。
-2147220889	DMARC_DATATYPE_MI SMATCH	プロパティのデータ型に適切で はないメソッドです。	正しい型を指定してください。

minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220900	DMARC_ILLEGAL_OPERATION	DMA 規約で禁止されている操作です。	この操作は実行できません。
-2147220903	DMARC_NOT_AUTHENTICATED	ユーザは認証されていません。	正しいユーザ ID およびパスワードを指定してください。
-2147220906	DMARC_NO_RESERVATION	バージョン識別子が予約されていません。 または、チェックアウトされていません。	チェックイン後に割り当てられる正式なバージョン識別子を、入力引数に設定してください。 または、チェックアウト状態を確認してください。
-2147220908	DMARC_BAD_PROTECTION_LEVEL	同時更新に対する保護レベルが不正です。	正しい保護レベルを設定してください。
-2147220909	DMARC_BAD_SC_OCCUR	クエリーノードの検索可能クラスの出現プロパティの値は、クエリーオブジェクトには存在しません。	ノードの値を見直してください。
-2147220911	DMARC_BAD_SUBQUERY_DATATYPE	dmaQueryOperator_InDataType オペレータの、副問い合わせに相当するオペランドの SELECT 句のデータ型が一致しません。	DataType と SELECT 句に指定したプロパティの値のデータ型は一致する必要があります。 DataType:{Boolean Id Integer32 String}
-2147220912	DMARC_TIMEOUT	制限時間を超過しました。	タイムアウトしました。
-2147220915	DMARC_PROPERTY_NOT_ORDERABLE	Order(ORDERBY 句)のリスト中を参照しているプロパティは、整列可能なプロパティではありません。	ORDERBY 句の内容を見直してください。
-2147220916	DMARC_BAD_SUBQUERY_SELECT	副問い合わせに指定した Selections(SELECT 句)は不適当な数の要素を含みます。	サブクエリーの内容を見直してください。
-2147220918	DMARC_BAD_SELECT_ELEMENT	Selections(SELECT 句)のリストの要素が不正です。	SELECT 句の内容を見直してください。
-2147220920	DMARC_BAD_OPERATOR	Scope オブジェクトのメタデータで定義されていないオペレータの識別子が指定されています。	定義されているオペレータを指定してください。
-2147220921	DMARC_BAD_OPERAND	オペランドのデータ型、形式またはクラスが不正です。	オペランドに正しいデータ型や形式、クラスを指定してください。
-2147220922	DMARC_EXTRA_OPERANDS	QueryExpr(WHERE 句)に範囲外のプロパティがあります。	オペランドの内容を見直してください。
-2147220923	DMARC_MISSING_OPERANDS	QueryExpr(WHERE 句)のプロパティが指定されていません。	WHERE 句の内容を見直してください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220925	DMARC_MAX_ROWS	検索結果の最大項目数を超えたため、検索結果の一部が切り捨てられました。	最大項目数を変更して、再度実行してください。
-2147220932	DMARC_RESERVATION_EXISTS	Version Series は Reservation をすでに保持しています。	この操作は実行できません。
-2147220933	DMARC_RESERVATION_NOT_ALLOWED	Reservation が現在存在しないのに、Version Series の条件によって Reservation が許可されませんでした。	この操作は実行できません。
-2147220934	DMARC_RESERVATION_PENDING	コネクションはすでに Reservation 要求を保持しています。一度に二つ以上は存在できません。	この操作は実行できません。
-2147220936	DMARC_NO_CURRENT_VERSION	VersionSeries が最新バージョンを保持していません。	この操作は実行できません。
-2147220938	DMARC_NETWORK_UNAVAILABLE	この操作を実行するために必要なネットワークが利用できません。	<p>次の対処を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワーク環境を確認する。</li> <li>File Sharing クライアントで接続する File Sharing サーバを選択している場合は、接続先の File Sharing サーバの docspace.ini の [Entry0001] セクションに [SelectServerInMultiServer=Yes] の定義があるか確認する。</li> <li>File Sharing クライアントで接続する File Sharing サーバを選択していない場合は、[SelectServerInMultiServer=No] と定義しているか確認する。</li> <li>File Sharing サーバが起動しているか確認する。</li> <li>EDMRefresher コマンドが実行中の場合は、コマンド終了後、再度実行する。</li> <li>TPBroker のスマートエージェントが開始されているか確認する。</li> <li>&lt;ファイル共有サーバインストールディレクトリ&gt;etc 下の次に記載のポート番号 24080, 24081, 24082 が予約ポートに登録されているか確認する。</li> </ul> <p>1. docspace.ini</p>

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220938	DMARC_NETWORK_UNAVAILABLE	この操作を実行するために必要なネットワークが利用できません。	<p>DocSpaceVBProperty = -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.manager.type=Socket -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.dispatcher.threadMax=64 -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.listener.port=24080 -  Dvbroker.orb.isNTService=true</p> <p>2. process.ini</p> <p><b>[Process0001]</b>  VBProperty=-  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.listener.port=24081</p> <p><b>[Process0002]</b>  VBProperty=-  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.listener.port=24082</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ &lt;ファイル共有クライアントインストールディレクトリ&gt;*etc  下の次に記載のポート番号  24083, 24084, 24085 が予約  ポートに登録されているか確認  する。</li> </ul> <p>1. ftpsv.ini</p> <p><b>[FtpService]</b>  FtpVBProperty = -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.manager.type=Socket -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.dispatcher.threadMax=64 -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.listener.port=24083 -  Dvbroker.orb.isNTService=true</p> <p><b>[FtpProcess0001]</b>  VBProperty= -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.listener.port=24084</p> <p><b>[FtpProcess0002]</b>  VBProperty= -  Dvbroker.se.iiop_tp.scm.iiop_tp.listener.port=24085</p>
-2147220943	DMARC_DEVICE_ERROR	データベースのアクセスエラーが発生しました。	エラーメッセージを参照してエラーの要因を取り除いてください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220945	DMARC_BAD_OIID	SetOIID メソッドで設定された OIID が不正です。 または、引数で指定された OIID が不正です。	正しい OIID を指定してください。
-2147220947	DMARC_READ_ONLY	読み取り専用のオブジェクトま たはプロパティのため、異常終 了しました。	このプロパティの値は更新できま せん。
-2147220951	DMARC_BAD_VALUE	次の要因が考えられます。 1. プロパティやリストの値が、 許される範囲外の値である か、または最大値を超えた。 2. VariableArray 型プロパ ティに設定する可変長配列 の要素数が最大値を超えた。 3. docspace.ini の [Entry0001]セクションに 「VArrayElementCheck=Y es」の定義がある場合に、 VariableArray 型プロパ ティの要素の値が、許される 範囲外の値であるか、または 最大値を超えた。	要因に応じて、次の対策を実施して ください。 1. プロパティやリストの値の範囲 を見直す。 2. VariableArray 型プロパティ に設定する可変長配列の要素数 を見直す。 3. VariableArray 型プロパティ の要素の値の範囲を見直す。
-2147220953	DMARC_BAD_URL	リソースの URL が不正です。	URL の内容を見直してください。
-2147220955	DMARC_URL_PROTOC OL_NOT_SUPPORTED	サポートしていない URL プロ トコルです。	file:///で始まっているか確認して ください。
-2147220957	DMARC_RESOURCE_N OT_FOUND	指示されたリソースが見つかり ません。	正しいリソースを指定してくださ い。 アプリケーションサーバと File Sharing サーバが別のマシンに構 築している場合は、環境変数 「_HIEDMS_FTPMODE」の設定値 を「STATIC」に設定してくださ い。
-2147220958	DMARC_VALUE_NOT_S ET	要求されたプロパティは値を保持 していません。	この操作は実行できません。
-2147220962	DMARC_OBJECT_LOCK ED	オブジェクトがロックされてい ます。	時間をおいて、再度実行してくださ い。
-2147220964	DMARC_NOT_SUPPOR TED	このセッションまたはオブジェ クトではサポートされていない メソッドです。 または、サポートされていない データ型です。	この操作は実行できません。
-2147220966	DMARC_NOT_FOUND	要求された要素が見つかりませ ん。	正しいオブジェクトを設定してく ださい。



minor_code の戻り値	minor_code	説明	対処
-2147220968	DMARC_DISCONNECTED	文書空間との接続が切断されました。	セッションを接続してください。
-2147220971	DMARC_LOST_CONNECTION	現在のオブジェクトからデータベースへの論理的な接続が失われました。操作は完了できません。	文書空間に再接続してください。
-2147220979	DMARC_FOREIGN_OBJECT	そのオブジェクトは現在の文書空間ではありません。	正しいオブジェクトを指定してください。
-2147220981	DMARC_BAD_PROPID	プロパティの識別子が不正です。	正しいプロパティ識別子を指定してください。
-2147220984	DMARC_BAD_LOCK_TYPE	不正な種類のロックが指定されています。	正しいロックタイプを指定してください。
-2147220986	DMARC_BAD_INDEX	指定されたインデクスは、正当なプロパティまたはリスト要素を参照していません。	正しいインデクスを指定してください。
-2147220988	DMARC_BAD_CLASSID	指定された識別子は、利用できるオブジェクトのクラスではありません。	正しいクラス識別子を指定してください。
-2147418113	DMARC_UNEXPECTED	予期しないエラーが発生しました。	処理を終了してください。
-2147467259	DMARC_FAILED	次の要因が考えられます。 1. 実行した操作の処理に失敗した。 2. File Sharing サーバのメタ情報ファイルが不正である。 3. メモリが不足している。 4. ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル(cfsauth.ini)のディレクトリサーバへの接続情報についての指定内容が不正である。	要因に応じて、次の対策を実施してください。 1. 時間をおいてから再度実行するか、処理を見直す。 2. File Sharing サーバのインストールディレクトリ¥Server¥etc¥meta_files の下位にあるファイルを削除してから、-F オプションを指定して、EDMPrintMeta コマンドを実行する。 3. メモリを増設するか、メモリを大量に消費しているアプリケーションを終了して、処理を再度実行する。 4. ユーザ認証ライブラリ環境定義ファイル (cfsauth.ini) のディレクトリサーバへの接続情報についての指定内容を確認する。
-2147467262	DMARC_BAD_INTERFACE	要求したインターフェースは、このオブジェクトではサポートしていません。	正しいインターフェースを指定してください。

## 9.3 クラスライブラリ独自の戻り値 (ERR\_DBR の場合)

major\_code が ERR\_DBR の場合の minor\_code の一覧を次の表に示します。

表 9-3 major\_code が ERR\_DBR の場合のクラスライブラリ独自の戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
4	ERR_SESSION_ALREADY_CONNECTED	セッションがすでに接続されています。	処理を継続してください。または、いったん切断してから、再度このメソッドをコールしてください。
5	ERR_SESSION_NOT_CONNECTED	次の要因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セッションが接続されていない。</li> <li>EDMRefresher コマンドが実行中である。</li> </ul>	要因に応じて、次のどちらかの対策を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>セッションを接続する。</li> <li>EDMRefresher コマンドが終了したあと、再度実行する。</li> </ul>
7	ERR_BAD_INTERFACE	指定されたインターフェースが不正です。	正しいインターフェースを指定してください。
8	ERR_BAD_PARAMETER	不正な引数が入力されました。	正しい引数を指定してください。
10	ERR_OBJECT_ALREADY_CONNECTED	オブジェクトはすでに接続されています。	この操作は実行できません。
11	ERR_OBJECT_NOT_CONNECTED	オブジェクトは接続されていません。	オブジェクトを接続してください。
13	ERR_QUERY_NOT_INITIAL	初期化が実行されていません。	初期化を実行してください。
14	ERR_QUERY_NOT_SEARCH	検索が実行されていません。	検索を実行してください。
16	ERR_SGML_BAD_NODETYPE	ノードタイプが不正です。	正しいノードタイプを指定してください。
17	ERR_SGML_NO_PARSEDATA	構文解析情報がありません。	構文解析情報を作成してください。
23	ERR_QUERY_ALREADY_INITIALIZED	検索オブジェクトはすでに初期化されています。	この操作は実行できません。
25	ERR_NONEXISTS_VERSION	指定されたバージョンは存在しません。	正しいバージョンを指定してください。
29	ERR_ACLIB_OBJECT_INVALID	クラスライブラリのオブジェクトは無効です。	有効なクラスライブラリのオブジェクトを指定してください。
30	ERR_OIID_NOT_SET	OIID が設定されていません。	SetOIID メソッドをコールしてから、このメソッドをコールしてください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
31	ERR_OBJECT_REMOVED	オブジェクトはすでに削除されています。	正しいオブジェクトを指定してください。
32	ERR_LAST_VERSION	指定されたバージョンは唯一のバージョンであるため、削除できません。	この操作は実行できません。
33	ERR_SESSION_OVERFLOW	制限を超えて Connect しようとしました。	時間をおいて、Connect ユーザ数が減ったあと、再度実行してください。
34	ERR_INVALID_STATUS	セッションの状態が不正です。一つのセッションに同時に複数のメソッド処理要求が出されています。	一つのセッションに対して一度に一つの処理要求しか出さないように見直してください。
35	ERR_NO_SERVICE	使用できるサービスプロセスがありません。	時間をおいて、再度実行してください。 EDMRefresher コマンドが実行中の場合は、コマンド終了後、再度実行してください。
36	ERR_NOTSUPPORT_CLIENT_VERSION	操作を実行するためのネットワークが使用できません。	サーバのバージョンに対応したクライアントライブラリを利用してください。
37	ERR_ACCESS_NOT_PERMITTED	アクセス権がありません。	必要なアクセス権を設定して、再度実行してください。
40	ERR_ACCESSCONTROL_NOT_SUPPORTED	アクセス制御機能が未サポートです。	この操作は実行できません。
41	ERR_BAD_PERMISSION	不正なパーミッションが指定されました。	正しいパーミッションを指定してください。
42	ERR_BAD_SUBJECT_TYPE	不正なサブジェクト種別が指定されました。	正しいサブジェクト種別を指定してください。
43	ERR_INVALID_SUBJECT_LENGTH	サブジェクトの長さが不正です。	1 文字以上 254 文字以内の文字列を指定してください。
44	ERR_INVALID_ACE_COUNT	設定する ACE の個数が制限値を超えています。	ACE は 64 個以内で指定してください。
45	ERR_INVALID_PUBLICACL_COUNT	バインドするパブリック ACL の個数が制限値を超えています。	パブリック ACL は 10 個以内で指定してください。
46	ERR_QUERY_TOO_MANY_NESTED_OPERATIONS	演算のネストが深過ぎます。	探索条件のネストを浅くして、再度実行してください。
47	ERR_INVALID_ACE	不正な ACE が指定されました。	ACE として正しい CdbCompound を指定してください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
48	ERR_PUBLICACL_ALREADY_BOUND	指定されたパブリック ACL はすでにバインドされています。	すでにバインドされているパブリック ACL を指定しないで処理を再実行してください。
49	ERR_PUBLICACL_NOT_BOUND	指定されたパブリック ACL はバインドされていません。	バインドされているパブリック ACL を指定して処理を再度実行してください。
50	ERR_NONEXISTS_PUBLIC_ACL	指定されたパブリック ACL は存在しません。	存在しないパブリック ACL を指定しないで処理を再度実行してください。
51	ERR_CONTENT_IS_EMPTY	ファイル実体の変換処理されてなくて空です。	この操作は実行できません。
52	ERR_IS_MASTERRENDITION	指定された RenditionType はマスタレンディションです。	RenditionType を見直してください。
53	ERR_LIMITNUM_OF_RENDITIONS	保持できるレンディション数の上限に達しています。	この操作は実行できません。
54	ERR_MASTERRENDTYPE_NOT_SET	マスタレンディションの RenditionType に値が設定されていません。	この操作は実行できません。
55	ERR_NONEXISTS_RENDITION	指定された RenditionType は存在しません。	RenditionType を見直してください。
56	ERR_RENDITIONTYPE_DUPLICATED	RenditionType が重複しています。	重複しない RenditionType を指定してください。
57	ERR_RENDITION_NOT_CONVERTED	ファイル実体が更新処理されていません。	この操作は実行できません。
58	ERR_CONTENTTYPE_MISMATCH	指定したレンディションタイプのファイル実体に対して実行できません。	正しい文書オブジェクトを指定してメソッドを実行してください。
59	ERR_EQL_ALREADY_INITIALIZED	すでに初期化されています。	この操作は実行できません。
60	ERR_EQL_NOT_INITIALIZED	初期化が実行されていません。	初期化を実行してください。
61	ERR_EQL_STATEMENT_NOT_SET	実行する edmSQL 文が登録されていません。	CdbrEqStatement::Set メソッドで実行する edmSQL 文を登録してください。
62	ERR_EQL_STATEMENT_NOT_EXEC	edmSQL 文が実行されていません。	CdbrEqStatement::Execute メソッドを実行し、edmSQL 文を実行してください。
63	ERR_EQL_BAD_STATEMENT	不正な edmSQL 文を実行しようとした。	edmSQL 文を見直してください。必要に応じて構文解析結果情報を取得してください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
65	ERR_NOT_VERSION_TRA CEABLE	バージョントレース可能なオブ ジェクトではありません。	この操作はできません。オブ ジェクトのクラスを見直してく ださい。
66	ERR_OBJECT_NOT_INITI ALIZE	オブジェクトが初期化されてい ません。	初期化を実行してください。
67	ERR_OBJECT_ALREADY_I NITIALIZED	オブジェクトは初期化済みで す。	この操作は実行できません。
68	ERR_INVALID_DEFINITI ON	定義情報が不正です。	定義ファイルの内容を見直して ください。
71	ERR_SESSION_ALREADY_ AUTHENTICATED	文書空間にすでにログインして います。	処理を継続するか、文書空間か らログアウトしてから、再度こ のメソッドをコールしてくださ い。
72	ERR_SESSION_NOT_AUT HENTICATE	文書空間にログインしていませ ん。	文書空間にログインしてくださ い。
73	ERR_INVALIDENV	実行環境が不正です。	環境変数 [DOCBROKERDIR] に、File Sharing サーバのイン ストールディレクトリ¥Server を正しく指定するか、イベント ログに出力されているメッセー ジを基に対処してください。
74	ERR_OPERATION_FAILE D	初期化処理または終了処理に失 敗しました。次の要因が考えら れます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• docspace.ini メモリ常駐失 敗</li><li>• OIID 通番メモリ常駐失敗</li><li>• メタ情報常駐失敗</li><li>• 文書空間接続準備失敗</li><li>• 実行環境情報のメモリ常駐 失敗</li><li>• プロセス間ロック制御失敗</li></ul>	イベントログに出力されている メッセージを基に対処してくだ さい。
75	ERR_NOT_MULTI_CONT ENTS	マルチファイル文書ではありま せん。	マルチファイル管理機能を使用 しない場合の形式で実行してく ださい。
76	ERR_BAD_CONTENTSCO UNT	登録しようとするファイルの数 が多過ぎます。	登録するファイルの数を見直し てください。
77	ERR_RETRIEVALNAME_D UPLICATED	RetrievalName が重複して指 定されています。	RetrievalName が重複しない ように指定してください。
78	ERR_COMPONENTTYPE_ DUPLICATED	ComponentType が重複して 指定されています。	ComponentType が重複しな いように指定してください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
80	ERR_SYSTEMDBSERVER_ NOT_NOTIFY	DB コネクション管理オブジェ クトのリファレンスが未通知で す。	処理を終了してから、再度実行 してください。
81	ERR_FILELINK_FAILED	HiRDB File Link でエラーが発 生しました。	エラーの要因を取り除いて再度 実行してください。
82	ERR_FAL_NOT_LOADED	HiRDB File Link のライブラリ がロードできません。	詳細メッセージを基に対処して ください。
83	ERR_CONTENT_NOT_RE GISTERED	ファイル実体が登録されていま せん。	ファイル実体を登録してくださ い。
84	ERR_BAD_ENV	環境変数が不正です。	環境変数に正しい値を指定して ください。
85	ERR_FILE_REFERENCE_O PERATION_FAILED	ファイル実体の操作でエラーが 発生しました。 個人フォルダ用ベースパスある いはコミュニティフォルダ用 ベースパスの指定が不正です。	個人フォルダ用ベースパスある いはコミュニティフォルダ用 ベースパスの指定を見直してく ださい。
		ファイル実体または格納先に対 するアクセス権がありません。	ファイル実体または格納先に対 するアクセス権を見直してくだ さい。
		ベースパスへの接続でエラーが 発生しました。	ベースパスに接続する最大ユー ザ数の指定を見直してくださ い。
86	ERR_FILE_REFERENCE_MI SMATCH_STATUS	ファイル実体の操作でエラーが 発生しました。オブジェクトと ファイル実体の不整合な状態 です。	エラーが発生した処理に応じ て、次のどちらかを実施してく ださい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>削除処理の場合 処理を再度実行してくださ い。</li> <li>更新処理の場合 オブジェクトを削除してか ら、更新するファイル実体 を使用してオブジェクトを 再度作成してください。</li> </ul>
87	ERR_TARGETCONTENTP ATH_NOT_SET	ベースパスが設定されていま せん。UNC 形式で指定している 場合は、ベースパスにコン ピュータ名または IP アドレス しか指定されていません。	ベースパスの設定を見直してく ださい。UNC 形式で指定して いる場合は、ベースパスにコン ピュータ名または IP アドレス に加えて、共有名を指定してく ださい。
88	ERR_REFERENCETYPE_MI SMATCH	リファレンス種別が一致してい ません。	正しいリファレンス種別を指定 してください。

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
91	ERR_FILE_REFERENCE_C URRENT_CONTENT_NO TFOUND	ファイル実体が存在しません。	該当するファイルを削除したあ と、再度ファイルを登録してく ださい。

## 9.4 データベースエラーが発生した場合の戻り値 (ERR\_DB の場合)

major\_code が ERR\_DB の場合の minor\_code の一覧を、次の表に示します。

表 9-4 major\_code が ERR\_DB の場合のクラスライブラリ独自の戻り値一覧

minor_code の 戻り値	minor_code	説明	対処
26	ERR_DB_LOCKED	オブジェクトがロックされています。	時間をおいて、再度実行してください。
27	ERR_DB_DEADLOCK_OCCURRED	データベースでデッドロックが発生しました。	時間をおいて、再度実行してください。
28	ERR_DB_FAILED	データベースで障害が発生しました。	イベントログを参照して、障害の原因を取り除いてください。



# 付録

## 付録 A このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

### 付録 A.1 関連マニュアル

Collaboration のマニュアル体系を次に示します。

- Collaboration がどのようなものか、イメージをつかみたいときに

Collaboration  
ファーストステップガイド

- 機能概要や操作方法を知りたいときに

Collaboration  
ユーザーズガイド

Collaboration -  
Online Community Management  
ユーザーズガイド

Collaboration -  
Directory Access  
ユーザーズガイド

Collaboration - Mail  
ユーザーズガイド

Collaboration - Schedule  
ユーザーズガイド

Collaboration - Forum  
ユーザーズガイド

Collaboration -  
File Sharing  
ユーザーズガイド

Collaboration -  
Bulletin board  
ユーザーズガイド

- システムの構築や環境設定の方法を知りたいときに

Collaboration  
導入ガイド

- システムの移行方法を知りたいときに

Collaboration  
移行ガイド

- Collaboration Setup Navigation を使ったシステムの構築方法を知りたいときに

Collaboration  
かんたんセットアップ  
ガイド

Collaboration -  
Online Community Management  
システム管理者ガイド

Collaboration -  
Directory Access  
システム管理者ガイド

Collaboration - Mail  
システム管理者ガイド

Collaboration - Schedule  
システム管理者ガイド

Collaboration - Forum  
システム管理者ガイド

Collaboration -  
File Sharing  
システム管理者ガイド

Collaboration -  
File Sharing  
メッセージ

Collaboration -  
Bulletin board  
システム管理者ガイド

(凡例)

**■** : Collaboration 共通、または Collaboration 全体の情報を記載しているマニュアルを示します。

□ : Collaboration のコンポーネントごとの情報を記載しているマニュアルを示します。

Collaboration のマニュアルおよびその他の関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- Collaboration ファーストステップガイド (3020-3-H02)  
Collaboration 製品を初めてお使いいただく方のためのご紹介マニュアルです。Collaboration でできることや、ポートレットの基本的な使用方法について説明しています。
- Collaboration ユーザーズガイド (3020-3-H22)

Collaboration の概要、ログイン・ログアウトおよび画面のレイアウト変更の操作方法について説明しています。

また、トップメニュー、ナビゲーションビュー、[新着情報] ポートレット、[リンク集] ポートレットの機能および操作方法について説明しています。

- **Collaboration 導入ガイド (3020-3-H01)**  
Collaboration 製品を導入するための、システム構築、環境設定、および運用方法について説明しています。
- **Collaboration 移行ガイド (3020-3-H44)**  
Collaboration のシステムの移行方法について説明しています。
- **Collaboration かんたんセットアップガイド (3020-3-H30)**  
Collaboration Setup Navigation (Groupmax Collaboration - Server だけ) を使った構築方法について説明しています。

#### エンドユーザー向けマニュアル

- **Collaboration - Online Community Management ユーザーズガイド (3020-3-H04)**  
コミュニティ管理の機能および操作方法について説明しています。
- **Collaboration - Directory Access ユーザーズガイド (3020-3-H06)**  
ユーザ検索の機能および操作方法について説明しています。
- **Collaboration - Mail ユーザーズガイド (3020-3-H08)**  
メールの機能および操作方法について説明しています。
- **Collaboration - Schedule ユーザーズガイド (3020-3-H10)**  
スケジュールの機能および操作方法について説明しています。
- **Collaboration - Forum ユーザーズガイド (3020-3-H12)**  
電子会議室の機能および操作方法について説明しています。
- **Collaboration - File Sharing ユーザーズガイド (3020-3-H15)**  
ファイル共有の機能および操作方法について説明しています。
- **Collaboration - Bulletin board ユーザーズガイド (3020-3-H24)**  
電子掲示板の機能および操作方法について説明しています。

#### システム管理者向けマニュアル

- **Collaboration - Online Community Management システム管理者ガイド (3020-3-H03)**  
コミュニティ管理を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。
- **Collaboration - Directory Access システム管理者ガイド (3020-3-H05)**  
ユーザ検索を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。
- **Collaboration - Mail システム管理者ガイド (3020-3-H07)**  
メールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。
- **Collaboration - Schedule システム管理者ガイド (3020-3-H09)**  
スケジュールを利用するための環境設定および運用方法について説明しています。
- **Collaboration - Forum システム管理者ガイド (3020-3-H11)**  
電子会議室を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。
- **Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド (3020-3-H13)**  
ファイル共有を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

- Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド (3020-3-H23)  
電子掲示板を利用するための環境設定および運用方法について説明しています。

関連製品のマニュアル

- uCosminexus Portal Framework システム管理者ガイド (3020-3-H71)  
uCosminexus Portal Framework の機能およびポータルの構築方法について説明しています。
- uCosminexus Portal Framework 運用管理者ガイド (3020-3-H72)  
ポータルの運用方法について説明しています。
- uCosminexus Portal Framework ポートレット開発ガイド (3020-3-H73)  
ポートレットの開発方法および開発時に使用する API について説明しています。
- TPBroker Version 5 トランザクショナル分散オブジェクト基盤 TPBroker ユーザーズガイド (3020-3-U19)  
TPBroker の機能, 環境設定, 運用方法について説明しています。TPBroker システムを構築する場合に参照してください。
- VisiBroker for C++ プログラマーズガイド (Windows(R)用) (3000-3-678)  
CORBA の戻り値に対処する場合に参照してください。

## 付録 A.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記		製品名
File Sharing	Collaboration - File Sharing または File Sharing クライアント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Groupmax Collaboration Portal のファイル共有機能</li> <li>• Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing のファイル共有機能</li> </ul>
	Collaboration - File Sharing Server または File Sharing サーバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Groupmax Collaboration - File Server</li> </ul>

## 付録 A.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	英字での表記
ACE	Access Control Element
ACL	Access Control List
API	Application Programming Interface
BOA	Basic Object Adapter
CORBA	Common Object Request Broker Architecture
CR	Carriage Return
DB	Database
DMA	Document Management Alliance

英略語	英字での表記
DN	Distinguished Name
FAM	File Access Module
GUID	Globally Unique Identifier
ID	Identifier
LDAP	Lightweight Directory Access Protocol
LF	Line Feed
OIID	Object Instance Identifier
ORB	Object Request Broker
OS	Operating System
SGML	Standard Generalized Markup Language
UOC	User Own Coding
URL	Uniform Resource Locator
WOW64	Windows On Windows 64
XML	Extensible Markup Language

#### 付録 A.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024<sup>2</sup> バイト, 1,024<sup>3</sup> バイト, 1,024<sup>4</sup> バイトです。



---

## 索引

### D

---

DMA の戻り値 451

### E

---

ERR\_DBR の場合 458

ERR\_DBR の場合のクラスライブラリ独自の戻り値一  
覧 458

ERR\_DB の場合 464

ERR\_DB の場合のクラスライブラリ独自の戻り値一  
覧 464

ERR\_DMA の場合の DMA の戻り値一覧 451

### K

---

KDCF00500-I 410

KDCF00501-E 411

KDCF00510-I 413

KDCF00511-E 414

KDCF00520-E 415

KDCF00521-E 416

KDCF00530-I 417

KDCF00531-E 421

KDCF00540-W 426

KDCF20001-E 384

KDCF20002-I 384

KDCF20003-E 384

KDCF20004-E 385

KDCF20005-E 385

KDCF20007-E 385

KDCF20008-E 385

KDCF20009-E 386

KDCF20010-E 387

KDCF20011-E 387

KDCF20012-E 387

KDCF20013-E 387

KDCF20014-I 387

KDCF20015-E 388

KDCF20016-I 388

KDCF20017-E 389

KDCF20018-I 389

KDCF20019-W 389

KDCF20020-W 389

KDCF20021-E 389

KDCF20022-I 390

KDCF20023-E 390

KDCF20024-E 390

KDCF20025-E 390

KDCF20026-E 391

KDCF20027-I 391

KDCF20028-W 391

KDCF20029-W 391

KDCF20030-I 391

KDCF20031-W 392

KDCF20032-W 392

KDCF20036-I 392

KDCF20037-W 392

KDCF20038-W 392

KDCF20039-E 393

KDCF20040-E 393

KDCF20041-E 394

KDCF20042-E 394

KDCF20043-W 395

KDCF20044-E 396

KDCF20045-E 396

KDCF20046-E 396

KDCF20048-E 396

KDCF20049-E 397

KDCF20050-E 397

KDCF20051-E 397

KDCF20052-E 398

KDCF20053-E 398

KDCF20054-E 398

KDCF20055-E 398

KDCF20056-E 399

KDCF20057-E 400

KDCF20058-I 400

KDCF20059-W 400

KDCF20060-W 400

KDCF20061-I 401

KDCF20062-I 401

KDCF20063-E 401

KDCF20064-I 401

KDCF20065-E 402

KDCF20066-I 402

KDCF20067-I 402

KDCF20068-E 402

KDCF20087-E 402

KDCF20088-E 403

KDCF20089-I 403

KDCF20090-I 403

KDCF20091-I 404

KDCF20092-E	404	KMBR03027-I	22
KDCF20093-E	405	KMBR03028-I	23
KDCF20500-I	428	KMBR03029-I	23
KDCF20501-E	429	KMBR03030-I	23
KDCF20502-I	430	KMBR03031-I	23
KDCF20510-I	432	KMBR03032-E	23
KDCF20511-E	433	KMBR03034-E	24
KDCF20520-I	435	KMBR03042-E	24
KDCF20521-E	436	KMBR03044-E	25
KDCF20530-E	437	KMBR03045-I	26
KDCF20531-E	437	KMBR03046-I	26
KDCF20540-I	439	KMBR03047-I	26
KDCF20541-E	441	KMBR03048-I	26
KDCF20550-W	444	KMBR03049-I	26
KMBR00000-E	8	KMBR03050-I	27
KMBR00001-E	8	KMBR03051-I	27
KMBR00002-E	8	KMBR03052-I	27
KMBR00003-E	9	KMBR03053-E	27
KMBR02000-E	12	KMBR03054-W	28
KMBR02001-E	12	KMBR03115-W	29
KMBR02002-E	13	KMBR03117-E	29
KMBR02003-E	13	KMBR03207-E	30
KMBR02004-E	13	KMBR03302-E	32
KMBR02005-E	13	KMBR03313-W	32
KMBR02006-E	14	KMBR03314-E	33
KMBR02007-E	16	KMBR03315-E	33
KMBR03000-I	16	KMBR03316-E	33
KMBR03001-I	17	KMBR03317-E	33
KMBR03002-I	17	KMBR03318-E	34
KMBR03003-I	17	KMBR03319-I	34
KMBR03005-E	17	KMBR03320-W	34
KMBR03006-E	18	KMBR03328-I	34
KMBR03008-W	19	KMBR03329-E	35
KMBR03009-E	19	KMBR03330-E	35
KMBR03010-I	19	KMBR03331-E	35
KMBR03011-I	19	KMBR03332-E	36
KMBR03012-E	20	KMBR03333-E	38
KMBR03013-W	20	KMBR03334-I	39
KMBR03014-E	20	KMBR03335-I	39
KMBR03015-I	20	KMBR03336-E	40
KMBR03016-I	21	KMBR03337-E	40
KMBR03017-I	21	KMBR03350-E	40
KMBR03018-I	21	KMBR03351-E	40
KMBR03019-I	21	KMBR03352-I	41
KMBR03022-I	21	KMBR03353-I	41
KMBR03023-I	22	KMBR03354-E	41
KMBR03024-I	22	KMBR03355-E	41
KMBR03025-I	22	KMBR03356-E	41
KMBR03026-I	22	KMBR03357-I	42



- KMBR03358-E 42  
KMBR03359-E 42  
KMBR03360-E 42  
KMBR03365-E 43  
KMBR03366-E 43  
KMBR03367-I 43  
KMBR03368-E 43  
KMBR03373-I 44  
KMBR03377-I 44  
KMBR03378-I 45  
KMBR03379-I 45  
KMBR03380-I 45  
KMBR03381-E 46  
KMBR03382-E 46  
KMBR03383-E 46  
KMBR03384-W 47  
KMBR03385-E 47  
KMBR03386-E 47  
KMBR03387-I 48  
KMBR03388-E 48  
KMBR03401-I 48  
KMBR03402-I 49  
KMBR03403-I 49  
KMBR03404-I 49  
KMBR03405-I 49  
KMBR03406-I 49  
KMBR03411-I 50  
KMBR03412-I 50  
KMBR03413-I 50  
KMBR03414-I 50  
KMBR03415-I 50  
KMBR03416-I 51  
KMBR03419-I 51  
KMBR03420-I 51  
KMBR03421-I 51  
KMBR03422-I 51  
KMBR03423-E 52  
KMBR03424-W 52  
KMBR03425-I 52  
KMBR03426-E 52  
KMBR03427-E 53  
KMBR03428-E 53  
KMBR03431-E 53  
KMBR03432-E 53  
KMBR03435-E 53  
KMBR03436-E 54  
KMBR03437-W 54  
KMBR03438-W 54  
KMBR03439-E 55  
KMBR03441-E 56  
KMBR03442-I 56  
KMBR03443-I 57  
KMBR03444-I 57  
KMBR03445-I 57  
KMBR03446-I 57  
KMBR03447-I 58  
KMBR04000-E 58  
KMBR04001-E 58  
KMBR04002-E 59  
KMBR04003-E 59  
KMBR04004-E 59  
KMBR04005-E 60  
KMBR04006-E 60  
KMBR04007-E 60  
KMBR04008-E 61  
KMBR04009-E 61  
KMBR04013-E 61  
KMBR04014-E 62  
KMBR04015-E 62  
KMBR04016-E 62  
KMBR04017-E 63  
KMBR04209-W 63  
KMBR05003-E 64  
KMBR05004-E 64  
KMBR05005-E 65  
KMBR06000-E 65  
KMBR06001-E 66  
KMBR06002-I 66  
KMBR06003-I 67  
KMBR06004-E 67  
KMBR06007-W 67  
KMBR08000-I 68  
KMBR08001-E 68  
KMBR08002-W 68  
KMBR08003-I 69  
KMBR08004-I 69  
KMBR08005-E 69  
KMBR08006-W 69  
KMBR08007-I 69  
KMBR08008-W 70  
KMBR08009-W 70  
KMBR10203-E 72  
KMBR10204-E 72  
KMBR10205-E 72  
KMBR10207-E 73  
KMBR10208-E 73  
KMBR10209-E 74  
KMBR10210-E 74

KMBR10211-I	74	KMBR10311-I	91
KMBR10212-E	74	KMBR10312-E	91
KMBR10221-W	75	KMBR10313-E	91
KMBR10222-W	75	KMBR10314-E	92
KMBR10223-W	75	KMBR10315-E	92
KMBR10224-W	76	KMBR10316-E	92
KMBR10225-W	76	KMBR10317-E	93
KMBR10226-W	77	KMBR10318-E	93
KMBR10227-W	77	KMBR10319-E	93
KMBR10228-I	77	KMBR10322-E	94
KMBR10229-I	77	KMBR10323-E	94
KMBR10230-I	78	KMBR10327-E	94
KMBR10231-W	78	KMBR10401-E	94
KMBR10254-E	79	KMBR10402-E	95
KMBR10255-E	79	KMBR10403-E	95
KMBR10256-E	79	KMBR10404-E	95
KMBR10257-W	79	KMBR10405-E	96
KMBR10258-I	80	KMBR10406-E	96
KMBR10259-W	80	KMBR10407-E	96
KMBR10260-W	80	KMBR10408-E	96
KMBR10261-W	81	KMBR10409-E	97
KMBR10263-W	81	KMBR10410-I	97
KMBR10264-W	81	KMBR10411-I	97
KMBR10265-W	82	KMBR10412-I	97
KMBR10266-W	82	KMBR10413-E	98
KMBR10267-W	83	KMBR10500-E	98
KMBR10268-W	83	KMBR10501-E	98
KMBR10269-W	83	KMBR10502-E	99
KMBR10270-W	84	KMBR10503-E	99
KMBR10271-W	84	KMBR10504-E	100
KMBR10272-W	84	KMBR10507-E	100
KMBR10273-W	85	KMBR10533-E	100
KMBR10274-W	85	KMBR10534-E	100
KMBR10275-W	86	KMBR10550-E	101
KMBR10276-W	86	KMBR10570-E	101
KMBR10277-W	86	KMBR10571-E	102
KMBR10278-W	87	KMBR10572-E	102
KMBR10279-W	87	KMBR10573-E	103
KMBR10280-W	87	KMBR10574-E	103
KMBR10281-W	88	KMBR10575-E	104
KMBR10282-W	88	KMBR10576-E	105
KMBR10301-E	88	KMBR10577-E	105
KMBR10302-E	89	KMBR10587-E	106
KMBR10303-E	89	KMBR10588-E	106
KMBR10304-E	89	KMBR10589-E	107
KMBR10305-E	90	KMBR10590-E	107
KMBR10306-E	90	KMBR10591-E	108
KMBR10307-E	90	KMBR10592-E	108
KMBR10308-E	90	KMBR10594-E	109

KMBR10597-E	109	KMBR12004-E	125
KMBR10610-E	110	KMBR12005-E	126
KMBR10611-E	110	KMBR12006-E	126
KMBR10612-E	111	KMBR12007-E	126
KMBR10630-E	111	KMBR12008-E	126
KMBR10631-E	112	KMBR12009-E	127
KMBR10632-E	112	KMBR12010-E	127
KMBR10633-E	112	KMBR12101-I	127
KMBR10634-E	113	KMBR12102-I	128
KMBR10635-E	113	KMBR12103-I	128
KMBR10636-E	113	KMBR12201-I	128
KMBR10637-E	114	KMBR12202-I	128
KMBR10638-E	114	KMBR12204-E	128
KMBR10639-E	115	KMBR12205-E	129
KMBR10640-E	115	KMBR12301-E	129
KMBR10641-E	115	KMBR12302-E	129
KMBR10642-E	116	KMBR12303-E	130
KMBR10643-E	116	KMBR12304-E	130
KMBR10644-E	117	KMBR12305-E	130
KMBR10645-E	117	KMBR12306-E	130
KMBR10650-I	118	KMBR12307-E	131
KMBR10651-I	118	KMBR12308-E	131
KMBR10652-I	118	KMBR12309-E	131
KMBR10750-E	118	KMBR12310-E	131
KMBR10751-E	119	KMBR12311-E	132
KMBR10752-E	119	KMBR12312-I	132
KMBR10753-E	119	KMBR12313-E	132
KMBR10754-E	119	KMBR12351-I	132
KMBR10755-E	120	KMBR12401-I	133
KMBR10756-E	120	KMBR12402-E	133
KMBR10770-E	120	KMBR12501-I	134
KMBR10771-E	120	KMBR12502-I	134
KMBR10772-E	121	KMBR12503-I	134
KMBR10773-E	121	KMBR13001-I	135
KMBR10789-E	121	KMBR13002-I	135
KMBR10791-E	121	KMBR13003-E	135
KMBR10792-E	122	KMBR13004-E	135
KMBR10793-E	122	KMBR13005-E	136
KMBR10794-E	122	KMBR13006-E	136
KMBR10795-E	123	KMBR13007-E	137
KMBR10796-E	123	KMBR13008-E	137
KMBR10797-E	123	KMBR13012-E	137
KMBR10798-E	123	KMBR13013-E	138
KMBR10799-E	124	KMBR13015-E	138
KMBR10800-E	124	KMBR13016-E	138
KMBR12000-I	124	KMBR13017-E	139
KMBR12001-E	124	KMBR13018-E	139
KMBR12002-E	125	KMBR13020-E	139
KMBR12003-E	125	KMBR13021-E	140

KMBR13022-E	140	KMBR13161-E	173
KMBR13023-E	141	KMBR13162-E	173
KMBR13024-E	141	KMBR13163-W	173
KMBR13025-E	142	KMBR13165-E	173
KMBR13026-E	142	KMBR13166-E	173
KMBR13027-E	143	KMBR13168-W	174
KMBR13028-E	143	KMBR13171-E	174
KMBR13029-I	143	KMBR13172-E	174
KMBR13030-E	143	KMBR13181-E	174
KMBR13032-E	144	KMBR13182-W	175
KMBR13033-E	144	KMBR13183-I	175
KMBR13034-E	144	KMBR13184-E	175
KMBR13037-E	144	KMBR13199-E	175
KMBR13040-E	145	KMBR13990-E	176
KMBR13041-E	146	KMBR13994-I	176
KMBR13042-E	147	KMBR13995-E	176
KMBR13043-E	147	KMBR13996-E	176
KMBR13046-E	148	KMBR13997-E	177
KMBR13047-E	148	KMBR13998-E	177
KMBR13048-E	148	KMBR13999-E	177
KMBR13049-E	148	KMBR16701-E	178
KMBR13050-E	149	KMBR16710-E	178
KMBR13051-E	149	KMBR16711-E	178
KMBR13052-E	149	KMBR16712-E	179
KMBR13053-E	149	KMBR16713-E	179
KMBR13054-E	151	KMBR16720-E	179
KMBR13055-E	152	KMBR16801-E	180
KMBR13056-E	152	KMBR16802-E	180
KMBR13057-I	157	KMBR16803-E	181
KMBR13058-E	157	KMBR16804-E	181
KMBR13059-E	157	KMBR16805-E	181
KMBR13103-E	157	KMBR16810-E	182
KMBR13104-E	158	KMBR16820-E	182
KMBR13105-E	159	KMBR16821-E	183
KMBR13106-E	159	KMBR16822-E	183
KMBR13107-W	160	KMBR16823-E	183
KMBR13108-E	161	KMBR16829-E	184
KMBR13109-W	162	KMBR16830-E	184
KMBR13121-E	162	KMBR16831-E	185
KMBR13122-E	163	KMBR16920-E	185
KMBR13123-E	165	KMBR16930-I	185
KMBR13124-E	166	KMBR16931-I	185
KMBR13125-W	168	KMBR16932-I	186
KMBR13126-E	169	KMBR16933-I	186
KMBR13131-E	170	KMBR16990-I	186
KMBR13141-E	171	KMBR16999-E	189
KMBR13142-E	171	KMBR19001-E	189
KMBR13151-E	172	KMBR19002-W	189
KMBR13152-E	172	KMBR19003-E	190

- |             |     |             |     |
|-------------|-----|-------------|-----|
| KMBR19004-E | 190 | KMBR19256-E | 206 |
| KMBR19005-E | 190 | KMBR19257-W | 206 |
| KMBR19006-E | 191 | KMBR19258-E | 206 |
| KMBR19007-E | 191 | KMBR19300-I | 207 |
| KMBR19008-E | 191 | KMBR20000-E | 212 |
| KMBR19009-E | 191 | KMBR21000-E | 212 |
| KMBR19010-E | 192 | KMBR21001-E | 213 |
| KMBR19011-E | 192 | KMBR21002-E | 213 |
| KMBR19012-E | 192 | KMBR21003-E | 213 |
| KMBR19013-E | 193 | KMBR21004-E | 214 |
| KMBR19014-W | 193 | KMBR21005-E | 214 |
| KMBR19015-W | 193 | KMBR22001-E | 214 |
| KMBR19016-W | 194 | KMBR22002-E | 215 |
| KMBR19017-W | 194 | KMBR22003-E | 215 |
| KMBR19018-W | 194 | KMBR22011-E | 215 |
| KMBR19019-W | 195 | KMBR22021-E | 216 |
| KMBR19020-W | 195 | KMBR23000-E | 216 |
| KMBR19021-E | 195 | KMBR23001-E | 216 |
| KMBR19022-E | 196 | KMBR23002-E | 217 |
| KMBR19023-E | 196 | KMBR23003-E | 217 |
| KMBR19024-E | 197 | KMBR23004-E | 218 |
| KMBR19030-E | 198 | KMBR23005-E | 218 |
| KMBR19031-E | 198 | KMBR23006-E | 218 |
| KMBR19032-E | 198 | KMBR23007-E | 219 |
| KMBR19040-E | 198 | KMBR23008-E | 219 |
| KMBR19041-E | 199 | KMBR23009-E | 220 |
| KMBR19042-E | 199 | KMBR23010-E | 220 |
| KMBR19050-E | 199 | KMBR24000-E | 220 |
| KMBR19051-E | 200 | KMBR24001-E | 221 |
| KMBR19052-E | 200 | KMBR24002-E | 222 |
| KMBR19100-E | 200 | KMBR24003-E | 223 |
| KMBR19101-E | 201 | KMBR24004-E | 223 |
| KMBR19120-E | 201 | KMBR24007-E | 224 |
| KMBR19121-E | 201 | KMBR24009-E | 224 |
| KMBR19122-E | 202 | KMBR24010-E | 227 |
| KMBR19190-I | 202 | KMBR25000-E | 227 |
| KMBR19191-E | 202 | KMBR25001-E | 228 |
| KMBR19200-I | 203 | KMBR25002-E | 228 |
| KMBR19201-I | 203 | KMBR25003-E | 229 |
| KMBR19243-E | 203 | KMBR25004-E | 229 |
| KMBR19247-E | 203 | KMBR25005-E | 230 |
| KMBR19248-E | 204 | KMBR25006-E | 230 |
| KMBR19249-E | 204 | KMBR25007-E | 231 |
| KMBR19250-E | 204 | KMBR25008-E | 231 |
| KMBR19251-E | 205 | KMBR25009-E | 231 |
| KMBR19252-E | 205 | KMBR25010-E | 232 |
| KMBR19253-E | 205 | KMBR26000-E | 232 |
| KMBR19254-W | 205 | KMBR26001-E | 232 |
| KMBR19255-E | 206 | KMBR26002-E | 233 |

KMBR26003-E	233	KMBR27225-E	256
KMBR26004-E	233	KMBR27226-E	257
KMBR26005-E	234	KMBR27227-E	257
KMBR26006-E	234	KMBR27228-E	258
KMBR26007-E	234	KMBR27229-E	258
KMBR26008-E	234	KMBR27231-E	259
KMBR27001-E	235	KMBR27232-E	259
KMBR27011-E	235	KMBR27301-E	260
KMBR27021-E	235	KMBR27311-E	261
KMBR27031-E	236	KMBR27312-E	261
KMBR27101-E	236	KMBR27321-E	262
KMBR27111-E	236	KMBR27322-E	263
KMBR27112-E	237	KMBR27323-E	263
KMBR27121-E	237	KMBR27324-E	264
KMBR27122-E	238	KMBR27325-E	264
KMBR27123-E	238	KMBR27326-E	265
KMBR27131-E	239	KMBR27327-E	265
KMBR27141-E	239	KMBR27328-E	266
KMBR27142-E	240	KMBR27329-E	267
KMBR27143-E	240	KMBR27331-E	267
KMBR27144-E	240	KMBR27332-E	268
KMBR27145-E	241	KMBR27341-E	269
KMBR27146-E	241	KMBR27351-E	269
KMBR27151-E	242	KMBR27361-E	270
KMBR27152-E	242	KMBR27371-E	270
KMBR27153-E	243	KMBR27372-E	271
KMBR27154-E	243	KMBR27373-E	271
KMBR27155-E	244	KMBR27381-E	273
KMBR27156-E	245	KMBR27382-E	273
KMBR27161-E	246	KMBR27391-E	274
KMBR27162-E	246	KMBR27392-E	274
KMBR27171-E	246	KMBR27393-E	275
KMBR27172-E	247	KMBR27394-E	275
KMBR27173-E	248	KMBR27395-E	275
KMBR27174-E	248	KMBR27396-E	276
KMBR27175-E	248	KMBR27401-E	277
KMBR27176-E	249	KMBR27411-E	278
KMBR27201-E	249	KMBR27421-E	279
KMBR27202-E	250	KMBR27431-E	279
KMBR27203-E	251	KMBR27432-E	280
KMBR27204-E	252	KMBR27441-E	280
KMBR27211-E	252	KMBR27442-E	281
KMBR27212-E	252	KMBR27443-E	281
KMBR27213-E	253	KMBR27444-E	282
KMBR27214-E	253	KMBR27445-E	282
KMBR27221-E	254	KMBR27446-E	283
KMBR27222-E	254	KMBR27451-E	283
KMBR27223-E	255	KMBR27452-E	284
KMBR27224-E	256	KMBR27453-E	285

KMBR27454-E	286	KMBR27541-E	311
KMBR27455-E	287	KMBR27542-E	312
KMBR27461-E	288	KMBR27543-E	312
KMBR27462-E	288	KMBR27544-E	313
KMBR27471-E	289	KMBR27545-E	313
KMBR27472-E	289	KMBR27546-E	314
KMBR27481-E	290	KMBR27547-E	314
KMBR27482-E	290	KMBR27551-E	315
KMBR27483-E	291	KMBR27552-E	315
KMBR27484-E	292	KMBR27561-E	315
KMBR27485-E	292	KMBR27562-E	316
KMBR27486-E	293	KMBR27563-E	316
KMBR27487-E	293	KMBR27564-E	317
KMBR27488-E	294	KMBR27565-E	317
KMBR27489-E	294	KMBR27566-E	318
KMBR27491-E	294	KMBR27567-E	318
KMBR27492-E	295	KMBR27568-E	318
KMBR27493-E	296	KMBR27569-E	319
KMBR27494-E	296	KMBR27570-E	319
KMBR27495-E	296	KMBR27581-E	320
KMBR27496-E	297	KMBR27582-E	320
KMBR27497-E	297	KMBR27583-E	321
KMBR27498-E	298	KMBR27584-E	321
KMBR27499-E	298	KMBR27591-E	322
KMBR27500-E	299	KMBR27592-E	322
KMBR27501-E	299	KMBR27601-E	322
KMBR27502-E	300	KMBR27602-E	323
KMBR27503-E	300	KMBR27611-E	323
KMBR27504-E	301	KMBR27612-E	323
KMBR27505-E	301	KMBR27621-E	324
KMBR27506-E	302	KMBR27622-E	324
KMBR27507-E	302	KMBR27631-E	325
KMBR27508-E	303	KMBR27632-E	325
KMBR27509-E	303	KMBR27641-E	326
KMBR27510-E	304	KMBR27651-E	327
KMBR27521-E	304	KMBR27652-E	327
KMBR27522-E	305	KMBR27653-E	328
KMBR27523-E	306	KMBR27661-E	328
KMBR27524-E	306	KMBR27662-E	329
KMBR27525-E	307	KMBR27663-E	329
KMBR27526-E	307	KMBR27671-E	330
KMBR27527-E	308	KMBR27672-E	330
KMBR27528-E	308	KMBR27673-E	331
KMBR27529-E	309	KMBR27674-E	331
KMBR27530-E	309	KMBR27675-E	332
KMBR27531-E	310	KMBR27701-E	332
KMBR27532-E	310	KMBR27702-E	333
KMBR27533-E	310	KMBR27703-E	333
KMBR27534-E	311	KMBR27704-E	334

KMBR27705-E	334	KMBR30031-E	353
KMBR27706-E	335	KMBR30040-E	354
KMBR27711-E	335	KMBR30041-E	354
KMBR27721-E	336	KMBR30042-E	354
KMBR27722-E	336	KMBR30043-E	355
KMBR27723-E	337	KMBR30100-E	356
KMBR27731-E	337	KMBR30101-E	358
KMBR27732-E	337	KMBR30102-E	359
KMBR27733-E	338	KMBR30103-E	360
KMBR27741-E	338	KMBR30104-E	361
KMBR27801-E	338	KMBR30200-E	362
KMBR27811-E	339	KMBR30201-E	362
KMBR27821-E	339	KMBR30202-E	363
KMBR27831-E	339	KMBR30203-E	363
KMBR27832-E	340	KMBR30204-E	364
KMBR27833-E	340	KMBR31000-E	364
KMBR27834-E	341	KMBR31001-E	364
KMBR27835-E	342	KMBR31002-E	365
KMBR27841-E	342	KMBR31003-E	365
KMBR27851-E	342	KMBR31004-E	366
KMBR27861-E	343	KMBR31005-E	366
KMBR27862-E	343	KMBR31006-E	366
KMBR27863-E	343	KMBR31007-E	367
KMBR27871-E	343	KMBR31008-E	367
KMBR27872-E	344	KMBR31009-E	367
KMBR27901-E	344	KMBR31100-E	368
KMBR27902-E	344	KMBR31101-E	368
KMBR27911-E	344	KMBR31102-E	368
KMBR27921-E	345	KMBR31103-W	369
KMBR27931-E	345	KMBR31104-E	369
KMBR28001-E	345	KMBR31200-E	370
KMBR28002-E	346	KMBR31201-E	370
KMBR28003-E	346	KMBR31202-E	370
KMBR28004-E	346	KMBR31300-E	371
KMBR28011-E	346	KMBR31301-E	371
KMBR28021-E	347	KMBR31302-E	371
KMBR28031-E	347	KMBR31303-E	372
KMBR28101-E	347	KMBR31304-E	372
KMBR28111-E	348	KMBR31305-E	373
KMBR28112-E	348	KMBR31306-E	373
KMBR28113-E	348	KMBR31307-E	373
KMBR28114-E	348	KMBR31501-E	374
KMBR28121-E	349	KMBR32000-W	374
KMBR30000-E	352	KMBR32001-E	374
KMBR30010-E	352	KMBR32002-I	374
KMBR30011-E	352	KMBR32003-I	375
KMBR30020-E	352	KMBR32004-E	375
KMBR30021-E	353	KMBR32100-E	375
KMBR30030-E	353	KMBR32101-E	375



KMBR32102-E 376  
 KMBR32103-E 376  
 KMBR32104-E 376  
 KMBR32105-E 376  
 KMBR32106-W 376  
 KMBR32107-I 377  
 KMBR32108-E 377  
 KMBR32109-I 377  
 KMBR32110-E 377  
 KMBR32111-E 378  
 KMBR32112-W 378  
 KMBR32113-W 378  
 KMBR32114-E 379  
 KMBR32115-I 379  
 KMBR32117-I 379  
 KMBR32118-E 380  
 KMBR32119-E 380  
 KMBR32120-E 380  
 KMBR32121-E 380  
 KMBR32122-E 381  
 KMBR32124-W 381  
 KMBR32125-E 381  
 KMBR32126-E 382  
 KMBR32200-E 382  
 KMBR32201-E 382

## い

---

イベントログ 3  
 イベントログに出力されるメッセージの出力形式 4

## お

---

オブジェクト情報に対応するリソース 446

## か

---

監査ログのメッセージに出力されるリソースの一覧 446  
 監査ログのメッセージの概要 408  
 監査ログのメッセージの記載形式 408

## く

---

クラスライブラリ独自の戻り値 458  
 クラスライブラリの戻り値 450

## こ

---

コマンドプロンプト 3

## し

---

詳細エラーログファイル 3

## て

---

データベースエラーが発生した場合の戻り値 464

## と

---

動作情報に対応するリソース 446  
 トレースファイル 3

## め

---

メッセージの記載形式 5  
 メッセージの出力形式 4  
 メッセージの出力先 3  
 メッセージの種類 2

## も

---

戻り値の種類と major\_code の関係 450